

(仮称) 茄子作土地区画整理事業に係る  
環境影響評価準備書自然・社会・文化環境部会報告

令和6年12月9日

枚方市環境影響評価審査会自然・社会・文化環境部会

この資料に使用されている画像、表、図は、著作権者の許可を得て使用しています。  
無断転載や商用利用、改変はご遠慮ください。

## 目 次

|      |                                                              |        |
|------|--------------------------------------------------------------|--------|
| 第1章  | 事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・                                 | 1-1    |
| 第2章  | 検討にあたっての基本的な考え方・・・・・・・・                                      | 2-1    |
| 第3章  | 調査、予測及び評価の結果・・・・・・・・                                         | 3.1-1  |
| 第1節  | 予測の前提条件・・・・・・・・                                              | 3.1-1  |
| 第2節  | 日照障害・・・・・・・・                                                 | 3.2-1  |
| 第3節  | 電波障害・・・・・・・・                                                 | 3.3-1  |
| 第4節  | コミュニティ・・・・・・・・                                               | 3.4-1  |
| 第5節  | 景観・・・・・・・・                                                   | 3.5-1  |
| 第6節  | 文化財・・・・・・・・                                                  | 3.6-1  |
| 第7節  | 動物・・・・・・・・                                                   | 3.7-1  |
| 第8節  | 植物・・・・・・・・                                                   | 3.8-1  |
| 第9節  | 生態系・・・・・・・・                                                  | 3.9-1  |
| 第10節 | 人と自然とのふれあい活動の場・・・・・・・・                                       | 3.10-1 |
| 第11節 | 水象・・・・・・・・                                                   | 3.11-1 |
| 第12節 | その他・・・・・・・・                                                  | 3.12-1 |
| 第4章  | 指摘事項・・・・・・・・                                                 | 4-1    |
| 参考   | 枚方市環境影響評価審査会自然・社会・文化環境部会開催状況<br>枚方市環境影響評価審査会自然・社会・文化環境部会委員名簿 |        |

## 第 1 章 事業計画

### 1.1 事業者の氏名及び住所

事業者の氏名：枚方市茄子作土地地区画整理準備組合

理事長 岡市 敏治

事業者の住所：大阪府枚方市茄子作 4 丁目 3-10

### 1.2 事業の名称及び目的

#### 1.2.1 事業の名称

（仮称）茄子作土地地区画整理事業

#### 1.2.2 事業の目的

事業計画地周辺は、第二京阪道路交野南インターチェンジに近接し、大阪市や京都府方面へのアクセス利便性が高い地域であり、平成 13 年以降、茄子作北地区や茄子作南地区等土地地区画整理事業による開発が進められている。事業計画地は、枚方市都市計画マスタープラン（平成 29 年 3 月、令和 4 年 3 月一部改定 枚方市）での茄子作周辺の都市づくりの方針として、「茄子作南地区における土地地区画整理事業による広域交通網を利用した地域産業の活性化」や「一般国道 1 号、第二京阪道路沿道地域における産業の集積」を図る地区と位置付けられている。農地の保全と豊かな自然環境との調和に配慮した地域産業の集積、既存市街地を含めた周辺の生活拠点となる商業集積を図るなど、広域交通網を活かした複合的まちづくりが求められている。

本事業は、都市計画マスタープランにおける地域の都市づくりの方針に基づくとともに、今後、事業計画地周辺の開発需要が高まることが予想されることから、土地利用の混在化や乱開発、これによる営農環境や居住環境の悪化を未然に防止しつつ、枚方市南部の新たな複合拠点にふさわしい土地利用へと誘導するため、計画的に公共施設を整備するとともに防災性を向上させ、良好な市街地環境の形成を図ることを目的とする。

### 1.3 事業計画の内容

#### 1.3.1 事業計画地の位置及び区域

事業計画地は、枚方市茄子作 3 丁目、4 丁目、5 丁目及び茄子作南町の各一部に位置している（図 1.3-1、図 1.3-2 参照）。

また、事業計画地の南側には第二京阪道路、北側には府道枚方交野寝屋川線、西側に市道山之上高田線、東側は既存住宅地に囲まれており、第二京阪道路交野南インターチェンジに近接している。

#### 1.3.2 用途地域

事業計画地は、全域で市街化調整区域となっている。なお、事業計画地の北側及び東側に隣接する区域は、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、及び第一種住居地域、南側に隣接する区域は、準工業地域に指定されている。なお、西側に隣接する区域は、市街化調整区域に指定されている。

### 1.3.3 事業の規模

事業計画地面積 約 19.7ha

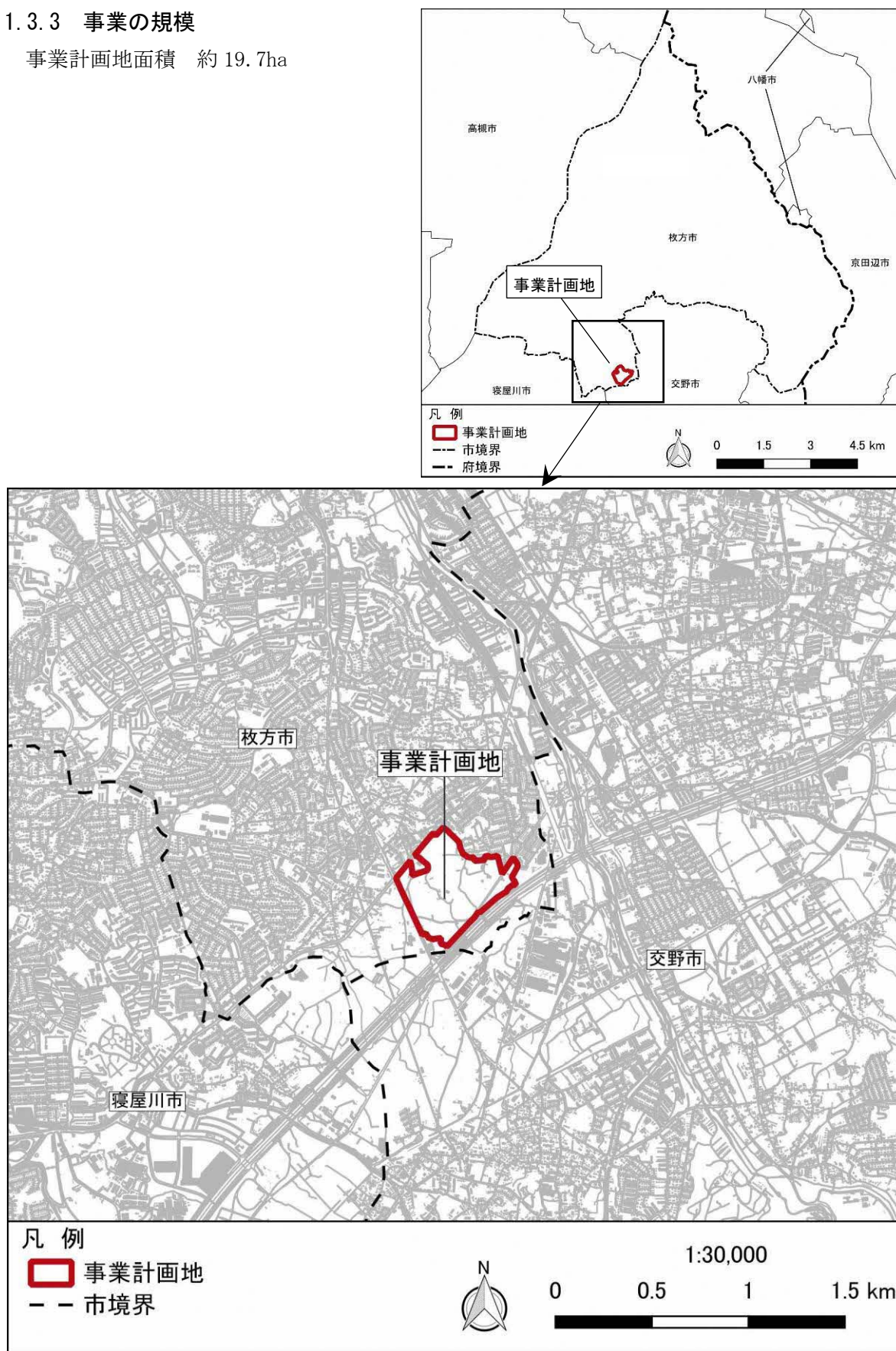


図 1.3-1 事業計画地の位置（広域図）



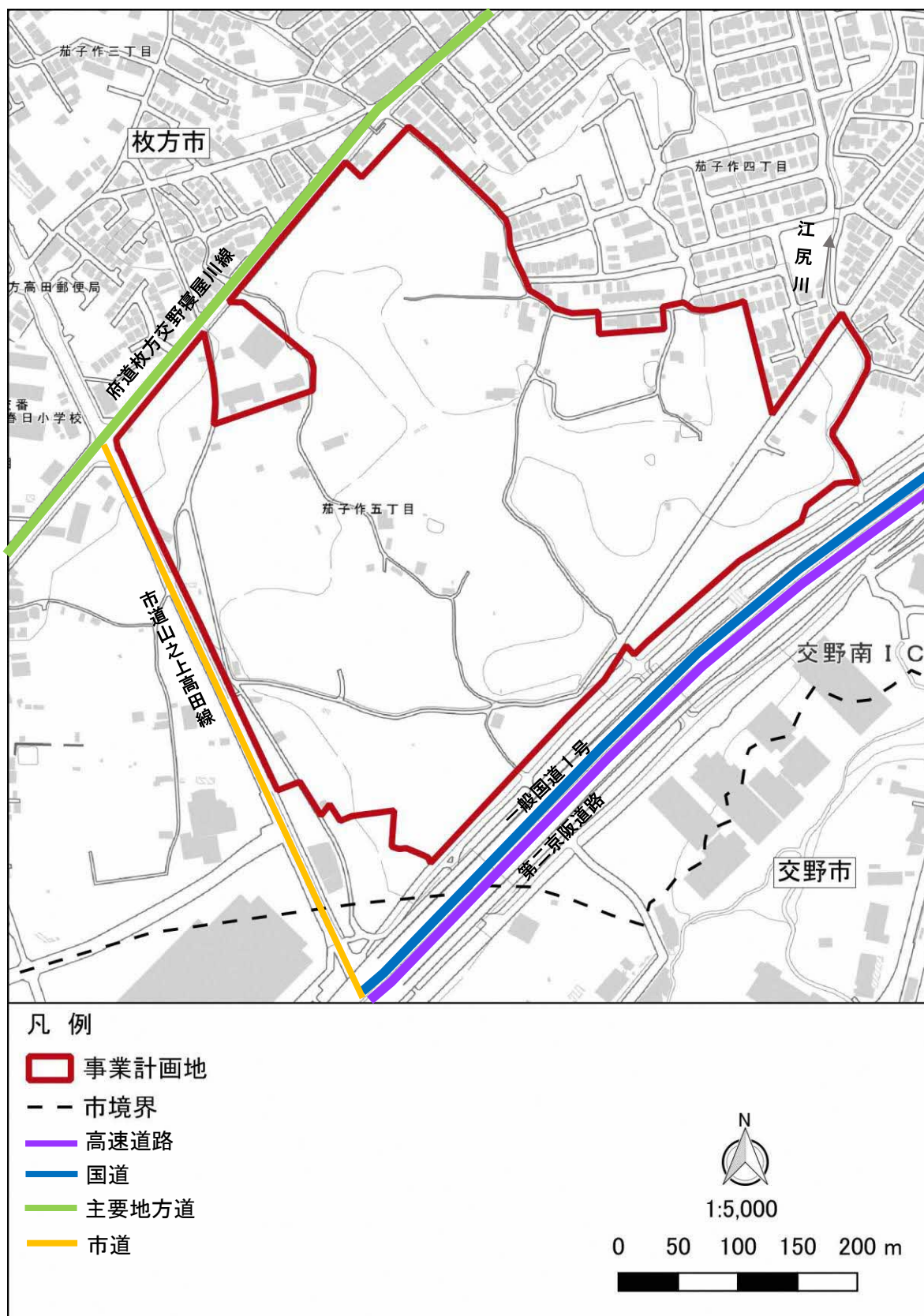


図 1.3-2 事業計画地の位置（詳細図）

### 1.3.4 事業計画の概要

#### (1) 土地利用計画

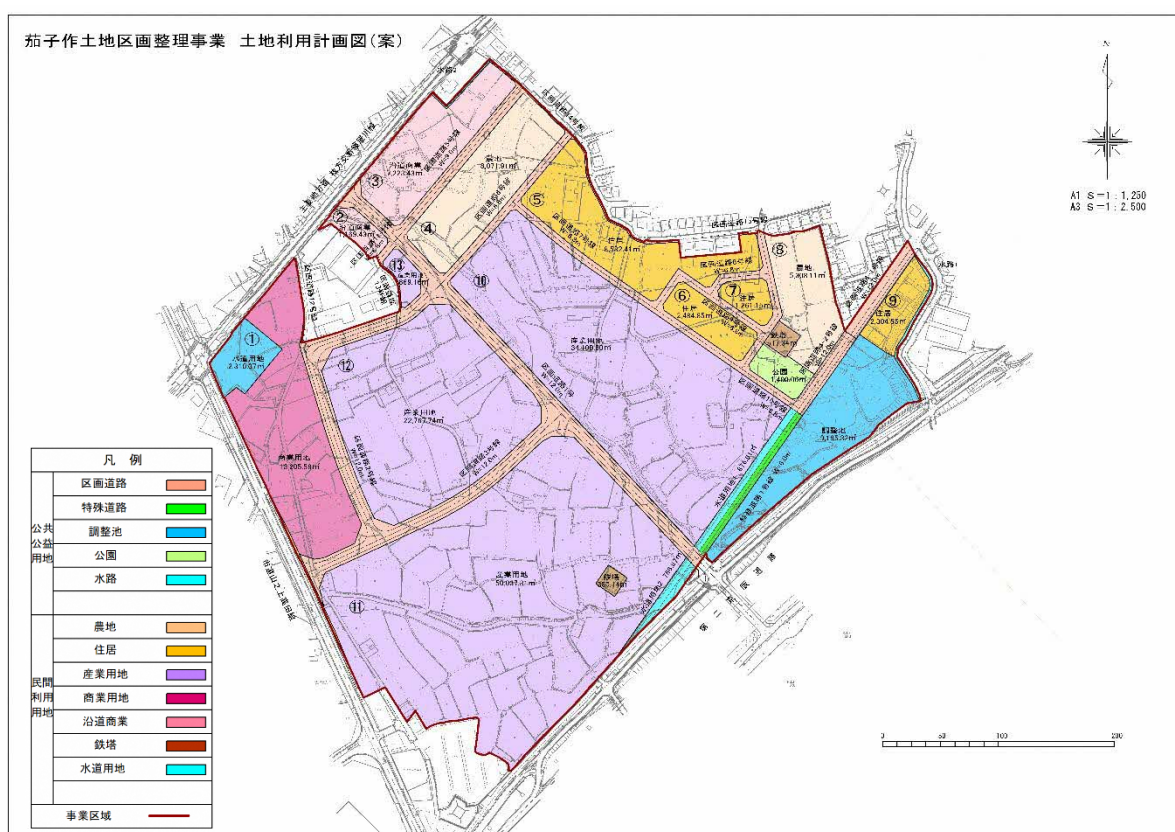
土地利用計画の基本方針は表 1.3-1 に、土地利用計画は表 1.3-2 に、土地利用計画図は図 1.3-3 に示すとおりである。本事業に係る環境影響評価は、この土地利用計画に基づいて実施する。

表 1.3-1 土地利用計画の基本方針

|                |                                                                                                                                                                                                                                            |                                                  |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| まちづくり方針（基本方針）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域ニーズに配慮した土地の利活用を行うと共に、計画地周辺に広がる住宅地と調和したまちづくりを行う。</li> <li>➤ 広域交通網を活かした産業集積を図り、雇用・にぎわいを創出するまちづくりを行う。</li> <li>➤ 地域の利便性向上、活性化、発展に資するまちづくりを行う。</li> <li>➤ 周辺の自然・営農環境と調和した安心・安全なまちづくりを行う。</li> </ul> |                                                  |
| 土地利用ゾーンの配置の考え方 | ➤                                                                                                                                                                                                                                          | 新たな地域拠点の形成に向け、次の5つのゾーンを配置                        |
|                | ① 産業用地ゾーン                                                                                                                                                                                                                                  | ・交通動線を考慮して、第二京阪道路沿いに産業用地を集約できる大きな街区を想定           |
|                | ② 商業用地ゾーン                                                                                                                                                                                                                                  | ・府道と市道の交差点部分に核となる複合型の商業施設が配置できる街区を想定             |
|                | ③ 沿道商業ゾーン                                                                                                                                                                                                                                  | ・周辺地域の利便性に資するよう、沿道型商業施設を誘導できる街区を想定               |
|                | ④ 住居ゾーン                                                                                                                                                                                                                                    | ・地区内に居住する地権者や住宅系の土地利用を図る街区を想定                    |
|                | ⑤ 農地ゾーン                                                                                                                                                                                                                                    | ・事業後も営農を継続でき、将来的に営農が困難になった場合でも単独で土地活用が可能となる街区を想定 |

表 1.3-2 土地利用計画（想定）

| 土地利用区分   |           | 面積 (ha) | 比率 (%) | 備考           |
|----------|-----------|---------|--------|--------------|
| 公共<br>用地 | 区画道路・特殊道路 | 2.4     | 11.9   | 特殊道路：歩行者専用道路 |
|          | 調整池・水路    | 1.0     | 4.9    |              |
|          | 公園        | 0.1     | 0.7    |              |
| 民間<br>用地 | 農地ゾーン     | 1.3     | 6.8    |              |
|          | 住居ゾーン     | 1.5     | 7.4    |              |
|          | 産業用地ゾーン   | 10.8    | 54.8   |              |
|          | 商業用地ゾーン   | 1.3     | 6.7    |              |
|          | 沿道商業ゾーン   | 0.8     | 4.3    |              |
|          | 鉄塔        | 0.1     | 0.5    |              |
|          | 水道用地      | 0.4     | 2.0    |              |
| 合 計      |           | 19.7    | 100.0  |              |



## (2) 道路計画

地区内には区画道路を配置し、事業計画地北側に隣接する府道枚方交野寝屋川線及び事業計画地南側に隣接する第二京阪道路、一般国道1号に接続するとともに、土地利用を考慮し、各ゾーン内にも区画道路等を適宜整備する計画を検討している（図 1.3-4 参照）。

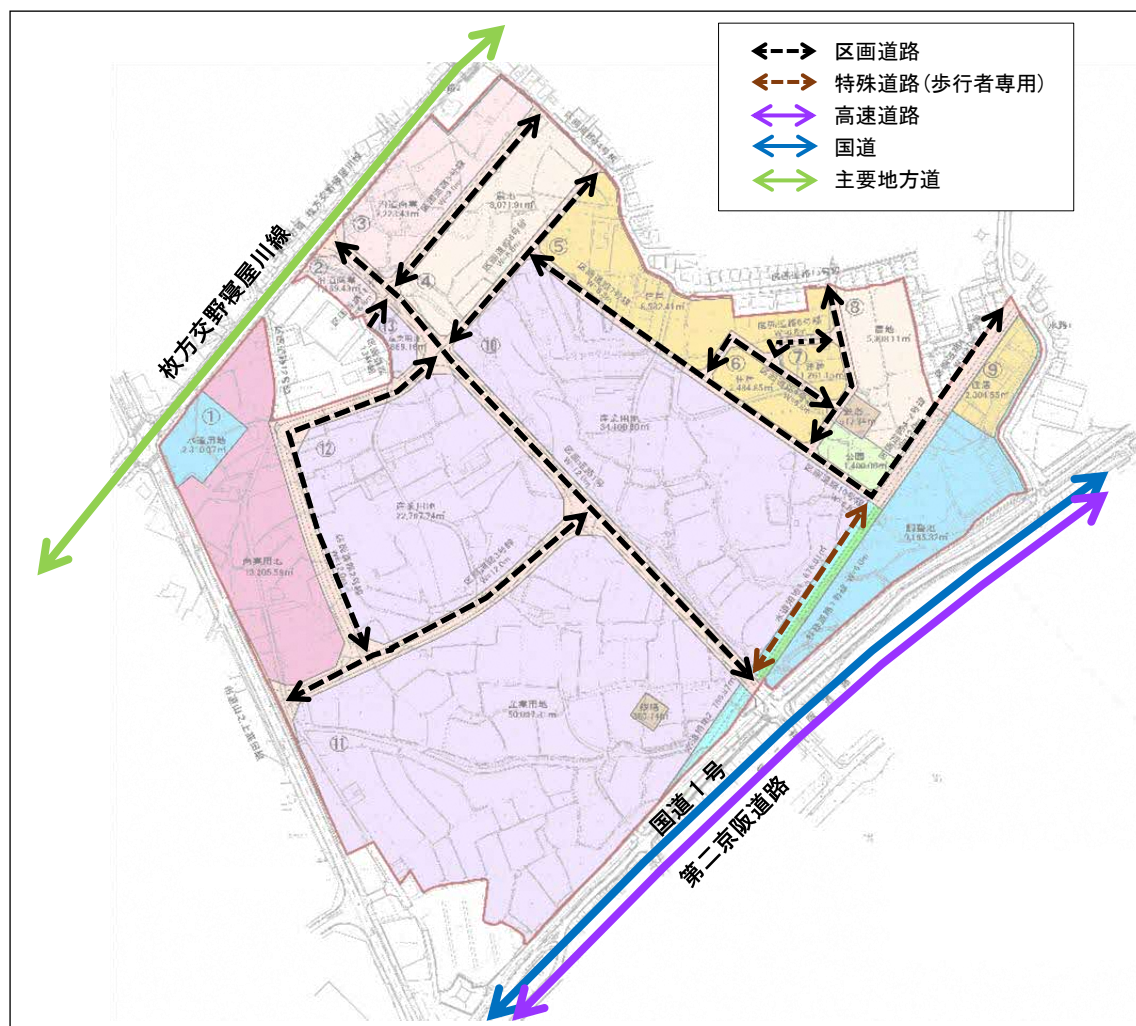


図 1.3-4 概略道路配置

## (3) 公園計画

地域の憩いの場となる街区公園について、住居ゾーンと農地ゾーンに隣接して配置する計画を検討している。

## (4) 排水計画

### ① 污水排水計画

事業計画地からの污水排水は、枚方市公共下水道に接続する計画を検討している。



## ② 雨水排水計画

事業計画地からの雨水排水は、各敷地内に設ける側溝から幹線道路沿いに敷設する排水路等を経由し、本事業で整備する調整池へ流下させ、流出量調節の上、江尻川へ排水する計画を検討している（図 1.3-5 参照）。なお、調整池容量は「大阪府調整池等流出抑制施設技術基準（案）平成 7 年 10 月」等を基に開発済面積を控除した区域を対象に設定している。

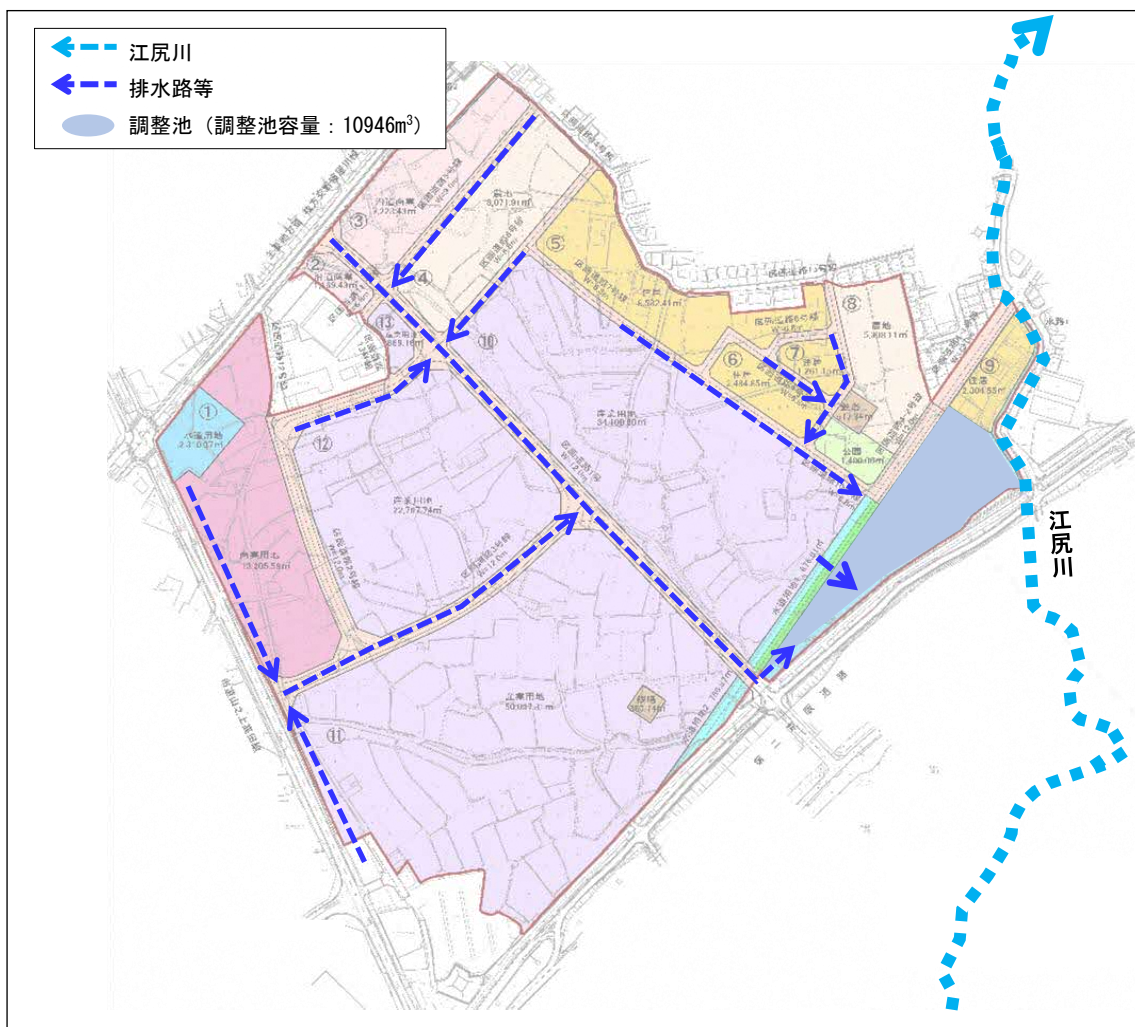


図 1.3-5 概略排水計画

## (5) 供給計画

上水道、ガス、電気、通信は、供給事業者等と調整の上、全ての宅地において、利用、供給できるように布設する計画を検討している。

## (6) 緑化計画

公園の整備により、一定の緑地（緑被率 24.5%）を確保する計画を検討している。

## (7) その他公共施設以外の計画

商業ゾーンには、居住者・利用者を対象とした商業施設や生活利便施設等の立地が想定される。

# (8) 事業により発生集中する人及び物の流れ

供用後の産業・商業施設、住宅等の関係車両の主要通行経路は、府道枚方交野寝屋川線及び一般国道1号等が想定される（図 1.3-6 参照）。

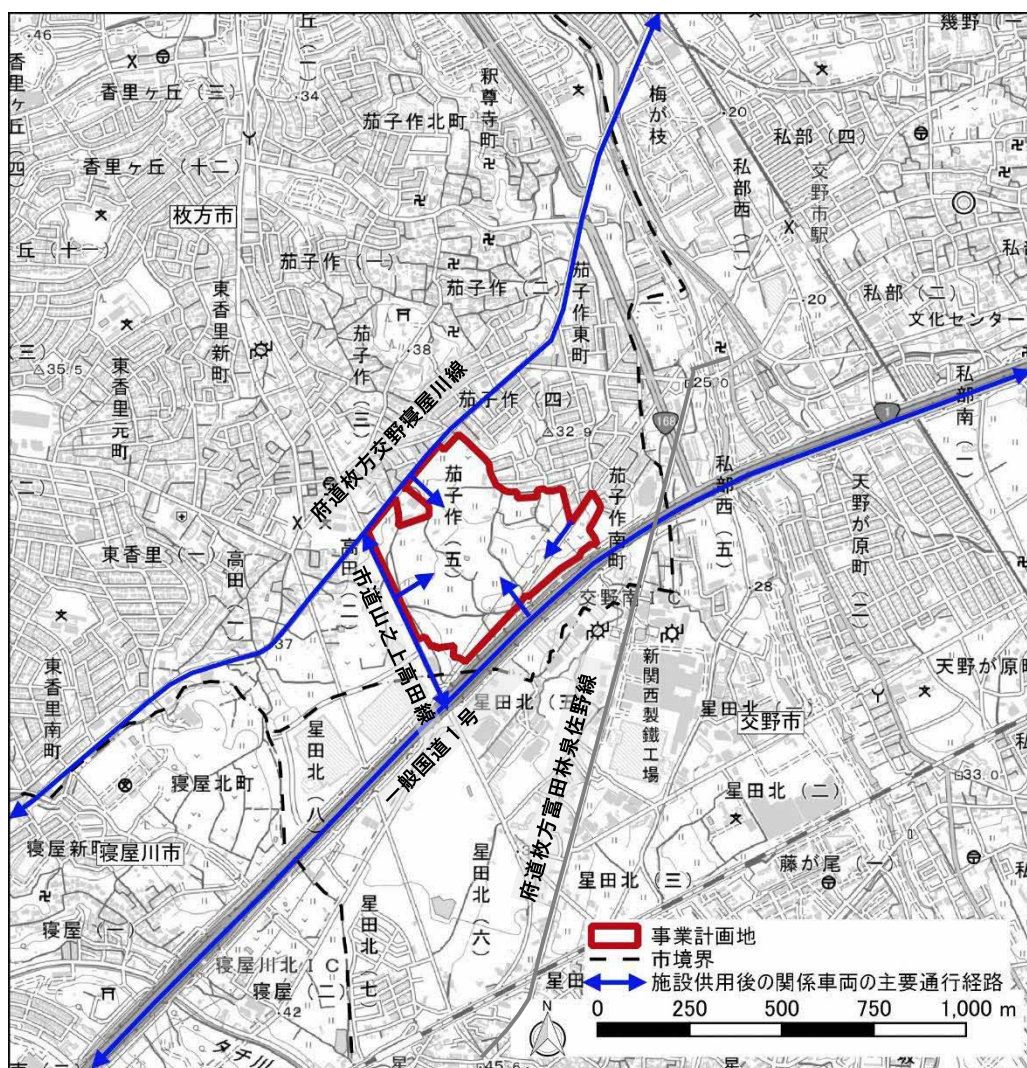


図 1.3-6 供用後の関係車両の主要通行経路（想定）



## (9) 工事計画

### 1) 工事概要

造成工事によって、各ゾーンの基盤となる道路、供給処理施設、水路、調整池等を整備する計画である。土工事は、区域外から搬入する土砂による盛土が中心となるため、土壌汚染がないことを確認した盛土材を使用するとともに、適正な施工管理を行い、安全な宅地を築造する（図 1.3-7 参照）。また、工事に際しては、騒音・振動の低減、粉塵の防止、濁水の流出防止など、周辺地域への環境に配慮した施工を行う計画を検討している。



図 1.3-7 概略造成計画

### 2) 工事内容

工事内容を以下に示す。また、想定工事工程を表 1.3-3 に示す。

#### ・準備工

工事を行う準備として、敷地境界への安全フェンスの設置、樹木の伐採、既存構造物の撤去、敷地内への工事用資機材の搬入等を行う。

#### ・防災工事



防災工事として、仮設沈砂池等の濁水処理を行い、区域外への土砂および濁水流出を防止する。

・土工事

土工事としては、盛土工及び切土工により基盤造成を行う。盛土量は約 22 万 m<sup>3</sup>、平均盛土高は 1m 程度となる。区域外からの土砂搬入による盛土工事が中心となるため、土砂搬入の工事用車両の走行ルートや時間帯、車両台数、誘導員配置などの検討を行い、周辺地域の生活環境の保全及び安全確保を行う。また、盛土工事に際しては、土壌汚染がないことを確認した盛土材を使用し、適正な施工管理のもと工事を行う。切土工事で発生する土砂は、極力場内再利用を行う予定である。

・基盤整備、インフラ等整備工事

事業計画地の宅地整備、給水・排水等インフラ整備として、整地工事、道路工事（舗装工事）、雨水排水工事、汚水排水工事を行うほか、上水道工事、ガス施設工事等を行う。

表 1.3-3 工事工程（想定）

| 区分     | 1年次 |  |  |  | 2年次 |  |  |  | 3年次 |  |  |  |
|--------|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|
| 準備工    |     |  |  |  |     |  |  |  |     |  |  |  |
| 防災工事   |     |  |  |  |     |  |  |  |     |  |  |  |
| 土工事    |     |  |  |  |     |  |  |  |     |  |  |  |
| 基盤整備工事 |     |  |  |  |     |  |  |  |     |  |  |  |

### 3) 工事時間帯

工事時間は、原則、午前 8 時から午後 5 時までを予定しており、日曜日・祝日の作業は原則として行わない。

### 4) 工事用車両の通行経路

造成工事に伴い、資機材の運搬、土砂の搬入等を行う工事用車両が事業計画地周辺の道路を走行する。工事用車両の主要通行経路は、事業計画地に隣接する第二京阪道路沿いの一般国道 1 号や府道枚方交野寝屋川線を経由し、事業計画地北側及び西側から進入するルートを予定している（図 1.3-8 参照）。今後、周辺道路の交通状況等を考慮して、具体的な通行経路を検討する。



### 1.3.5 環境保全対策

#### (1) 環境保全の方針

本事業は、農地の保全、豊かな自然環境との調和に配慮し、既存の道路交通網を活かした産業・商業拠点にふさわしい土地利用への誘導、防災性の向上、良好な環境の形成を図るとともに、環境基準や規制基準、枚方市の環境基本計画等に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないことを基本に、以下に示す環境保全対策を実施する。

#### (2) 工事の実施（造成工事、建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）

##### （大気質）

- ・ 工事中、粉塵の周辺地域への飛散防止のため、散水車等により適宜散水を行い、必要に応じて防塵ネットを設置し、粉じん等の飛散量の低減に努める。
- ・ 工事区域の出入口部にタイヤ洗浄設備を設置し、搬出車両のタイヤの洗浄を十分に行い、土砂を場外に持ち出さないように配慮する。
- ・ 排出ガス対策型建設機械を採用するとともに、工事用車両は、計画的に運行管理し、停車中のアイドリングストップの徹底を図ること等により、大気質への影響の低減に努める。

##### （水質）

- ・ 造成工事に際しては、事業計画地内に仮設沈砂池等の濁水処理を行い、周辺地域への土砂および濁水の流出を防止する。
- ・ 事業計画地の外周部（区域界）では、必要に応じて土嚢や板柵工を設置し、周辺地域への土砂流出防止を図る。
- ・ 工事関係者のし尿等については仮設トイレを設置し、くみ取りにより処理し水路などへの放流は行わない。

##### （地盤沈下）

- ・ 造成工事においては、盛土による圧密沈下が発生する可能性があることから、ボーリング調査により粘土層・シルト層等の軟弱地盤の有無・土層構成、地下水位高を把握する。軟弱地盤が存在する場合は、適切な対策工法を検討する。

##### （廃棄物及び発生土）

- ・ 建設廃材等は、集積ヤードとその性状に応じた分別容器を計画し、保管基準の遵守と環境保全に努める。

##### （騒音・振動、交通、コミュニティ、人と自然とのふれあい活動の場）

- ・ 低騒音型・低振動型建設機械を採用する。また、工事用車両は走行速度の抑制や、不要なクラクション、アイドリング等を行わないよう周知・徹底する。
- ・ 工事関係車両については、周辺地域への交通、騒音・振動、コミュニティ、人と自然とのふれあい活動の場等への影響を軽減するように、通行経路、走行時間帯を計画し、必要に応じて誘導員等を配置し安全対策を実施する。



(文化財)

- ・事業計画地内に埋蔵文化財包蔵地(茄子作遺跡等)が存在するため、事業計画地内において試掘調査が実施されている。今後、関係機関と協議を行い適切に対応する。

(景観)

- ・施工時の仮囲いの設置にあたっては、機能性を確保したうえで、景観面(色彩、デザイン、素材等)にも配慮するものとし、周辺地域の景観との調和に留意する。

(生態系)

- ・現況の田畑、草地、林等を裸地にすることや工事濁水等による動植物の生育・生息に及ぼす影響を可能な限り低減する。
- ・重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を検討し、生息・生育環境の確保に努める。

(地球環境)

- ・温室効果ガス等の排出量を削減するため、省エネルギー型の建設機械等の導入に努める。

### (3) 供用後(住宅・商業施設等の存在及び稼働、住宅・商業施設等関係車両の走行)

(大気質)

- ・区画内道路を適切に配置することにより、周辺地域への排気ガスの影響を軽減するよう努める。

(騒音・振動、交通)

- ・区画内の道路に低騒音型舗装の採用について検討し、車両通行に伴う騒音の影響軽減への配慮に努める。
- ・区画内道路を適切に配置することにより、車両通行による周辺地域への騒音・振動、交通への影響を軽減するよう努める。

(コミュニティ、景観、人と自然とのふれあい活動の場)

- ・地域住民のコミュニティ形成の場の保全に努める。
- ・街路灯、ガードレール等の施設のデザインや形状、色彩について、枚方市道路管理部局と協議・検討し、周辺の景観との調和を図るよう努める。
- ・事業計画地内には、公園、緑地の整備等により、人と自然とのふれあい活動の場の創出に努める。

(生態系)

- ・農地ゾーン及び緑のネットワークの整備により、造成前と同等の生息・生育環境の創出に努める。
- ・公園、緑地等において中低木や食餌木の植栽等を検討し、動物等が生息できる環境を創出するよう努める。

(地球環境)

- ・農地ゾーンや公園、緑地の整備等により、温室効果ガスの削減に努める。

(水象)

- ・水田、原野(雑種地)等が市街化されることにより雨水流出量が増加することから、雨水流出抑制対策として、調整池を事業計画地流末に整備する。

### 1.3.6 環境影響評価を実施する地域

環境影響評価を実施する地域は事業規模、内容等を勘案し、環境に影響が及ぶと想定される枚方市（茄子作2丁目、茄子作3丁目、茄子作4丁目、茄子作5丁目、茄子作東町、高田1丁目、高田2丁目、東香里南町、茄子作南町）、交野市（星田北5丁目、星田北6丁目、星田北9丁目）及び寝屋川市（寝屋北町、寝屋新町、寝屋1丁目、明德1丁目、明德2丁目、池の瀬町、宇谷町、三井が丘2丁目、三井が丘4丁目、太秦桜が丘、八幡台、川勝町、秦町）の事業計画地周辺地域とする（図 1.3-9 参照）。

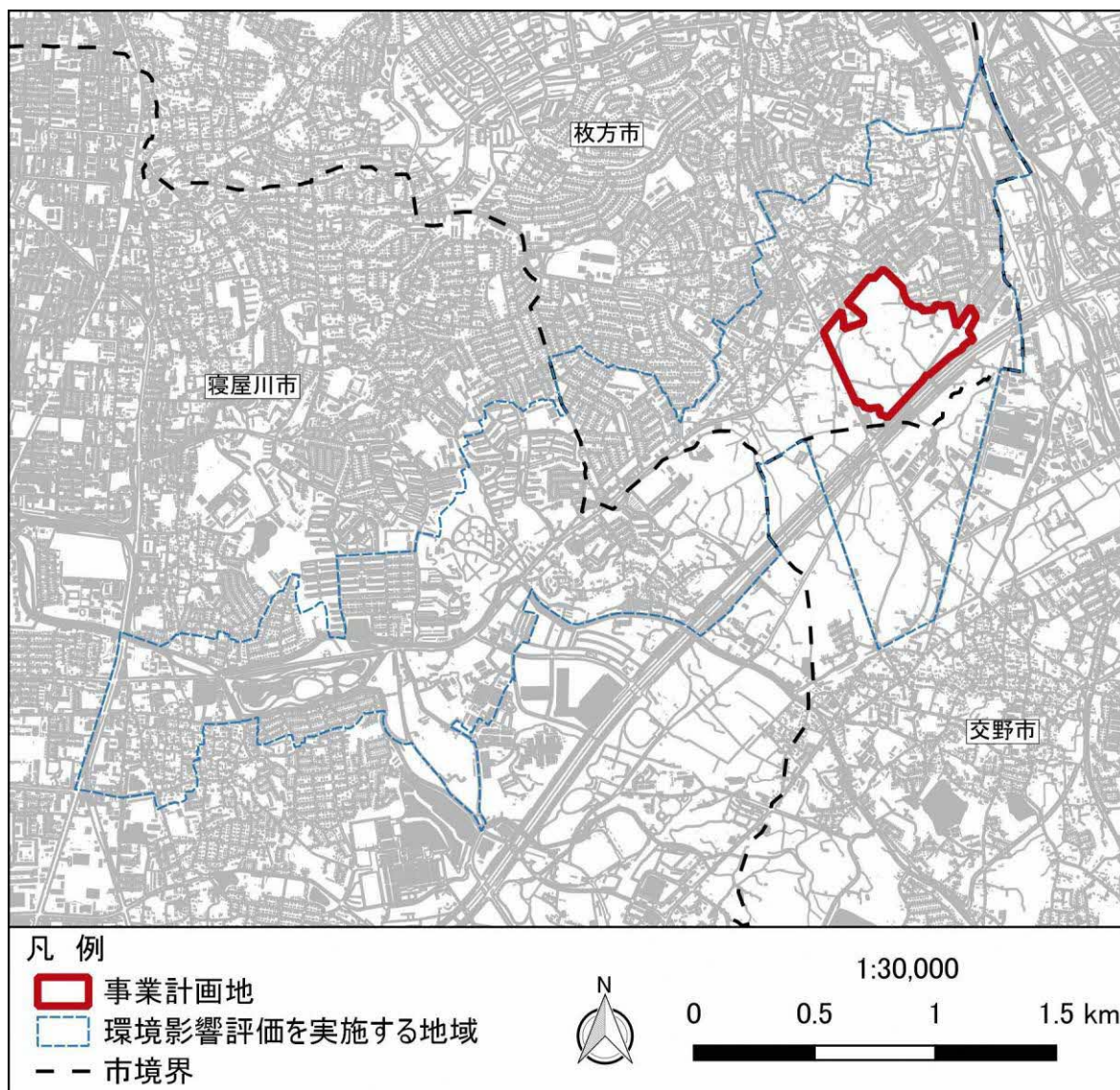


図 1.3-9 環境影響評価を実施する地域

## 第2章 検討にあたっての基本的な考え方

令和6年5月29日付けで、枚方市長より（仮称）茄子作土地区画整理事業に係る環境影響評価準備書について、環境保全の見地から審議し、意見を提出するよう諮問を受けた。

（仮称）茄子作土地区画整理事業に係る計画の概要は、第1章にまとめたとおりである。

本審査会では、（仮称）茄子作土地区画整理事業に係る環境影響評価準備書の内容（現況調査、予測、評価、環境保全措置等）に関し、事業者の説明等を踏まえ、枚方市環境影響評価等技術指針を基本とし、専門的かつ科学的な視点から精査し、検討を行うこととしている。

また、その際、法律、大阪府及び本市の環境保全に関する条例等に定める規制基準、各種環境関連計画との整合性についても配慮することとしている。

準備書は、令和6年4月15日から同年5月14日まで穂谷川清掃工場管理棟1階環境指導課窓口、市役所別館6階行政資料コーナー、津田支所、香里ヶ丘支所及び北部支所において縦覧された。

準備書に対する住民の意見書の提出はなかった。

検討項目については、技術指針で規定している項目のうち、事業者が環境影響評価項目として選定した「大気質」、「水質」、「騒音」、「振動」、「地盤沈下」、「廃棄物及び発生土」、「交通」、「コミュニティ」、「景観」、「文化財」、「動物」、「植物」、「生態系」、「人と自然とのふれあい活動の場」、「地球環境」、及び、「水象」を基本として、選定していない項目についても検討を行った。なお、「低周波音」、「日照障害」及び「電波障害」は、本事業が土地区画整理事業であるため、環境影響評価項目としての選定は行われていないが、参考として、仮設定した建物条件による予測を行うとしている。



### 3. 調査、予測及び評価の結果

#### 3.1 予測の前提条件

##### 3.1.1 一般車両

車両の走行に係る大気質や騒音・振動等の予測に用いる一般車両の現況交通量は、施設の利用及び工事の実施に伴う関連車両の主要通行経路となる道路沿道 4 地点における現地の交通量調査結果を用いた。

交通量・車速調査の内容・車種分類は表 0-1、表 0-2 に、調査地点は図 0-1 に示すとおりである。

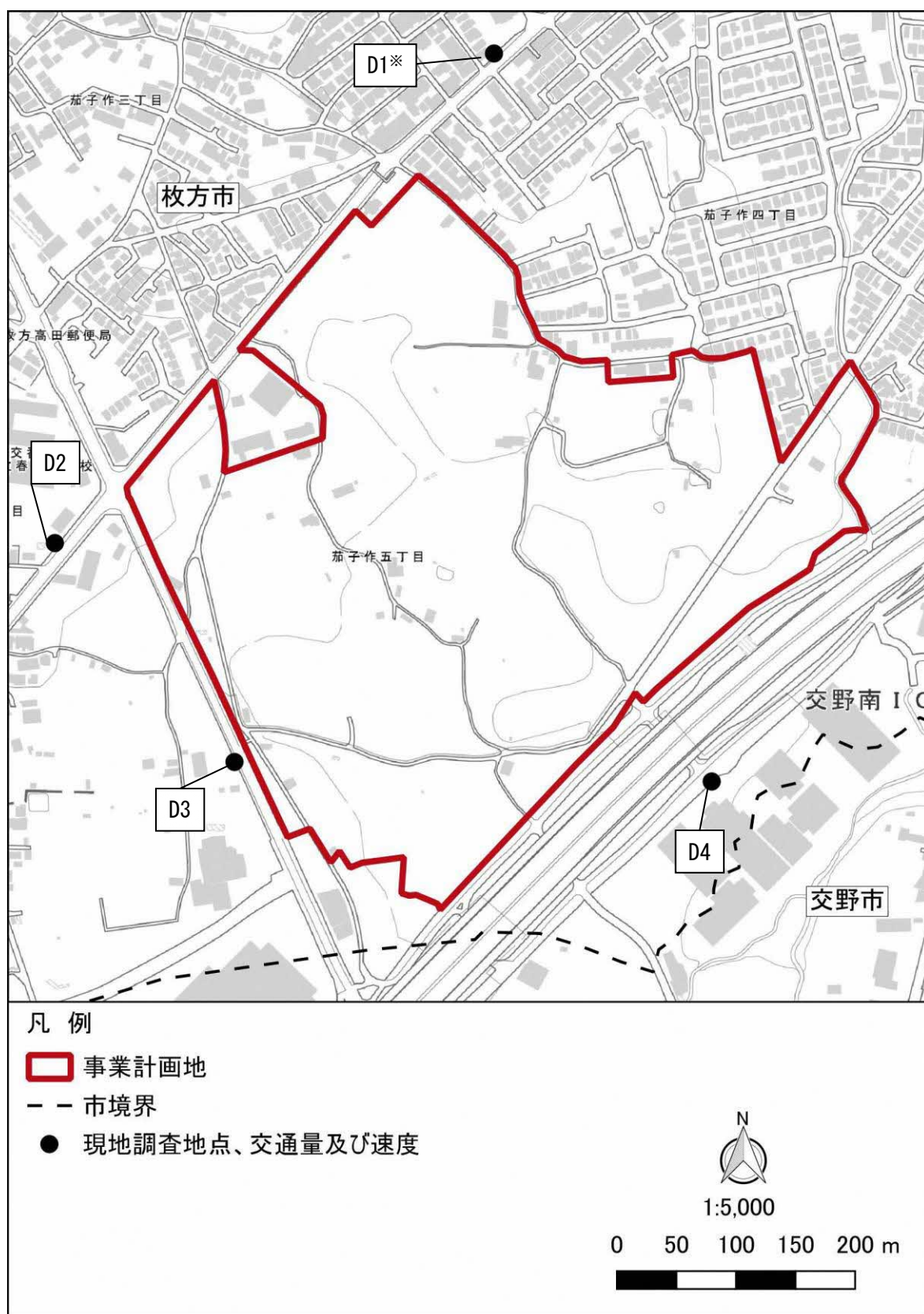
また、交通量・車速調査結果の概要は表 0-3、表 0-4 に、各地点の時間別交通量調査結果は表 0-5～表 0-8 に示すとおりである。

表 0-1 交通量調査内容

| 項目                | 調査地点                                   | 調査期間                                                 | 調査方法              |
|-------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------|
| 交通量<br>(時間別断面交通量) | 施設利用車両及び工事関連車両の主要通行経路沿道 (D1～D4 : 4 地点) | <平日><br>令和 4 年<br>10 月 25 日 (水) 7 時<br>～26 日 (木) 7 時 | 現地調査<br>(目視による計測) |
| 車速                |                                        | <休日><br>令和 4 年<br>10 月 16 日 (日) 7 時<br>～17 日 (月) 7 時 |                   |

表 0-2 交通量調査の車種分類

| 観測区分 | 種別    | 内容                                                   |
|------|-------|------------------------------------------------------|
| 二輪車類 | 二輪車   | 自動二輪及び原動機付き自転車                                       |
| 小型車  | 乗用車   | ナンバー5 (黄と黒のプレート)<br>ナンバー3, 8 (小型プレート)<br>ナンバー3, 5, 7 |
|      | 小型貨物車 | ナンバー4 (黄と黒のプレート)<br>ナンバー6 (小型プレート)<br>ナンバー4, 6       |
| 大型車  | バス    | ナンバー2                                                |
|      | 普通貨物車 | ナンバー1<br>ナンバー8, 9, 0                                 |



※D1 地点について、歩行者通行の妨げ防止等の観点から、方法書より位置を変更し、同一路線上で調査を行った。

図 0-1 交通量・車速調査地点

表 0-3 交通量調査結果概要（24 時間交通量）

（単位：台/24 時間）

| 調査地点 | 平日・休日の区分 | 小型車                  | 大型車                | 自動車合計                | 二輪車類                |
|------|----------|----------------------|--------------------|----------------------|---------------------|
| D1   | 平日       | 14,025               | 1,425              | 15,450               | 2,285               |
|      | 休日       | 12,961               | 522                | 13,483               | 1,443               |
| D2   | 平日       | 14,179               | 1,234              | 15,413               | 2,085               |
|      | 休日       | 14,315               | 513                | 14,828               | 1,460               |
| D3   | 平日       | 9,973                | 1,320              | 11,293               | 1,444               |
|      | 休日       | 10,415               | 651                | 11,066               | 945                 |
| D4   | 平日       | 一般部：14,299<br>副道：204 | 一般部：4,439<br>副道：80 | 一般部：18,738<br>副道：284 | 一般部：3,948<br>副道：110 |
|      | 休日       | 一般部：17,916<br>副道：98  | 一般部：2,124<br>副道：4  | 一般部：20,040<br>副道：102 | 一般部：2,705<br>副道：23  |

表 0-4 車速調査結果概要

（単位：km/h）

| 調査地点 | 平日・休日の区分 | 平均速度 |
|------|----------|------|
| D1   | 平日       | 40.0 |
|      | 休日       | 40.1 |
| D2   | 平日       | 38.1 |
|      | 休日       | 39.5 |
| D3   | 平日       | 42.1 |
|      | 休日       | 43.1 |
| D4※  | 平日       | 37.7 |
|      | 休日       | 36.6 |

※ D4 の車速は予測地点に最も近い副道で測定した速度である。

表 0-5 時間交通量調査結果（地点 D1）

（平日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車   | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-------|--------|--------|------------|-------|
|             | (台)   | (台)    | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 118   | 965    | 1083   | 10.9       | 284   |
| 8:00- 9:00  | 109   | 857    | 966    | 11.3       | 195   |
| 9:00-10:00  | 106   | 834    | 940    | 11.3       | 118   |
| 10:00-11:00 | 127   | 799    | 926    | 13.7       | 77    |
| 11:00-12:00 | 124   | 849    | 973    | 12.7       | 88    |
| 12:00-13:00 | 78    | 869    | 947    | 8.2        | 97    |
| 13:00-14:00 | 86    | 836    | 922    | 9.3        | 92    |
| 14:00-15:00 | 97    | 837    | 934    | 10.4       | 93    |
| 15:00-16:00 | 98    | 878    | 976    | 10.0       | 104   |
| 16:00-17:00 | 71    | 864    | 935    | 7.6        | 107   |
| 17:00-18:00 | 44    | 932    | 976    | 4.5        | 190   |
| 18:00-19:00 | 24    | 956    | 980    | 2.4        | 201   |
| 19:00-20:00 | 20    | 853    | 873    | 2.3        | 154   |
| 20:00-21:00 | 15    | 563    | 578    | 2.6        | 104   |
| 21:00-22:00 | 14    | 365    | 379    | 3.7        | 67    |
| 22:00-23:00 | 17    | 257    | 274    | 6.2        | 47    |
| 23:00-24:00 | 17    | 168    | 185    | 9.2        | 28    |
| 0:00- 1:00  | 17    | 112    | 129    | 13.2       | 20    |
| 1:00- 2:00  | 28    | 64     | 92     | 30.4       | 14    |
| 2:00- 3:00  | 23    | 60     | 83     | 27.7       | 11    |
| 3:00- 4:00  | 23    | 41     | 64     | 35.9       | 9     |
| 4:00- 5:00  | 27    | 78     | 105    | 25.7       | 23    |
| 5:00- 6:00  | 53    | 248    | 301    | 17.6       | 38    |
| 6:00- 7:00  | 89    | 740    | 829    | 10.7       | 124   |
| 昼 12 時間計    | 1,082 | 10,476 | 11,558 | 9.4        | 1,646 |
| 夜 12 時間計    | 343   | 3,549  | 3,892  | 8.8        | 639   |
| 全時間合計       | 1,425 | 14,025 | 15,450 | 9.2        | 2,285 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

（休日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車 | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-----|--------|--------|------------|-------|
|             | (台) | (台)    | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 23  | 397    | 420    | 5.5        | 52    |
| 8:00- 9:00  | 25  | 619    | 644    | 3.9        | 96    |
| 9:00-10:00  | 25  | 779    | 804    | 3.1        | 100   |
| 10:00-11:00 | 25  | 819    | 844    | 3.0        | 85    |
| 11:00-12:00 | 26  | 927    | 953    | 2.7        | 95    |
| 12:00-13:00 | 14  | 1013   | 1027   | 1.4        | 77    |
| 13:00-14:00 | 18  | 978    | 996    | 1.8        | 83    |
| 14:00-15:00 | 20  | 912    | 932    | 2.1        | 68    |
| 15:00-16:00 | 15  | 879    | 894    | 1.7        | 96    |
| 16:00-17:00 | 13  | 907    | 920    | 1.4        | 105   |
| 17:00-18:00 | 14  | 872    | 886    | 1.6        | 89    |
| 18:00-19:00 | 11  | 785    | 796    | 1.4        | 77    |
| 19:00-20:00 | 10  | 614    | 624    | 1.6        | 71    |
| 20:00-21:00 | 12  | 519    | 531    | 2.3        | 64    |
| 21:00-22:00 | 12  | 380    | 392    | 3.1        | 41    |
| 22:00-23:00 | 13  | 272    | 285    | 4.6        | 45    |
| 23:00-24:00 | 8   | 154    | 162    | 4.9        | 19    |
| 0:00- 1:00  | 9   | 102    | 111    | 8.1        | 23    |
| 1:00- 2:00  | 25  | 63     | 88     | 28.4       | 10    |
| 2:00- 3:00  | 29  | 36     | 65     | 44.6       | 8     |
| 3:00- 4:00  | 19  | 30     | 49     | 38.8       | 7     |
| 4:00- 5:00  | 36  | 76     | 112    | 32.1       | 15    |
| 5:00- 6:00  | 44  | 148    | 192    | 22.9       | 35    |
| 6:00- 7:00  | 76  | 680    | 756    | 10.1       | 82    |
| 昼 12 時間計    | 229 | 9,887  | 10,116 | 2.3        | 1,023 |
| 夜 12 時間計    | 293 | 3,074  | 3,367  | 8.7        | 420   |
| 全時間合計       | 522 | 12,961 | 13,483 | 3.9        | 1,443 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。



表 0-6 時間交通量調査結果（地点 D2）

（平日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車   | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-------|--------|--------|------------|-------|
|             | (台)   | (台)    | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 84    | 950    | 1034   | 8.1        | 223   |
| 8:00- 9:00  | 115   | 835    | 950    | 12.1       | 205   |
| 9:00-10:00  | 94    | 795    | 889    | 10.6       | 104   |
| 10:00-11:00 | 111   | 771    | 882    | 12.6       | 65    |
| 11:00-12:00 | 103   | 895    | 998    | 10.3       | 90    |
| 12:00-13:00 | 72    | 916    | 988    | 7.3        | 92    |
| 13:00-14:00 | 83    | 880    | 963    | 8.6        | 92    |
| 14:00-15:00 | 86    | 912    | 998    | 8.6        | 100   |
| 15:00-16:00 | 72    | 892    | 964    | 7.5        | 87    |
| 16:00-17:00 | 38    | 833    | 871    | 4.4        | 107   |
| 17:00-18:00 | 36    | 955    | 991    | 3.6        | 178   |
| 18:00-19:00 | 15    | 943    | 958    | 1.6        | 194   |
| 19:00-20:00 | 18    | 858    | 876    | 2.1        | 122   |
| 20:00-21:00 | 18    | 604    | 622    | 2.9        | 95    |
| 21:00-22:00 | 20    | 398    | 418    | 4.8        | 61    |
| 22:00-23:00 | 17    | 269    | 286    | 5.9        | 47    |
| 23:00-24:00 | 14    | 174    | 188    | 7.4        | 27    |
| 0:00- 1:00  | 13    | 110    | 123    | 10.6       | 15    |
| 1:00- 2:00  | 16    | 67     | 83     | 19.3       | 11    |
| 2:00- 3:00  | 8     | 53     | 61     | 13.1       | 12    |
| 3:00- 4:00  | 24    | 38     | 62     | 38.7       | 10    |
| 4:00- 5:00  | 29    | 70     | 99     | 29.3       | 11    |
| 5:00- 6:00  | 57    | 254    | 311    | 18.3       | 33    |
| 6:00- 7:00  | 91    | 707    | 798    | 11.4       | 104   |
| 昼 12 時間計    | 909   | 10,577 | 11,486 | 7.9        | 1,537 |
| 夜 12 時間計    | 325   | 3,602  | 3,927  | 8.3        | 548   |
| 全時間合計       | 1,234 | 14,179 | 15,413 | 8.0        | 2,085 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

（休日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車 | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-----|--------|--------|------------|-------|
|             | (台) | (台)    | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 24  | 398    | 422    | 5.7        | 55    |
| 8:00- 9:00  | 24  | 633    | 657    | 3.7        | 86    |
| 9:00-10:00  | 23  | 857    | 880    | 2.6        | 101   |
| 10:00-11:00 | 22  | 913    | 935    | 2.4        | 98    |
| 11:00-12:00 | 26  | 1043   | 1069   | 2.4        | 92    |
| 12:00-13:00 | 23  | 1121   | 1144   | 2.0        | 94    |
| 13:00-14:00 | 20  | 1069   | 1089   | 1.8        | 94    |
| 14:00-15:00 | 15  | 987    | 1002   | 1.5        | 98    |
| 15:00-16:00 | 13  | 990    | 1003   | 1.3        | 101   |
| 16:00-17:00 | 14  | 996    | 1010   | 1.4        | 95    |
| 17:00-18:00 | 14  | 920    | 934    | 1.5        | 84    |
| 18:00-19:00 | 7   | 892    | 899    | 0.8        | 75    |
| 19:00-20:00 | 12  | 740    | 752    | 1.6        | 80    |
| 20:00-21:00 | 8   | 576    | 584    | 1.4        | 52    |
| 21:00-22:00 | 24  | 438    | 462    | 5.2        | 36    |
| 22:00-23:00 | 12  | 331    | 343    | 3.5        | 43    |
| 23:00-24:00 | 9   | 175    | 184    | 4.9        | 23    |
| 0:00- 1:00  | 9   | 115    | 124    | 7.3        | 23    |
| 1:00- 2:00  | 18  | 64     | 82     | 22.0       | 10    |
| 2:00- 3:00  | 13  | 40     | 53     | 24.5       | 5     |
| 3:00- 4:00  | 23  | 39     | 62     | 37.1       | 9     |
| 4:00- 5:00  | 36  | 67     | 103    | 35.0       | 18    |
| 5:00- 6:00  | 54  | 245    | 299    | 18.1       | 23    |
| 6:00- 7:00  | 70  | 666    | 736    | 9.5        | 65    |
| 昼 12 時間計    | 225 | 10,819 | 11,044 | 2.0        | 1,073 |
| 夜 12 時間計    | 288 | 3,496  | 3,784  | 7.6        | 387   |
| 全時間合計       | 513 | 14,315 | 14,828 | 3.5        | 1,460 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

表 0-7 時間交通量調査結果（地点 D3）

（平日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車   | 小型車   | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-------|-------|--------|------------|-------|
|             | (台)   | (台)   | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 81    | 608   | 689    | 11.8       | 192   |
| 8:00- 9:00  | 93    | 656   | 749    | 12.4       | 144   |
| 9:00-10:00  | 108   | 615   | 723    | 14.9       | 71    |
| 10:00-11:00 | 98    | 570   | 668    | 14.7       | 55    |
| 11:00-12:00 | 100   | 585   | 685    | 14.6       | 40    |
| 12:00-13:00 | 83    | 603   | 686    | 12.1       | 52    |
| 13:00-14:00 | 64    | 634   | 698    | 9.2        | 53    |
| 14:00-15:00 | 75    | 619   | 694    | 10.8       | 55    |
| 15:00-16:00 | 86    | 618   | 704    | 12.2       | 62    |
| 16:00-17:00 | 62    | 597   | 659    | 9.4        | 63    |
| 17:00-18:00 | 44    | 711   | 755    | 5.8        | 109   |
| 18:00-19:00 | 28    | 679   | 707    | 4.0        | 133   |
| 19:00-20:00 | 33    | 580   | 613    | 5.4        | 91    |
| 20:00-21:00 | 27    | 397   | 424    | 6.4        | 64    |
| 21:00-22:00 | 25    | 287   | 312    | 8.0        | 54    |
| 22:00-23:00 | 21    | 234   | 255    | 8.2        | 31    |
| 23:00-24:00 | 20    | 117   | 137    | 14.6       | 19    |
| 0:00- 1:00  | 25    | 78    | 103    | 24.3       | 12    |
| 1:00- 2:00  | 23    | 50    | 73     | 31.5       | 5     |
| 2:00- 3:00  | 25    | 37    | 62     | 40.3       | 6     |
| 3:00- 4:00  | 19    | 23    | 42     | 45.2       | 5     |
| 4:00- 5:00  | 25    | 48    | 73     | 34.2       | 9     |
| 5:00- 6:00  | 72    | 213   | 285    | 25.3       | 34    |
| 6:00- 7:00  | 83    | 414   | 497    | 16.7       | 85    |
| 昼 12 時間計    | 922   | 7,495 | 8,417  | 11.0       | 1,029 |
| 夜 12 時間計    | 398   | 2,478 | 2,876  | 13.8       | 415   |
| 全時間合計       | 1,320 | 9,973 | 11,293 | 11.7       | 1,444 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

（休日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車 | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車 |
|-------------|-----|--------|--------|------------|-----|
|             | (台) | (台)    | (台)    | (%)        | (台) |
| 7:00- 8:00  | 25  | 308    | 333    | 7.5        | 50  |
| 8:00- 9:00  | 31  | 511    | 542    | 5.7        | 61  |
| 9:00-10:00  | 32  | 672    | 704    | 4.5        | 59  |
| 10:00-11:00 | 27  | 739    | 766    | 3.5        | 60  |
| 11:00-12:00 | 40  | 809    | 849    | 4.7        | 54  |
| 12:00-13:00 | 30  | 869    | 899    | 3.3        | 54  |
| 13:00-14:00 | 30  | 791    | 821    | 3.7        | 44  |
| 14:00-15:00 | 22  | 720    | 742    | 3.0        | 47  |
| 15:00-16:00 | 24  | 735    | 759    | 3.2        | 44  |
| 16:00-17:00 | 19  | 701    | 720    | 2.6        | 66  |
| 17:00-18:00 | 9   | 729    | 738    | 1.2        | 56  |
| 18:00-19:00 | 12  | 588    | 600    | 2.0        | 64  |
| 19:00-20:00 | 19  | 449    | 468    | 4.1        | 46  |
| 20:00-21:00 | 16  | 390    | 406    | 3.9        | 39  |
| 21:00-22:00 | 21  | 274    | 295    | 7.1        | 27  |
| 22:00-23:00 | 21  | 231    | 252    | 8.3        | 23  |
| 23:00-24:00 | 4   | 98     | 102    | 3.9        | 24  |
| 0:00- 1:00  | 13  | 57     | 70     | 18.6       | 17  |
| 1:00- 2:00  | 26  | 34     | 60     | 43.3       | 8   |
| 2:00- 3:00  | 21  | 22     | 43     | 48.8       | 4   |
| 3:00- 4:00  | 27  | 33     | 60     | 45.0       | 4   |
| 4:00- 5:00  | 28  | 65     | 93     | 30.1       | 12  |
| 5:00- 6:00  | 82  | 168    | 250    | 32.8       | 20  |
| 6:00- 7:00  | 72  | 422    | 494    | 14.6       | 62  |
| 昼 12 時間計    | 301 | 8,172  | 8,473  | 3.6        | 659 |
| 夜 12 時間計    | 350 | 2,243  | 2,593  | 13.5       | 286 |
| 全時間合計       | 651 | 10,415 | 11,066 | 5.9        | 945 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

表 0-8 時間交通量調査結果（地点 D4：一般部）

（平日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車   | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-------|--------|--------|------------|-------|
|             | (台)   | (台)    | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 215   | 793    | 1,008  | 21.3       | 576   |
| 8:00- 9:00  | 268   | 772    | 1,040  | 25.8       | 409   |
| 9:00-10:00  | 288   | 729    | 1,017  | 28.3       | 168   |
| 10:00-11:00 | 293   | 581    | 874    | 33.5       | 98    |
| 11:00-12:00 | 311   | 731    | 1,042  | 29.8       | 102   |
| 12:00-13:00 | 286   | 734    | 1,020  | 28.0       | 126   |
| 13:00-14:00 | 278   | 816    | 1,094  | 25.4       | 96    |
| 14:00-15:00 | 291   | 839    | 1,130  | 25.8       | 89    |
| 15:00-16:00 | 229   | 743    | 972    | 23.6       | 136   |
| 16:00-17:00 | 192   | 809    | 1,001  | 19.2       | 160   |
| 17:00-18:00 | 122   | 969    | 1,091  | 11.2       | 414   |
| 18:00-19:00 | 63    | 1,081  | 1,144  | 5.5        | 404   |
| 19:00-20:00 | 76    | 1,009  | 1,085  | 7.0        | 331   |
| 20:00-21:00 | 83    | 788    | 871    | 9.5        | 185   |
| 21:00-22:00 | 77    | 575    | 652    | 11.8       | 154   |
| 22:00-23:00 | 58    | 412    | 470    | 12.3       | 72    |
| 23:00-24:00 | 108   | 293    | 401    | 26.9       | 53    |
| 0:00- 1:00  | 85    | 193    | 278    | 30.6       | 26    |
| 1:00- 2:00  | 79    | 111    | 190    | 41.6       | 16    |
| 2:00- 3:00  | 113   | 137    | 250    | 45.2       | 24    |
| 3:00- 4:00  | 154   | 102    | 256    | 60.2       | 15    |
| 4:00- 5:00  | 199   | 133    | 332    | 59.9       | 12    |
| 5:00- 6:00  | 241   | 235    | 476    | 50.6       | 54    |
| 6:00- 7:00  | 330   | 714    | 1,044  | 31.6       | 228   |
| 昼 12 時間計    | 2,836 | 9,597  | 12,433 | 22.8       | 2,778 |
| 夜 12 時間計    | 1,603 | 4,702  | 6,305  | 25.4       | 1,170 |
| 全時間合計       | 4,439 | 14,299 | 18,738 | 23.7       | 3,948 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

（休日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車   | 小型車    | 合 計    | 大型車<br>混入率 | 二輪車   |
|-------------|-------|--------|--------|------------|-------|
|             | (台)   | (台)    | (台)    | (%)        | (台)   |
| 7:00- 8:00  | 66    | 772    | 838    | 7.9        | 173   |
| 8:00- 9:00  | 54    | 1,005  | 1,059  | 5.1        | 172   |
| 9:00-10:00  | 41    | 1,033  | 1,074  | 3.8        | 182   |
| 10:00-11:00 | 55    | 993    | 1,048  | 5.2        | 145   |
| 11:00-12:00 | 61    | 1,134  | 1,195  | 5.1        | 154   |
| 12:00-13:00 | 62    | 1,173  | 1,235  | 5.0        | 156   |
| 13:00-14:00 | 65    | 1,182  | 1,247  | 5.2        | 155   |
| 14:00-15:00 | 57    | 1,104  | 1,161  | 4.9        | 135   |
| 15:00-16:00 | 50    | 1,093  | 1,143  | 4.4        | 152   |
| 16:00-17:00 | 46    | 1,106  | 1,152  | 4.0        | 154   |
| 17:00-18:00 | 26    | 1,097  | 1,123  | 2.3        | 187   |
| 18:00-19:00 | 31    | 1,043  | 1,074  | 2.9        | 189   |
| 19:00-20:00 | 34    | 908    | 942    | 3.6        | 140   |
| 20:00-21:00 | 38    | 798    | 836    | 4.5        | 88    |
| 21:00-22:00 | 71    | 688    | 759    | 9.4        | 84    |
| 22:00-23:00 | 56    | 525    | 581    | 9.6        | 67    |
| 23:00-24:00 | 78    | 344    | 422    | 18.5       | 44    |
| 0:00- 1:00  | 66    | 229    | 295    | 22.4       | 30    |
| 1:00- 2:00  | 65    | 162    | 227    | 28.6       | 16    |
| 2:00- 3:00  | 94    | 112    | 206    | 45.6       | 11    |
| 3:00- 4:00  | 139   | 115    | 254    | 54.7       | 8     |
| 4:00- 5:00  | 201   | 140    | 341    | 58.9       | 20    |
| 5:00- 6:00  | 363   | 389    | 752    | 48.3       | 43    |
| 6:00- 7:00  | 305   | 771    | 1,076  | 28.3       | 200   |
| 昼 12 時間計    | 614   | 12,735 | 13,349 | 4.6        | 1,954 |
| 夜 12 時間計    | 1,510 | 5,181  | 6,691  | 22.6       | 751   |
| 全時間合計       | 2,124 | 17,916 | 20,040 | 10.6       | 2,705 |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

表 0-9 時間交通量調査結果（地点 D4：副道）

（平日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車<br>(台) | 小型車<br>(台) | 合 計<br>(台) | 大型車<br>混入率<br>(%) | 二輪車<br>(台) |
|-------------|------------|------------|------------|-------------------|------------|
| 7:00- 8:00  | 0          | 19         | 19         | 0.0               | 15         |
| 8:00- 9:00  | 8          | 16         | 24         | 33.3              | 14         |
| 9:00-10:00  | 10         | 13         | 23         | 43.5              | 1          |
| 10:00-11:00 | 6          | 12         | 18         | 33.3              | 5          |
| 11:00-12:00 | 12         | 16         | 28         | 42.9              | 5          |
| 12:00-13:00 | 3          | 9          | 12         | 25.0              | 3          |
| 13:00-14:00 | 4          | 15         | 19         | 21.1              | 2          |
| 14:00-15:00 | 9          | 9          | 18         | 50.0              | 3          |
| 15:00-16:00 | 11         | 11         | 22         | 50.0              | 3          |
| 16:00-17:00 | 5          | 13         | 18         | 27.8              | 7          |
| 17:00-18:00 | 7          | 12         | 19         | 36.8              | 14         |
| 18:00-19:00 | 2          | 22         | 24         | 8.3               | 14         |
| 19:00-20:00 | 0          | 14         | 14         | 0.0               | 5          |
| 20:00-21:00 | 0          | 7          | 7          | 0.0               | 3          |
| 21:00-22:00 | 0          | 2          | 2          | 0.0               | 1          |
| 22:00-23:00 | 0          | 1          | 1          | 0.0               | 1          |
| 23:00-24:00 | 0          | 1          | 1          | 0.0               | 0          |
| 0:00- 1:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 1:00- 2:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 2:00- 3:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 1          |
| 3:00- 4:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 1          |
| 4:00- 5:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 5:00- 6:00  | 2          | 4          | 6          | 33.3              | 6          |
| 6:00- 7:00  | 1          | 8          | 9          | 11.1              | 6          |
| 昼 12 時間計    | 77         | 167        | 244        | 31.6              | 86         |
| 夜 12 時間計    | 3          | 37         | 40         | 7.5               | 24         |
| 全時間合計       | 80         | 204        | 284        | 28.2              | 110        |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。

（休日）

| 種別<br>時間帯   | 大型車<br>(台) | 小型車<br>(台) | 合 計<br>(台) | 大型車<br>混入率<br>(%) | 二輪車<br>(台) |
|-------------|------------|------------|------------|-------------------|------------|
| 7:00- 8:00  | 0          | 7          | 7          | 0.0               | 0          |
| 8:00- 9:00  | 0          | 5          | 5          | 0.0               | 1          |
| 9:00-10:00  | 0          | 6          | 6          | 0.0               | 1          |
| 10:00-11:00 | 0          | 8          | 8          | 0.0               | 1          |
| 11:00-12:00 | 1          | 8          | 9          | 11.1              | 2          |
| 12:00-13:00 | 1          | 6          | 7          | 14.3              | 3          |
| 13:00-14:00 | 0          | 9          | 9          | 0.0               | 2          |
| 14:00-15:00 | 0          | 6          | 6          | 0.0               | 2          |
| 15:00-16:00 | 1          | 5          | 6          | 16.7              | 2          |
| 16:00-17:00 | 0          | 3          | 3          | 0.0               | 1          |
| 17:00-18:00 | 1          | 8          | 9          | 11.1              | 1          |
| 18:00-19:00 | 0          | 4          | 4          | 0.0               | 0          |
| 19:00-20:00 | 0          | 1          | 1          | 0.0               | 0          |
| 20:00-21:00 | 0          | 3          | 3          | 0.0               | 1          |
| 21:00-22:00 | 0          | 3          | 3          | 0.0               | 0          |
| 22:00-23:00 | 0          | 1          | 1          | 0.0               | 0          |
| 23:00-24:00 | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 0:00- 1:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 1:00- 2:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 2:00- 3:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 3:00- 4:00  | 0          | 0          | 0          | 0.0               | 0          |
| 4:00- 5:00  | 0          | 2          | 2          | 0.0               | 0          |
| 5:00- 6:00  | 0          | 7          | 7          | 0.0               | 1          |
| 6:00- 7:00  | 0          | 6          | 6          | 0.0               | 5          |
| 昼 12 時間計    | 4          | 75         | 79         | 5.1               | 16         |
| 夜 12 時間計    | 0          | 23         | 23         | 0.0               | 7          |
| 全時間合計       | 4          | 98         | 102        | 3.9               | 23         |

注）昼 12 時間は 7:00～19:00、夜 12 時間は 19:00～7:00 を示す。



### 3.1.2 産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両

施設等の供用により発生する産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両（以降、「供用時の関係車両」と称す）の台数については、「枚方市茄子作地区交通量推計 報告書（令和5年3月、日本都市技術株式会社）」における開発計画の施設規模の考え方に基づき算出した開発関連交通量の推計結果を用いた。

推計した将来開発関連発生集中交通量を表 0-10 に示す。

また、将来開発関連発生集中交通量の時間別交通量については、各地点の時間別交通量調査結果の平均値から、各時間帯の構成比を考慮し算定している（表 0-11 参照）。

表 0-10 将来開発関連発生集中交通量

| 土地利用         | 平日・休日<br>の区分 | 日計（台/日） |     |       | ピーク時（台/時） |     |       |
|--------------|--------------|---------|-----|-------|-----------|-----|-------|
|              |              | 小型車     | 大型車 | 自動車合計 | 小型車       | 大型車 | 自動車合計 |
| 商業用地<br>沿道商業 | 平日           | 1,604   | 56  | 1,660 | 156       | 8   | 164   |
|              | 休日           | 3,576   | 56  | 3,632 | 412       | 8   | 420   |
| 住居           | 平日           | 213     | —   | 213   | 15        | —   | 15    |
|              | 休日           | 463     | —   | 463   | 37        | —   | 37    |
| 産業用地         | 平日           | 244     | 242 | 486   | 20        | 32  | 52    |
|              | 休日           | 68      | 96  | 164   | 10        | 14  | 24    |
| 計            | 平日           | 2,061   | 298 | 2,359 | 191       | 40  | 231   |
|              | 休日           | 4,107   | 152 | 4,259 | 459       | 22  | 481   |

表 0-11 時間帯別将来開発関連発生集中交通量

(平日)

| 時間帯         | 種別 | 時間帯別交通量調査結果<br>の平均 |       | 構成比   |       | 将来開発関連<br>発生集中交通量 |     |
|-------------|----|--------------------|-------|-------|-------|-------------------|-----|
|             |    | 小型車                | 大型車   | 小型車   | 大型車   | 小型車               | 大型車 |
|             |    | (台)                | (台)   | (%)   | (%)   | (台)               | (台) |
| 0:00- 1:00  |    | 75                 | 14    | 0.8   | 1.4   | 16                | 4   |
| 1:00- 2:00  |    | 45                 | 17    | 0.5   | 1.7   | 10                | 5   |
| 2:00- 3:00  |    | 38                 | 14    | 0.4   | 1.4   | 8                 | 4   |
| 3:00- 4:00  |    | 26                 | 17    | 0.3   | 1.6   | 5                 | 5   |
| 4:00- 5:00  |    | 49                 | 20    | 0.5   | 2.0   | 11                | 6   |
| 5:00- 6:00  |    | 180                | 46    | 1.9   | 4.5   | 39                | 14  |
| 6:00- 7:00  |    | 467                | 66    | 4.9   | 6.5   | 100               | 19  |
| 7:00- 8:00  |    | 636                | 71    | 6.6   | 7.0   | 137               | 21  |
| 8:00- 9:00  |    | 591                | 81    | 6.2   | 8.0   | 127               | 24  |
| 9:00-10:00  |    | 564                | 80    | 5.9   | 7.8   | 121               | 23  |
| 10:00-11:00 |    | 538                | 86    | 5.6   | 8.4   | 116               | 25  |
| 11:00-12:00 |    | 586                | 85    | 6.1   | 8.4   | 126               | 25  |
| 12:00-13:00 |    | 599                | 59    | 6.2   | 5.8   | 129               | 17  |
| 13:00-14:00 |    | 591                | 59    | 6.2   | 5.8   | 127               | 17  |
| 14:00-15:00 |    | 594                | 67    | 6.2   | 6.6   | 128               | 20  |
| 15:00-16:00 |    | 600                | 67    | 6.3   | 6.6   | 129               | 20  |
| 16:00-17:00 |    | 577                | 44    | 6.0   | 4.3   | 124               | 13  |
| 17:00-18:00 |    | 653                | 33    | 6.8   | 3.2   | 140               | 10  |
| 18:00-19:00 |    | 650                | 17    | 6.8   | 1.7   | 140               | 5   |
| 19:00-20:00 |    | 576                | 18    | 6.0   | 1.7   | 124               | 5   |
| 20:00-21:00 |    | 393                | 15    | 4.1   | 1.5   | 84                | 4   |
| 21:00-22:00 |    | 263                | 15    | 2.7   | 1.5   | 56                | 4   |
| 22:00-23:00 |    | 190                | 14    | 2.0   | 1.4   | 41                | 4   |
| 23:00-24:00 |    | 115                | 13    | 1.2   | 1.3   | 25                | 4   |
| 全時間合計       |    | 9,595              | 1,015 | 100.0 | 100.0 | 2,061             | 298 |

注) 時間帯別交通量調査結果の平均は D1、D2、D3、D4 (副道) 地点の平均である。

(休日)

| 時間帯         | 種別 | 時間帯別交通量調査結果<br>の平均 |     | 構成比   |       | 将来開発関連<br>発生集中交通量 |     |
|-------------|----|--------------------|-----|-------|-------|-------------------|-----|
|             |    | 小型車                | 大型車 | 小型車   | 大型車   | 小型車               | 大型車 |
|             |    | (台)                | (台) | (%)   | (%)   | (台)               | (台) |
| 0:00- 1:00  |    | 69                 | 8   | 0.7   | 1.8   | 30                | 3   |
| 1:00- 2:00  |    | 40                 | 17  | 0.4   | 4.1   | 17                | 6   |
| 2:00- 3:00  |    | 25                 | 16  | 0.3   | 3.7   | 11                | 6   |
| 3:00- 4:00  |    | 26                 | 17  | 0.3   | 4.1   | 11                | 6   |
| 4:00- 5:00  |    | 53                 | 25  | 0.6   | 5.9   | 23                | 9   |
| 5:00- 6:00  |    | 142                | 45  | 1.5   | 10.7  | 62                | 16  |
| 6:00- 7:00  |    | 444                | 55  | 4.7   | 12.9  | 193               | 20  |
| 7:00- 8:00  |    | 278                | 18  | 2.9   | 4.3   | 121               | 6   |
| 8:00- 9:00  |    | 442                | 20  | 4.7   | 4.7   | 192               | 7   |
| 9:00-10:00  |    | 579                | 20  | 6.1   | 4.7   | 251               | 7   |
| 10:00-11:00 |    | 620                | 19  | 6.6   | 4.4   | 269               | 7   |
| 11:00-12:00 |    | 697                | 23  | 7.4   | 5.5   | 303               | 8   |
| 12:00-13:00 |    | 752                | 17  | 8.0   | 4.0   | 327               | 6   |
| 13:00-14:00 |    | 712                | 17  | 7.5   | 4.0   | 309               | 6   |
| 14:00-15:00 |    | 656                | 14  | 6.9   | 3.4   | 285               | 5   |
| 15:00-16:00 |    | 652                | 13  | 6.9   | 3.1   | 284               | 5   |
| 16:00-17:00 |    | 652                | 12  | 6.9   | 2.7   | 283               | 4   |
| 17:00-18:00 |    | 632                | 10  | 6.7   | 2.2   | 275               | 3   |
| 18:00-19:00 |    | 567                | 8   | 6.0   | 1.8   | 247               | 3   |
| 19:00-20:00 |    | 451                | 10  | 4.8   | 2.4   | 196               | 4   |
| 20:00-21:00 |    | 372                | 9   | 3.9   | 2.1   | 162               | 3   |
| 21:00-22:00 |    | 274                | 14  | 2.9   | 3.4   | 119               | 5   |
| 22:00-23:00 |    | 209                | 12  | 2.2   | 2.7   | 91                | 4   |
| 23:00-24:00 |    | 107                | 5   | 1.1   | 1.2   | 46                | 2   |
| 全時間合計       |    | 9,447              | 423 | 100.0 | 100.0 | 4,107             | 152 |

注) 時間帯別交通量調査結果の平均は D1、D2、D3、D4 (副道) 地点の平均である。

### 3.1.3 建設工事

#### (1) 工事工程

本事業の建設工事の工程表は表 0-12、表 0-13 に示すとおりである。建設工事において、環境への影響が大きくなる工種及び時期は、「道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)」(平成 25 年 3 月, 国土技術政策総合研究所、土木研究所)に記載される作業単位を考慮した建設機械の組合せ(ユニット)及びユニット数より、土工事における整地工(掘削工、盛土工)と地盤改良工が同時に行われる 1 年目の 7 ヶ月目～2 年目の 5 ヶ月目であることから、当該工種及び時期を予測対象としている(表 0-13 参照)。

表 0-12 工事工程表

| 工種     | 主な工事内容     | 細別        | 1年目 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 2年目 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 3年目 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | ユニット数 |
|--------|------------|-----------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-------|
|        |            |           | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |       |
| 準備工事   | 既設舗装・構造物撤去 | 舗装撤去工     |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
|        |            | 構造物撤去工    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
|        | 仮設材等運搬     | 積み込み・荷下ろし |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
| 防災工事   | 仮設沈砂池      | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
| 土工事    | 整地工        | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
|        | 地盤改良工      | 地盤改良工     |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 2  |       |
|        | 整地工        | 盛土工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 5  |       |
| 基盤整備工事 | 道路工        | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
|        |            | 舗装工(3m超)  |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
|        |            | 舗装工(3m以下) |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    | 1     |
|        | 調整池工       | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 1  |       |
|        | 雨水排水工      | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 1  |       |
|        | 汚水排水工      | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 1  |       |
|        | 上水道工       | 掘削工       |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    | 1  |       |

表 0-13 環境影響が最大となる工種(ユニット)の設定

| 工種     |            |           | 主な工事内容 |       |        | 細別     |     |                             | 1 ユニット当たりの原単位   |            |               |          | ユニット数を考慮した場合の原単位       |            |               |          |
|--------|------------|-----------|--------|-------|--------|--------|-----|-----------------------------|-----------------|------------|---------------|----------|------------------------|------------|---------------|----------|
|        |            |           |        |       |        |        |     |                             | 大気質             |            | 騒音            | 振動       | 大気質                    |            | 騒音            | 振動       |
|        |            |           |        |       |        |        |     |                             | 排出係数 (g/ユニット/日) | 基準降下ばいじん量a | A特性実行音響パワーレベル | 基準点振動レベル | 排出係数 (g/日)             | 基準降下ばいじん量a | A特性実行音響パワーレベル | 基準点振動レベル |
|        |            |           |        |       |        | NOX    | SPM | (t/km <sup>2</sup> /日/ユニット) | (dB)            | (dB)       | NOX           | SPM      | (t/km <sup>2</sup> /日) | (dB)       | (dB)          |          |
| 準備工事   | 既設舗装・構造物撤去 | 舗装撤去工     | —      | —     | 12,000 | 111    | 69  | —                           | —               | 12,000     | 111           | 69       |                        |            |               |          |
|        |            | 構造物撤去工    | —      | —     | 13,000 | 105    | 52  | —                           | —               | 13,000     | 105           | 52       |                        |            |               |          |
|        | 仮設材等運搬     | 積込み・荷下ろし  | —      | —     | —      | —      | —   | —                           | —               | —          | —             | —        |                        |            |               |          |
| 防災工事   | 仮設沈砂池      | 掘削工       | 9,700  | 290   | 17,000 | 103    | 53  | 9,700                       | 290             | 17,000     | 103           | 53       |                        |            |               |          |
| 土工事    | 整地工        | 掘削工       | 9,700  | 290   | 17,000 | 103    | 53  | 9,700                       | 290             | 17,000     | 103           | 53       |                        |            |               |          |
|        | 地盤改良工      | 地盤改良工     | 11,000 | —     | 7,500  | 108    | 66  | 22,000                      | —               | 15,000     | 111           | 69       |                        |            |               |          |
|        | 整地工        | 盛土工       | 8,600  | 260   | —      | 108    | 63  | 43,000                      | 1300            | —          | 115           | 70       |                        |            |               |          |
|        | 基盤整備工事     | 道路工       | 掘削工    | 9,700 | 290    | 17,000 | 103 | 53                          | 9,700           | 290        | 17,000        | 103      | 53                     |            |               |          |
| 基盤整備工事 |            | 舗装工(3m超)  | 4,400  | 140   | 13,000 | 105    | 53  | —                           | —               | 13,000     | 105           | 53       |                        |            |               |          |
|        |            | 舗装工(3m以下) | —      | —     | 13,000 | 106    | 59  | —                           | —               | 13,000     | 106           | 59       |                        |            |               |          |
|        |            | 調整池工      | 掘削工    | 9,700 | 290    | 17,000 | 103 | 53                          | 9,700           | 290        | 17,000        | 103      | 53                     |            |               |          |
|        | 雨水排水工      | 掘削工       | 9,700  | 290   | 17,000 | 103    | 53  | 9,700                       | 290             | 17,000     | 103           | 53       |                        |            |               |          |
|        | 汚水排水工      | 掘削工       | 9,700  | 290   | 17,000 | 103    | 53  | 9,700                       | 290             | 17,000     | 103           | 53       |                        |            |               |          |
|        | 上水道工       | 掘削工       | 9,700  | 290   | 17,000 | 103    | 53  | 9,700                       | 290             | 17,000     | 103           | 53       |                        |            |               |          |
|        |            |           |        |       |        |        |     |                             |                 |            |               |          |                        |            |               |          |

注) 各工事の工事時期及び当該工事のユニット数を考慮した原単位より、影響が最大となる工種の組合せ(表中の赤枠部分)を予測対象としている。

## (2) 工事関連車両の走行台数

土工事における掘削工及び盛土工、地盤改良工で使用する主な工事関連車両とその走行台数を表 0-14 に、それらの組み合わせを考慮した 1 日当たりの最大走行台数を表 0-15 に示すとおり設定している。

なお、掘削土及び地盤改良工は出来る限り場外への持ち出しを行わない計画としているが、ここでは安全側の予測を行う観点から、全て場外へ搬出する場合を想定している。

表 0-14 主な工事関連車両と走行台数

| 項 目        | 掘削工                   | 盛土工                    | 地盤改良工                  |
|------------|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 概算土量※1     | 84,169 m <sup>3</sup> | 221,568 m <sup>3</sup> | —                      |
| 概算面積※1     | —                     | —                      | 108,786 m <sup>2</sup> |
| ダンプ総走行台数※3 | 33,670 台              | 88,630 台               | 43,520 台※2             |

※1：概算土量は、概略設計数量より算出している。

※2：地盤改良工は改良深 1.0m とし、概算土量 108,786 m<sup>3</sup>として算定している。

※3：ダンプ走行台数は、10t ダンプ（5 m<sup>3</sup>/台）が往復するものとして算定している。

表 0-15 工事関連車両の日走行台数

| 項 目                      | 掘削工                                   | 盛土工                | 地盤改良工              |
|--------------------------|---------------------------------------|--------------------|--------------------|
| 土工機械の日作業量※2              | 320 m <sup>3</sup>                    | 140 m <sup>3</sup> | 172 m <sup>2</sup> |
| ユニット数                    | 1                                     | 5                  | 2                  |
| ユニット数を考慮した日作業量           | 320 m <sup>3</sup>                    | 700 m <sup>3</sup> | 344 m <sup>2</sup> |
| 工種別の 1 日当たり最大ダンプ走行台数※1※3 | 128 台/日                               | 280 台/日            | 138 台/日※4          |
| 1 日当たりの最大ダンプ走行台数         | 128 台/日 + 280 台/日 + 138 台/日 = 546 台/日 |                    |                    |
| 割増率（その他の工事関連車両混入等）       | 1.5※5                                 |                    |                    |
| 工事関連車両（大型車）の日走行台数        | 820 台/日                               |                    |                    |

※1：ダンプ走行台数は、10t ダンプ（5 m<sup>3</sup>/台）が往復するものとして算定している。

※2：土工機械の日作業量は、掘削工（土砂掘削、オープンカット、押土有り、普通土 30,000m<sup>3</sup>未満又は湿地軟弱土）、盛土工（施工幅員 4m 以上、施工数量 10,000m<sup>3</sup>以上、障害有り（障害物等や交通の影響により施工条件に制限されることが想定されるため））、地盤改良工（安定処理（バックホウ）、路床）の作業日当たり標準作業量（令和 5 年度版 国土交通省土木工事積算基準より）としている

※3：1 日当たりの最大ダンプ走行台数は、土工機械 1 台当たりの作業量（土量）を運搬するために必要な台数にユニット数を乗じたものとしている

※4：地盤改良工は改良深 1.0m としているため、土工機械 1 台当たりの日作業量 172 m<sup>2</sup>として算定している。

※5：工事関連車両は掘削工、盛土工及び地盤改良工の日作業量に基づき算出しており、その他の工事関連車両は台数にして僅かと想定されるものの、安全側の予測を行う観点から、その他の工事関連車両分として類似事例を参考に割増率 1.5 と設定し、全ての工事関連車両を大型車として設定している。

## (3) 工事関連車両の方向配分

工事関連車両の方向別配分は、工事計画の詳細が未確定であるため、全ての工事関連車両が予測地点を走行するものとして設定している。

## 3.2 （参考）日照阻害

### 3.2.1 調査結果

#### (1) 既存資料調査

##### 1) 調査項目

調査項目は、事業計画（土地利用等）としている。

##### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地としている。

##### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

##### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（「きてみてひらかたマップ(令和4年度)」(枚方市)）、「交野市公開型GIS（Alandis+）」及び「ワガヤネヤガワマップ(寝屋川市地理情報システム)(令和4年度)」(寝屋川市)より事業地周辺の用途地域及び事業計画における土地利用計画資料を収集整理している。

##### 5) 調査結果

調査結果は、準備書「第1章 事業計画」及び「第2章 地域の概況 2.1 社会的状況 2.1.4 土地利用」の「(2) 用途地域の指定状況」に示すとおりである。



### 3.2.2 予測及び評価

#### (1) (参考) 仮設定した建物条件による日影の範囲及び程度

##### 1) 予測項目

予測項目は、仮設定した建物条件による日影の範囲及び程度としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地のうち、事業計画地及び周辺地域で日照障害が生じるおそれがあると認められる地域としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、産業・商業施設、住宅等の建設が完了した時期としている。

また、日照条件は、日影の最も大きい時期となる冬至日（8時～16時）としている。

##### 4) 予測方法

予測は、土地利用計画に基づき仮設定した建物条件（表 3.2-1）をもとに、時刻別日影線及び等時間日影線（事業計画地周辺の日影規制値となる 4 時間）を記載した日影予測図を作成し日影時間と範囲を求めることにより行った。

表 3.2-1 計画建築物の概要

| 施設用途   | 土地面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 用途地域 | 建蔽率<br>(%) | 容積率<br>(%) | 階数     | 延床面積(m <sup>2</sup> ) |
|--------|---------------------------|------|------------|------------|--------|-----------------------|
| 商業施設   | 13,205                    | 準工業  | 60         | 200        | 地上 3 階 | 23,700                |
| 沿道商業施設 | 8,399                     | 準工業  | 60         | 200        | 地上 1 階 | 5,000                 |
| 産業施設   | 35,249                    | 準工業  | 60         | 200        | 地上 3 階 | 63,400                |
| 工業施設   | 72,805                    | 工業   | 60         | 200        | 地上 2 階 | 87,300                |

注) 1. 建蔽率・容積率は、枚方市の用途地域別の値を用いた。

2. 商業施設、産業施設、工業施設の階数は、建蔽率・容積率、近隣の類似施設を参考に設定している。

出典：「枚方市茄子作地区土地利用計画協議資料」（令和 5 年 8 月時点）

表 3.2-2 大阪府建築基準法施行条例による日影規制

| 地域又は区域                             | 制限を受ける建築物                      | 平均地盤面からの高さ | 対象区域                                                                     | 法別表第4(に)欄の号 | 敷地境界線からの水平距離が5mを超え10m以内の範囲における日影時間 | 敷地境界線からの水平距離が10mを超える範囲における日影時間 |
|------------------------------------|--------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------|--------------------------------|
| 第1種低層住居専用地域<br>第2種低層住居専用地域又は田園住居地域 | 軒の高さが7mを超える建築物又は地階を除く階数3以上の建築物 | 1.5m       | 容積率が10分の5又は10分の6の区域                                                      | (1)         | 3時間                                | 2時間                            |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の8又は10分の10の区域で、外壁の後退距離の限度が1.5mのもの及び第1種高度地区で外壁の後退距離が1.0mのもの        |             |                                    |                                |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の8又は10分の10の区域（外壁の後退距離の限度が1.5mのもの及び第1種高度地区で外壁の後退距離の限度が1.0mのものを除く。） | (2)         | 4時間                                | 2.5時間                          |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の15の区域で第1種高度地区であるもの                                               | (3)         | 5時間                                | 3時間                            |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の15の区域（第1種高度地区を除く。）                                               |             |                                    |                                |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の20の区域                                                            |             |                                    |                                |
| 第1種中高層住居専用地域<br>第2種中高層住居専用地域       | 高さが10mを超える建築物                  | 4m         | 容積率が10分の10又は10分の15の区域                                                    | (1)         | 3時間                                | 2時間                            |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の20の区域で第1種高度地区であるもの                                               | (2)         | 4時間                                | 2.5時間                          |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の20の区域（第1種高度地区を除く。）                                               |             |                                    |                                |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の30の区域                                                            | (3)         | 5時間                                | 3時間                            |
| 第1種住居地域・第2種住居地域<br>準住居地域           | 高さが10mを超える建築物                  | 4m         | 容積率が10分の20の区域で第1種高度地区であるもの                                               | (1)         | 4時間                                | 2.5時間                          |
|                                    |                                |            | 容積率が10分の20の区域（第1種高度地区を除く。）                                               | (2)         | 5時間                                | 3時間                            |
| 都市計画区域のうち用途地域の指定のない区域              | 高さが10mを超える建築物                  | 4m         | 全区域                                                                      | (2)         | 4時間                                | 2.5時間                          |

[備考] 1. この表において日影時間とは、冬至日の真太陽時の午前8時から午後4時までの間で、生じさせてはいけない日影時間の下限値をいう。

2. 第1種高度地区とは、高度地区のうち、都市計画において、建築物の各部分の高さを当該部分から前面造路の反対側の境界線又は隣地境界線までの真北方向の水平距離に0.6を乗じて得たものに5mを加えたもの以下としなければならない区域として定められた区域をいう。

3. 容積率とは、法第52条第1項第1号から3号までに規定する建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合をいう。

出典：「建築基準法及び同大阪府条例質疑応答集 抜粋」（監修：大阪府内建築行政連絡協議会）  
「大阪府建築基準法施行条例」（令和5年3月23日、大阪府条例第25号）

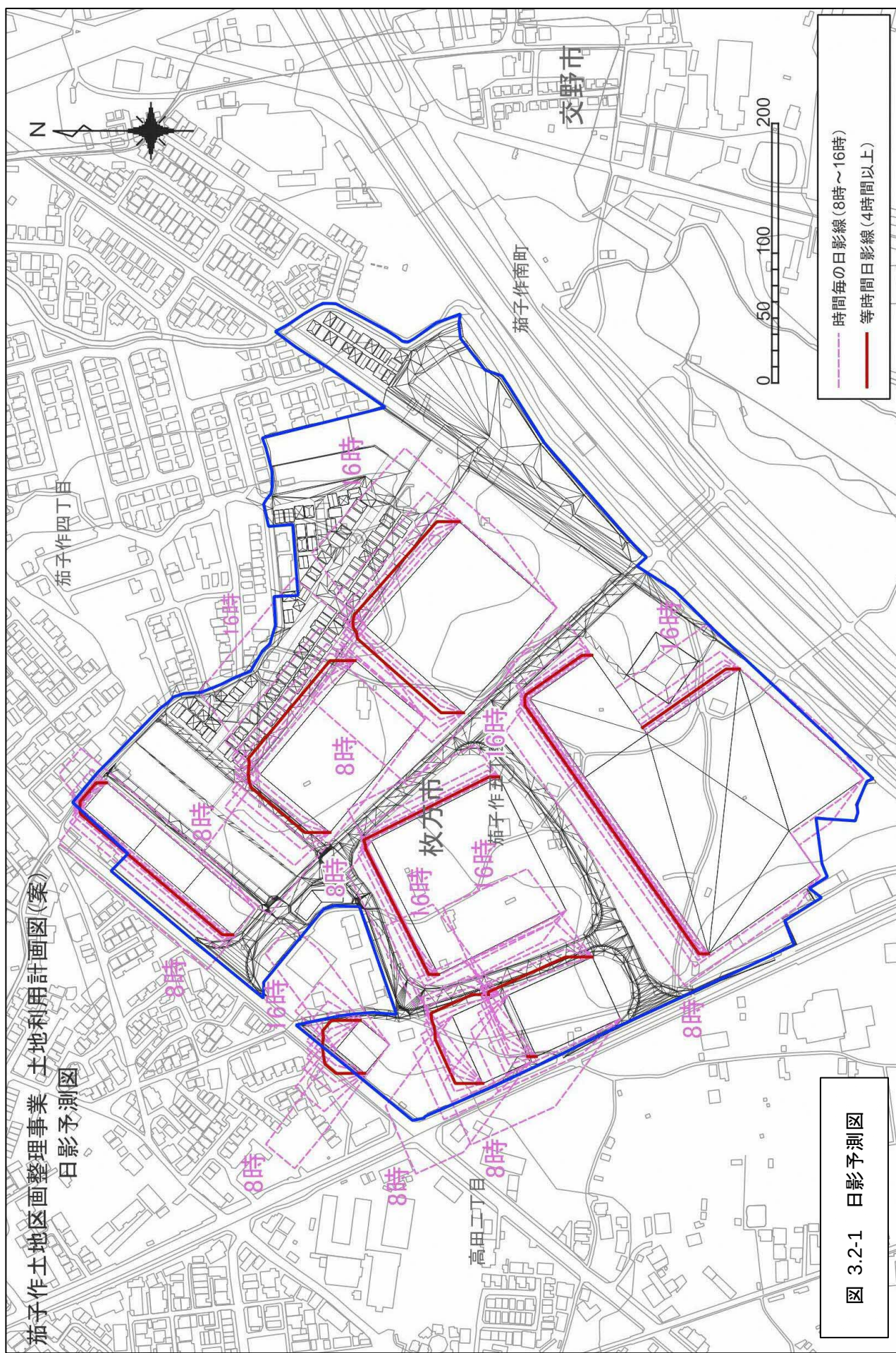
## 5) 予測結果

時刻別日影線及び等時間日影線（事業計画地周辺の日影規制値となる 4 時間）を記載した日影予測図を図 3.2-1 に示す。

日影の影響範囲は事業計画地内及び周辺道路までの範囲と予測される。

土地利用計画で建設が想定される建物のうち、階層の高いものについては、商業施設および産業施設の地上 3 階の物件となり、高さも低いため、産業・商業施設、住宅等の存在による日照阻害は発生しないものと推定される。





## 【検討結果】

### 1. 現況調査

事業計画地の一部は工業地域に指定される予定とのことですが、工業地域における建物その他施設の高さ等に関する規制内容について事業者の説明を求めた。

## 【事業者の回答】

地区計画という都市計画上の定めの中で緑化率の建築制限を受けることとなりますが、高さについての制限はありません。

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である



### 3.3 （参考）電波障害

#### 3.3.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

##### 1) 調査項目

調査項目は、事業計画（土地利用等）としている。

##### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地としている

##### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

##### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（「近畿総合通信局 近畿地区の地上デジタルテレビ放送局」（総務省）における放送局の概要、「一般社団法人 放送サービス高度化推進協会」における放送エリアのめやす）を収集整理している。

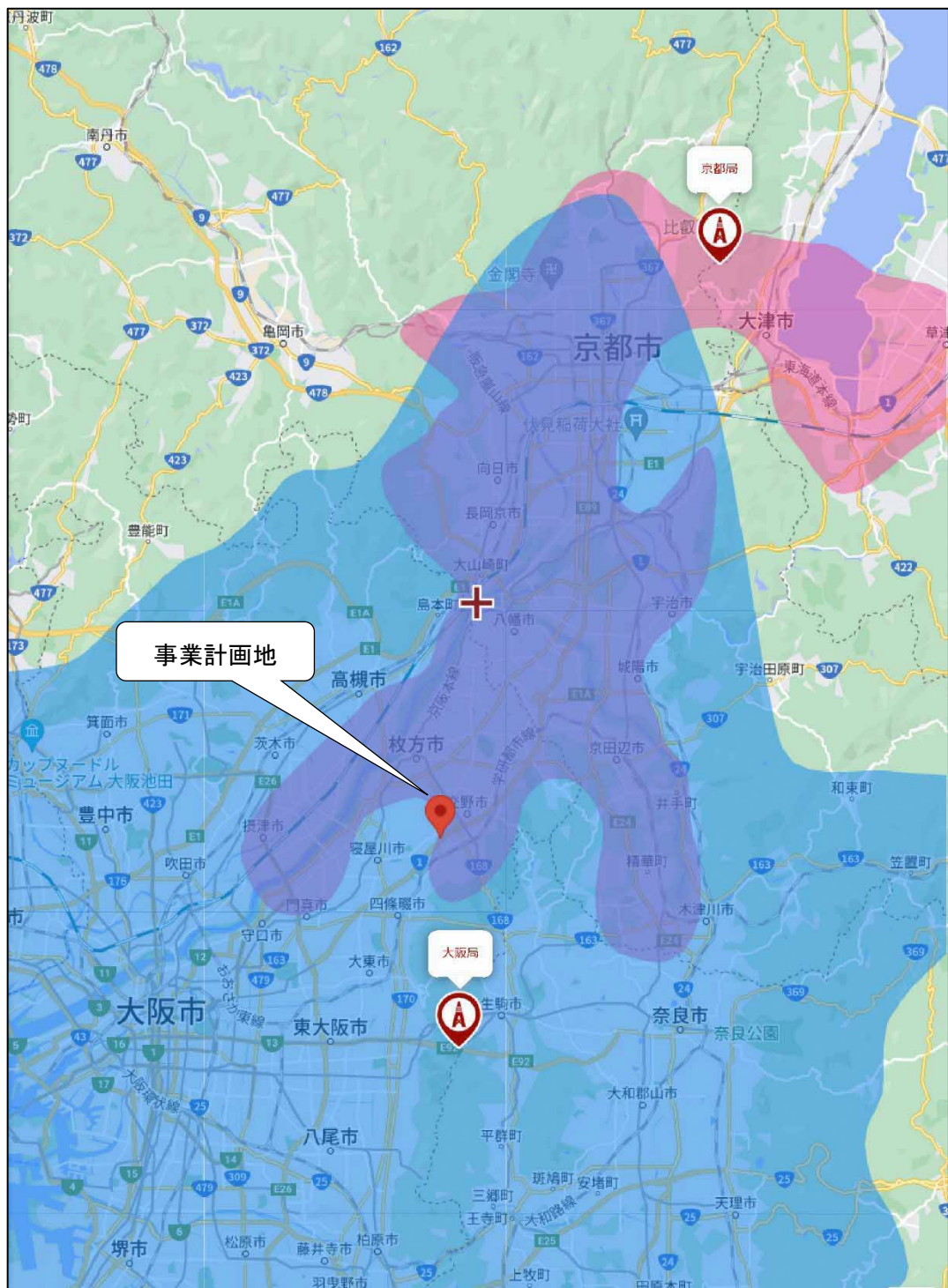
##### 5) 調査結果

事業計画地周辺のテレビ電波送信状況概要を表 3.3-1、図 3.3-1 に示す。事業計画地周辺は大阪局及び京都局、周辺の中継局によりテレビ電波が広範囲に送信されている。

表 3.3-1 テレビ電波送信状況概要

| 送信局            | 放送局名       | リモコン<br>番号 | 周波数<br>(チャンネル) | 送信場所 |
|----------------|------------|------------|----------------|------|
| 大阪局<br>(中継局含む) | 日本放送協会（総合） | 1          | 24             | 生駒山  |
|                | 日本放送協会（教育） | 2          | 13             |      |
|                | 毎日放送       | 4          | 16             |      |
|                | 朝日放送テレビ    | 6          | 15             |      |
|                | 関西テレビ放送    | 8          | 17             |      |
|                | テレビ大阪      | 7          | 18             |      |
|                | 讀賣テレビ放送    | 10         | 14             |      |
| 京都局<br>(中継局含む) | 日本放送協会（総合） | 1          | 25             | 比叡山  |
|                | 日本放送協会（教育） | 2          | 40             |      |
|                | 京都放送       | 5          | 23             |      |
|                | 毎日放送       | 4          | 33             |      |
|                | 朝日放送テレビ    | 6          | 38             |      |
|                | 関西テレビ放送    | 8          | 42             |      |
|                | 讀賣テレビ放送    | 10         | 35             |      |

出典：「近畿総合通信局 近畿地区の地上デジタルテレビ放送局」（総務省ホームページ、閲覧日：令和5年10月31日）



出典：「一般社団法人 放送サービス高度化推進協会」（協会ホームページ、閲覧日：令和5年10月31日）

図 3.3-1 事業計画地周辺のテレビ電波放送エリア

### 3.3.2 予測及び評価

#### (1) (参考) 産業・商業施設、住宅等の存在による電波障害の影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、産業・商業施設、住宅等の存在により発生する電波障害の影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地のうち、事業計画地及び周辺地域で電波障害が生じるおそれがあると認められる地域としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、産業・商業施設、住宅等の建設が完了した時期としている。

##### 4) 予測方法

予測は、土地利用計画に基づき仮設定した建物条件をもとに既存類似事例からの推定により行った。

仮設定した産業・商業・工業施設の施設用途別の階数延床面積を表 3.3-2 に示す。

表 3.3-2 計画建築物の概要

| 施設用途   | 土地面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 用途地域 | 建蔽率<br>(%) | 容積率<br>(%) | 階数   | 延床面積(m <sup>2</sup> ) |
|--------|---------------------------|------|------------|------------|------|-----------------------|
| 商業施設   | 13,205                    | 準工業  | 60         | 200        | 地上3階 | 23,700                |
| 沿道商業施設 | 8,399                     | 準工業  | 60         | 200        | 地上1階 | 5,000                 |
| 産業施設   | 35,249                    | 準工業  | 60         | 200        | 地上3階 | 63,400                |
| 工業施設   | 72,805                    | 工業   | 60         | 200        | 地上2階 | 87,300                |

注) 1. 建蔽率・容積率は、枚方市の用途地域別の値を用いた。

2. 商業施設、産業施設、工業施設の階数は、建蔽率・容積率、近隣の類似施設を参考に設定している。

出典：「枚方市茄子作地区土地利用計画協議資料」（令和5年8月時点）

## 5) 予測結果

テレビ電波受信障害の予測結果を図 3.3-2 に示す。

電波障害の影響範囲は事業計画地内及び周辺道路までの範囲と予測される。

土地利用計画で建設が想定される建物のうち、階層の高いものについては、商業施設および産業施設の地上3階の物件となり、高さも低いため、産業・商業施設、住宅等の存在による電波障害は発生しないものと推定される。

茄子作土地区画整理事業 土地利用計画図(案)  
電波障害予測図

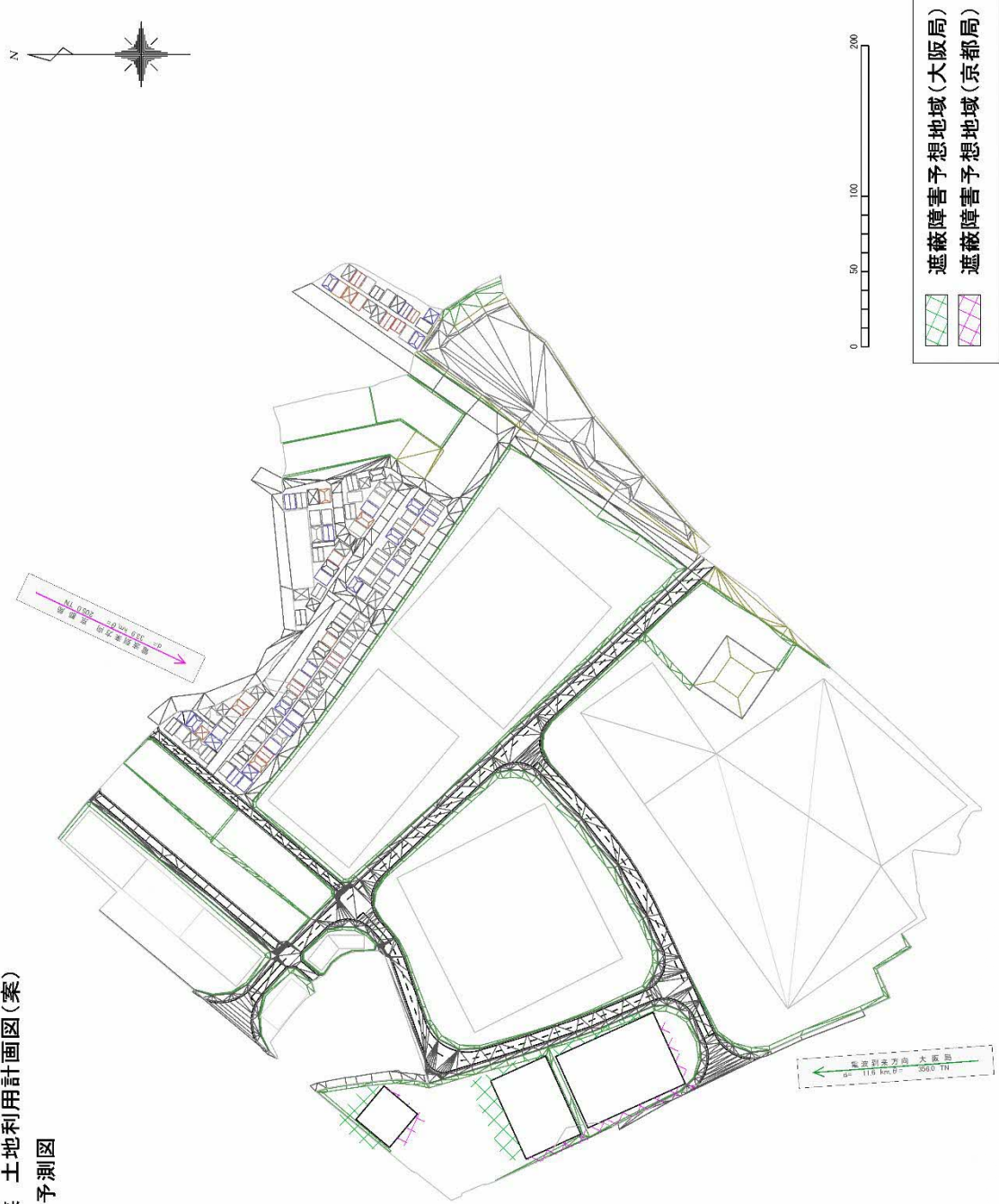


図 3.3-2 テレビ受信障害予測地域図



## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である

### 3.4 コミュニティ

#### 3.4.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

調査項目は、事業計画地周辺の主要なコミュニティ施設の分布状況としている。

###### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地周辺のコミュニティ施設としている。

###### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

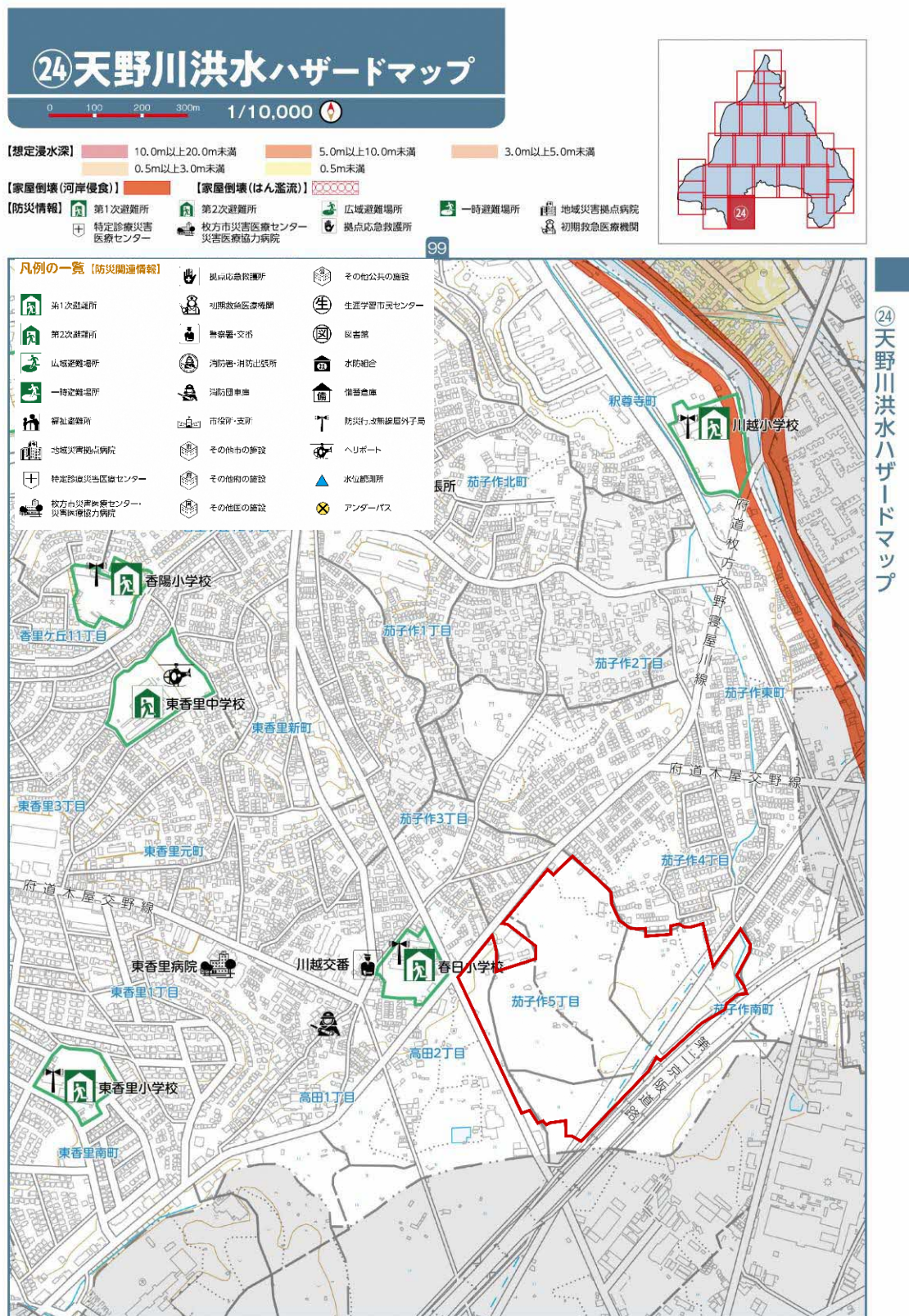
###### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（枚方市市民活動課、きてみてひらかたマップ、枚方市ハザードマップ）を収集整理している。

###### 5) 調査結果

調査結果は、準備書「第2章 地域の概況 2.1 社会環境 2.1.5 公共施設」の「(1) 教育施設」及び「(2) 公園・緑地」「その他」に示すとおりである。事業計画地周辺の教育施設は、春日小学校、東香里小学校、東香里中学校がある。公園・緑地は、茄子作南公園、春日公園、天野川緑地等がある。その他施設には、交野市立青年の家がある。

事業計画地及びその周辺地域の想定最大規模の降雨（1,000年に1回程度）の洪水ハザードマップを図3.4-1に示す。また、平成24年8月14日豪雨（時間雨量108mm）を対象としている内水ハザードマップを図3.4-2に示す。事業計画地周辺では、春日小学校、川越小学校、東香里小学校が、香陽小学校が1次避難場所、東香里中学校が2次避難場所に指定されている。



出典：「令和5年度 防災ガイド（ハザードマップ）」枚方市 危機管理部 危機管理対策推進課

図 3.4-1 洪水ハザードマップ（天野川）





## (2) 現地調査

### 1) 調査項目

調査項目は、コミュニティ施設の状況（地域交流の際に実際に使用されている施設、施設までの移動経路、利用目的、利用頻度等）としている。

### 2) 調査地域・地点

調査地点は、事業計画地に隣接する3校区の自治会及び小学校としている（図 3.4-3 参照）。

### 3) 調査時期・頻度

調査時期・頻度は、表 3.4-1 に示す期間としている。

表 3.4-1 コミュニティの現況調査時期・場所

| 市   | 校区      | 調査対象名            | 調査期間日時                  | 場所      |
|-----|---------|------------------|-------------------------|---------|
| 枚方市 | 春日小学校区  | 春日校区自治会          | 令和4年7月8日（金）9:45-10:45   | 春日丘自治会館 |
|     |         | 春日小学校            | 令和4年8月3日（水）10:00-10:30  | 春日小学校   |
|     | 川越小学校区  | 川越校区コミュニティ協議会南支部 | 令和4年7月22日（金）10:00-10:30 | 川越小学校   |
|     |         | 川越小学校            | 令和4年7月25日（月）10:00-10:30 | 川越小学校   |
| 交野市 | 藤が尾小学校区 | 藤が尾連合自治会         | 令和4年7月5日（火）10:30-11:00  | 藤が尾会館   |
|     |         | 藤が尾小学校           | 令和4年6月30日（木）            | 書面回答    |

### 4) 調査方法

調査方法は、ヒアリング調査で実施している。対面による聞き取りを基本としているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、希望があれば調査様式をメールにて送付し、書面回答を収集している。



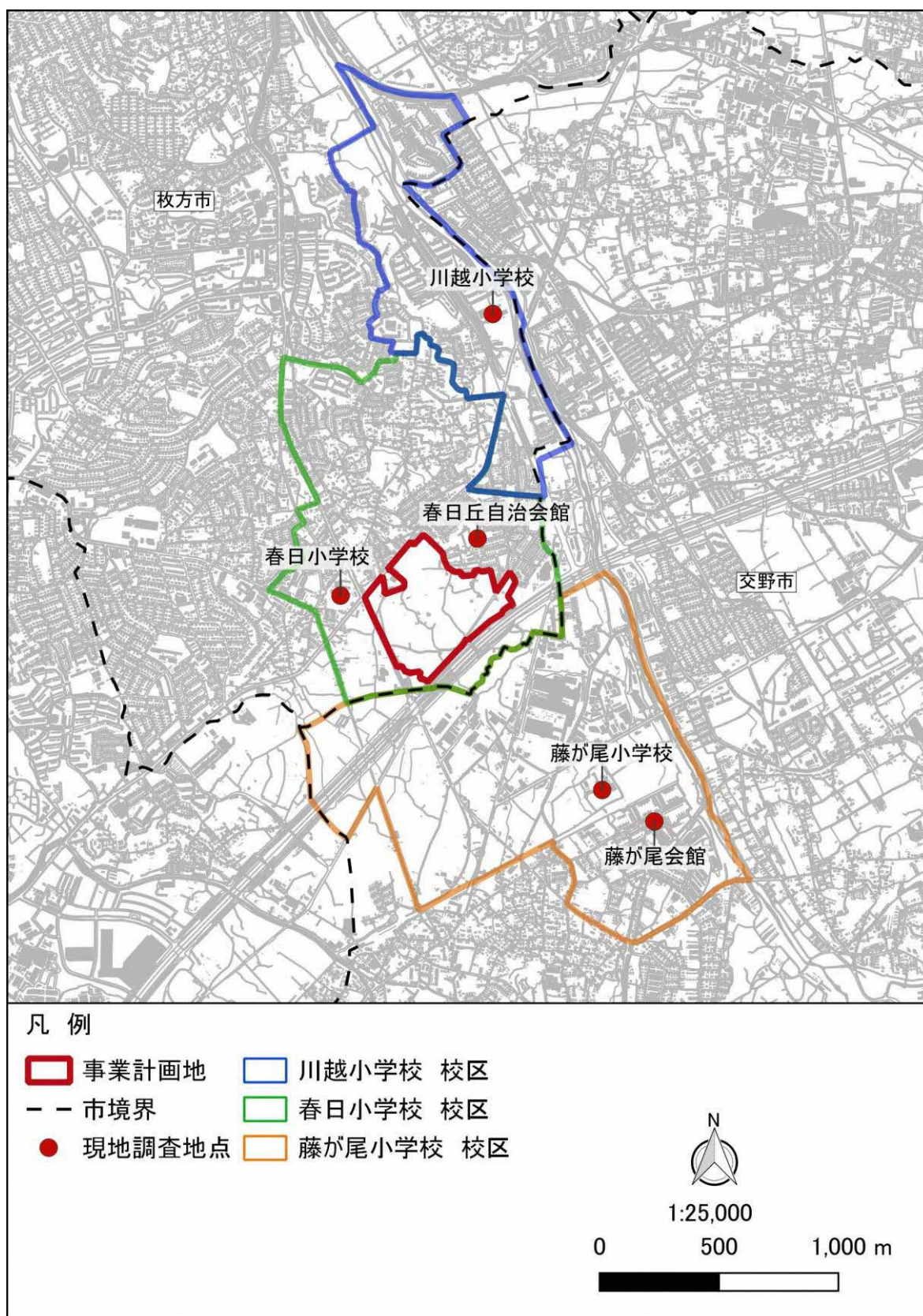


図 3.4-3 コミュニティの現地調査位置

## 5) 調査結果

### a) 春日校区自治会

ヒアリング調査結果を表 3.4-2、表 3.4-3 及び図 3.4-4 に示す。主な活動施設は、春日小学校となっている。

施設までの主な移動経路は、一般国道 168 号を南下し、一般国道 1 号や事業計画地内の抜け道を利用している。

表 3.4-2 春日校区自治会ヒアリング日時・場所

|     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 日 時 | 令和 4 年 7 月 8 日（金）9:45-10:45 |
| 場 所 | 春日丘自治会館                     |
| 対 象 | 春日丘自治会                      |

表 3.4-3 春日校区自治会ヒアリング調査結果

| 番号 | 施設名       | 利用目的                               | 利用頻度        | 利用者数      |
|----|-----------|------------------------------------|-------------|-----------|
| A1 | 春日小学校     | 夏祭り                                | 年 1 回（8 月）  | 1,000 人程度 |
|    |           | いきいき子ども広場（サッカー、芋掘り等）               | 週 1 回（土曜）   | 40～50 人程度 |
|    |           | コミュニティ運営委員会                        | 月 1 回（日曜）   | 50 人程度    |
|    |           | 自主防災の会                             | 月 1 回（日曜）   | 50 人程度    |
|    |           | あけぼの会（グランドゴルフ、野球、サッカー、バレーボール等の各種団体 | 毎日          | 50 人程度    |
|    |           | 福祉委員会                              | 年 4 回（各月水曜） | 30 人程度    |
| A2 | 小規模公園 137 | ふれあい交流会（子供会と自治会の夏祭り）               | 年 1 回（7 月）  | 300 人程度   |
| A3 | 春日丘自治会館   | ひとり暮らしの会                           | 3 ヶ月に 1 回   | 60 人程度    |
| A4 | 茄子作公民館    | ひとり暮らしの会                           | 3 ヶ月に 1 回   | 60 人程度    |



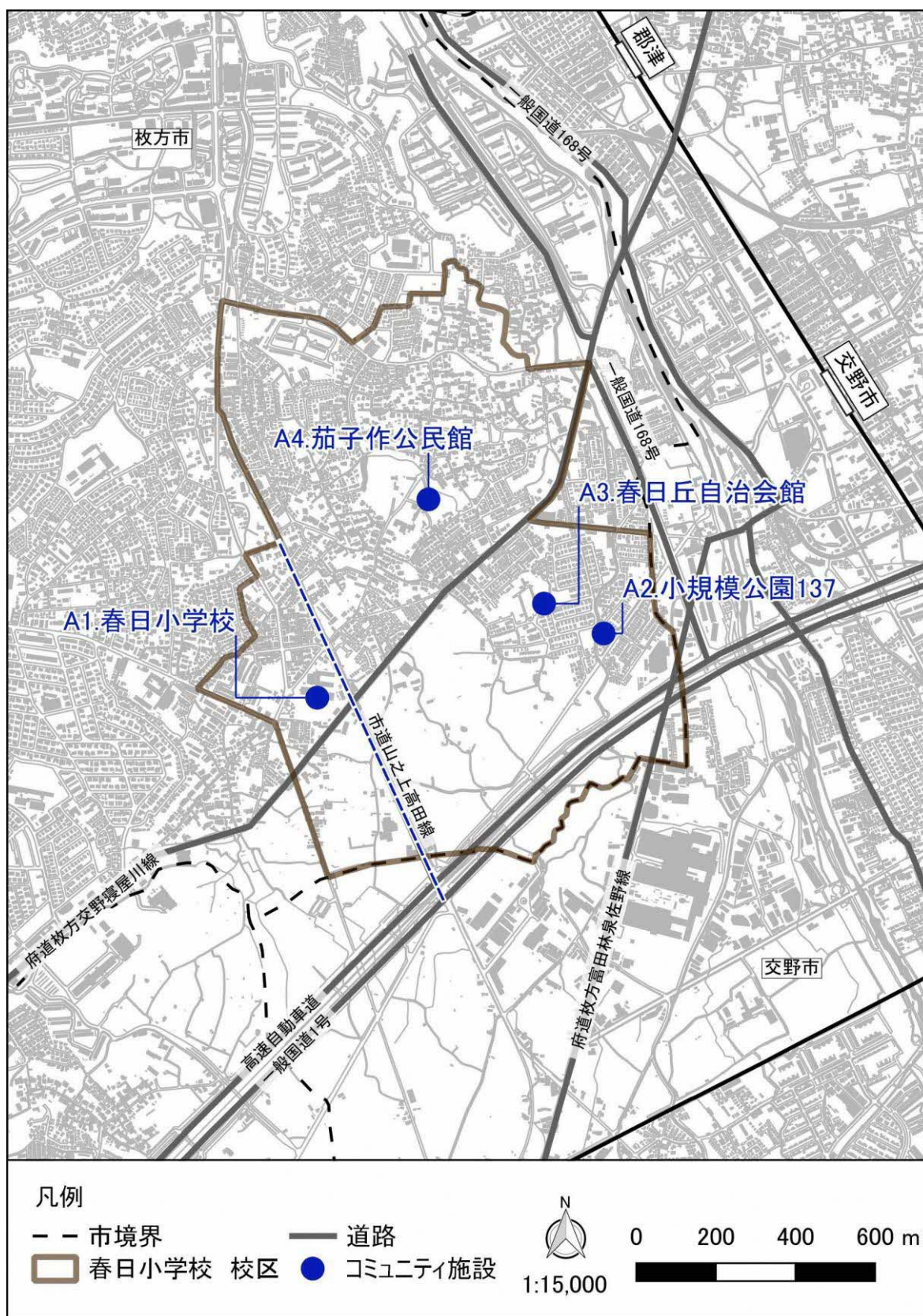


図 3.4-4 春日校区自治会ヒアリング調査結果

b) 春日小学校

ヒアリング調査結果を表 3.4-4～表 3.4-7 及び図 3.4-5、及びに示す。主な活動施設は、春日小学校となっている。

春日小学校までの通学路は、茄子作 4 丁目等の春日校区東側の児童は、府道枚方交野寝屋川線の歩道を通り、枚方市茄子作 3 丁目交差点の横断歩道橋を渡って通学している。

また、春日校区北側の児童は、市道山之上高田線の歩道を通り、春日小学校前の横断歩道橋を渡って通学している。

表 3.4-4 春日小学校ヒアリング日時・場所

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 日 時 | 令和 4 年 8 月 3 日（水）10:00-10:30 |
| 場 所 | 春日小学校                        |
| 対 象 | 春日小学校                        |

表 3.4-5 春日小学校ヒアリング調査結果（主な通学路）

| 番号 | 幹線道路名      | 通学路 | 交差点 | 備考                                                                    |
|----|------------|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------|
| ①  | 府道枚方交野寝屋川線 | ○   | －   | 茄子作 4 丁目等の春日校区東側の児童は、府道枚方交野寝屋川線の歩道を通り、枚方市茄子作 3 丁目交差点の横断歩道橋を渡って通学している。 |
| ②  | 市道山之上高田線   | ○   | －   | 春日校区北側の児童は、市道山之上高田線の歩道を通り、春日小学校前の横断歩道橋を渡って通学している。                     |

表 3.4-6 春日小学校ヒアリング調査結果（学校行事等での利用施設）

| 番号 | 施設名                      | 利用目的            | 利用頻度      | 利用者数      |
|----|--------------------------|-----------------|-----------|-----------|
| B1 | 春日小学校                    | 運動会             | 年 1 回（秋季） | 1,000 人程度 |
| B2 | 茄子作地区農地                  | 田植え・稲刈り体験       | 年 2 回     | 90 人程度    |
| B3 | 特別養護老人ホーム<br>サール・ナート     | 福祉体験（ふれあい・交流体験） | 年 1 回     | 90 人程度    |
| B4 | 校区全体<br>（春日神社等）          | 校区探検            | 年 1 回     | 150 人程度   |
| B5 | ちびっこ広場<br>49、春日公園、茄子作南公園 | 放課後の児童の遊び場      | ほぼ毎日      | 不定        |

表 3.4-7 春日小学校ヒアリング調査結果（小学校の利用状況）

| 番号 | 団体名            | 利用目的              | 利用頻度       | 利用者数      |
|----|----------------|-------------------|------------|-----------|
| B1 | 校区住民           | 自主防災の会            | 月 1 回      | 20～30 人程度 |
|    | 校区住民           | 防災訓練（地震シミュレーション等） | 年 1 回（秋）   | 不定        |
|    | 校区住民           | 野球・サッカー、空手等       | ほぼ毎日       | 不定        |
|    | 夏まつり実行委員会、校区住民 | 夏祭り               | 年 1 回（8 月） | 1,000 人程度 |



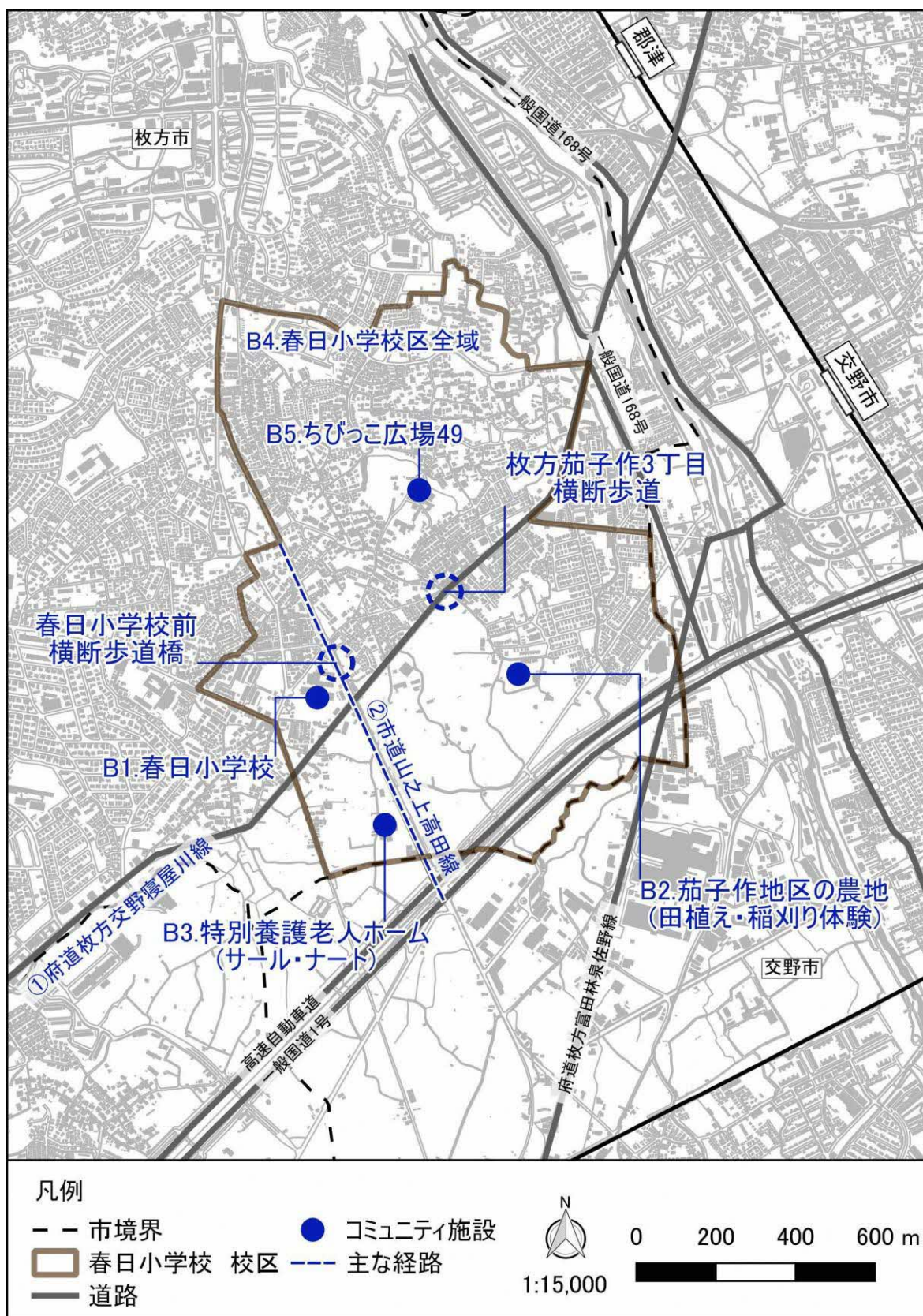


図 3.4-5 春日小学校ヒアリング調査結果



c) 川越校区コミュニティ協議会南支部

ヒアリング調査結果を表 3.4-8、表 3.4-9 及び図 3.4-6 に示す。主な活動施設は、川越小学校となっている。

主に校区の中で活動しているため、施設までの主な移動経路となっている幹線道路は、とくに無い。

表 3.4-8 川越校区コミュニティ協議会南支部ヒアリング日時・場所

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 日 時 | 令和4年7月22日（金）10:00-10:30 |
| 場 所 | 川越小学校                   |
| 対 象 | 川越校区コミュニティ協議会南支部        |

表 3.4-9 川越校区コミュニティ協議会南支部ヒアリング調査結果

| 番号 | 施設名     | 利用目的                      | 利用頻度       | 利用者数                            |
|----|---------|---------------------------|------------|---------------------------------|
| C1 | 川越小学校   | 川越夏祭り                     | 年1回（7～8月）  | 1,500人程度                        |
|    |         | 区民体育祭                     | 年1回（秋季）    | 150人程度                          |
|    |         | 川越ふれあい祭り                  | 年1回（春季）    | 500～600人程度                      |
|    |         | グラウンドゴルフ                  | 毎週土曜日      | 20～30人程度                        |
|    |         | ふれあい音楽祭                   | 年1回（2月）    | 150人程度                          |
|    |         | 川越フェスティバル                 | 年1回（11月）   | 300～400人程度                      |
|    |         | 長寿のつどい                    | 年1回（11月）   | 200人程度                          |
|    |         | 防災訓練（避難所開設訓練・総合訓練）        | 年2回（6・11月） | 避難所開設：<br>40～50人程度<br>総合：300人程度 |
|    |         | 川越校区コミュニティ協議会（総会）         | 年1回        | 70～80人程度                        |
| C2 | 第二団地集会所 | 川越校区コミュニティ協議会（行政連絡、地域事業等） | 月1回        | 35～40人程度                        |
| C3 | 釈尊寺集会所  |                           |            |                                 |

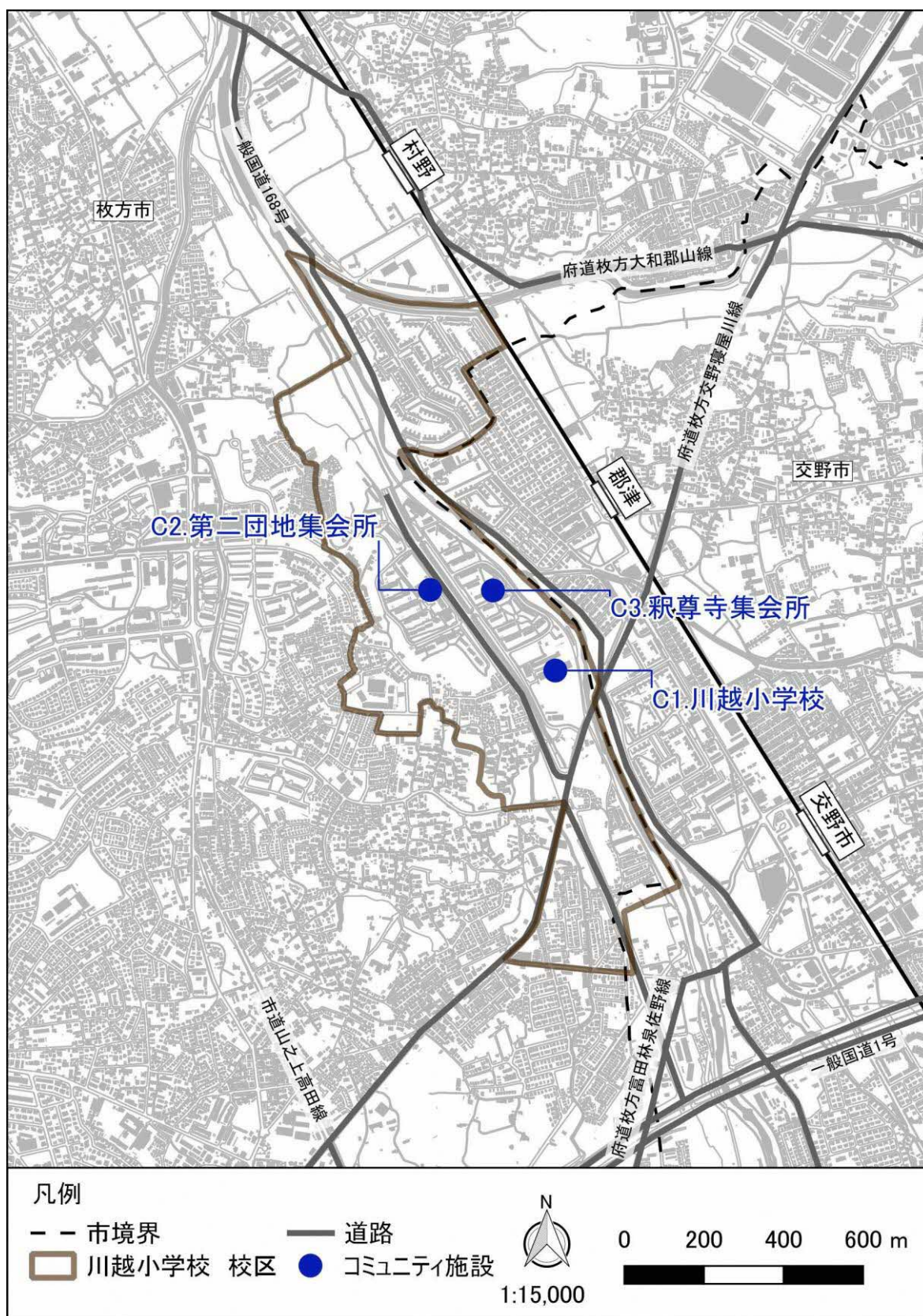


図 3.4-6 川越校区コミュニティ協議会南支部ヒアリング調査結果

d) 川越小学校

ヒアリング調査結果を表 3.4-10～表 3.4-13 及び図 3.4-7 に示す。主な活動施設は、川越小学校となっている。

川越小学校までの通学路は、川越校区の南側の児童は一般国道 168 号の歩道を北上し、一般国道 168 号から枚方交野寝屋川線に曲がる交差点を横断し通学している。また、川越校区東側の児童は、一般国道 168 号を渡って通学している。

表 3.4-10 川越小学校ヒアリング日時・場所

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 日 時 | 令和 4 年 7 月 25 日（月）10:00-10:30 |
| 場 所 | 川越小学校                         |
| 対 象 | 川越小学校                         |

表 3.4-11 川越小学校ヒアリング調査結果（主な通学路）

| 番号 | 幹線道路名      | 通学路 | 交差点 | 備考                                              |
|----|------------|-----|-----|-------------------------------------------------|
| ①  | 一般国道 168 号 | ○   | —   | 川越校区の南側の児童は一般国道 168 号の歩道（枚方交野寝屋川線との交差点まで）を通学する。 |
| ①  | 一般国道 168 号 | —   | ○   | 橋が架かるところを横断する。                                  |
| ②  | 茄子作東交差点    | —   | ○   | 一般国道 168 号から枚方交野寝屋川線に曲がる交差点を横断し、通学している。         |
| ③  | 府道枚方交野寝屋川線 | ○   |     | 一般国道 168 号と交差する一部区間を通学する。                       |

表 3.4-12 川越小学校ヒアリング調査結果（学校行事等での利用施設）

| 番号 | 施設名    | 利用目的 | 利用頻度        | 利用者数    |
|----|--------|------|-------------|---------|
| D1 | 川越小学校  | 運動会  | 年 1 回（10 月） | 300 人程度 |
| —  | 川越校区全体 | 校区探検 | 年 1 回       | 20 人程度  |

表 3.4-13 川越小学校ヒアリング調査結果（小学校の利用状況）

| 番号 | 団体名            | 利用目的               | 利用頻度       | 利用者数      |
|----|----------------|--------------------|------------|-----------|
| D1 | 川越校区自治会        | 放課後キッズクラブ          | 週 1 回      | 不定        |
|    | 川越校区自治会        | 子ども食堂              | 月 2 回      | 30 人程度    |
|    | 川越校区自治会        | 子どもいきいき広場          | 週 1 回      | 30 人程度    |
|    | 地元スポーツクラブ等     | サッカー、野球、バレーボール、剣道等 | 毎日         | 不定        |
|    | 夏まつり実行委員会、校区住民 | 夏祭り                | 年 1 回（8 月） | 1,000 人程度 |



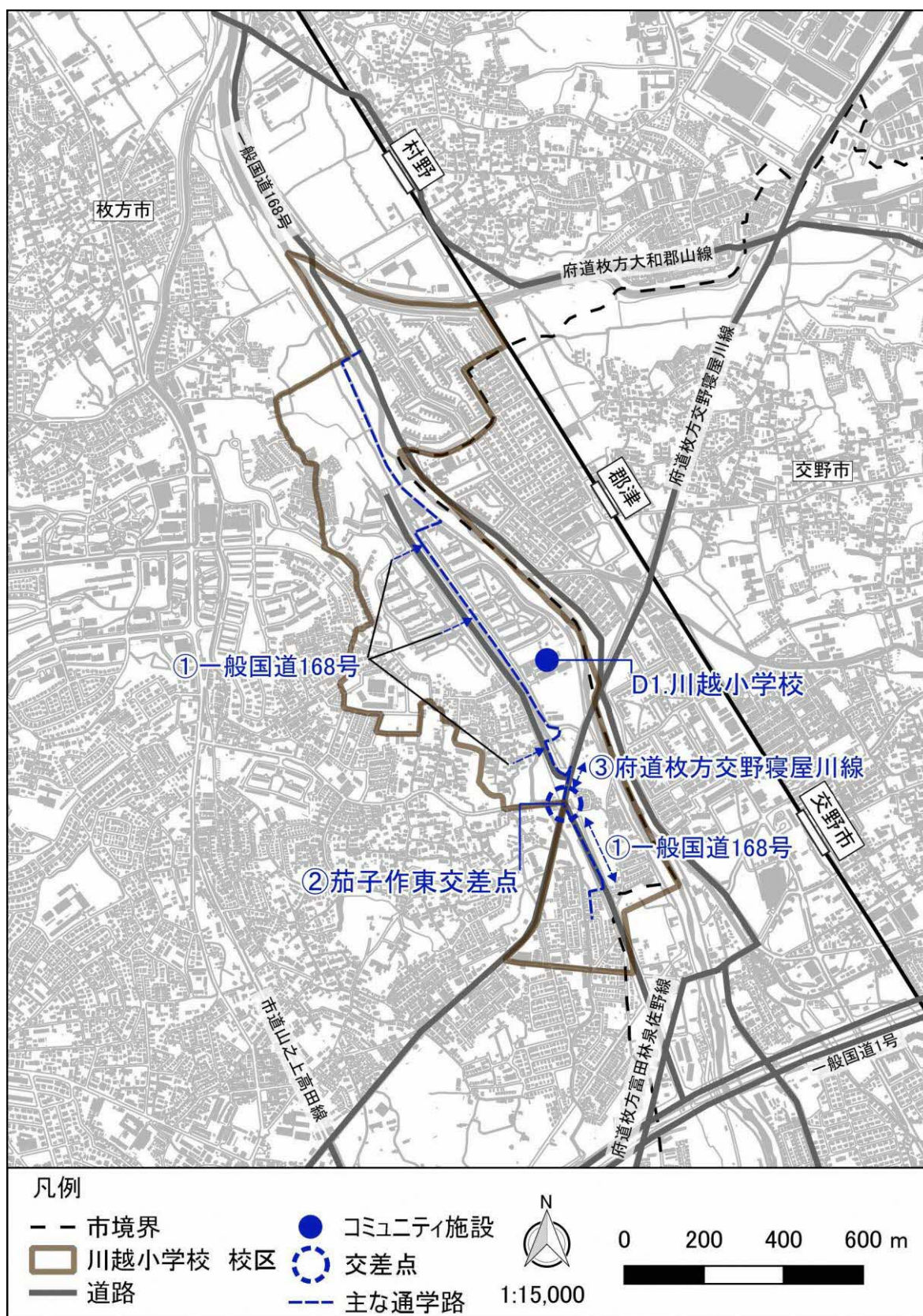


図 3.4-7 川越小学校ヒアリング調査結果



e) 藤が尾連合自治会

ヒアリング調査結果を表 3.4-14、表 3.4-15 及び図 3.4-8 に示す。主な活動施設は、藤が尾会館、藤が尾小学校及び天野川緑地となっている。

主に校区の中で活動しているため、施設までの主な移動経路となっている幹線道路は、とくに無い。

表 3.4-14 藤が尾連合自治会ヒアリング日時・場所

|     |                        |
|-----|------------------------|
| 日 時 | 令和4年7月5日（火）10:30-11:00 |
| 場 所 | 藤が尾会館                  |
| 対 象 | 藤が尾連合自治会               |

表 3.4-15 藤が尾連合自治会ヒアリング調査結果

| 番号 | 施設名              | 利用目的            | 利用頻度       | 利用者数   |
|----|------------------|-----------------|------------|--------|
| E1 | 藤が尾会館            | 自治会議            | 月 1 回      | 35 人程度 |
|    |                  | イベント前の委員会       | 週 2～3 回    | 10 人程度 |
| E2 | 藤が尾小学校           | 防災訓練（地区の避難場所指定） | 年 1 回（2 月） | 50 人程度 |
| E3 | 天野川緑地<br>（JR 南側） | イベント（ラジオ体操）     | 夏休み期間      | 30 人程度 |
| E3 | 天野川緑地<br>（JR 南側） | イベント（盆踊り祭り）     | 年 1 回（8 月） | 50 人程度 |
| E3 | 天野川緑地<br>（JR 南側） | グラウンドゴルフ        | 週 5 回      | 10 名程度 |
| E4 | 天野川緑地<br>（JR 北側） | ゲートボール          | 週 5 回      | 10 名程度 |

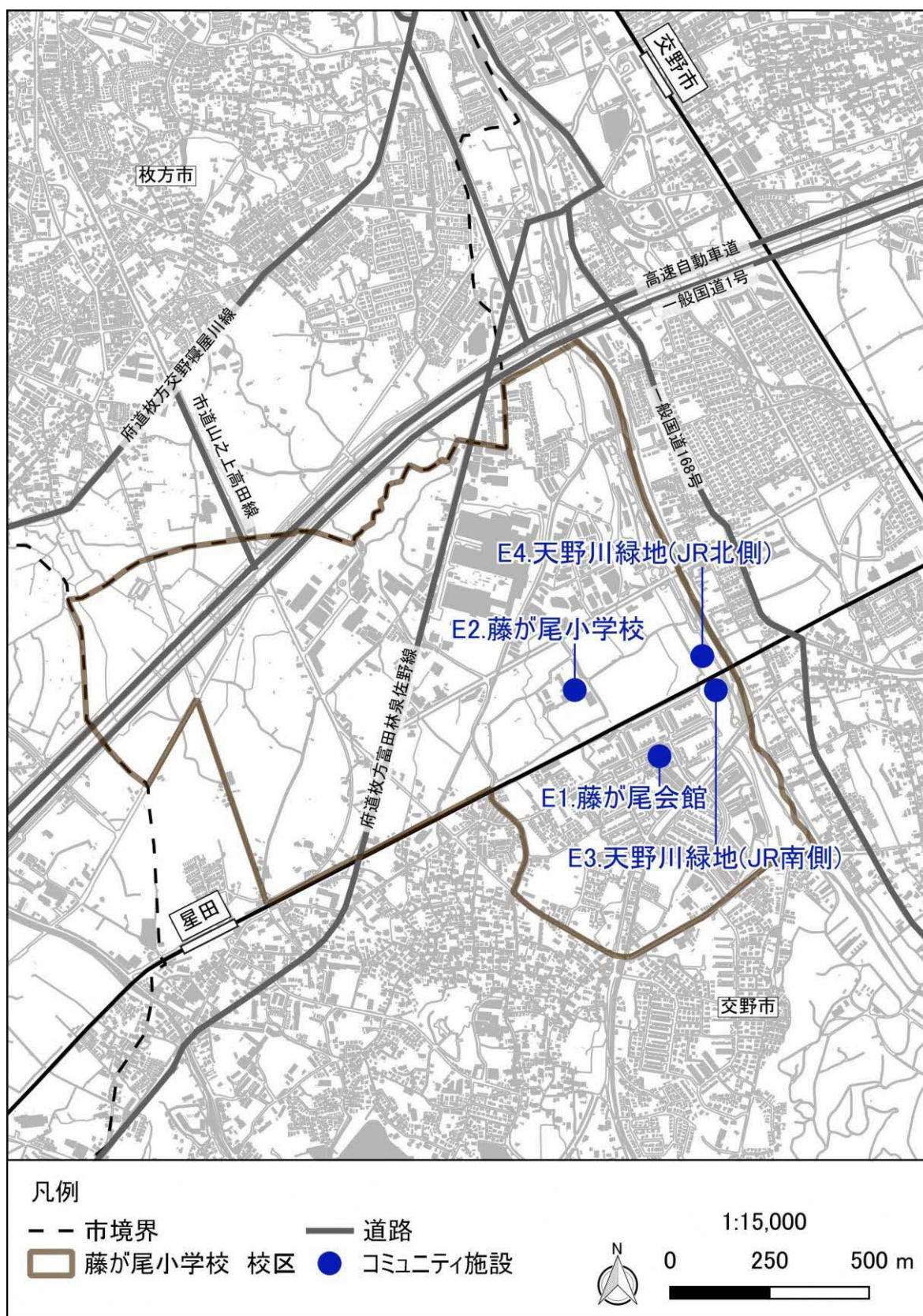


図 3.4-8 藤が尾連合自治会ヒアリング調査結果

f) 藤が尾小学校

ヒアリング調査結果を表 3.4-16～表 3.4-19 及び図 3.4-9 に示す。

藤が尾小学校までの通学路は、府道交野久御山線、府道枚方富田林泉佐野線及び府道私市太秦線を利用し通学している。

表 3.4-16 藤が尾小学校ヒアリング日時・場所

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 日 時 | 令和 4 年 6 月 30 日（木） |
| 場 所 | 書面回答               |
| 対 象 | 藤が尾小学校             |

表 3.4-17 藤が尾小学校ヒアリング調査結果（主な通学路）

| 番号 | 幹線道路名       | 通学路 | 交差点 | 備考                     |
|----|-------------|-----|-----|------------------------|
| ①  | 府道交野久御山線    | ○   | －   | 府道交野久御山線を利用し通学している。    |
| ②  | 府道枚方富田林泉佐野線 | ○   | －   | 府道枚方富田林泉佐野線を利用し通学している。 |
| ③  | 府道私市太秦線     | ○   | －   | 府道私市太秦線を利用し通学している。     |

表 3.4-18 藤が尾小学校ヒアリング調査結果（学校行事等での利用施設）

| 番号 | 施設名         | 利用目的     | 利用頻度    | 利用者数    |
|----|-------------|----------|---------|---------|
| F1 | 天野川緑地（丸太公園） | 校区探検     | 年 1～2 回 | 150 人程度 |
| F2 | 大阪高速乳配株式会社  | 社会見学     | 年 1～2 回 | 150 人程度 |
| F3 | 大阪公立大学附属植物園 | 遠足（校外学習） | 年 1～2 回 | 200 人程度 |

表 3.4-19 藤が尾小学校ヒアリング調査結果（小学校の利用状況）

| 番号 | 団体名            | 利用目的       | 利用頻度  | 利用者数    |
|----|----------------|------------|-------|---------|
| F4 | 交野ブルースカイ       | 野球         | 週 2 回 | 60 人程度  |
|    | 1/11FC         | サッカー       | 週 3 回 | 35 人程度  |
|    | しんちゃんず         | 野球         | 月 1 回 | 60 人程度  |
|    | 交野体操クラブ        | 体操         | 週 1 回 | 20 人程度  |
|    | ネットインクラブ       | バドミントン     | 週 1 回 | 15 人程度  |
|    | 糸東会養秀館拳志会      | 空手         | 週 1 回 | 30 人程度  |
|    | 和太鼓サークルででんこかたの | 和太鼓        | 月 2 回 | 25 人程度  |
|    | 交野友愛クラブ        | バレーボール     | 週 1 回 | 20 人程度  |
|    | 妙見星太鼓          | 和太鼓        | 週 1 回 | 15 人程度  |
|    | Shin           | ソフトバレーボール  | 月 2 回 | 10 人程度  |
|    | スマイルキッズ        | バレーボール     | 週 2 回 | 20 人程度  |
|    | 交野市            | 軟式野球連盟小運動会 | 年 1 回 | 450 人程度 |
|    | 交野市            | 認定こども園運動会  | 年 1 回 | 76 人程度  |
|    | 藤が尾地区          | 地区子ども会行事   | 年 1 回 | 130 人程度 |



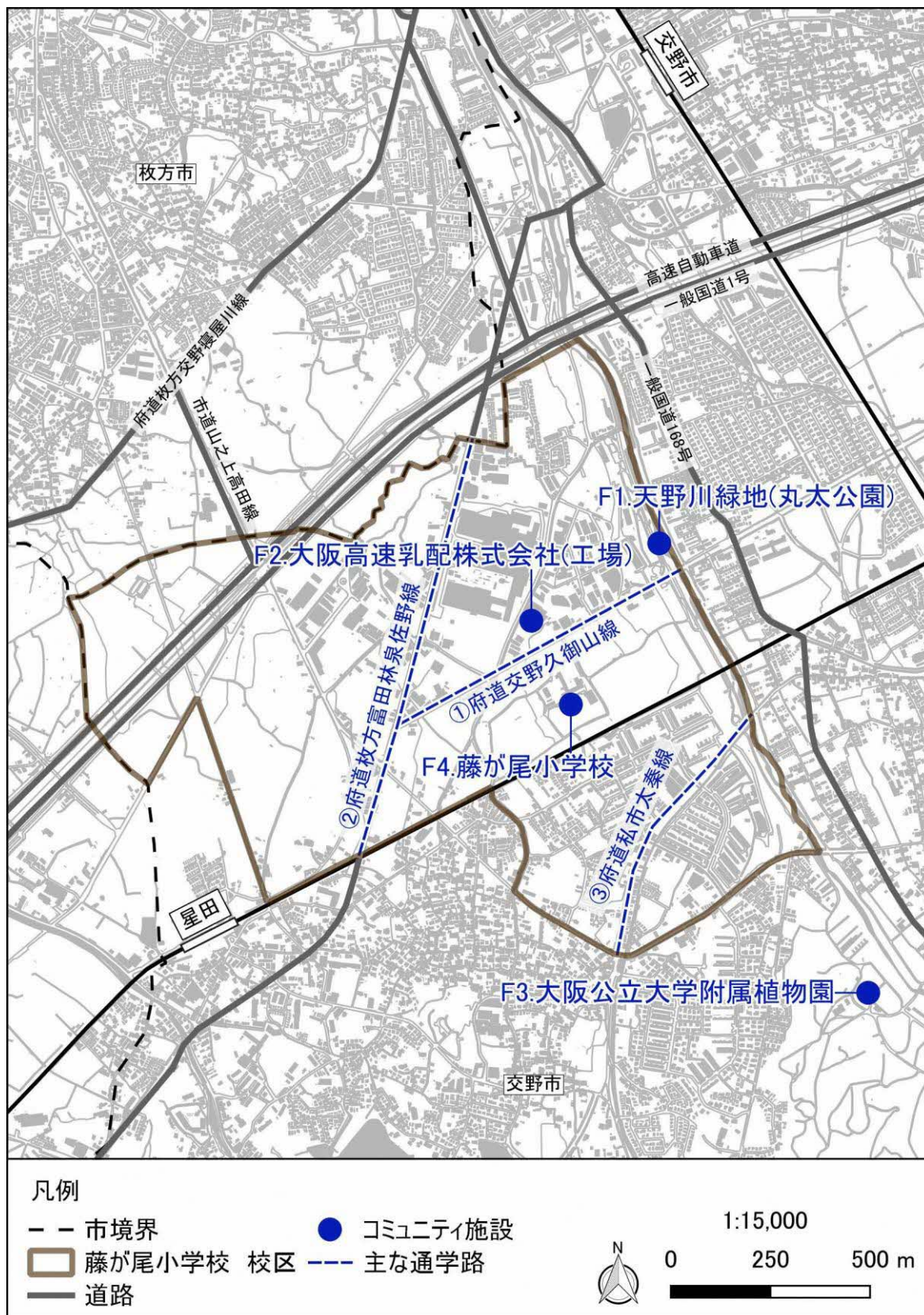


図 3.4-9 藤が尾小学校ヒアリング調査結果



### 3.4.2 予測及び評価

#### (1) 工事関係車両の通行が、コミュニティ施設の利用に及ぼす影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、工事関係車両の通行によるコミュニティ施設の利用に及ぼす影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

事業計画地周辺の3校区（春日、川越、藤が尾校区）としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事車両の通行が最大となる時期としている。

##### 4) 予測方法

3校区のヒアリング結果から、コミュニティ施設までの移動経路として利用、又は移動の際に横断している幹線道路を特定し、当該路線を通行する想定工事関係車両台数から、工事の実施に伴うコミュニティの変化の程度を定性的に予測する方法で行った。

##### 1) 予測結果

3校区のヒアリング結果から、コミュニティ施設までの移動経路として利用、又は移動の際に横断している幹線道路を表 3.4-20 に示す。工事関係車両の通行は、春日小学校区の一般国道1号、一般国道168号、府道枚方交野寝屋川線及び市道山之上高田線、川越小学校区の一般国道168号である。

表 3.4-20 施設までの移動経路として利用、又は移動の際に横断している幹線道路

| 市   | 校区      | 調査対象名            | 幹線道路名               |
|-----|---------|------------------|---------------------|
| 枚方市 | 春日小学校区  | 春日校区自治会          | 一般国道1号、一般国道168号     |
|     |         | 春日小学校            | 府道枚方交野寝屋川線、市道山之上高田線 |
|     | 川越小学校区  | 川越校区コミュニティ協議会南支部 | 該当幹線道路無し            |
|     |         | 川越小学校            | 一般国道168号            |
| 交野市 | 藤が尾小学校区 | 藤が尾連合自治会         | 該当幹線道路無し            |
|     |         | 藤が尾小学校           | 該当幹線道路無し            |

各路線の現況交通量に対する想定工事車両台数(最大)の割合を表 3.4-21 に示す。いずれの路線でも、2割に満たない台数であった。

したがって、工事の実施に伴う地域の組織上の一体性及び住民の日常的な交通経路に対する変化の状況については一部変化が生じるが、工事車両の通行が最大となる時期においても、現況交通量の2割に満たない台数であることから、工事の実施に伴うコミュニティの変化は軽微であると予測される。

表 3.4-21 現況交通量に対する想定工事車両台数（最大）の割合

| 番号 | 路線         | (A) 現況交通量<br>(台/日) | (B) 想定工事車<br>両台数（最大）<br>(台/日) | (B/A)<br>工事車両割合<br>(%) |
|----|------------|--------------------|-------------------------------|------------------------|
| 1  | 一般国道 1 号   | 18,738             | 820                           | 4.4                    |
| 2  | 一般国道 168 号 | 4,957              | 820                           | 16.5                   |
| 3  | 市道山之上高田線   | 11,293             | 820                           | 7.3                    |
| 4  | 府道枚方交野寝屋川線 | 15,432             | 820                           | 5.3                    |

- 注) 1. 現況交通量は、昼間 12 時間（7 時～19 時）の交通量を示す。  
 2. 現況交通量のうち、一般国道 168 号は「道路交通情勢調査（道路交通センサス令和 3 年度）」の値を示す（交通調査基本区間番号：10760、10770 の按分値）。  
 3. 一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線は現地調査結果（平日：令和 4 年 10 月 25 日）の値を示す。  
 4. 工事車両台数（最大）は、工事計画から想定した値を採用している（820 台/日）。  
 出典：「令和 3 年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」（国土交通省）  
 ：「茄子作土地区画整理事業基本設計報告書」（令和 5 年 5 月、枚方市茄子作土地区画整理準備組合）

## 7) 評価の指針

工事の実施に伴う工事関係車両の通行によるコミュニティの評価の指針は、表 3.4-22 に示すとおりである。

表 3.4-22 評価の指針

| 環境影響要因 |           | 評価の指針                                                     |
|--------|-----------|-----------------------------------------------------------|
| 工事の実施  | 工事関係車両の通行 | ・評価事項ごとに地域特性を勘案し、地域の組織上の一体性又は地域住民の日常的な交通経路に著しい影響を及ぼさないこと。 |

環境保全目標は、表 3.4-23 に示すとおり「コミュニティ施設への移動手段、移動経路に著しい影響を及ぼさないこと」としている。

表 3.4-23 環境保全目標

| 環境保全目標                             |
|------------------------------------|
| コミュニティ施設への移動手段、移動経路に著しい影響を及ぼさないこと。 |

## 2) 環境保全措置

工事関係車両の通行に伴うコミュニティへの影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 工事関係車両が公道を走行する際は、過積載の防止、積載の安定化、制限速度の遵守等の安全運転を指導徹底する。
- ・ 建設工事が一時期に集中しないよう、工事工程や搬出入の時間帯を調整するよう努める。

- ・ 工事関係車両については、搬出入量に応じた適正な車種・規格を選定し、効率的な運行を行うことにより、車両数を削減するよう努める。また、工事量及び資機材運搬量の平準化により、車両数を平準化し、ピーク時の車両数を削減するよう努める。
- ・ 工事関係車両の出入口等においては、工事作業時間帯には必ず誘導員等を配置して、通行車両や歩行者の安全に注意を払う。
- ・ 工事関係の従業者の通勤については、公共交通機関の利用を推進し、通勤のための自動車の走行台数の抑制に努める。
- ・ 工事関係車両の走行路線は、可能な限り幹線道路を使用し、生活道路の通行を最小限とする。
- ・ 工事区域周辺の細街路における工事関係車両の走行ルートを選定や走行時間帯の設定にあたっては、通学路や周辺施設の利用者の移動経路等に十分配慮して行う。
- ・ 立入禁止区域、迂回路等に関して地域住民の理解を深めるため、案内看板や標識類の設置を充実させる。

### 3) 評価結果

事業計画地周辺道路では、工事関係車両の通行により交通量の増加が見込まれるものの、増加の程度は小さく、2校区（春日小学校区、川越小学校区）におけるコミュニティ施設への移動手段、移動経路に与える影響は軽微であると予測される。

工事車両の通行時においては、前述した環境保全措置を実施することにより、コミュニティ施設への移動手段、移動経路への影響をできる限り軽減する計画である。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。

(2) 産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行が、コミュニティ施設の利用に及ぼす影響

1) 予測項目

予測項目は、産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行によるコミュニティ施設の利用に及ぼす影響としている。

2) 予測地域・地点

事業計画地周辺の3校区（春日、川越、藤が尾校区）としている。

3) 予測時期

予測時期は、供用後の時期としている。

4) 予測方法

3校区のヒアリング結果から、コミュニティ施設までの移動経路として利用、又は移動の際に横断している幹線道路を特定し、供用時の産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の想定走行路線を勘案し、定性的に予測する方法で行った。

5) 予測結果

コミュニティ施設までの移動経路として利用、又は移動の際に横断している幹線道路を表 3.4-24 に示す。供用時の産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行は、春日小学校区の一般国道1号、一般国道168号、府道枚方交野寝屋川線及び市道山之上高田線、川越小学校校区の一般国道168号が該当する（図 3.4-10）。

表 3.4-24 施設までの移動経路として利用、又は移動の際に横断している幹線道路

| 市   | 校区      | 調査対象名            | 幹線道路名               |
|-----|---------|------------------|---------------------|
| 枚方市 | 春日小学校区  | 春日校区自治会          | 一般国道1号、一般国道168号     |
|     |         | 春日小学校            | 府道枚方交野寝屋川線、市道山之上高田線 |
|     | 川越小学校区  | 川越校区コミュニティ協議会南支部 | 該当幹線道路無し            |
|     |         | 川越小学校            | 一般国道168号            |
| 交野市 | 藤が尾小学校区 | 藤が尾連合自治会         | 該当幹線道路無し            |
|     |         | 藤が尾小学校           | 該当幹線道路無し            |

各路線の現況交通量に対する想定供用後の車両台数（平日、休日）の割合を表 3.4-25 及び表 3.4-26 に示す。いずれの路線でも、現況交通量の1割にも満たない台数であった。

したがって、施設等の供用に伴う地域の組織上の一体性及び住民の日常的な交通経路に対する変化の状況については一部変化が生じるが、産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行が、供用後の商業施設・物流施設、住居利用者の想定する出入口位置となる国道1号、府道枚方交野寝屋川線及び市道山之上高田線の現況交通量の1割にも満たない台数であることから、施設等の供用に伴うコミュニティの変化は軽微であると予測される。



表 3.4-25 現況交通量に対する供用後の車両台数の割合（平日）

| 番号 | 路線         | (A) 現況交通量<br>(台/日) | (B) 分担率<br>(%) | (C) 想定車両台数<br>(台/日) | (C/A)<br>車両割合<br>(%) |
|----|------------|--------------------|----------------|---------------------|----------------------|
| 1  | 一般国道 1 号   | 18,738             | 41.2           | 972                 | 5.2                  |
| 2  | 市道山之上高田線   | 11,293             | 24.8           | 586                 | 5.2                  |
| 3  | 府道枚方交野寝屋川線 | 15,432             | 33.9           | 801                 | 5.2                  |

注) 1. 現況交通量は、昼間 12 時間（7 時～19 時）の交通量を示す。一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線は現地調査結果（平日：令和 4 年 10 月 25 日）の値を示す。  
2. 分担率は、現況交通量の合計値に対し、各路線の現況交通量を除して算定している。  
3. 供用後想定車両台数は、商業施設・物流施設、住居利用者関連の発生集中交通量の推計値（平日：2,359 台/日）に路線の分担率を乗じて算定している。  
出典：「令和 3 年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」(国土交通省)  
：「枚方市茄子作地区交通量推計報告書」（令和 5 年 3 月、枚方市茄子作土地区画整理準備組合）

表 3.4-26 現況交通量に対する供用後の車両台数の割合（休日）

| 番号 | 路線         | (A') 現況交通量<br>(台/日) | (B') 分担率<br>(%) | (C') 想定車両台数<br>(台/日) | (C'/A')<br>車両割合<br>(%) |
|----|------------|---------------------|-----------------|----------------------|------------------------|
| 1  | 一般国道 1 号   | 20,040              | 44.3            | 1,886                | 9.4                    |
| 2  | 市道山之上高田線   | 11,066              | 24.4            | 1,041                | 9.4                    |
| 3  | 府道枚方交野寝屋川線 | 14,156              | 31.3            | 1,332                | 9.4                    |

注) 1. 現況交通量は、昼間 12 時間（7 時～19 時）の交通量を示す。一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線は現地調査結果（休日：令和 4 年 10 月 16 日）の値を示す。  
2. 分担率は、現況交通量の合計値に対し、各路線の現況交通量を除して算定している。  
3. 供用後想定車両台数は、商業施設・物流施設、住居利用者関連の発生集中交通量の推計値（休日：4,259 台/日）に路線の分担率を乗じて算定している。  
出典：「令和 3 年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」(国土交通省)  
：「枚方市茄子作地区交通量推計報告書」（令和 5 年 3 月、枚方市茄子作土地区画整理準備組合）

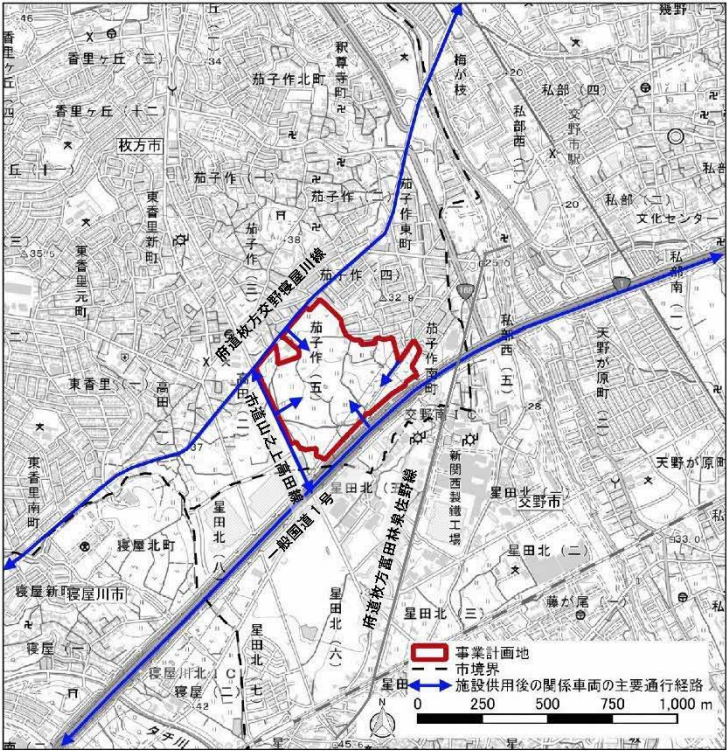


図 3.4-10 供用後の主要通行経路

## 6) 評価の指針

施設等の供用に伴う産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行によるコミュニティの評価の指針は、表 3.4-27 に示すとおりである。

表 3.4-27 評価の指針

| 環境影響要因 |                         | 評価の指針                                                     |
|--------|-------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 施設等の供用 | 産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行 | ・評価事項ごとに地域特性を勘案し、地域の組織上の一体性又は地域住民の日常的な交通経路に著しい影響を及ぼさないこと。 |

環境保全目標は、表 3.4-28 に示すとおり「コミュニティ施設への移動手段、移動経路に著しい影響を及ぼさないこと」としている。

表 3.4-28 環境保全目標

| 環境保全目標                             |
|------------------------------------|
| コミュニティ施設への移動手段、移動経路に著しい影響を及ぼさないこと。 |

## 7) 環境保全措置

施設等の供用に伴う産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行によるコミュニティへの影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 産業・商業施設の事業者に対し、公共交通機関の利用等により、車両台数の抑制を図るよう周知に努める。
- ・ 産業・商業施設の事業者、事業計画地内の利用者、地権者に対する道路交通に起因する障害防止対策を枚方市交通対策部局と協議・検討し、通過車両の速度抑制や交通の円滑化を図る。
- ・ 施設利用車両が、適宜、アイドリング・ストップを励行、制限速度の遵守、安全運転の励行、急発進・急加速・急ブレーキの自粛等のエコドライブの推進に努めるよう産業・商業施設の事業者、事業計画地内の利用者への周知に努める。
- ・ 歩行者の安全確保のため、カーブミラーや車止め等の交通安全対策を図るよう枚方市交通対策部局と協議のうえ実施を検討する。

## 8) 評価結果

事業計画地周辺道路では、産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行により交通量の増加が見込まれるものの、増加の程度は小さく、川越小学校区及び春日小学校区におけるコミュニティ施設への移動手段、移動経路に与える影響は軽微であると予測される。

産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行時においては、前述した環境保全措置を実施することにより、コミュニティ施設への移動手段、移動経路への影響をできる限り軽減する計画である。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。

## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である

## 【指摘事項】

・特になし



### 3.5 景観

#### 3.5.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

調査項目は、代表的な眺望景観の位置としている。

###### 2) 調査地域・地点

一般的に、「景観のデザインに関する基礎的研究」（1980年2月、篠原修）によると、視点（人間）と視対象（見る対象）の関係から、距離による景観の見え方の違いとして、近景は500m程度、中景は2.5km程度、遠景は2.5km以上に区分される。

調査区域の設定にあたっては、距離による見え方の違いや事業計画地内の建物の高さを考慮し、事業計画地から2.5km程度の範囲としている。調査地点は、事業計画地及び周辺地域の主要な眺望点及び地域の人々が日常的に利用している場等の圍繞景観となる地点としている。

###### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度（令和4年度）としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料を収集整理し、現地踏査により代表的な眺望地点を選定している。

表 3.5-1 調査方法（景観）

| 調査項目       |                    | 調査方法                        | 調査地域・地点     | 調査期間等 |
|------------|--------------------|-----------------------------|-------------|-------|
| 既存資料<br>調査 | 代表的な眺望地点の位置及び分布の状況 | 「ひらかた観光マップ（きてみてひらかたマップ）」枚方市 | 事業計画地及び周辺地域 | 最新年度  |

## (2) 現地調査

### 1) 調査項目

調査項目は、代表的な眺望地点からの眺望としている。

### 2) 調査地域・地点

調査地点は、既存資料調査及び現地踏査により把握した近景 5 地点、中景 4 地点、遠景 1 地点の計 10 地点としている。（表 3.5-2 参照）。

表 3.5-2 景観調査地点

| 区分 | 地点番号   | 地点名称             | 事業計画地からの距離 |
|----|--------|------------------|------------|
| 近景 | No. 1  | 枚方交野寝屋川線交差点付近    | 290m       |
|    | No. 2  | 事業計画地南側道路        | 260m       |
|    | No. 3  | 第二京阪道路高架下付近      | 230m       |
|    | No. 4  | 事業計画地東側道路        | 300m       |
|    | No. 5  | 事業計画地西側道路        | 240m       |
| 中景 | No. 6  | 寝屋川公園            | 2.1km      |
|    | No. 7  | 星田妙見宮（小松神社）      | 2.4km      |
|    | No. 8  | 天野川緑地（交野橋）       | 1.1km      |
|    | No. 9  | 交野市駅京阪交野ビル 3 階廊下 | 1.2km      |
| 遠景 | No. 10 | 末広公園北側入口付近       | 2.5km      |

注) 1. 敷地境界から 500m までの範囲を近景、500m から 2.5km の範囲を中景、2.5km 以上を遠景と選定している。地点 No. は図 3.5-1 に対応している。



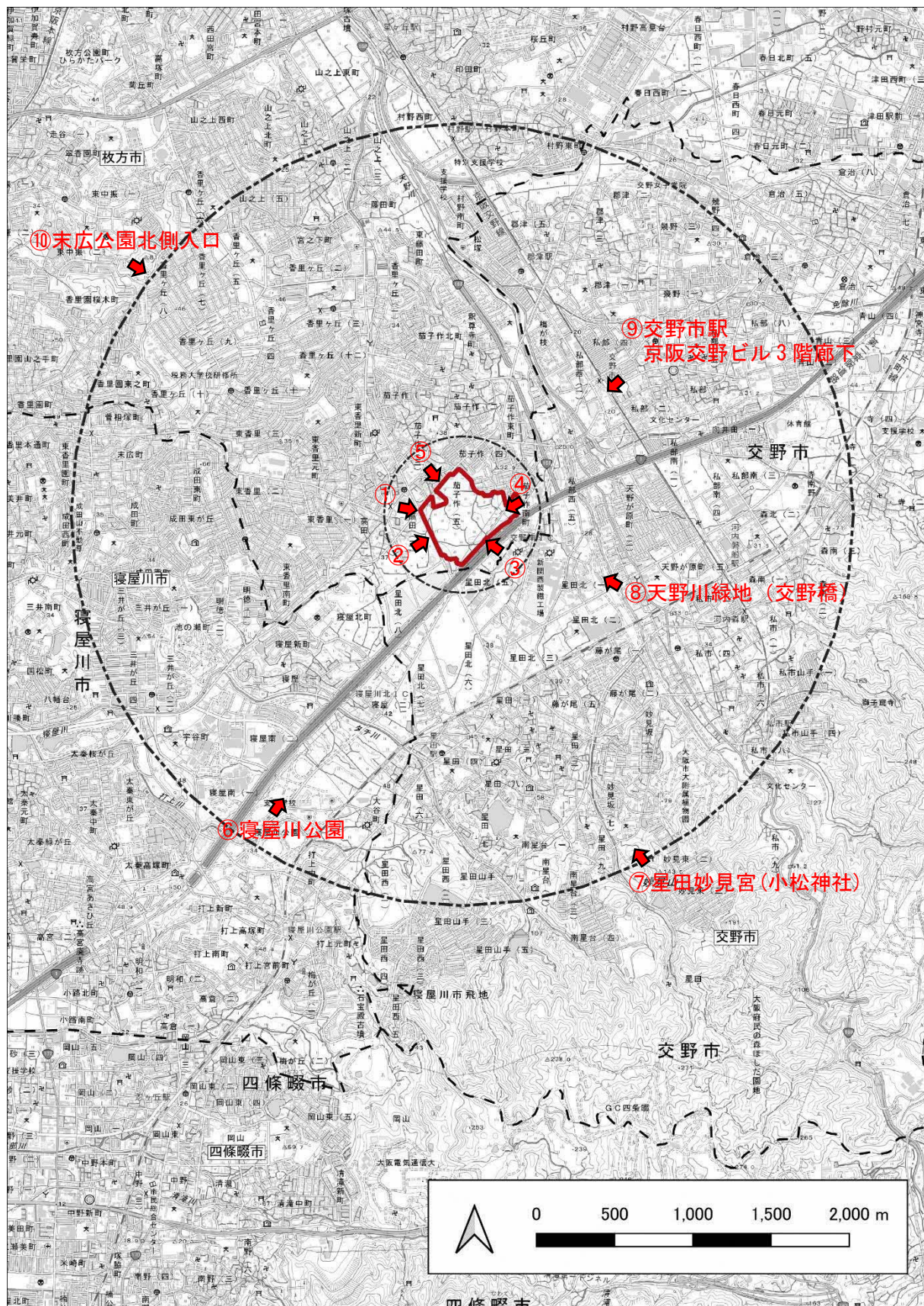


図 3.5-1 景観調査地点



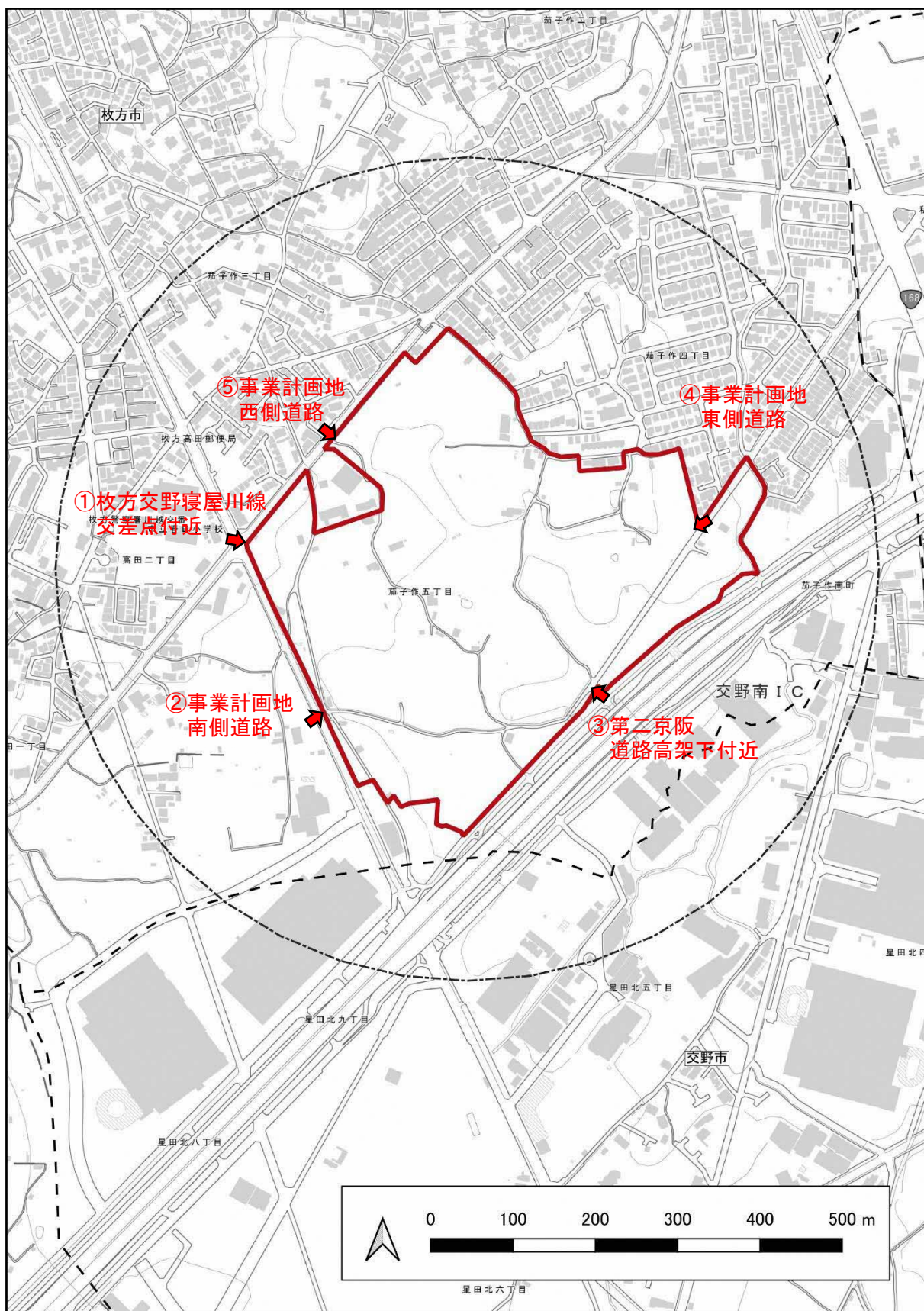


図 3.5-2 景観調査地点（近景）



### 3) 調査時期・頻度

調査時期・頻度は、圃場の耕作状況や樹木の繁茂による変化を把握することから、表 3.5-3 に示す期間としている。

表 3.5-3 景観の現況調査時期・頻度・期間

| 環境要素 | 調査項目         | 調査日                                                  | 調査場所                                                          |
|------|--------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 景観   | ・主要な眺望点からの眺望 | 令和4年5月28日～29日（春季）<br>令和4年8月25日（夏季）<br>令和4年11月22日（秋季） | ・近景5地点<br>・中景4地点<br>・遠景1地点<br>＜計10地点＞<br>（図 3.5-1、図 3.5-2 参照） |

#### 4) 調査方法

調査方法は、眺望点から景観写真撮影を実施している。

#### 5) 調査結果

事業計画地周辺の主要な眺望点及び地域の人々が日常的に利用している場等の圍繞景観となる近景 5 地点、中景 4 地点、遠景 1 地点の計 10 地点の 3 季の眺望の状況を把握している。これらの眺望地点及び眺望景観の状況を表 3.5-4～表 3.5-8 に示している。

表 3.5-4 眺望地点及び眺望景観の状況

| 調査地点：近景 No. 1 枚方交野寝屋川線交差点付近                                                                       |                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>春季</div>    | <div>夏季</div>    |
| <div>秋季</div>   |                                                                                                    |
| 調査地点：近景 No. 2 事業計画地南側道路                                                                           |                                                                                                    |
| <div>春季</div>  | <div>夏季</div>  |
| <div>秋季</div>  |                                                                                                    |

表 3.5-5 眺望地点及び眺望景観の状況

| 調査地点：近景 No. 3 第二京阪道路高架下付近                                                                         |  |                                                                                                    |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <div>春季</div>    |  | <div>夏季</div>    |  |
| <div>秋季</div>   |  |                                                                                                    |  |
| 調査地点：近景 No. 4 事業計画地東側道路                                                                           |  |                                                                                                    |  |
| <div>春季</div>  |  | <div>夏季</div>  |  |
| <div>秋季</div>  |  |                                                                                                    |  |



表 3.5-6 眺望地点及び眺望景観の状況

| 調査地点：近景 No. 5 事業計画地西側道路                                                                           |                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>春季</div>    | <div>夏季</div>    |
| <div>秋季</div>   |                                                                                                    |
| 調査地点：中景 No. 6 寝屋川公園                                                                               |                                                                                                    |
| <div>春季</div>  | <div>夏季</div>  |
| <div>秋季</div>  |                                                                                                    |

表 3.5-7 眺望地点及び眺望景観の状況

| 調査地点：中景 No. 7 星田妙見宮（小松神社）                                                                         |                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>春季</div>    | <div>夏季</div>    |
| <div>秋季</div>   |                                                                                                    |
| 調査地点：中景 No. 8 天野川緑地（交野橋）                                                                          |                                                                                                    |
| <div>春季</div>  | <div>夏季</div>  |
| <div>秋季</div>  |                                                                                                    |



表 3.5-8 眺望地点及び眺望景観の状況

| 調査地点：中景 No. 9 交野市駅京阪交野ビル 3 階廊下 |                                                                                     |    |                                                                                      |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 春季                             |    | 夏季 |    |
| 秋季                             |   |    |                                                                                      |
| 調査地点：遠景 No. 10 末広公園北側入口付近      |                                                                                     |    |                                                                                      |
| 春季                             |  | 夏季 |  |
| 秋季                             |  |    |                                                                                      |

### 3.5.2 予測及び評価

#### (1) 工事の実施による主要な眺望地点からの景観の変化

##### 1) 予測項目

予測項目は、工事の実施による事業計画地及び周辺地域の眺望景観に及ぼす影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地及び周辺地域としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事の実施による影響が最大になる時期としている。

##### 4) 予測方法

予測方法は、工事中のフォトモンタージュを作成し、眺望景観の変化を予測している。工事中の仮囲いの位置を図 3.5-13 に示している。

##### 5) 予測結果

代表的な眺望点からの景観予測結果は、表 3.5-9 に示すとおりである。フォトモンタージュによる予測結果は、図 3.5-3～図 3.5-12 に示すとおりである。

表 3.5-9 眺望景観への影響の予測結果

| 区分 | 地点番号   | 地点名称           | 眺望景観の影響                  |
|----|--------|----------------|--------------------------|
| 近景 | No. 1  | 枚方交野寝屋川線交差点付近  | 工事中の仮囲いにより、眺望景観への影響が生じる。 |
|    | No. 2  | 事業計画地南側道路      | 工事中の仮囲いにより、眺望景観への影響が生じる。 |
|    | No. 3  | 第二京阪道路高架下付近    | 工事中の仮囲いにより、眺望景観への影響が生じる。 |
|    | No. 4  | 事業計画地東側道路      | 工事中の仮囲いにより、眺望景観への影響が生じる。 |
|    | No. 5  | 事業計画地西側道路      | 工事中の仮囲いにより、眺望景観への影響が生じる。 |
| 中景 | No. 6  | 寝屋川公園          | 眺望景観への影響はない。             |
|    | No. 7  | 星田妙見宮(小松神社)    | 眺望景観への影響はない。             |
|    | No. 8  | 天野川緑地(交野橋)     | 眺望景観への影響はない。             |
|    | No. 9  | 交野市駅京阪交野ビル3階廊下 | 眺望景観への影響はない。             |
| 遠景 | No. 10 | 末広公園北側入口付近     | 眺望景観への影響はない。             |



【現況】



【工事中】



図 3.5-3 近景 No.1 : 枚方交野寝屋川線交差点付近



【現況】



【工事中】



図 3.5-4 近景 No.2 : 事業計画地南側道路



【現況】



【工事中】



図 3.5-5 近景 No.3 : 第二京阪道路高架下付近





【現況】



【工事中】

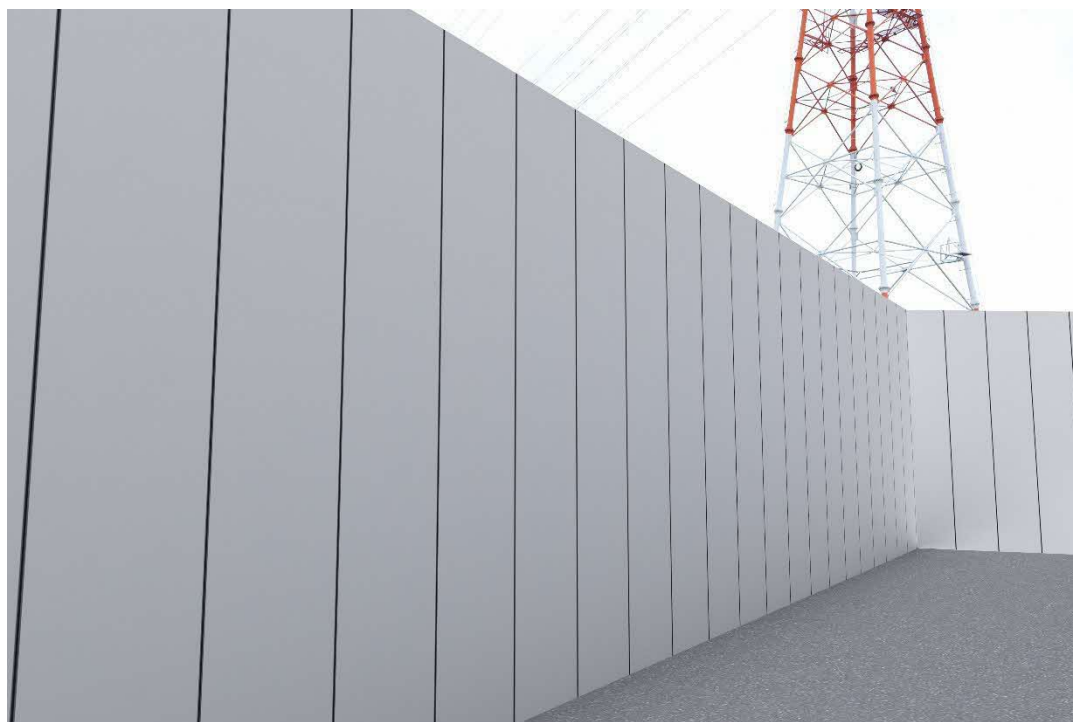


図 3.5-6 近景 No.4 : 事業計画地東側道路





【現況】



【工事中】



図 3.5-7 近景 No.5 : 事業計画地西側道路



【現況】



【工事中】



図 3.5-8 中景 No.6 : 寝屋川公園



【現況】



【工事中】



図 3.5-9 中景 No.7 : 星田妙見宮 (小松神社)





【現況】



【工事中】



図 3.5-10 中景 No.8 : 天野川緑地（交野橋）





【現況】



【工事中】



図 3.5-11 中景 No.9 : 交野市駅京阪交野ビル 3 階廊下



【現況】



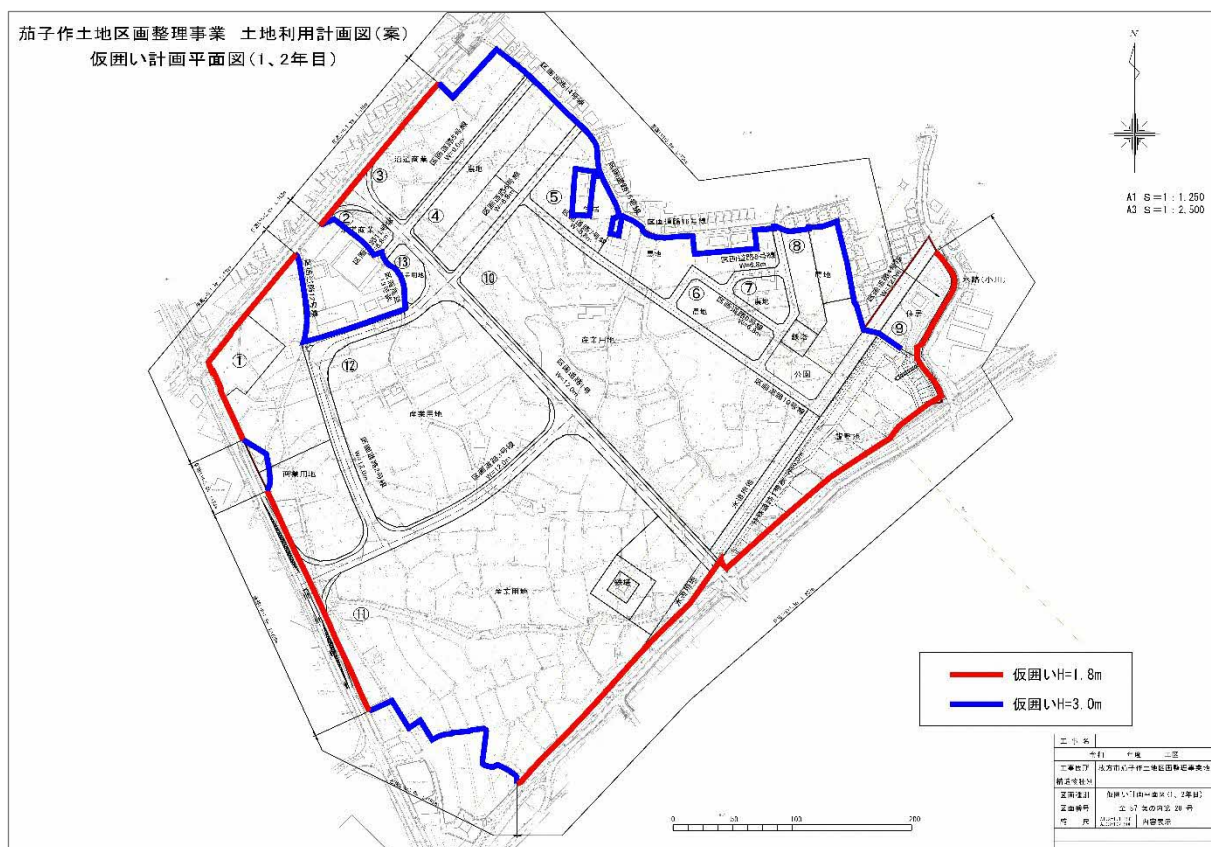
【工事中】



図 3.5-12 遠景 No.10 : 末広公園北側入口付近







出典：「基本設計報告書」（枚方市茄子作土地区画整理準備組合）

図 3.5-13 工事中の仮囲い位置

## 1) 評価の指針

工事の実施に伴う眺望景観の変化の評価の指針は、表 3.5-10 に示すとおりである。

表 3.5-10 評価の指針

| 環境影響要因 |         | 評価の指針                                                                                                                                                                    |
|--------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施  | 造成工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観形成について十分な配慮がなされていること。</li> <li>・ 環境基本計画及び枚方市環境基本計画等に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li> <li>・ 自然環境保全法に定める基準等に適合するものであること。</li> </ul> |

環境保全目標は、表 3.5-11 に示すとおり「景観法及び枚方市景観計画（第二京阪道路の沿道区域）の景観形成の方針と整合がとれたものとする」としている。

表 3.5-11 環境保全目標

| 環境保全目標                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮囲いの基調となる色彩は、著しく派手なものとししないこと。</li> <li>・ 仮囲いは、周辺景観に馴染まない、著しく突出した意匠とししないこと。</li> </ul> |

## 2) 環境保全措置

工事の実施に伴う眺望景観への影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 施工時の仮囲いの設置にあたっては、機能性を確保したうえで、景観面（色彩、デザイン、素材等）にも配慮するものとし、周辺地域の景観との調和に留意する。

## 3) 評価結果

予測の結果、近景の主要な眺望地点で、仮囲い（高さ 1.5～3.0m）により、眺望景観への影響が生じると予測される。

工事の実施に伴う景観について、前述した環境保全措置を講じ、景観法、枚方市景観計画（第二京阪道路沿道区域）の景観形成の方針との整合を図ることにより、環境影響をできる限り回避又は低減させた計画としている。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。



## (2) 施設等の存在による主要な眺望地点からの景観の変化

### 1) 予測項目

予測項目は、施設等の存在による事業計画地及び周辺地域の眺望景観に及ぼす影響としている。

### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地及び周辺地域としている。

### 3) 予測時期

予測時期は、施設等の存在による景観への影響は最も大きくなる時期とし、工事が完了した時点とし t。

### 4) 予測方法

予測方法は、工事完了後のフォトモンタージュを作成し、春季・夏季・秋季の眺望景観の変化を予測している。

### 5) 予測結果えいるえいる

代表的な眺望点からの景観予測結果は、表 3.5-12 に示すとおりである。フォトモンタージュによる予測結果は、図 3.5-14～図 3.5-43 に示すとおりである。

表 3.5-12 眺望景観への影響の予測結果

| 区分 | 地点番号   | 地点名称           | 眺望景観の影響                    |
|----|--------|----------------|----------------------------|
| 近景 | No. 1  | 枚方交野寝屋川線交差点付近  | 商業施設・産業施設により、眺望景観への影響が生じる。 |
|    | No. 2  | 事業計画地南側道路      | 商業施設・産業施設により、眺望景観への影響が生じる。 |
|    | No. 3  | 第二京阪道路高架下付近    | 産業施設により、眺望景観への影響が生じる。      |
|    | No. 4  | 事業計画地東側道路      | 産業施設により、眺望景観への影響が生じる。      |
|    | No. 5  | 事業計画地西側道路      | 沿道商業・産業施設により、眺望景観への影響が生じる。 |
| 中景 | No. 6  | 寝屋川公園          | 眺望景観への影響はない。               |
|    | No. 7  | 星田妙見宮（小松神社）    | 眺望景観への影響はない。               |
|    | No. 8  | 天野川緑地（交野橋）     | 眺望景観への影響はない。               |
|    | No. 9  | 交野市駅京阪交野ビル3階廊下 | 眺望景観への影響はない。               |
| 遠景 | No. 10 | 末広公園北側入口付近     | 眺望景観への影響はない。               |

【現況】



【供用後】

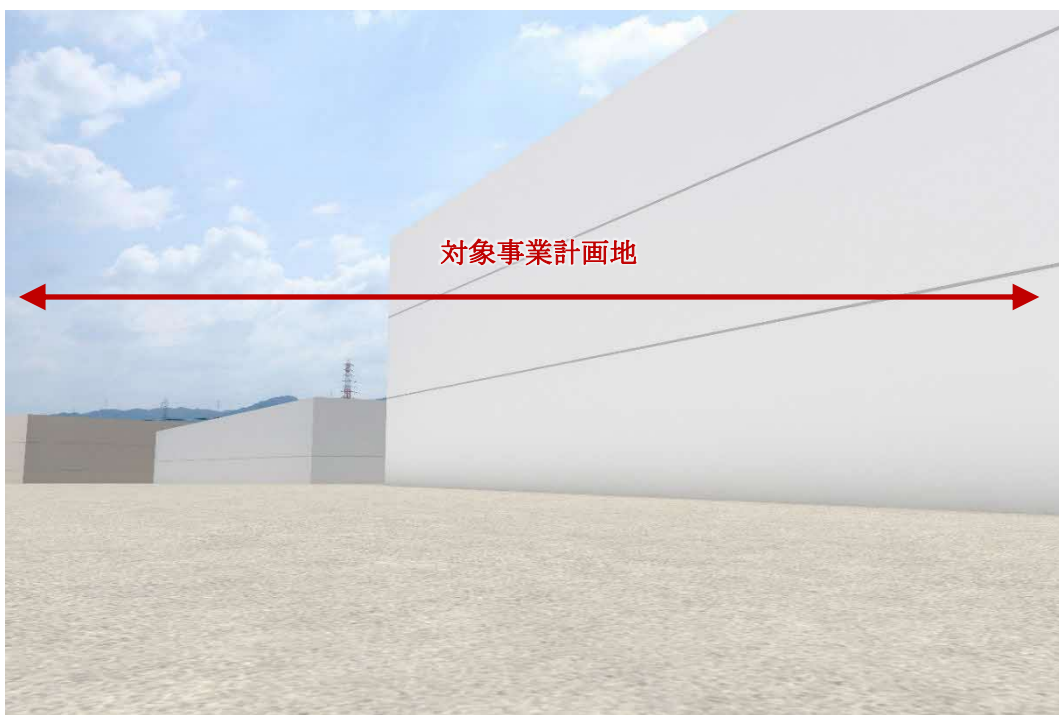


図 3.5-14 近景 No.1 : 枚方交野寝屋川線交差点付近(春季)



①枚方交野寝屋川線交差点付近

【現況】



【供用後】

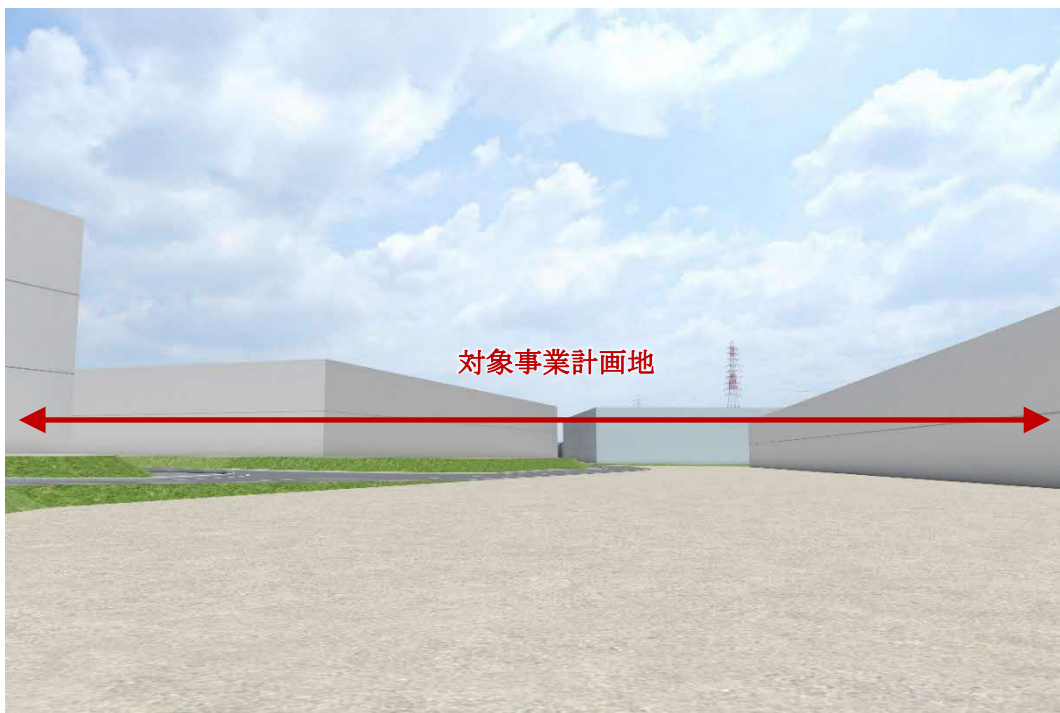


図 3.5-15 近景 No.2 : 事業計画地南側道路(春季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-16 近景 No.3 : 第二京阪道路高架下付近(春季)





【現況】



【供用後】

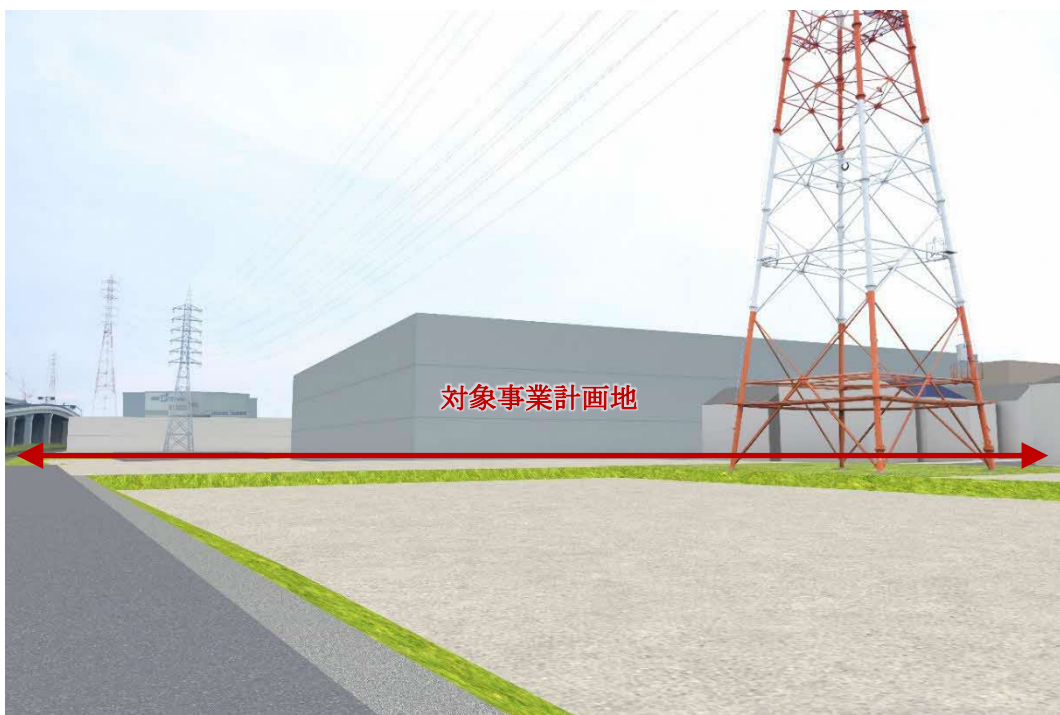


図 3.5-17 近景 No.4 : 事業計画地東側道路(春季)



【現況】



【供用後】

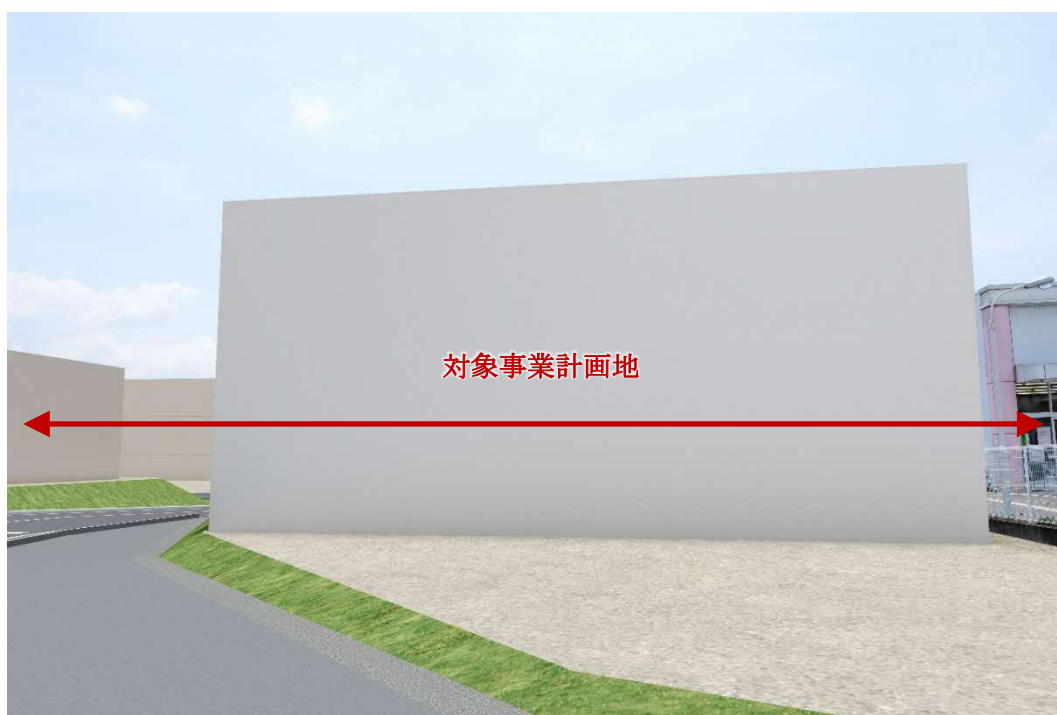


図 3.5-18 近景 No.5 : 事業計画地西側道路(春季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-19 中景 No.6 : 寝屋川公園(春季)



【現況】



【供用後】



図 3.5-20 中景 No.7：星田妙見宮（小松神社）(春季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-21 中景 No.8 : 天野川緑地（交野橋）（春季）



【現況】



【供用後】



図 3.5-22 中景 No.9 : 交野市駅京阪交野ビル 3 階廊下(春季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-23 遠景 No.10 : 末広公園北側入口付近(春季)



【現況】



【供用後】



図 3.5-24 近景 No.1 : 枚方交野寝屋川線交差点付近(夏季)





【現況】



【供用後】

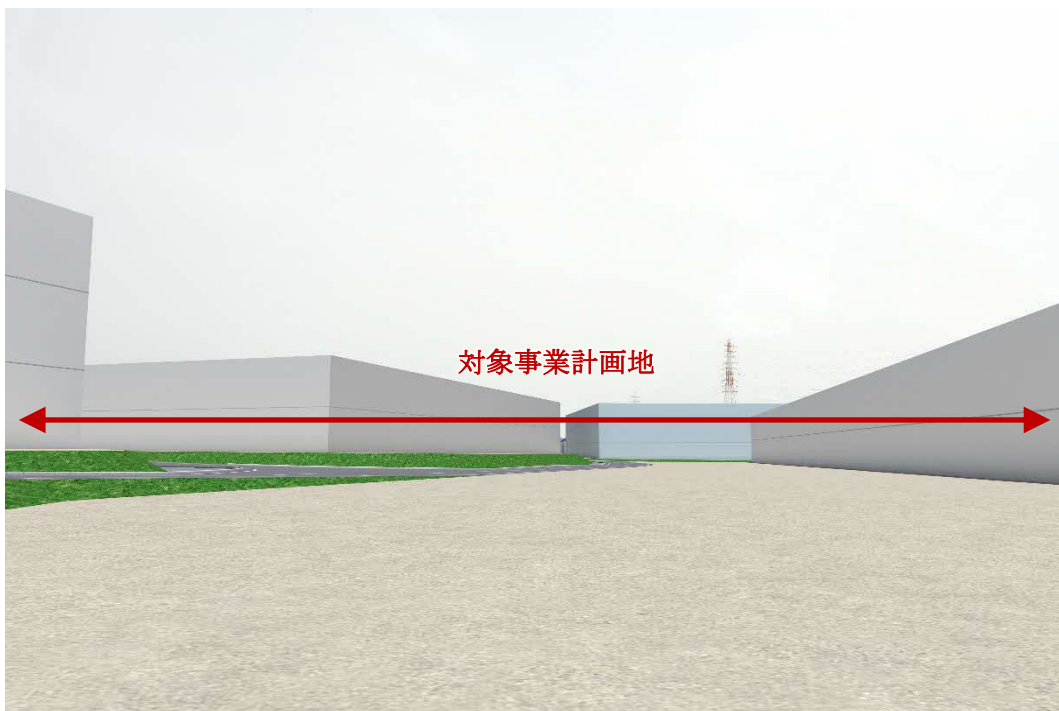


図 3.5-25 近景 No.2 : 事業計画地南側道路(夏季)



【現況】



【供用後】

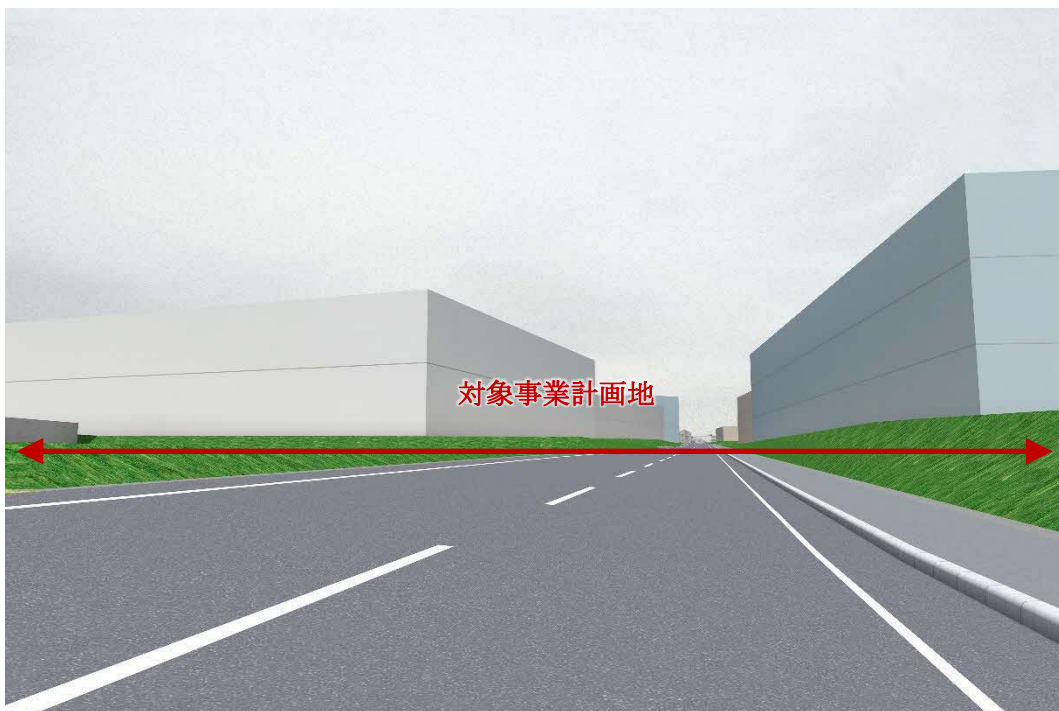


図 3.5-26 近景 No.3 : 第二京阪道路高架下付近(夏季)





【現況】



【供用後】

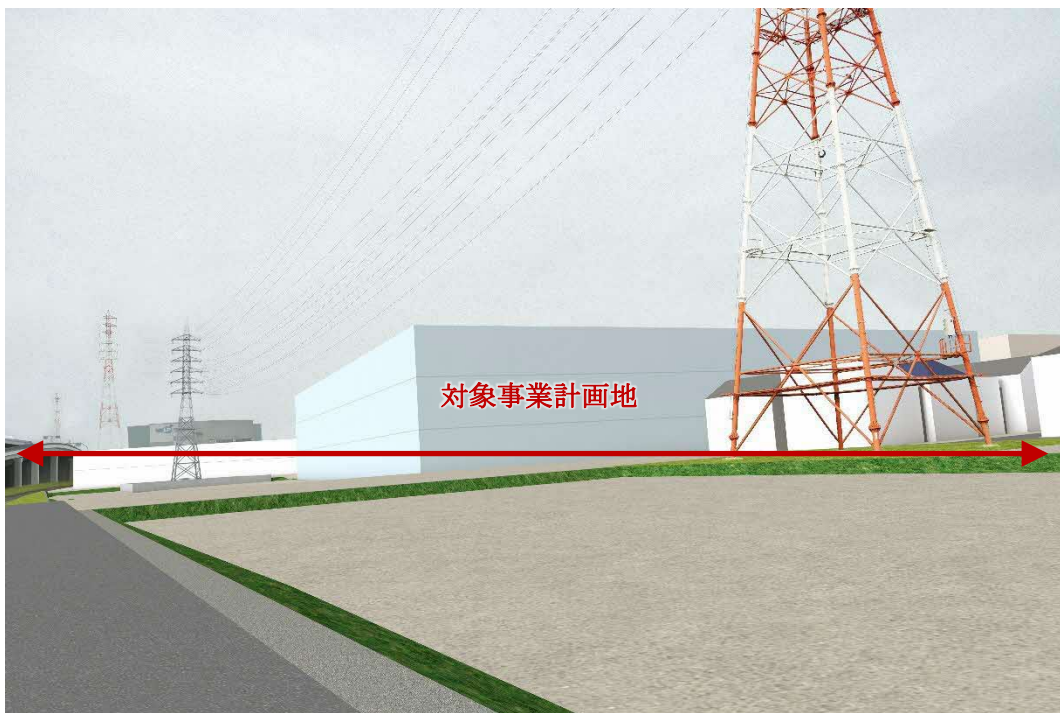


図 3.5-27 近景 No.4 : 事業計画地東側道路(夏季)



【現況】



【供用後】

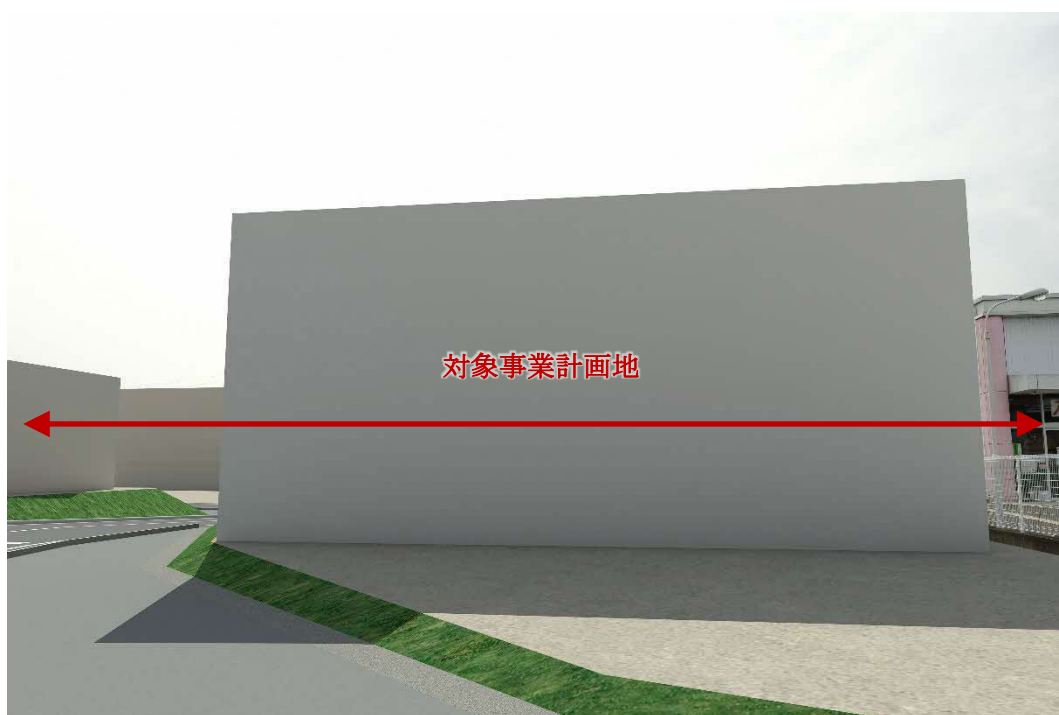


図 3.5-28 近景 No.5 : 事業計画地西側道路(夏季)





【現況】



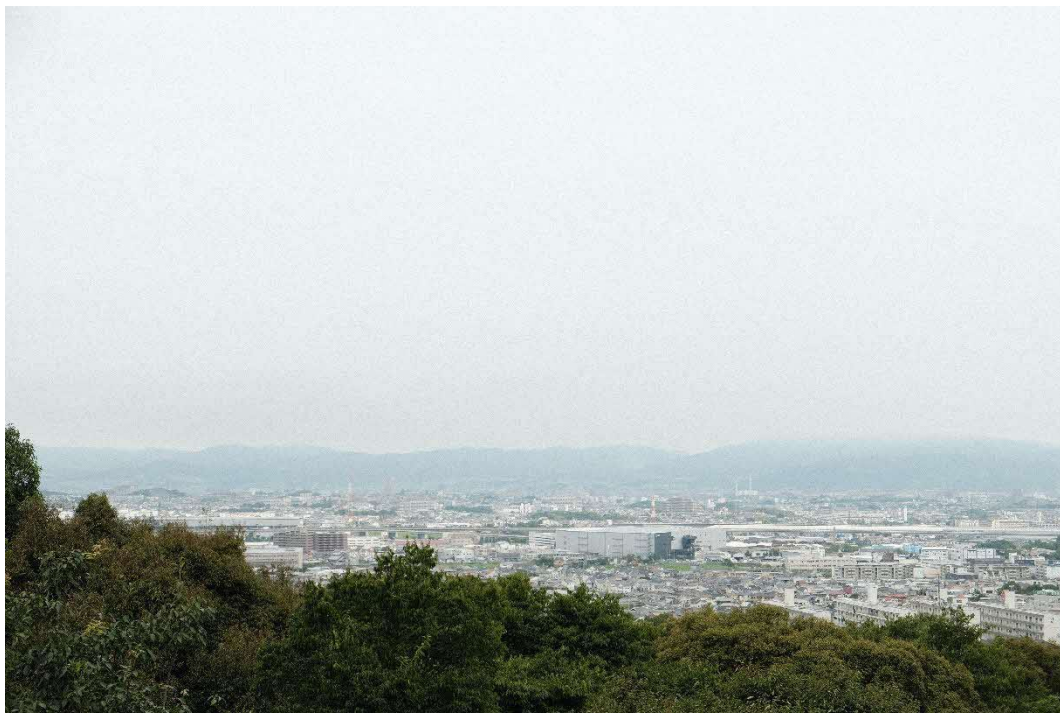
【供用後】



図 3.5-29 中景 No.6 : 寝屋川公園(夏季)



【現況】



【供用後】



図 3.5-30 中景 No.7：星田妙見宮（小松神社）(夏季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-31 中景 No.8 : 天野川緑地（交野橋）(夏季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-32 中景 No.9 : 交野市駅京阪交野ビル 3 階廊下(夏季)



【現況】



【供用後】



図 3.5-33 遠景 No.10 : 末広公園北側入口付近(夏季)





【現況】



【供用後】

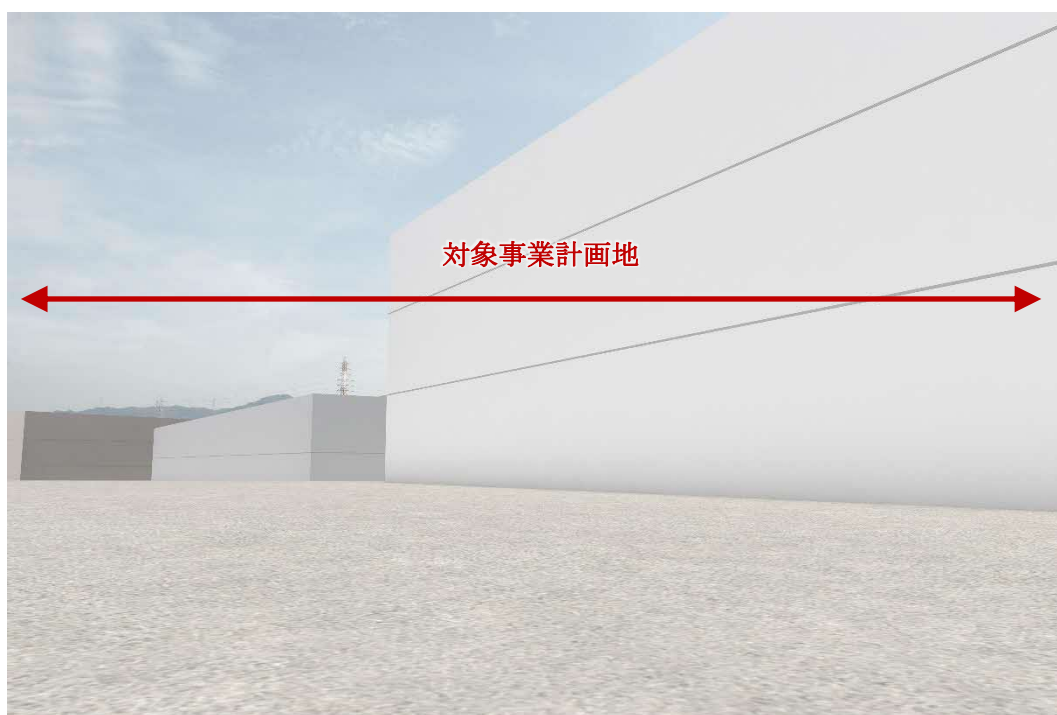


図 3.5-34 近景 No.1 : 枚方交野寝屋川線交差点付近(秋季)



①枚方交野寝屋川線交差点付近



【現況】



【供用後】

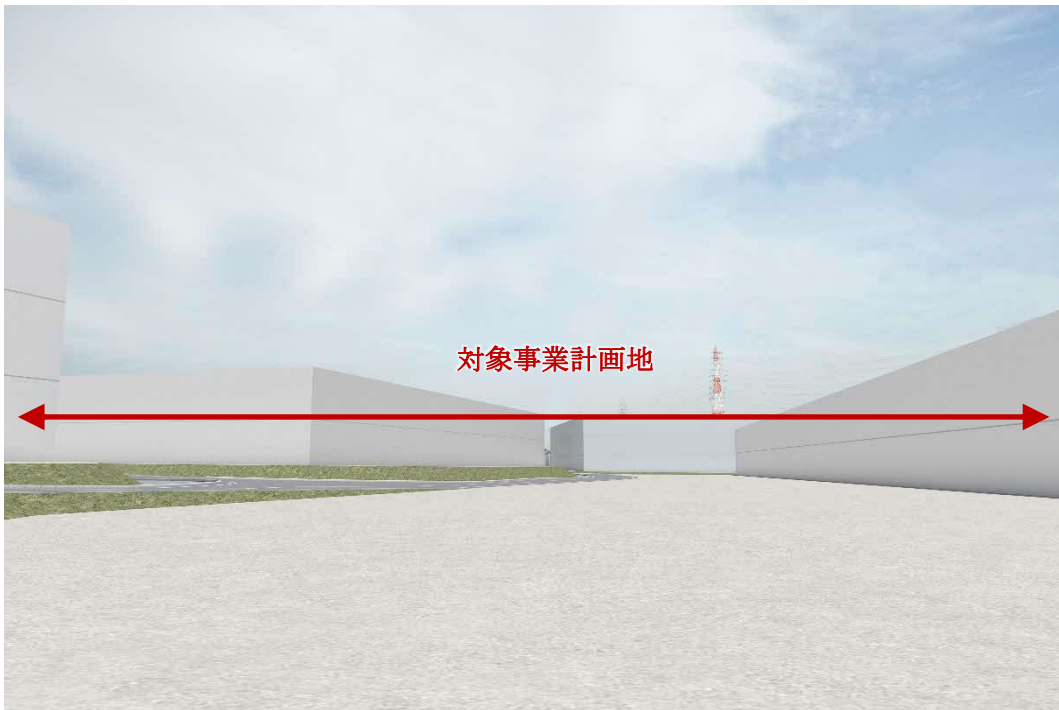


図 3.5-35 近景 No.2 : 事業計画地南側道路(秋季)



【現況】



【供用後】

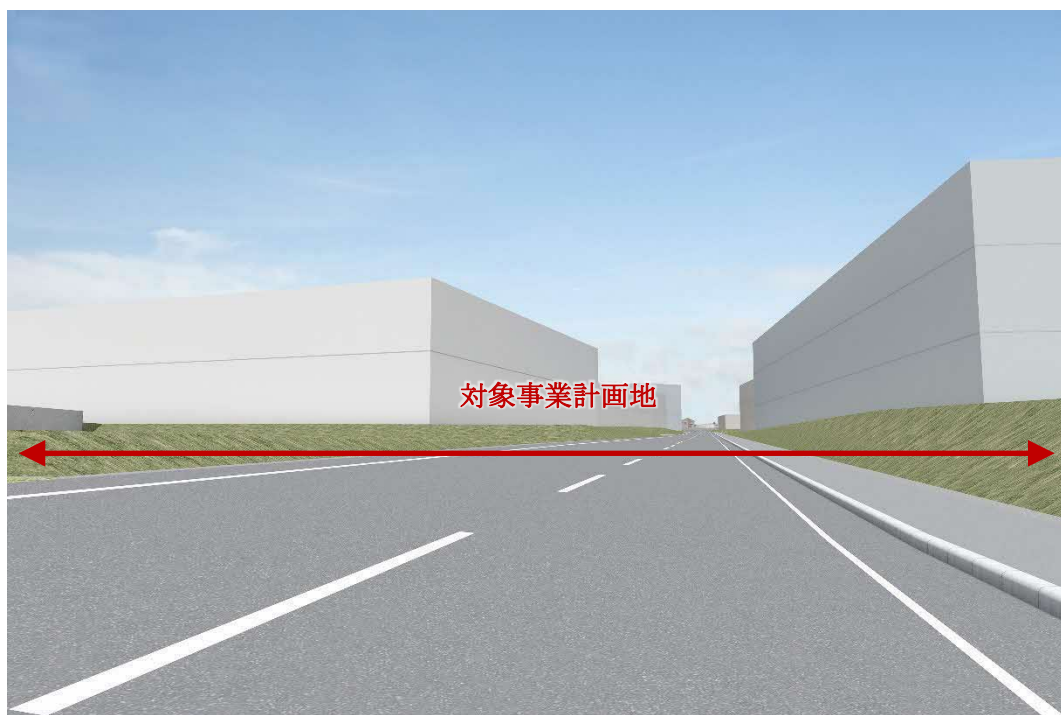


図 3.5-36 近景 No.3 : 第二京阪道路高架下付近(秋季)





【現況】



【供用後】

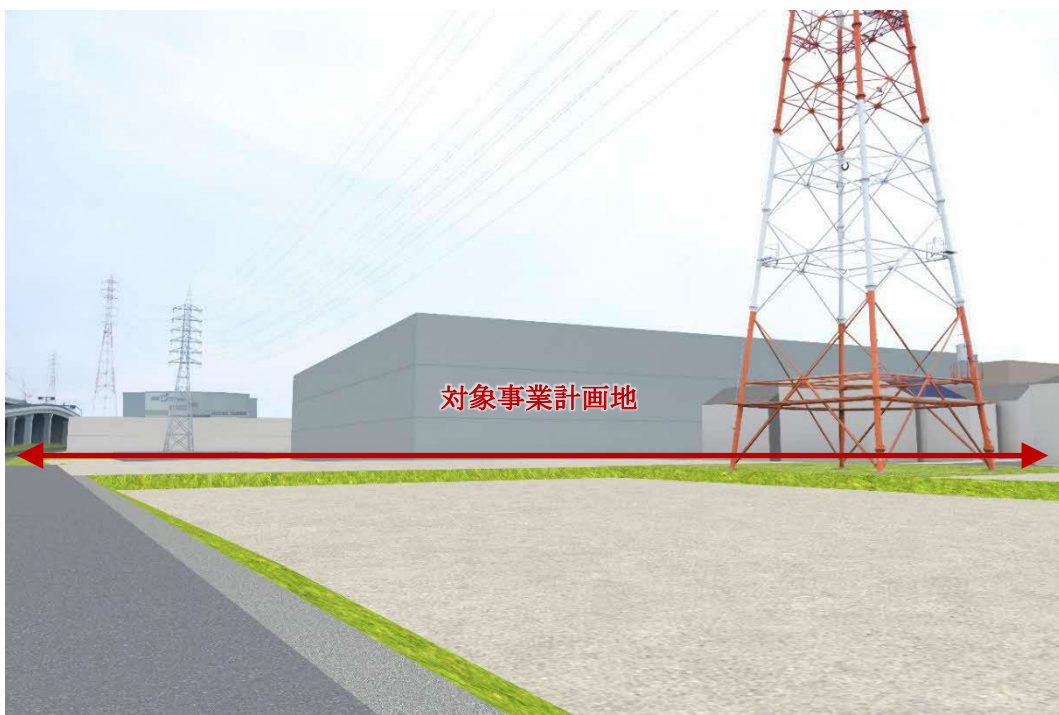


図 3.5-37 近景 No.4 : 事業計画地東側道路(秋季)





【現況】



【供用後】

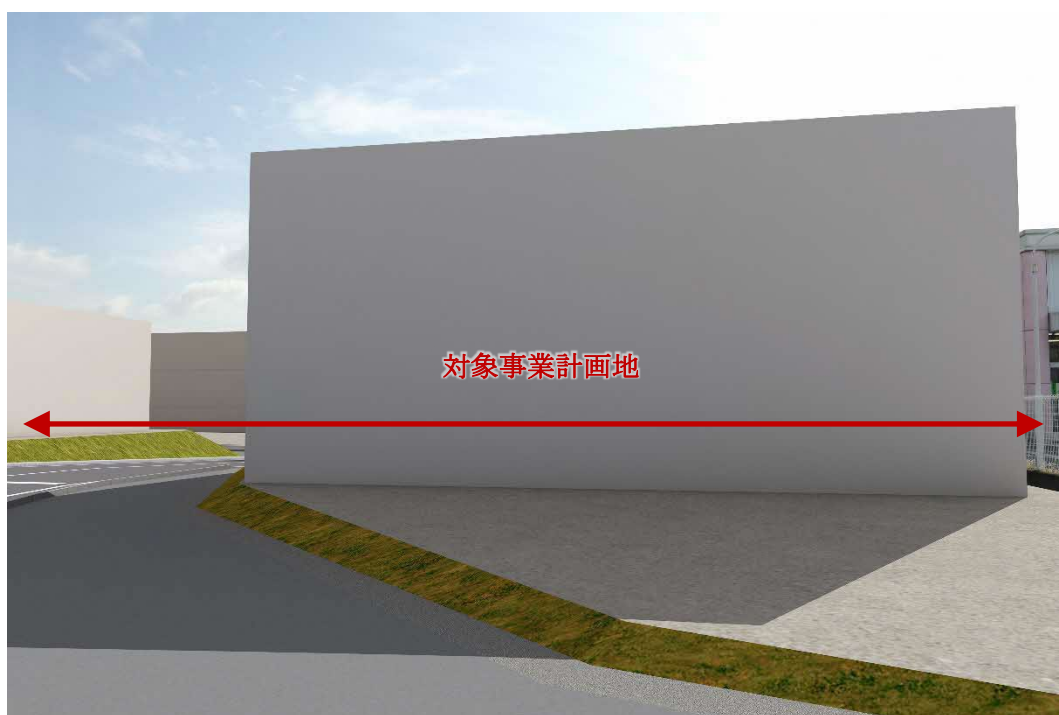


図 3.5-38 近景 No.5 : 事業計画地西側道路(秋季)



【現況】



【供用後】

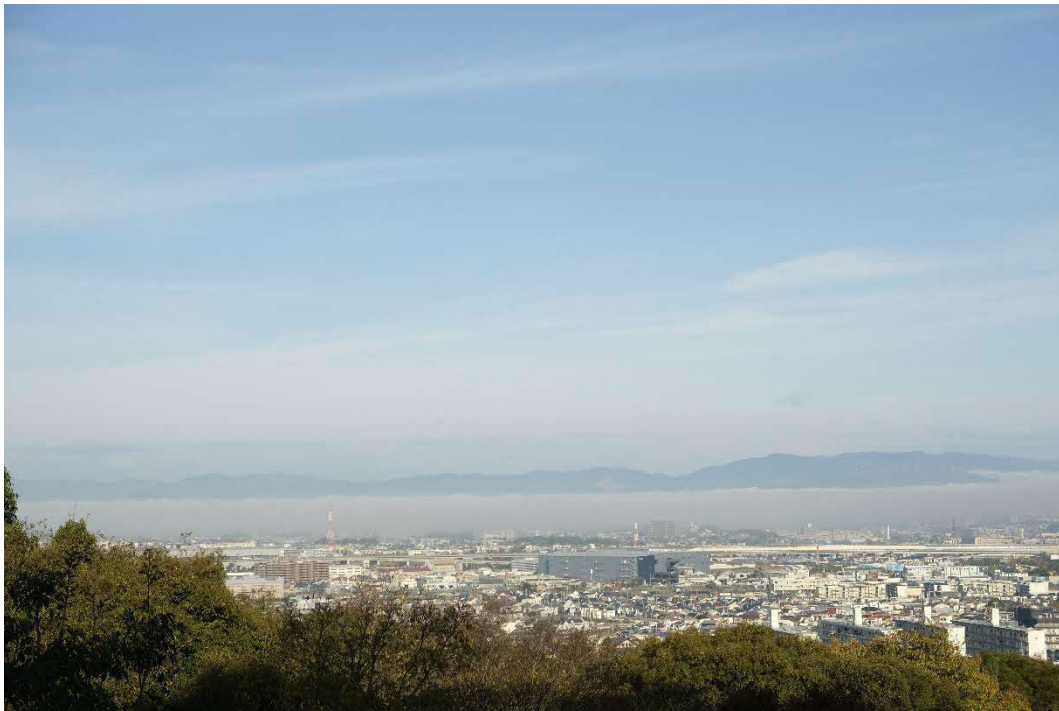


図 3.5-39 中景 No.6 : 寝屋川公園(秋季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-40 中景 No.7 : 星田妙見宮（小松神社）(秋季)





【現況】



【供用後】

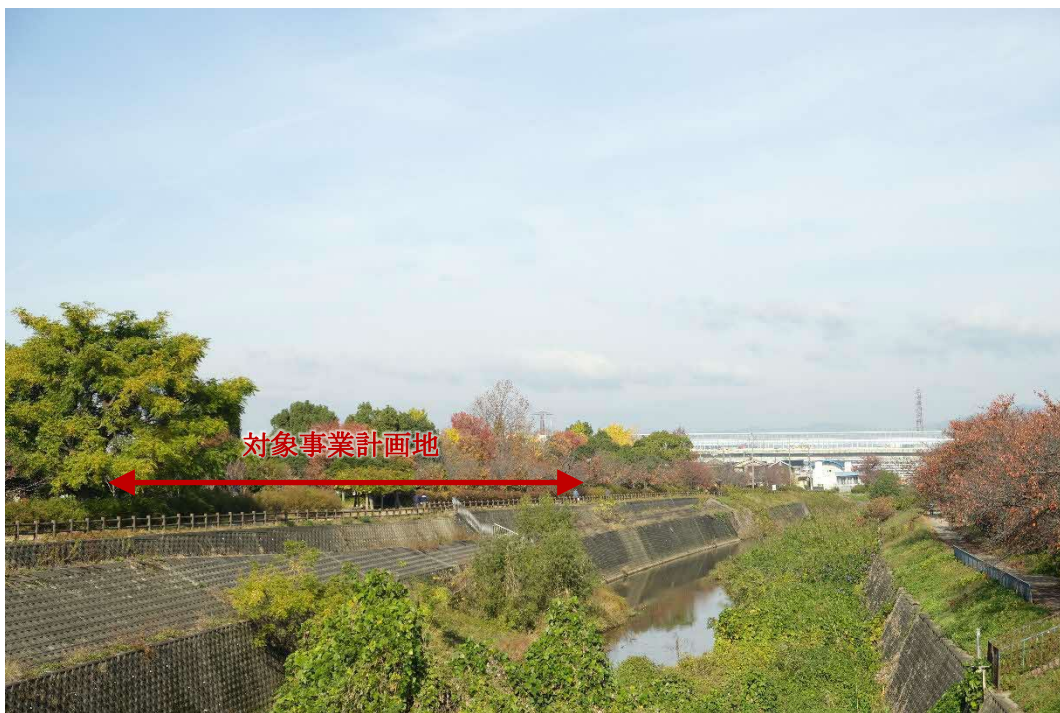


図 3.5-41 中景 No.8 : 天野川緑地（交野橋）(秋季)



【現況】



【供用後】



図 3.5-42 中景 No.9 : 交野市駅京阪交野ビル 3 階廊下(秋季)





【現況】



【供用後】



図 3.5-43 遠景 No.10 : 末広公園北側入口付近(秋季)





## 6) 評価の指針

施設等の存在に伴う景観の評価の指針は、表 3.5-13 に示すとおりである。

表 3.5-13 評価の指針

| 環境影響要因 |                | 評価の指針                                                                                                                                                                    |
|--------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設等の存在 | 産業・商業施設、住宅等の存在 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観形成について十分な配慮がなされていること。</li> <li>・ 環境基本計画及び枚方市環境基本計画等に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li> <li>・ 自然環境保全法に定める基準等に適合するものであること。</li> </ul> |

環境保全目標は、表 3.5-14 に示すとおり「景観法及び枚方市景観計画（第二京阪道路の沿道区域）の景観形成の方針と整合がとれたものとする」としている。

表 3.5-14 環境保全目標

| 環境保全目標                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築物及び屋根等の基調となる色彩は、著しく派手としないこと。</li> <li>・ 建築物等の外観は、周辺と馴染まない、著しく突出した意匠としないこと。</li> <li>・ 建築物及び付属するもののうち、屋外の敷地の外から見える場所に設置するものは、見苦しくならないよう工夫すること。</li> <li>・ 建築物及び付属するもののうち、外壁に設置するものは、見苦しくならないよう工夫すること。</li> </ul> |

## 7) 環境保全措置

施設等の存在に伴う眺望景観への影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 周辺景観との調和に配慮した建築物等の外観、外壁、色彩となるよう、産業・商業施設の事業者や地権者への周知に努める。
- ・ 屋外に設置する駐車場、駐輪場及びゴミ置き場等を敷地の外から見える場所に配置する場合は、植栽により修景し、又は建築物や塀と一体化する等により、見苦しくならないよう産業・商業施設の事業者や地権者への周知に努める。
- ・ 屋外に設置するダクト類、屋外階段、屋上設備等を設置する場合、敷地の外から見えにくい位置に配置し、又は建築物と一体化するよう産業・商業施設の事業者への周知に努める。
- ・ 敷地内には、緑を適切に配置するよう、産業・商業施設の事業者への周知に努める。
- ・ 街路灯、ガードレール等の施設のデザイン、形状及び色彩については、枚方市道路管理局と協議・検討し、周辺景観との調和に配慮したものとなるよう検討する。

## 8) 評価結果

予測の結果、近景の主要な眺望地点で田園景観から都市景観に変化すると予測される。

施設等の存在時に伴う景観について、前述した環境保全措置を講じ、景観法、枚方市景観計画（第二京阪道路沿道区域）の景観形成の方針との整合を図ることにより、環境影響をできる限り回避又は低減させた計画としている。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。

## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

- (1) 工事中の仮囲いに夜間用の照明を設置する予定があるか、また設置の予定がある場合はグレアにならない配慮を行う予定があるか事業者の説明を求めた。

## 【事業者回答】

意見を踏まえて必要な対応を実施していく予定です。

- (2) 景観の配慮について供用後に進出する事業者へどのように周知して求めていく方針であるのか事業者の説明を求めた。

## 【事業者回答】

枚方市住宅まちづくり課から景観アドバイザー制度の活用を求められています。本制度による助言を受けながら基盤整備を行っていきます。また、供用後に進出する事業者についても本制度による助言を受けながら建物を建設していく方針です。

## 【指摘事項】

- ・ 工事中のフォトモンタージュでは仮囲いに白いパネルが使用されています。周辺地域の景観との調和が取れるようパネルのデザイン等について検討すること。



### 3.6 文化財

#### 3.6.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

調査項目は、以下の内容としている。

- a. 文化財の状況
- b. 埋蔵文化財の指定状況

###### 2) 調査地域

調査地域は、事業計画地及びその周辺としている。

###### 3) 調査時期

調査は、最新の既存資料データが入手可能時期としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（「枚方市統計書 市内の指定・登録文化財」（令和5年3月、枚方市）、  
「交野市の指定・登録文化財」（令和3年3月、交野市）、「寝屋川市文化財一覧」（令和3年  
12月、寝屋川市））、「埋蔵文化財包蔵地分布図（大阪府地図情報システム）」（令和5年9月  
閲覧、大阪府）を収集・整理している。

###### 5) 調査結果

枚方市の指定文化財としては、国指定10件、府指定11件（無形文化財除く）、市指定28件  
が存在する。交野市の指定文化財としては、国指定3件、府指定1件、市指定が15件存在す  
る。寝屋川市の指定文化財としては、国指定4件、府指定3件、市指定が25件存在する。何れ  
も、事業計画地内には存在しない。

事業計画地及びその周辺には埋蔵文化財包蔵地が存在し、その位置及び範囲は、表 3.6-1、図  
3.6-1 に示すとおりである。

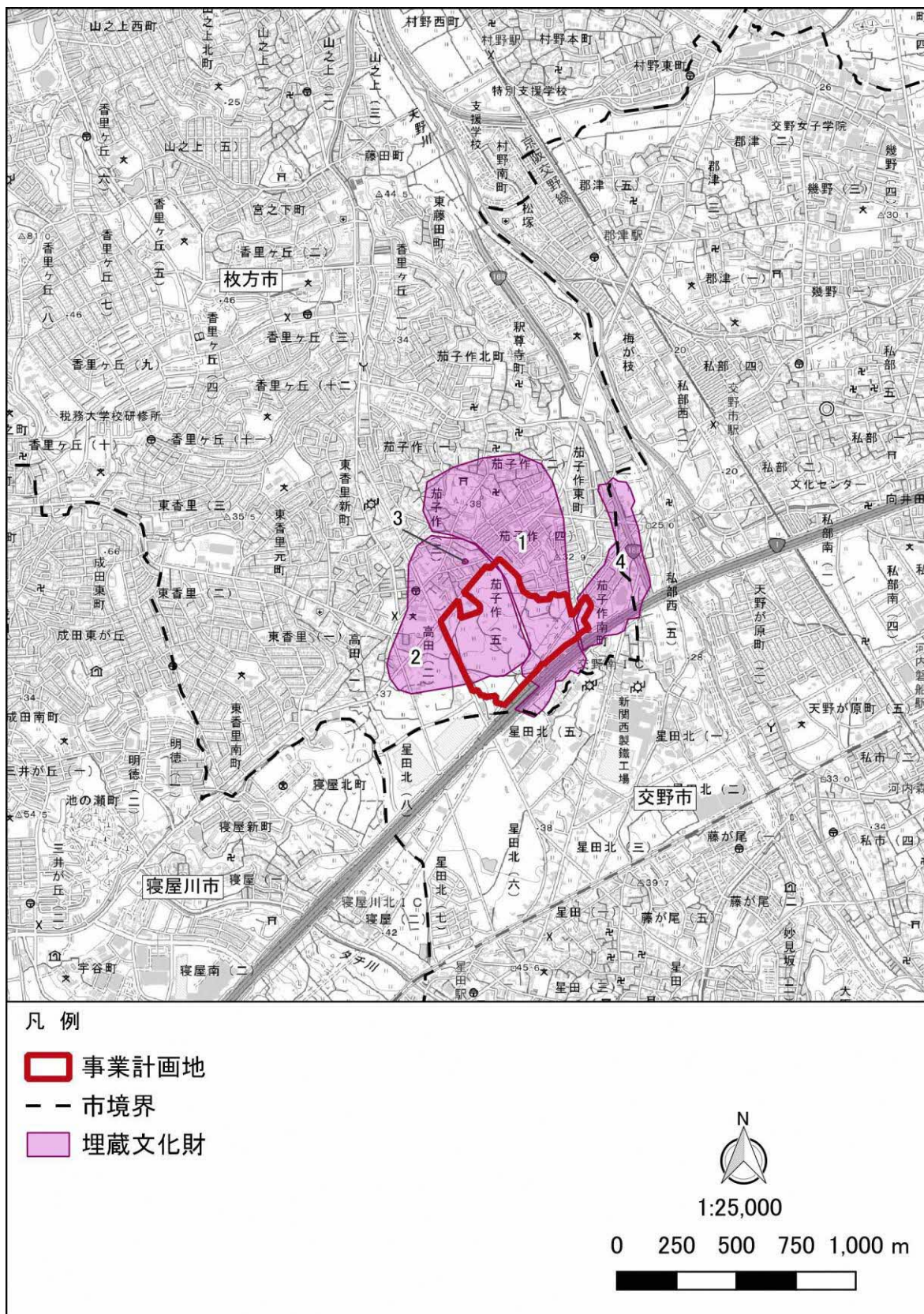
事業計画地内には、茄子作遺跡、茄子作下浦遺跡及び上の山遺跡が位置している。

表 3.6-1 事業計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地の状況

| 番号 | 名称      | 市     | 指定状況  |
|----|---------|-------|-------|
| 1  | 茄子作遺跡   | 枚方    | 埋蔵文化財 |
| 2  | 茄子作下浦遺跡 | 枚方    | 埋蔵文化財 |
| 3  | 大將軍塚古墳  | 枚方    | 埋蔵文化財 |
| 4  | 上の山遺跡   | 枚方、交野 | 埋蔵文化財 |

注)1. 番号は、図 3.6-1 に対応している。

2. 「大阪府地図情報提供システム」（大阪府）をもとに作成



注)1. 「大阪府地図情報提供システム」(大阪府)をもとに作成

図 3.6-1 事業計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地位置

### 3.6.2 予測及び評価

#### (1) 工事の実施が文化財及び埋蔵文化財に及ぼす影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、工事の実施に伴う文化財及び埋蔵文化財包蔵地の改変の程度としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域は、事業計画地区域内としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事中としている。

##### 4) 予測方法

予測方法は、埋蔵文化財包蔵地の位置と茄子作地区の施工計画を重ね合わせ、改変の位置・程度を定性的に予測している。

##### 5) 予測結果

事業計画地は、茄子作遺跡、茄子作下浦遺跡及び上の山遺跡の 3 箇所の埋蔵文化財包蔵地に位置する。

工事の実施に伴い土地を改変する際に、これらの埋蔵文化財に影響を及ぼすことが考えられる。そのため、工事の実施に際しては、文化財部局等の関係機関と協議を行い、必要な手続き等を踏まえながら進めていくものとする。

#### 1) 評価の指針

工事の実施に伴う文化財及び埋蔵文化財に及ぼす影響の評価の指針は、表 3.6-2 に示すとおりである。

表 3.6-2 評価の指針

| 環境影響要因 |      | 評価の指針                                                                                                                                                                                                 |
|--------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施  | 造成工事 | <ul style="list-style-type: none"><li>・環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</li><li>・環境基本計画及び枚方市環境基本計画等に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li><li>・文化財保護法、大阪府文化財保護条例及び枚方市文化財保護条例に定める規制基準等に適合するものであること。</li></ul> |

環境保全目標は、表 3.6-3 に示すとおり「埋蔵文化財包蔵地に著しい影響を及ぼさないこと」としている。

表 3.6-3 環境保全目標

| 環境保全目標                  |
|-------------------------|
| 埋蔵文化財包蔵地に著しい影響を及ぼさないこと。 |



## 2) 環境保全措置

工事の実施に伴う文化財及び埋蔵文化財に及ぼす影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 事業計画地内に、茄子作遺跡、茄子作下浦遺跡、上の山遺跡が存在することから、枚方市文化財部局に工事内容等の届出を行い、工事の実施前に「文化財保護法」に基づく発掘調査（確認調査）を行い、工事内容で遺跡への影響が有ると判断される場合は本発掘調査を行う。確認調査で本発掘調査の必要がないと判断された場合は、工事中の立会調査を行うことにより、適切な保全措置を講じる。
- ・ 工事中に新たな埋蔵文化財を発見した場合には、枚方市文化財部局に直ちに届出を行い、「文化財保護法」に基づき調査（発掘調査、立会調査等）の必要な措置を講じる。

## 3) 評価結果

造成工事に伴い埋蔵文化財包蔵地に影響を生じさせる可能性はあるが、事業計画地の大半は盛土で計画されている。

また、工事の実施前には「文化財保護法」に基づき調査等を行い適切な保全措置を講じ、工事中においては新たな埋蔵文化財を発見した場合には、関係機関に直ちに届出を行い、「文化財保護法」に基づき調査等の必要な措置を講じることから、埋蔵文化財は適切に保全されると予測される。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。

## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である

## 【指摘事項】

・特になし

### 3.7 動物

#### 3.7.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

- ・動物相の状況
- ・重要な種および注目すべき種、その生息地の分布及び特徴

###### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地及び周辺地域としている。

###### 3) 調査時期

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、以下の既存資料を収集整理している。

- ・「第6回自然環境調査（枚方ふるさといきもの調査）」（平成31年3月 枚方市）
- ・「寝屋川市の鳥類、水生生物調査について」（寝屋川市環境総務課、聞き取り日：令和3年11月19日）
- ・「過去にみられた水生生物」（寝屋川市環境総務課ホームページ、閲覧日：令和4年8月12日）
- ・「交野野鳥の会広報誌」（交野市環境衛生課、閲覧日：令和3年11月30日）

###### 5) 調査結果

調査結果は、準備書「第2章 地域の概況 2.3 自然環境 2.3.4 生物 (1)動物」に示すとおりである。



## (2) 現地調査

### 1) 調査項目

- ・動物相の状況
- ・重要な種および注目すべき種、その生息地の分布及び特徴

### 2) 調査地域・地点

調査地域について、陸上動物（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、陸上昆虫類）は事業計画地約 19.7ha の範囲とし、淡水生物（底生動物、魚類、浮遊生物及び水生昆虫類）は事業計画地約 19.7ha の範囲と江尻川 2 地点としている（図 3.7-1～図 3.7-9 参照）。

### 3) 調査時期・頻度

調査時期・頻度は、表 3.7-1 に示す期間としている。

表 3.7-1 動物の現況調査時期・頻度

| 現況調査項目 | 調査時期・頻度                                                         | 調査期間                                                                                                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 哺乳類    | <事業計画地><br>6 回<br>(早春季※、春季、初夏季※、<br>夏季、秋季、冬季)<br>※：両爬調査時に補足的に実施 | 早春季：令和 4 年 3 月 7～9 日<br>春季：令和 4 年 5 月 9～11 日<br>初夏季：令和 4 年 6 月 13～15 日<br>夏季：令和 4 年 8 月 8～10 日<br>秋季：令和 4 年 10 月 3～5 日<br>冬季：令和 4 年 12 月 5～7 日 |
| 鳥類     | <事業計画地><br>4 回<br>(春季、初夏季、秋季、冬季)                                | 春季：令和 4 年 4 月 22 日<br>初夏季：令和 4 年 6 月 17 日<br>秋季：令和 4 年 9 月 27 日<br>冬季：令和 4 年 2 月 14 日                                                          |
| 両生類    | <事業計画地><br>4 回<br>(早春季、春季、初夏季、秋季)                               | 早春季：令和 4 年 3 月 7～9 日<br>春季：令和 4 年 5 月 9～10 日<br>初夏季：令和 4 年 6 月 13～15 日<br>秋季：令和 4 年 10 月 3～5 日                                                 |
| 爬虫類    | <事業計画地><br>4 回<br>(早春季、春季、初夏季、秋季)                               | 早春季：令和 4 年 3 月 7～9 日<br>春季：令和 4 年 5 月 9～10 日<br>初夏季：令和 4 年 6 月 13～15 日<br>秋季：令和 4 年 10 月 3～5 日                                                 |
| 陸上昆虫類  | <事業計画地><br>3 回<br>(春季、夏季、秋季)                                    | 春季：令和 4 年 5 月 17 日<br>夏季：令和 4 年 8 月 9 日<br>秋季：令和 4 年 10 月 5 日                                                                                  |

表 3.7-2 動物の現況調査時期・頻度

| 現況調査項目                  | 調査時期・頻度                        | 調査期間                                                         |
|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 底生動物                    | <事業計画地><br>2回<br>(早春季(冬季)、初夏季) | 早春季：令和4年12月5日<br>初夏季：令和4年6月23日                               |
|                         | <江尻川><br>2回<br>(早春季、初夏季)       | 早春季：令和4年2月25日<br>初夏季：令和4年6月23日                               |
| 魚類                      | <事業計画地><br>2回<br>(春季、秋季)       | 春季：令和4年5月27日<br>秋季：令和4年10月25日                                |
|                         | <江尻川><br>2回<br>(春季、秋季)         | 春季：令和4年5月27日<br>秋季：令和4年10月25日                                |
| 浮遊生物(植物プランクトン、動物プランクトン) | <事業計画地><br>4回<br>(春季、夏季、秋季、冬季) | 春季：令和4年5月26日<br>夏季：令和4年8月8日<br>秋季：令和4年10月25日<br>冬季：令和4年2月24日 |
|                         | <江尻川><br>4回<br>(春季、夏季、秋季、冬季)   | 春季：令和4年5月26日<br>夏季：令和4年8月8日<br>秋季：令和4年10月25日<br>冬季：令和4年2月24日 |
| 水生昆虫類                   | <事業計画地><br>1回<br>(夏季)          | 夏季：令和4年8月8日                                                  |
|                         | <江尻川><br>1回<br>(夏季)            | 夏季：令和4年8月8日                                                  |

#### 4) 調査方法

調査方法は、表 3.7-3 に示す方法で実施している。

表 3.7-3 動物の現況調査方法

| 現況調査項目                  | 調査方法                                                                      |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 哺乳類                     | 現地調査<br>・ 目撃調査（無人撮影を含む）<br>・ 捕獲法（シャーマントラップ）<br>・ フィールドサイン法<br>・ バットディテクター |
| 鳥類                      | 現地調査<br>・ ラインセンサス法<br>・ 定点記録法<br>・ 任意観察法                                  |
| 両生類                     | 現地調査<br>・ 目撃調査<br>・ 捕獲法                                                   |
| 爬虫類                     | 現地調査<br>・ 目撃調査<br>・ 捕獲法                                                   |
| 陸上昆虫類                   | 現地調査<br>・ 任意採集法<br>・ 捕獲法（ベイトトラップ・ライトトラップ）                                 |
| 底生動物                    | 現地調査<br>・ 定性採集法<br>・ 定量採集法                                                |
| 魚類                      | 現地調査<br>・ 定性採集法<br>・ 目視観察調査                                               |
| 浮遊生物（植物プランクトン、動物プランクトン） | 現地調査<br>・ 採水法                                                             |
| 水生昆虫類                   | 現地調査<br>・ 定性採集法                                                           |



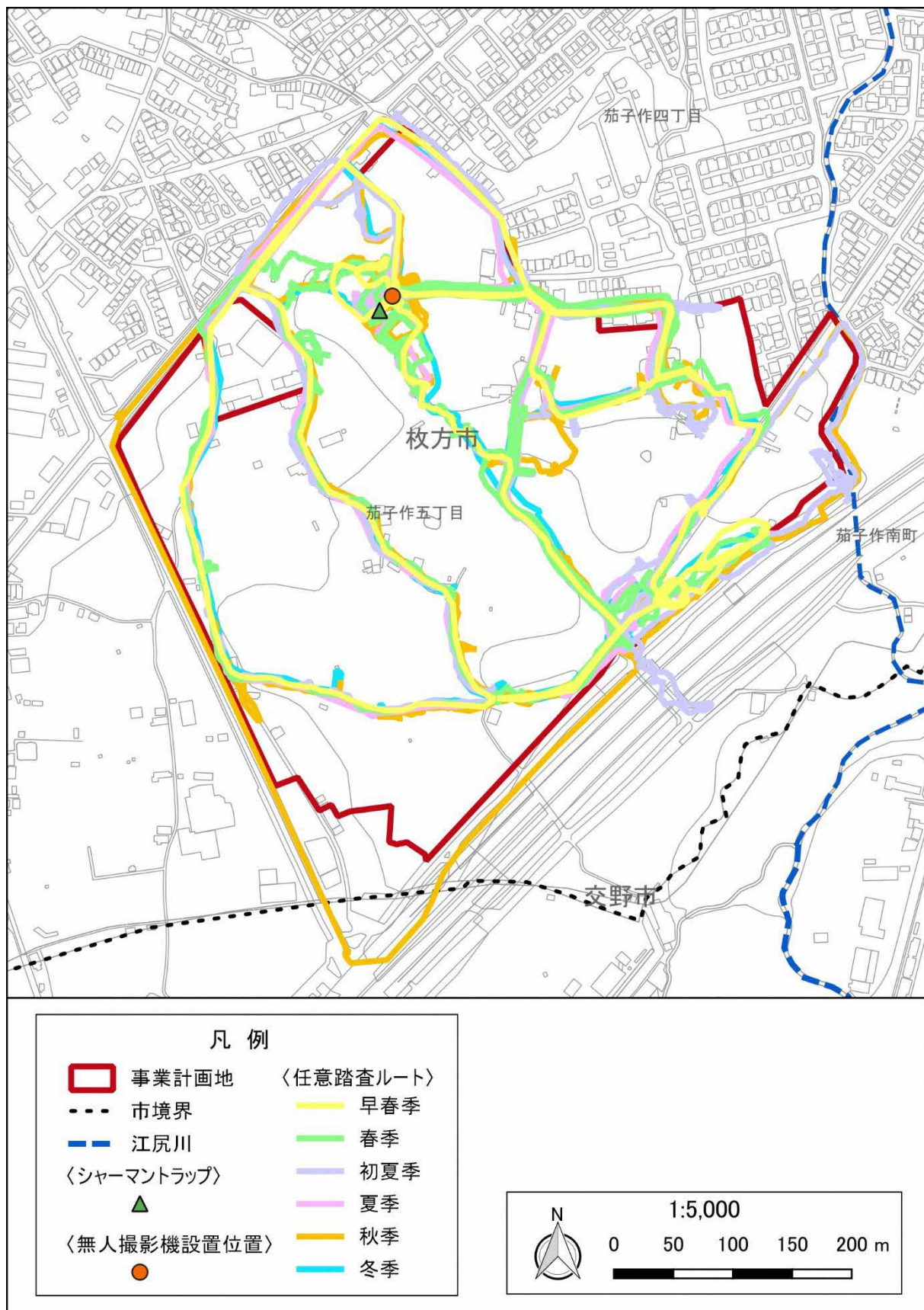


図 3.7-1 哺乳類 現地調査位置

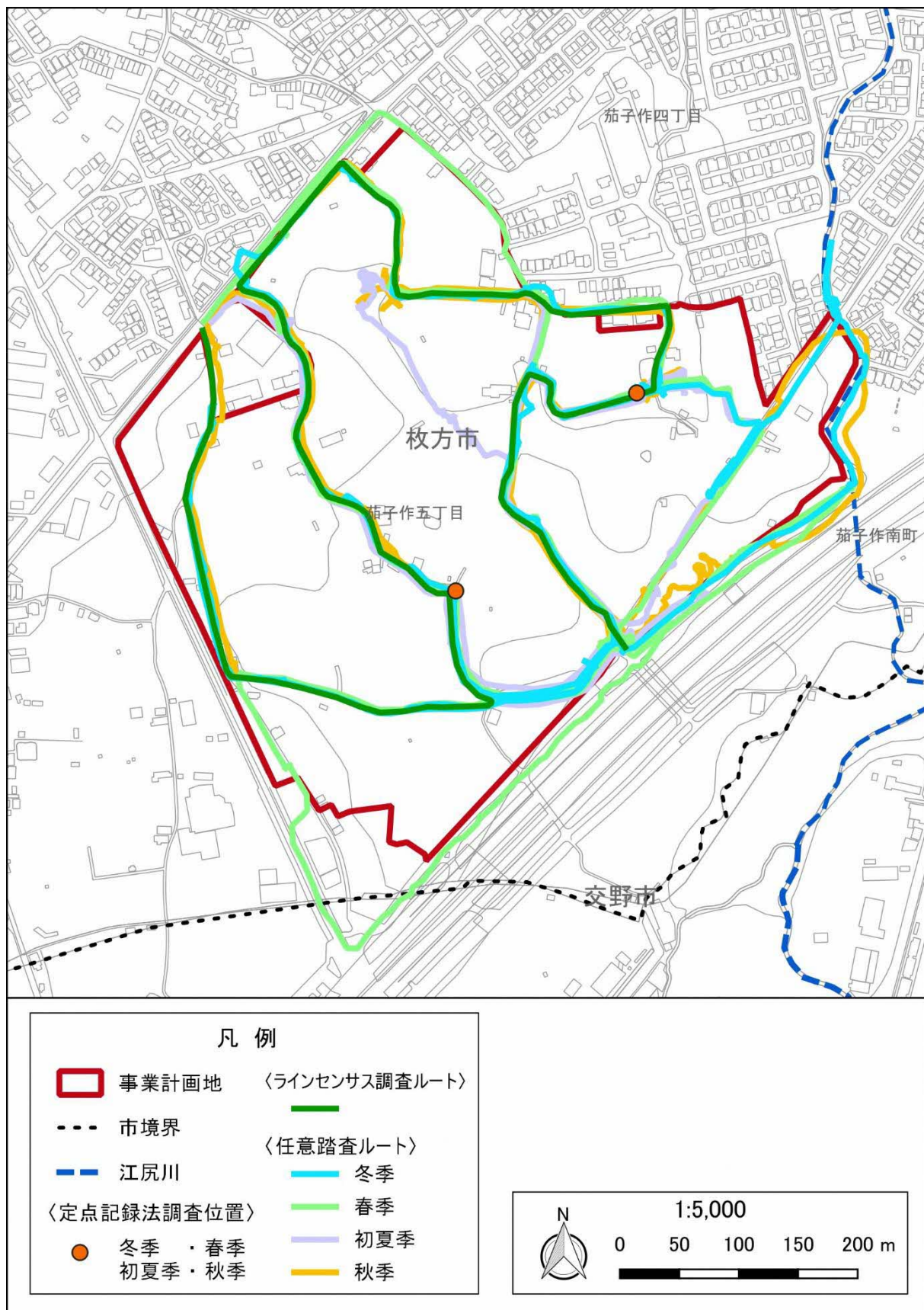


図 3.7-2 鳥類 現地調査位置





図 3.7-3 両生類 現地調査位置





図 3.7-4 爬虫類 現地調査位置



図 3.7-5 陸上昆虫類 現地調査位置



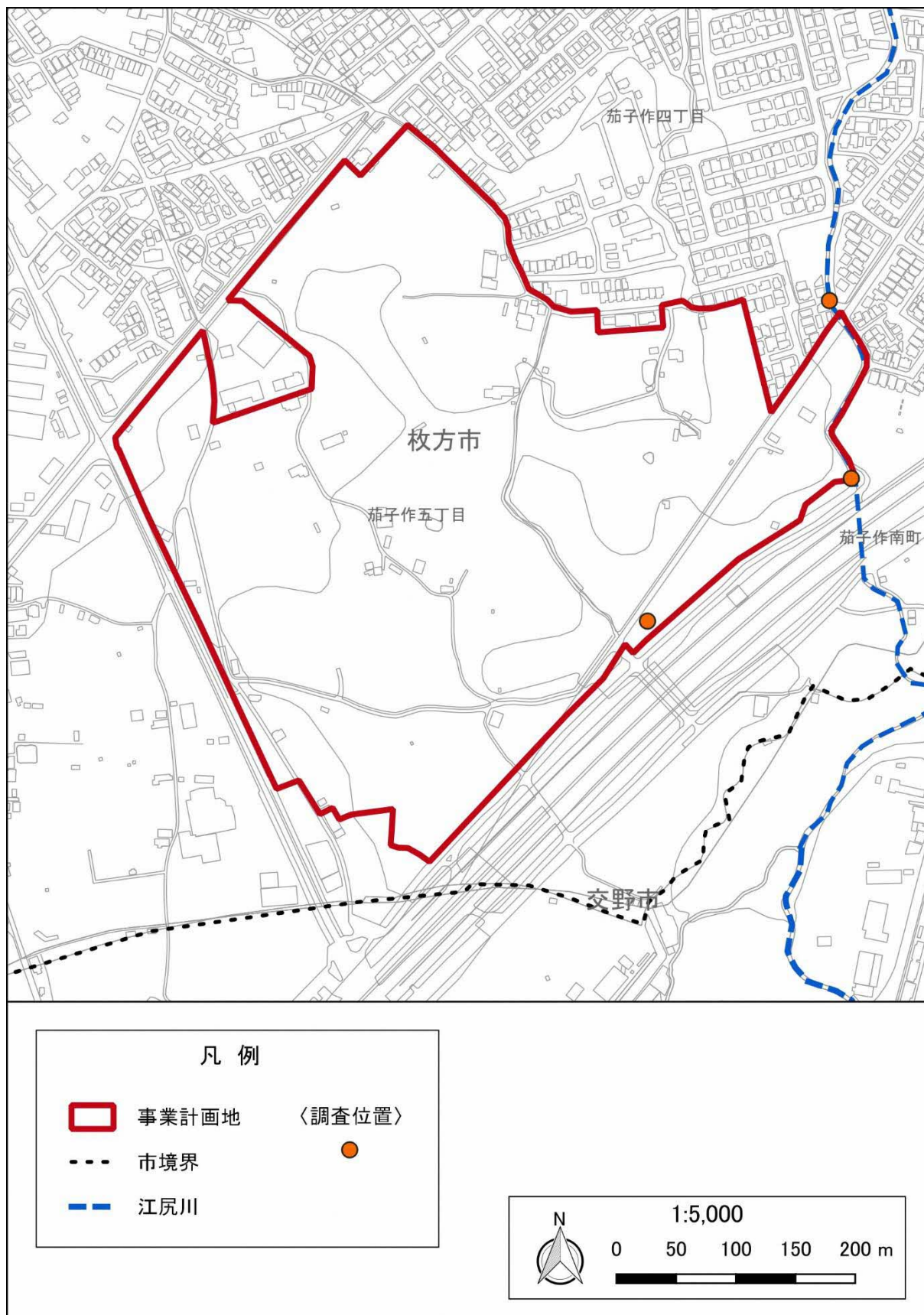


図 3.7-6 底生動物 現地調査位置



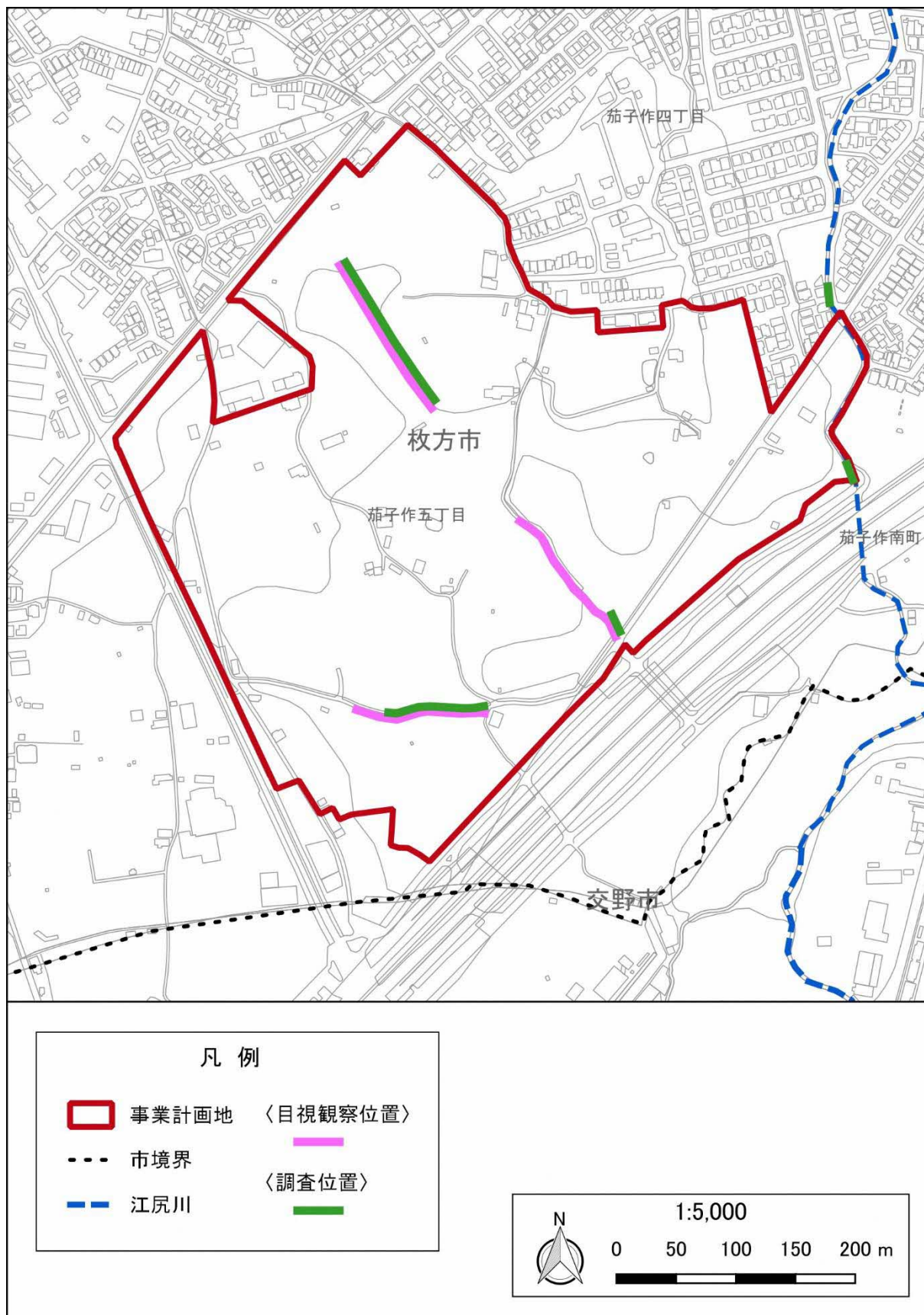


図 3.7-7 魚類 現地調査位置

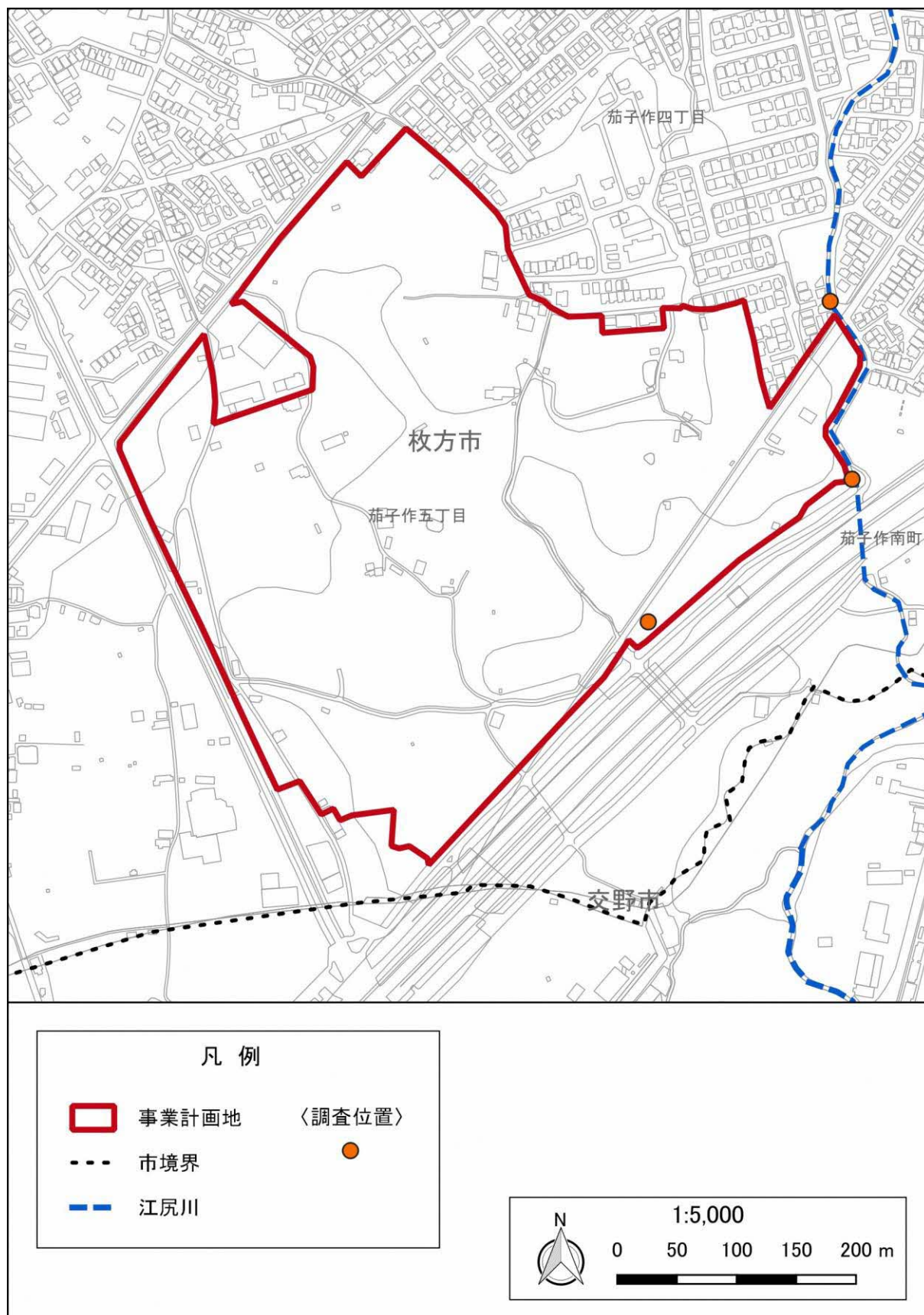


図 3.7-8 浮遊生物 現地調査位置



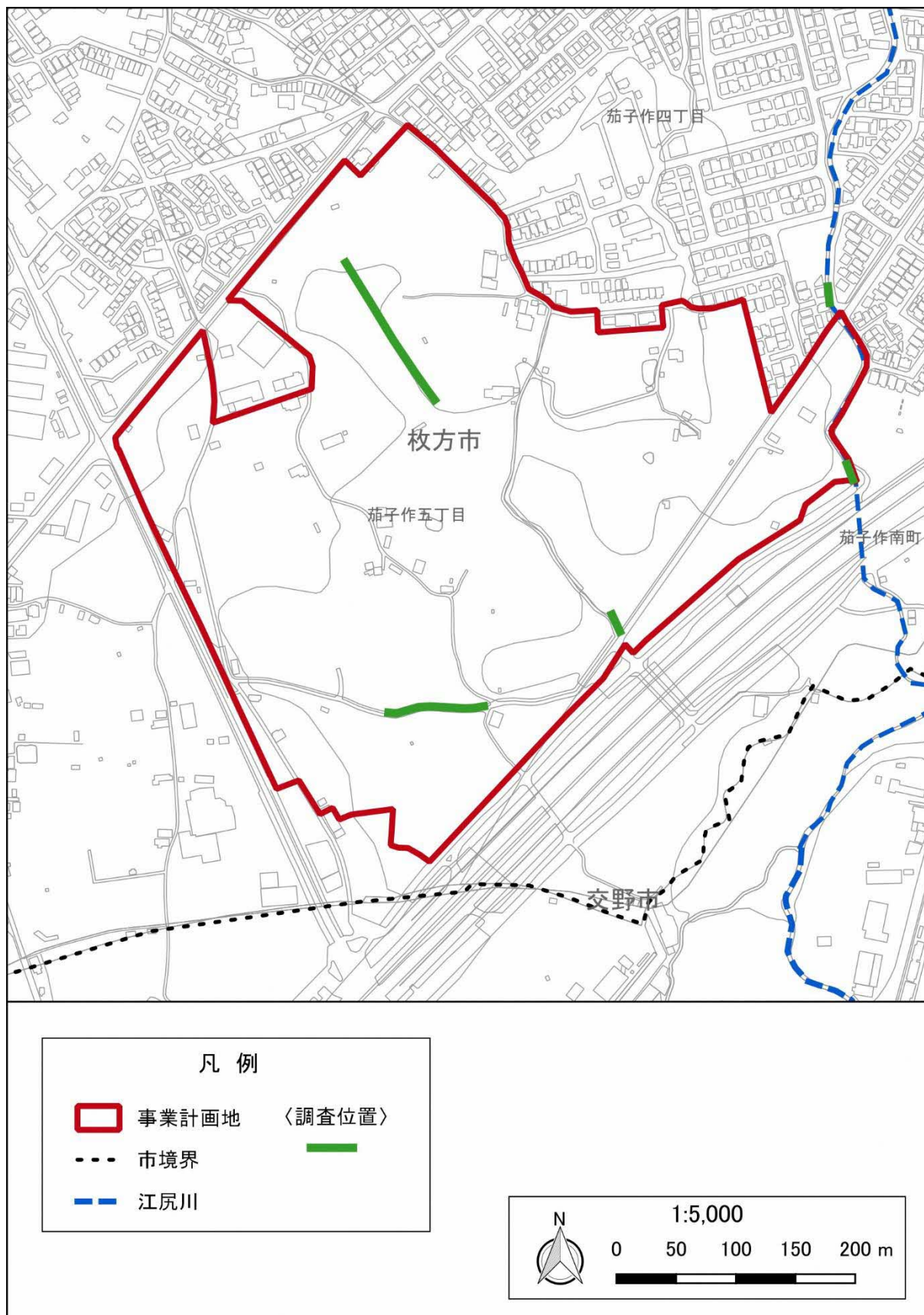


図 3.7-9 水生昆虫 現地調査位置



## 5) 調査結果

### a) 哺乳類

現地調査により、表 3.7-4 に示す 4 目 7 科 8 種の哺乳類を確認している。

表 3.7-4 哺乳類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名    | 科名      | 種名          | 調査時期 |     |     |     |     |     |
|-----|-------|---------|-------------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
|     |       |         |             | 早春   | 春   | 初夏  | 夏   | 秋   | 冬   |
| 1   | モグラ目  | モグラ科    | コウベモグラ      | ○    | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   |
| 2   | コウモリ目 | ヒナコウモリ科 | ヒナコウモリ科の一種※ |      |     | ○   | ○   | ○   |     |
| 3   | ネズミ目  | ネズミ科    | アカネズミ       |      | ○   | ○   |     |     | ○   |
| 4   |       |         | カヤネズミ       | ○    | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   |
| 5   | ネコ目   | アライグマ科  | アライグマ       | ○    | ○   |     | ○   | ○   | ○   |
| 6   |       | イヌ科     | タヌキ         | ○    | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   |
| 7   |       | イタチ科    | イタチ属の一種※    | ○    | ○   |     | ○   | ○   | ○   |
| 8   |       | ジャコウネコ科 | ハクビシン       |      |     | ○   |     | ○   |     |
| 合計  | 4 目   | 7 科     | 8 種         | 5 種  | 6 種 | 6 種 | 6 種 | 7 種 | 6 種 |

※1 種名および分類は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 4 年度生物リスト）」（令和 4 年、国土交通省）に準じた。

※2 ヒナコウモリ科の一種は、周波数、確認環境、分布情報等から、アブラコウモリと思われる。

※3 イタチ属の一種は、イタチまたはチョウセンイタチの可能性があり、イタチ（大阪府ではニホンイタチに該当）は大阪府の VU、チョウセンイタチは重点対策外来種に該当する。

### b) 鳥類

現地調査により、表 3.7-5(1)～(2)に示す 10 目 23 科 39 種の鳥類を確認している。

表 3.7-5 (1) 鳥類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名    | 科名   | 種名         | 調査時期 |   |    |   |
|-----|-------|------|------------|------|---|----|---|
|     |       |      |            | 冬    | 春 | 初夏 | 秋 |
| 1   | カモ目   | カモ科  | カルガモ       | ○    | ○ |    |   |
| 2   | ハト目   | ハト科  | カワラバト(ドバト) | ○    | ○ | ○  | ○ |
| 3   |       |      | キジバト       | ○    | ○ | ○  | ○ |
| 4   | ペリカン目 | サギ科  | ササゴイ       |      |   | ○  |   |
| 5   |       |      | アマサギ       |      |   | ○  |   |
| 6   |       |      | アオサギ       | ○    | ○ | ○  | ○ |
| 7   |       |      | ダイサギ       |      |   | ○  | ○ |
| 8   |       |      | コサギ        | ○    |   | ○  |   |
| 9   | ツル目   | クイナ科 | ヒクイナ       |      | ○ |    |   |
| 10  | チドリ目  | チドリ科 | ケリ         | ○    | ○ | ○  |   |

表 3.7-5 (2) 鳥類確認種一覧 (現地調査)

| No. | 目名      | 科名      | 種名      | 調査時期 |      |      |      |
|-----|---------|---------|---------|------|------|------|------|
|     |         |         |         | 冬    | 春    | 初夏   | 秋    |
| 11  | タカ目     | タカ科     | トビ      | ○    |      |      |      |
| 12  |         |         | オオタカ    | ○    |      |      |      |
| 13  | ブッポウソウ目 | カワセミ科   | カワセミ    |      |      |      | ○    |
| 14  | キツツキ目   | キツツキ科   | コゲラ     |      |      | ○    | ○    |
| 15  | ハヤブサ目   | ハヤブサ科   | チョウゲンボウ |      | ○    | ○    | ○    |
| 16  | スズメ目    | モズ科     | モズ      | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 17  |         | カラス科    | ハシボソガラス | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 18  |         |         | ハシブトガラス | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 19  |         | シジュウカラ科 | シジュウカラ  | ○    |      | ○    |      |
| 20  |         | ツバメ科    | ツバメ     |      | ○    | ○    |      |
| 21  |         |         | イワツバメ   |      | ○    | ○    |      |
| 22  |         | ヒヨドリ科   | ヒヨドリ    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 23  |         | エナガ科    | エナガ     | ○    |      |      |      |
| 24  |         | メジロ科    | メジロ     |      | ○    | ○    | ○    |
| 25  |         | ヨシキリ科   | オオヨシキリ  |      |      | ○    |      |
| 26  |         | ムクドリ科   | ムクドリ    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 27  |         |         | コムクドリ   |      |      |      | ○    |
| 28  |         | ヒタキ科    | シロハラ    | ○    |      |      |      |
| 29  |         |         | ツグミ     | ○    | ○    |      |      |
| 30  |         |         | ジョウビタキ  | ○    |      |      |      |
| 31  |         |         | イソヒヨドリ  | ○    | ○    |      | ○    |
| 32  |         | スズメ科    | スズメ     | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 33  |         | セキレイ科   | キセキレイ   |      |      |      | ○    |
| 34  |         |         | ハクセキレイ  | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 35  |         |         | セグロセキレイ | ○    |      |      |      |
| 36  |         | アトリ科    | カワラヒワ   | ○    | ○    | ○    |      |
| 37  |         |         | シメ      | ○    |      |      |      |
| 38  |         | ホオジロ科   | ホオジロ    | ○    |      |      |      |
| 39  |         |         | アオジ     | ○    |      |      |      |
| 合計  | 10 目    | 23 科    | 39 種    | 26 種 | 20 種 | 23 種 | 18 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (令和4年度生物リスト)」(令和4年、国土交通省) に準じた。

c) 両生類・爬虫類

現地調査により、表 3.7-6 に示す 3 目 9 科 9 種の両生類・爬虫類を確認している。

表 3.7-6 両生類・爬虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名  | 科名     | 種名           | 調査時期 |     |     |     |
|-----|-----|-----|--------|--------------|------|-----|-----|-----|
|     |     |     |        |              | 早春   | 春   | 初夏  | 秋   |
| 1   | 両生綱 | 無尾目 | アマガエル科 | ニホンアマガエル     | ○    |     | ○   |     |
| 2   |     |     | アカガエル科 | ウシガエル        |      | ○   | ○   | ○   |
| 3   |     |     | ヌマガエル科 | ヌマガエル        |      | ○   | ○   | ○   |
| 4   | 爬虫綱 | カメ目 | イシガメ科  | クサガメ         |      | ○   | ○   | ○   |
| 5   |     |     | ヌマガメ科  | ミシシippアカミミガメ |      |     | ○   |     |
| 6   |     | 有鱗目 | ヤモリ科   | ニホンヤモリ       |      |     |     | ○   |
| 7   |     |     | トカゲ科   | ニホントカゲ       |      |     |     | ○   |
| 8   |     |     | カナヘビ科  | ニホンカナヘビ      |      |     | ○   | ○   |
| 9   |     |     | ナミヘビ科  | シマヘビ         |      |     |     | ○   |
| 合計  | 2 綱 | 3 目 | 9 科    | 9 種          | 1 種  | 3 種 | 6 種 | 7 種 |

※1 種名および分類は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 4 年度生物リスト）」（令和 4 年、国土交通省）に準じた。

d) 陸上昆虫類

現地調査により、表 3.7-7(1)～(15)に示す 14 目 139 科 425 種の陸上昆虫類を確認している。

表 3.7-7 (1) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名         | 科名         | 種名                   | 調査時期 |   |   |
|-----|------------|------------|----------------------|------|---|---|
|     |            |            |                      | 春    | 夏 | 秋 |
| 1   | カゲロウ（蜉蝣）目  | コカゲロウ科     | フタバカゲロウ              | ○    |   |   |
| 2   | トンボ（蜻蛉）目   | イトトンボ科     | アジイトトンボ              |      | ○ |   |
| 3   |            | トンボ科       | ショウジョウトンボ            |      | ○ |   |
| 4   |            |            | ハラビロトンボ              | ○    |   |   |
| 5   |            |            | シオカラトンボ              | ○    | ○ | ○ |
| 6   |            |            | ウスバキトンボ              |      | ○ | ○ |
| 7   | ゴキブリ（網翅）目  | チャバネゴキブリ科  | モリチャバネゴキブリ           | ○    |   | ○ |
| 8   | カマキリ（螳螂）目  | カマキリ科      | <i>Tenodera</i> 属の一種 |      | ○ |   |
| 9   | ハサミムシ（革翅）目 | マルムネハサミムシ科 | ヒゲジロハサミムシ            |      |   | ○ |
| 10  |            |            | コバネハサミムシ             | ○    |   | ○ |



表 3.7-7 (2) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名         | 科名        | 種名                       | 調査時期 |   |   |
|-----|------------|-----------|--------------------------|------|---|---|
|     |            |           |                          | 春    | 夏 | 秋 |
| 11  | バッタ（直翅）目   | ツユムシ科     | ツユムシ                     |      |   | ○ |
| 12  |            | キリギリス科    | ウスイロササキリ                 |      |   | ○ |
| 13  |            |           | オナガササキリ                  |      |   | ○ |
| 14  |            |           | ホシササキリ                   |      |   | ○ |
| 15  |            |           | <i>Eobiana</i> 属の一種      | ○    |   |   |
| 16  |            |           | ニシキリギリス                  |      | ○ |   |
| 17  |            | マツムシ科     | アオマツムシ                   |      |   | ○ |
| 18  |            | コオロギ科     | <i>Loxoblemmus</i> 属の一種  |      |   | ○ |
| 19  |            |           | エンマコオロギ                  |      | ○ | ○ |
|     |            |           | <i>Teleogryllus</i> 属の一種 |      | ○ |   |
| 20  |            |           | ツツレサセコオロギ                |      |   | ○ |
|     |            |           | コオロギ科                    |      |   | ○ |
| 21  |            | ヒバリモドキ科   | マダラスズ                    |      |   | ○ |
| 22  |            |           | シバスズ                     |      |   | ○ |
| 23  |            | バッタ科      | ショウリョウバッタ                |      | ○ | ○ |
| 24  |            |           | マダラバッタ                   |      |   | ○ |
| 25  |            |           | クルマバッタ                   |      | ○ |   |
| 26  |            |           | イボバッタ                    |      | ○ |   |
| 27  |            | イナゴ科      | ハネナガイナゴ                  |      | ○ |   |
| 28  |            |           | コバネイナゴ                   |      |   | ○ |
| 29  |            | オンブバッタ科   | アカハネオンブバッタ               |      | ○ | ○ |
| 30  |            | ヒシバッタ科    | トゲヒシバッタ                  | ○    | ○ |   |
| 31  |            |           | ハネナガヒシバッタ                |      |   | ○ |
| 32  |            |           | ハラヒシバッタ                  | ○    |   |   |
| 33  |            |           | ヤセヒシバッタ                  |      | ○ |   |
| 34  | カジリムシ（咀嚼）目 | ケチャタテ科    | <i>Valenzuela</i> 属の一種   | ○    |   | ○ |
| 35  |            | ウスイロチャタテ科 | ブリッグスウスイロチャタテ            | ○    |   |   |
| 36  |            | マドチャタテ科   | <i>Peripsocus</i> 属の一種   | ○    |   |   |
| 37  |            | ホソチャタテ科   | ホソチャタテ                   | ○    |   |   |
| 38  | カメムシ（半翅）目  | ウンカ科      | セジロウンカ                   |      |   | ○ |
| 39  |            |           | セジロウンカモドキ                |      |   | ○ |
| 40  |            |           | セスジウンカ                   |      |   | ○ |

表 3.7-7 (3) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名            | 科名       | 種名                    | 調査時期 |   |   |
|-----|---------------|----------|-----------------------|------|---|---|
|     |               |          |                       | 春    | 夏 | 秋 |
| 41  | カメムシ（半翅）<br>目 | ウンカ科     | コブウンカ                 | ○    |   |   |
|     |               |          | ウンカ科の一種               |      |   | ○ |
| 42  |               | アオバハゴロモ科 | トビイロハゴロモ              |      | ○ |   |
| 43  |               | シマウンカ科   | シマウンカ                 |      | ○ | ○ |
| 44  |               | ハゴロモ科    | ベッコウハゴロモ              |      | ○ |   |
| 45  |               |          | アミガサハゴロモ              |      |   | ○ |
|     |               |          | <i>Pochazia</i> 属の一種  |      |   | ○ |
| 46  |               | グンバイウンカ科 | ミドリグンバイウンカ            |      | ○ | ○ |
| 47  |               | セミ科      | クマゼミ                  |      | ○ |   |
| 48  |               |          | アブラゼミ                 |      | ○ |   |
| 49  |               |          | ツクツクボウシ               |      | ○ |   |
| 50  |               |          | ニイニイゼミ                |      | ○ |   |
| 51  |               | ツノゼミ科    | トビイロツノゼミ              |      |   | ○ |
| 52  |               | アワフキムシ科  | ハマベアワフキ               |      | ○ |   |
| 53  |               | ヨコバイ科    | カンキツヒメヨコバイ            |      |   | ○ |
| 54  |               |          | オオヨコバイ                | ○    |   |   |
| 55  |               |          | ヨツモンコヒメヨコバイ           |      | ○ | ○ |
| 56  |               |          | クロミヤクイチモンジヨコバイ        |      |   | ○ |
| 57  |               |          | ヒメフタテンウスバヨコバイ         | ○    |   |   |
| 58  |               |          | ツマグロヨコバイ              |      |   | ○ |
| 59  |               |          | <i>Pagaronia</i> 属の一種 | ○    |   |   |
| 60  |               |          | <i>Penthimia</i> 属の一種 |      | ○ |   |
| 61  |               |          | クロスジホソサジヨコバイ          |      |   | ○ |
|     |               |          | ヨコバイ科の一種              | ○    | ○ | ○ |
| 62  |               | ヒメキジラミ科  | センダンコクロキジラミ           |      | ○ | ○ |
| 63  |               | キジラミ科    | クワキジラミ                | ○    |   |   |
| 64  |               | サシガメ科    | キイロサシガメ               |      |   | ○ |
| 65  |               | グンバイムシ科  | アワダチソウグンバイ            | ○    | ○ | ○ |
| 66  |               |          | ヤブガラシグンバイ             | ○    |   |   |
| 67  |               |          | ツツジグンバイ               | ○    |   |   |

表 3.7-7 (4) 陸上昆虫類確認種一覧(現地調査)

| No. | 目名        | 科名         | 種名                     | 調査時期 |   |   |
|-----|-----------|------------|------------------------|------|---|---|
|     |           |            |                        | 春    | 夏 | 秋 |
| 68  | カメムシ(半翅)目 | ハナカメムシ科    | ナミヒメハナカメムシ             | ○    | ○ |   |
|     |           |            | <i>Orius</i> 属の一種      | ○    |   |   |
| 69  |           | カスミカメムシ科   | ナカグロカスミカメ              | ○    | ○ |   |
| 70  |           |            | ツマグロアオカスミカメ            | ○    |   |   |
| 71  |           |            | <i>Campylomma</i> 属の一種 |      |   | ○ |
| 72  |           |            | オオホシチビカスミカメ            | ○    |   |   |
| 73  |           |            | ハギメンガタカスミカメ            |      |   | ○ |
| 74  |           |            | アカスジカスミカメ              | ○    | ○ | ○ |
| 75  |           |            | ウスモンミドリカスミカメ           |      | ○ | ○ |
| 76  |           |            | イネホソミドリカスミカメ           | ○    |   | ○ |
| 77  |           | マキバサシガメ科   | <i>Nabis</i> 属の一種      |      |   | ○ |
| 78  |           | オオホシカメムシ科  | オオホシカメムシ               | ○    |   |   |
| 79  |           | ホソヘリカメムシ科  | クモヘリカメムシ               |      | ○ | ○ |
| 80  |           |            | ホソヘリカメムシ               | ○    | ○ | ○ |
| 81  |           | ヘリカメムシ科    | ホソハリカメムシ               | ○    | ○ | ○ |
| 82  |           | ヒメヘリカメムシ科  | スカシヒメヘリカメムシ            |      |   | ○ |
| 83  |           |            | コブチヒメヘリカメムシ            | ○    |   |   |
| 84  |           |            | ブチヒメヘリカメムシ             |      | ○ |   |
| 85  |           | イトカメムシ科    | イトカメムシ                 |      | ○ |   |
| 86  |           | ナガカメムシ科    | ヒメオオメナガカメムシ            | ○    |   | ○ |
| 87  |           |            | オオメナガカメムシ              | ○    | ○ |   |
| 88  |           |            | ツマベニヒメナガカメムシ           |      |   | ○ |
| 89  |           |            | セスジヒメナガカメムシ            |      | ○ |   |
| 90  |           |            | ヒメナガカメムシ               |      | ○ |   |
|     |           |            | <i>Nysius</i> 属の一種     |      | ○ | ○ |
| 91  |           |            | ヒゲナガカメムシ               | ○    |   |   |
| 92  |           | メダカナガカメムシ科 | メダカナガカメムシ              | ○    | ○ |   |
| 93  |           | カメムシ科      | ウズラカメムシ                |      | ○ |   |
| 94  |           |            | ブチヒゲカメムシ               | ○    | ○ | ○ |
| 95  |           |            | キマダラカメムシ               | ○    | ○ | ○ |



表 3.7-7 (5) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名               | 科名        | 種名                        | 調査時期 |   |   |
|-----|------------------|-----------|---------------------------|------|---|---|
|     |                  |           |                           | 春    | 夏 | 秋 |
| 96  | カメムシ（半翅）<br>目    | カメムシ科     | ツヤアオカメムシ                  | ○    |   |   |
| 97  |                  |           | ミナミアオカメムシ                 | ○    |   |   |
| 98  |                  |           | チャバネアオカメムシ                | ○    |   |   |
| 99  |                  |           | イネクロカメムシ                  | ○    |   |   |
| 100 |                  | アメンボ科     | アメンボ                      |      | ○ | ○ |
| 101 |                  | イトアメンボ科   | オキナワイトアメンボ                |      | ○ |   |
| 102 |                  | カタビロアメンボ科 | ケシカタビロアメンボ属の一種            |      |   | ○ |
| 103 |                  | ミズムシ科     | オモナガコミズムシ                 |      | ○ |   |
| 104 |                  |           | エサキコミズムシ                  |      | ○ |   |
|     |                  |           | コミズムシ属の一種                 |      | ○ |   |
| 105 |                  | マツモムシ科    | コマツモムシ                    |      | ○ |   |
| 106 |                  | マルミズムシ科   | マルミズムシ                    |      | ○ |   |
| 107 | アミメカゲロウ<br>（脈翅）目 | ミズカゲロウ科   | ミズカゲロウ                    | ○    |   |   |
| 108 |                  | クサカゲロウ科   | ヤマトクサカゲロウ                 | ○    |   |   |
| 109 |                  |           | ムモンクサカゲロウ                 |      | ○ |   |
| 110 |                  |           | フタモンクサカゲロウ                | ○    | ○ |   |
|     |                  |           | <i>Pseudomallada</i> 属の一種 | ○    |   |   |
| 111 |                  | コナカゲロウ科   | キバラコナカゲロウ                 | ○    |   |   |
| 112 | トビケラ（毛翅）<br>目    | クダトビケラ科   | ヒメクダトビケラ属の一種              |      |   | ○ |
| 113 |                  | ヒメトビケラ科   | マツイヒメトビケラ                 |      | ○ | ○ |
| 114 | チョウ（鱗翅）目         | ミノガ科      | ネグロミノガ                    |      |   | ○ |
| 115 |                  | ハマキガ科     | ウスコカクモンハマキ                | ○    |   |   |
| 116 |                  |           | チャハマキ                     |      | ○ |   |
| 117 |                  |           | フタモンコハマキ                  |      |   | ○ |
| 118 |                  | セセリチョウ科   | イチモンジセセリ                  |      |   | ○ |
| 119 |                  |           | チャバネセセリ                   |      |   | ○ |
| 120 |                  | シジミチョウ科   | ムラサキシジミ                   |      | ○ |   |
| 121 |                  |           | ツバメシジミ                    |      | ○ | ○ |
| 122 |                  |           | ウラナミシジミ                   |      |   | ○ |
| 123 |                  |           | ベニシジミ                     |      |   | ○ |
| 124 |                  |           | ヤマトシジミ本土亜種                | ○    | ○ | ○ |

表 3.7-7 (6) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名       | 科名      | 種名            | 調査時期 |   |   |
|-----|----------|---------|---------------|------|---|---|
|     |          |         |               | 春    | 夏 | 秋 |
| 125 | チョウ（鱗翅）目 | タテハチョウ科 | ツマグロヒョウモン     |      | ○ | ○ |
| 126 |          |         | ヒカゲチョウ        |      |   | ○ |
| 127 |          |         | アサマイチモンジ      | ○    | ○ |   |
| 128 |          |         | サトキマダラヒカゲ     | ○    | ○ |   |
| 129 |          |         | ヒメアカタテハ       |      |   | ○ |
| 130 |          |         | ヒメウラナミジャノメ    | ○    |   |   |
| 131 |          | アゲハチョウ科 | アオスジアゲハ       |      |   | ○ |
| 132 |          |         | キアゲハ          |      | ○ | ○ |
| 133 |          |         | アゲハ           |      | ○ | ○ |
| 134 |          | シロチョウ科  | モンキチョウ        | ○    |   | ○ |
| 135 |          |         | キタキチョウ        |      |   | ○ |
| 136 |          |         | モンシロチョウ       | ○    | ○ | ○ |
| 137 |          | トリバガ科   | シラホシトリバ       |      |   | ○ |
| 138 |          | ツトガ科    | ツトガ           |      | ○ | ○ |
| 139 |          |         | イツトガ          | ○    |   |   |
| 140 |          |         | ナカモンツトガ       | ○    |   |   |
| 141 |          |         | キアヤヒメノメイガ     | ○    |   | ○ |
| 142 |          |         | チビスカシノメイガ     | ○    |   |   |
| 143 |          |         | ワモンノメイガ       | ○    |   |   |
| 144 |          |         | アワノメイガ        |      | ○ |   |
| 145 |          |         | オナモミノメイガ本土亜種  | ○    |   |   |
| 146 |          |         | マエアカスカシノメイガ   | ○    |   |   |
| 147 |          |         | シバツトガ         | ○    |   | ○ |
| 148 |          |         | シロオビノメイガ      |      |   | ○ |
| 149 |          | シャクガ科   | ナミガタエダシャク     | ○    |   |   |
| 150 |          |         | フタツメオオシロヒメシャク |      | ○ |   |
| 151 |          |         | マエキヒメシャク      | ○    |   |   |
| 152 |          |         | ナミスジチビヒメシャク   | ○    | ○ |   |
| 153 |          |         | キナミシロヒメシャク    | ○    |   |   |
| 154 |          |         | ベニスジヒメシャク     |      |   | ○ |
| 155 |          | スズメガ科   | オオスカシバ        |      |   | ○ |

表 3.7-7 (7) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名       | 科名      | 種名                          | 調査時期 |   |   |
|-----|----------|---------|-----------------------------|------|---|---|
|     |          |         |                             | 春    | 夏 | 秋 |
| 156 | チョウ（鱗翅）目 | ヤガ科     | フクラスズメ                      | ○    |   |   |
| 157 |          |         | シロテンウスグロヨトウ                 | ○    |   |   |
| 158 |          |         | テンウスイロヨトウ                   | ○    |   |   |
| 159 |          |         | エゾギクキンウワバ                   |      |   | ○ |
| 160 |          |         | ギンスジキンウワバ                   |      |   | ○ |
| 161 |          |         | オオシラナミアツバ                   | ○    | ○ | ○ |
| 162 |          |         | ウラジロアツバ                     | ○    |   |   |
| 163 |          |         | オオウンモンクチバ                   |      | ○ |   |
| 164 |          |         | フタオビキヨトウ                    | ○    |   |   |
| 165 |          |         | フタオビコヤガ                     |      | ○ |   |
| 166 |          |         | ニセタマナヤガ                     | ○    |   |   |
| 167 |          |         | マエホシヨトウ                     |      |   | ○ |
| 168 |          |         | ハスオビヒメアツバ                   | ○    |   |   |
| 169 |          |         | イネヨトウ                       | ○    |   |   |
| 170 |          | コブガ科    | クロスジシロコブガ                   | ○    |   |   |
| 171 | ハエ（双翅）目  | ヒメガガンボ科 | <i>Antocha bifida</i>       |      |   | ○ |
| 172 |          |         | <i>Atypophthalmus</i> 属の一種  |      |   | ○ |
| 173 |          |         | ホソバネヒメガガンボ                  |      |   | ○ |
| 174 |          |         | エリオプテラ属の一種                  |      |   | ○ |
| 175 |          |         | <i>Idiocera</i> 属の一種        |      |   | ○ |
| 176 |          |         | <i>Ilisia</i> 属の一種          |      | ○ |   |
| 177 |          |         | モロフィルス属                     | ○    |   | ○ |
| 178 |          |         | <i>Phylidorea</i> 属の一種      | ○    |   |   |
| 179 |          |         | <i>Rhipidia</i> 属の一種        | ○    |   |   |
| 180 |          |         | <i>Styringomyia</i> 属の一種    | ○    | ○ | ○ |
| 181 |          | ガガンボ科   | マエキガガンボ                     | ○    |   |   |
| 182 |          |         | <i>Nephrotoma flammeola</i> | ○    |   |   |
| 183 |          |         | <i>Nephrotoma geminata</i>  | ○    |   | ○ |
| 184 |          |         | キイロホソガガンボ                   | ○    |   |   |
| 185 |          |         | キリウジガガンボ                    | ○    |   | ○ |
|     |          |         | ガガンボ属の一種                    | ○    |   |   |
| 186 |          | チョウバエ科  | チョウバエ科の一種                   | ○    |   | ○ |
| 187 |          | ヌカカ科    | ヌカカ科の一種                     | ○    |   | ○ |
| 188 |          | ケヨソイカ科  | フサカ属の一種                     |      |   | ○ |



表 3.7-7 (8) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名      | 科名         | 種名                     | 調査時期 |   |   |
|-----|---------|------------|------------------------|------|---|---|
|     |         |            |                        | 春    | 夏 | 秋 |
| 189 | ハエ（双翅）目 | ユスリカ科      | フチグロユスリカ               |      |   | ○ |
| 190 |         |            | ヤマトユスリカ                | ○    |   |   |
| 191 |         |            | セスジユスリカ                | ○    |   |   |
| 192 |         |            | イシガキユスリカ               | ○    |   |   |
| 193 |         |            | フタスジツヤユスリカ             | ○    |   |   |
| 194 |         |            | ナカオビツヤユスリカ             | ○    |   | ○ |
| 195 |         |            | ミツオビツヤユスリカ             | ○    |   | ○ |
|     |         |            | ツヤユスリカ属の一種             |      |   | ○ |
| 196 |         |            | ムナトゲエリユスリカ属の一種         |      | ○ |   |
| 197 |         |            | ヒロバネエリユスリカ             | ○    |   |   |
| 198 |         |            | シロアシユスリカ               | ○    |   |   |
| 199 |         |            | ウスイロカユスリカ              | ○    |   | ○ |
| 200 |         |            | クロバヌマユスリカ              |      | ○ |   |
| 201 |         |            | カタジロナガレツヤユスリカ          | ○    |   | ○ |
| 202 |         |            | ヒメクロユスリカ               |      |   | ○ |
| 203 |         |            | カスリモンユスリカ              |      |   | ○ |
| 204 |         |            | オオヤマヒゲユスリカ             | ○    | ○ | ○ |
| 205 |         |            | オナガヒゲユスリカ              | ○    |   |   |
|     |         |            | ユスリカ科の一種               | ○    |   | ○ |
| 206 |         | カ科         | ヤブカ属の一種                | ○    |   |   |
| 207 |         | キノコバエモドキ科  | シワバネキノコバエ              |      |   | ○ |
| 208 |         | ケバエ科       | <i>Plecia</i> 属の一種     | ○    |   |   |
| 209 |         | トゲナシケバエ科   | ヒメトゲナシケバエ              | ○    |   |   |
| 210 |         | クロバネキノコバエ科 | <i>Bradysia</i> 属の一種   |      |   | ○ |
| 211 |         |            | <i>Lycoriella</i> 属の一種 | ○    |   |   |
|     |         |            | クロバネキノコバエ科の一種          | ○    |   |   |
| 212 |         | ミズアブ科      | アメリカミズアブ               |      | ○ |   |
| 213 |         |            | ハラキンミズアブ               | ○    |   | ○ |
| 214 |         |            | コウカアブ                  |      | ○ | ○ |
| 215 |         | アシナガバエ科    | ナミアシナガバエ属の一種           | ○    |   | ○ |
| 216 |         |            | <i>Sciapus</i> 属の一種    |      | ○ |   |
|     |         |            | アシナガバエ科の一種             | ○    | ○ | ○ |

表 3.7-7 (9) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名      | 科名        | 種名                        | 調査時期 |   |   |
|-----|---------|-----------|---------------------------|------|---|---|
|     |         |           |                           | 春    | 夏 | 秋 |
| 217 | ハエ（双翅）目 | ハナアブ科     | ホソヒラタアブ                   |      |   | ○ |
| 218 |         |           | キゴシハナアブ                   |      |   | ○ |
| 219 |         |           | ナミホシヒラタアブ                 | ○    |   |   |
| 220 |         |           | フタホシヒラタアブ                 | ○    |   |   |
| 221 |         |           | <i>Melanostoma</i> 属の一種   | ○    |   |   |
| 222 |         |           | シマアシブトハナアブ                |      | ○ |   |
| 223 |         |           | キアシマメヒラタアブ                | ○    |   |   |
| 224 |         |           | オオハナアブ                    | ○    |   |   |
| 225 |         |           | ミナミヒメヒラタアブ                | ○    | ○ |   |
| 226 |         |           | ホソヒメヒラタアブ                 | ○    | ○ | ○ |
| 227 |         | ハモグリバエ科   | ハモグリバエ科の一種                | ○    |   |   |
| 228 |         | キモグリバエ科   | <i>Conioscinella</i> 属の一種 |      |   | ○ |
| 229 |         |           | セアカモモブトキモグリバエ             | ○    |   |   |
| 230 |         |           | <i>Rhodesiella</i> 属の一種   |      | ○ |   |
|     |         |           | キモグリバエ科の一種                | ○    |   |   |
| 231 |         | ショウジョウバエ科 | コフキヒメショウジョウバエ             | ○    |   |   |
|     |         |           | ショウジョウバエ科の一種              | ○    |   |   |
| 232 |         | ミギワバエ科    | ニノミヤトビクチミギワバエ             |      | ○ | ○ |
| 233 |         |           | ミナミカマバエ                   |      | ○ |   |
| 234 |         |           | シロヌリワライミギワバエ              | ○    |   |   |
| 235 |         |           | キイロヤッコミギワバエ               |      | ○ |   |
| 236 |         |           | トキワクロツヤミギワバエ              | ○    |   |   |
| 237 |         |           | フトハマダラミギワバエ               | ○    |   |   |
| 238 |         |           | ホソハマダラミギワバエ               |      | ○ |   |
| 239 |         | シマバエ科     | <i>Eudorylas</i> 属の一種     |      |   | ○ |
| 240 |         |           | <i>Homoneura</i> 属の一種     | ○    |   | ○ |
| 241 |         |           | <i>Steganopsis</i> 属の一種   | ○    |   |   |
| 242 |         | クロコバエ科    | ミナミクロコバエ                  |      | ○ |   |
| 243 |         | ハネフリバエ科   | ハネフリバエ                    |      | ○ |   |
| 244 |         | ヒロクチバエ科   | <i>Rivellia</i> 属の一種      | ○    | ○ |   |
| 245 |         | ヤチバエ科     | ヒゲナガヤチバエ                  | ○    | ○ | ○ |
| 246 |         |           | ヒガシヒゲナガヤチバエ               |      | ○ |   |

表 3.7-7 (10) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名         | 科名      | 種名                       | 調査時期 |   |   |
|-----|------------|---------|--------------------------|------|---|---|
|     |            |         |                          | 春    | 夏 | 秋 |
| 247 | ハエ（双翅）目    | ツヤホソバエ科 | ナミヒトテンツヤホソバエ             | ○    |   |   |
| 248 |            | ミバエ科    | ネッタイヒメクロミバエ              |      |   | ○ |
|     |            |         | ミバエ科の一種                  |      |   | ○ |
| 249 |            | ハナバエ科   | ハナバエ科の一種                 | ○    |   |   |
| 250 |            | クロバエ科   | ミドリキンバエ                  |      | ○ |   |
| 251 |            |         | ツマグロキンバエ                 | ○    | ○ | ○ |
| 252 |            | イエバエ科   | ギョウギシバクキイエバエ             |      |   | ○ |
|     |            |         | <i>Atherigona</i> 属の一種   |      | ○ |   |
| 253 |            |         | アシマダラハナレメイエバエ            |      |   | ○ |
| 254 |            |         | シナホソカトリバエ                |      | ○ | ○ |
| 255 |            |         | <i>Lispocephala</i> 属の一種 | ○    |   |   |
| 256 |            |         | ヘリグロハナレメイエバエ             | ○    |   |   |
| 257 |            |         | <i>Phaonia</i> 属の一種      | ○    |   |   |
| 258 |            | ニクバエ科   | ゲンロクニクバエ                 | ○    |   |   |
| 259 |            |         | トリオニクバエ                  |      | ○ |   |
| 260 |            |         | ナミニクバエ                   | ○    |   |   |
| 261 |            |         | ツシマニクバエ                  |      | ○ |   |
| 262 |            | ヤドリバエ科  | ヤドリバエ科の一種                | ○    |   | ○ |
| 263 | コウチュウ（鞘翅）目 | オサムシ科   | オオマルガタゴミムシ               |      |   | ○ |
| 264 |            |         | ナガマルガタゴミムシ               | ○    | ○ |   |
| 265 |            |         | キベリゴモクムシ                 |      | ○ |   |
| 266 |            |         | トックリゴミムシ                 |      | ○ |   |
| 267 |            |         | ウスモンコミズギワゴミムシ            |      |   | ○ |
| 268 |            | ゲンゴロウ科  | ホソセスジゲンゴロウ               |      | ○ |   |
| 269 |            |         | ハイイロゲンゴロウ                |      | ○ |   |
| 270 |            |         | チビゲンゴロウ                  |      | ○ |   |
| 271 |            | ガムシ科    | ゴマフガムシ                   |      | ○ |   |
| 272 |            |         | セマルガムシ                   |      |   | ○ |
| 273 |            |         | キイロヒラタガムシ                |      | ○ |   |
| 274 |            |         | ルイスヒラタガムシ                |      | ○ | ○ |
| 275 |            |         | コガムシ                     |      | ○ |   |
| 276 |            |         | マメガムシ                    |      | ○ |   |
| 277 |            |         | ヒメガムシ                    |      | ○ |   |



表 3.7-7 (11) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名              | 科名        | 種名              | 調査時期 |   |   |
|-----|-----------------|-----------|-----------------|------|---|---|
|     |                 |           |                 | 春    | 夏 | 秋 |
| 278 | コウチュウ<br>(鞘翅) 目 | ハネカクシ科    | ニセヒメユミセミゾハネカクシ  |      | ○ | ○ |
| 279 |                 |           | ヒメトガリハネカクシ      |      |   | ○ |
| 280 |                 |           | クロズトガリハネカクシ     |      |   | ○ |
| 281 |                 |           | ウスアカバホソハネカクシ    |      |   | ○ |
| 282 |                 |           | アオバアリガタハネカクシ    | ○    | ○ | ○ |
| 283 |                 |           | ニセヒゲナガコガシラハネカクシ | ○    |   |   |
| 284 |                 |           | チビヒメクビボソハネカクシ   |      |   | ○ |
|     |                 |           | ハネカクシ科の一種       | ○    |   |   |
| 285 |                 | マルハナノミ科   | トビイロマルハナノミ      | ○    |   | ○ |
| 286 |                 | コガネムシ科    | アオドウガネ          |      | ○ |   |
| 287 |                 |           | カタモンコガネ         | ○    |   |   |
| 288 |                 |           | セマダラコガネ         | ○    |   |   |
| 289 |                 |           | コアオハナムグリ        | ○    | ○ | ○ |
| 290 |                 |           | マメコガネ           |      | ○ |   |
| 291 |                 | ヒラタドロムシ科  | チビヒゲナガハナノミ      | ○    |   |   |
| 292 |                 | ナガハナノミ科   | ヒゲナガハナノミ        | ○    |   |   |
| 293 |                 | タマムシ科     | ヒシモンナガタマムシ      | ○    |   | ○ |
| 294 |                 |           | ムネアカナガタマムシ      | ○    |   |   |
| 295 |                 |           | クズノチビタマムシ       |      |   | ○ |
| 296 |                 |           | コウゾチビタマムシ       | ○    |   |   |
| 297 |                 |           | ナミガタチビタマムシ      | ○    |   |   |
| 298 |                 |           | ウメチビタマムシ        | ○    |   |   |
| 299 |                 |           | アカガネチビタマムシ      |      |   | ○ |
| 300 |                 | コメツキムシ科   | サビキコリ           |      | ○ |   |
| 301 |                 |           | クロクシコメツキ        | ○    |   |   |
| 302 |                 | ジョウカイボン科  | セボシジョウカイ        | ○    |   |   |
| 303 |                 | ジョウカイモドキ科 | ヒロオビジョウカイモドキ    |      | ○ |   |
| 304 |                 |           | キアシオビジョウカイモドキ   |      |   | ○ |
| 305 |                 | テントウムシ科   | ハラグロオオテントウ      | ○    |   |   |
| 306 |                 |           | ナナホシテントウ        | ○    | ○ | ○ |
| 307 |                 |           | フタモンクロテントウ      | ○    |   |   |
| 308 |                 |           | ナミテントウ          | ○    | ○ |   |

表 3.7-7 (12) 陸上昆虫類確認種一覧 (現地調査)

| No. | 目名           | 科名       | 種名                | 調査時期 |   |   |
|-----|--------------|----------|-------------------|------|---|---|
|     |              |          |                   | 春    | 夏 | 秋 |
| 309 | コウチュウ (鞘翅) 目 | テントウムシ科  | ニジュウヤホシテントウ       |      | ○ |   |
| 310 |              |          | ジュウサンホシテントウ       | ○    |   |   |
| 311 |              |          | キイロテントウ           | ○    |   | ○ |
| 312 |              |          | セスジヒメテントウ         |      | ○ |   |
| 313 |              |          | ヨツボシテントウ          | ○    |   |   |
| 314 |              |          | モンクチビルテントウ        | ○    |   |   |
| 315 |              |          | ヒメカメノコテントウ        | ○    | ○ | ○ |
| 316 |              |          | クモガタテントウ          |      |   | ○ |
| 317 |              |          | クロヘリヒメテントウ        | ○    |   | ○ |
| 318 |              |          | コクロヒメテントウ         | ○    | ○ |   |
| 319 |              |          | クロツヤテントウ          | ○    |   |   |
| 320 |              | キスイムシ科   | ケナガセマルキスイ         |      |   | ○ |
| 321 |              |          | キイロセマルキスイ         | ○    |   |   |
| 322 |              |          | クロモンキスイ           | ○    |   |   |
| 323 |              |          | マルガタキスイ           |      |   | ○ |
| 324 |              | ヒメマキムシ科  | ヒメマキムシ            | ○    |   |   |
| 325 |              | ホソヒラタムシ科 | ホソヒラタキスイ          |      |   | ○ |
| 326 |              | アリモドキ科   | ヨツボシホソアリモドキ       |      | ○ |   |
| 327 |              | ハナノミ科    | クロヒメハナノミ          | ○    |   |   |
| 328 |              | カミキリモドキ科 | アオカミキリモドキ         | ○    |   |   |
| 329 |              | ハナノミダマシ科 | クロフナガタハナノミ        | ○    |   |   |
| 330 |              | ゴミムシダマシ科 | ヤマトオサムシダマシ        | ○    |   |   |
| 331 |              |          | コスナゴミムシダマシ        |      |   | ○ |
| 332 |              |          | <i>Uloma</i> 属の一種 | ○    |   |   |
| 333 |              | ハムシ科     | ヒメカミナリハムシ         | ○    |   |   |
| 334 |              |          | カミナリハムシ           | ○    |   |   |
| 335 |              |          | アカバナカミナリハムシ       | ○    |   |   |
| 336 |              |          | サメハダツブノミハムシ       | ○    |   | ○ |
| 337 |              |          | ウリハムシ             | ○    | ○ |   |
| 338 |              |          | クロウリハムシ           | ○    | ○ |   |
| 339 |              |          | ヨモギハムシ            | ○    | ○ |   |

表 3.7-7 (13) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名              | 科名        | 種名            | 調査時期 |   |   |
|-----|-----------------|-----------|---------------|------|---|---|
|     |                 |           |               | 春    | 夏 | 秋 |
| 340 | コウチュウ<br>(鞘翅) 目 | ハムシ科      | ヒトミヒメサルハムシ    |      | ○ |   |
| 341 |                 |           | バラルリツツハムシ     | ○    |   |   |
| 342 |                 |           | クワハムシ         | ○    |   |   |
| 343 |                 |           | イチゴハムシ        | ○    |   |   |
| 344 |                 |           | ヨツモンカメノコハムシ   |      | ○ | ○ |
| 345 |                 |           | トゲアシクビボソハムシ   |      | ○ |   |
| 346 |                 |           | トホシクビボソハムシ    |      | ○ |   |
| 347 |                 |           | コルリクビボソハムシ    |      | ○ |   |
| 348 |                 |           | クロボシトビハムシ     | ○    |   |   |
| 349 |                 |           | ドウガネツヤハムシ     | ○    |   |   |
| 350 |                 |           | セスジクビボソハムシ    |      | ○ |   |
| 351 |                 |           | マルキバネサルハムシ    |      | ○ |   |
| 352 |                 |           | ヤナギルリハムシ      | ○    | ○ |   |
| 353 |                 |           | ナトビハムシ        | ○    |   |   |
| 354 |                 |           | ナスナガスネトビハムシ   | ○    |   |   |
| 355 |                 | ホソクチゾウムシ科 | ケブカホソクチゾウムシ   | ○    |   | ○ |
| 356 |                 | オトシブミ科    | クロケシツブチョッキリ   |      | ○ |   |
| 357 |                 |           | クチナガチョッキリ     | ○    |   |   |
| 358 |                 | ゾウムシ科     | チビデオゾウムシ      | ○    |   |   |
| 359 |                 |           | イチゴハナゾウムシ     | ○    |   |   |
| 360 |                 |           | アルファルファタコゾウムシ | ○    |   |   |
| 361 |                 |           | トゲハラヒラセクモゾウムシ | ○    |   |   |
| 362 |                 |           | オジロアシナガゾウムシ   | ○    | ○ |   |
| 363 | ハチ（膜翅）目         | ミフシハバチ科   | アカスジチュウレンジ    |      |   | ○ |
| 364 |                 |           | ルリチュウレンジ      | ○    |   | ○ |
| 365 |                 | ハバチ科      | ハグロハバチ        | ○    |   |   |
| 366 |                 |           | ワラビハバチ        | ○    |   |   |
| 367 |                 |           | セグロカブラハバチ     | ○    |   |   |
| 368 |                 |           | ニホンカブラハバチ     |      | ○ |   |
| 369 |                 |           | イヌノフグリハバチ     |      | ○ | ○ |
| 370 |                 |           | カブラハバチ        | ○    |   |   |
| 371 |                 |           | サクラヒメハバチ      | ○    |   |   |
| 372 |                 |           | オスグロハバチ       |      |   | ○ |

表 3.7-7 (14) 陸上昆虫類確認種一覧 (現地調査)

| No. | 目名        | 科名        | 種名                      | 調査時期 |   |   |
|-----|-----------|-----------|-------------------------|------|---|---|
|     |           |           |                         | 春    | 夏 | 秋 |
| 373 | ハチ (膜翅) 目 | コマユバチ     | コマユバチ科の一種               | ○    |   | ○ |
| 374 |           | ヒメバチ      | ハラアカアブヒメバチ              | ○    |   |   |
| 375 |           |           | マダラヒメバチ                 | ○    |   |   |
|     |           |           | ヒメバチ科の一種                | ○    |   | ○ |
| 376 |           | シリボソクロバチ科 | シリボソクロバチ科の一種            | ○    |   |   |
| 377 |           | コガネコバチ科   | コガネコバチ科の一種              | ○    |   |   |
| 378 |           | アリ科       | ウメマツオオアリ                | ○    | ○ | ○ |
| 379 |           |           | ハリブトシリアゲアリ              |      | ○ |   |
| 380 |           |           | テラニシシリアゲアリ              | ○    |   | ○ |
| 381 |           |           | クロヤマアリ                  |      | ○ | ○ |
| 382 |           |           | トビイロケアリ                 | ○    |   |   |
| 383 |           |           | ヒメアリ                    |      | ○ | ○ |
| 384 |           |           | アメイロアリ                  | ○    | ○ | ○ |
| 385 |           |           | ルリアリ                    |      |   | ○ |
| 386 |           |           | サクラアリ                   |      | ○ |   |
| 387 |           |           | アミメアリ                   |      | ○ | ○ |
| 388 |           |           | ムネボソアリ                  | ○    | ○ |   |
| 389 |           |           | ハリナガムネボソアリ              |      |   | ○ |
| 390 |           |           | トビイロシワアリ                | ○    | ○ |   |
| 391 |           | スズメバチ科    | <i>Allodynerus</i> 属の一種 |      | ○ |   |
| 392 |           |           | キボシトックリバチ               |      | ○ |   |
| 393 |           |           | ミカドトックリバチ               |      |   | ○ |
| 394 |           |           | ミカドドロバチ本土亜種             |      | ○ |   |
| 395 |           |           | スズバチ                    |      | ○ | ○ |
| 396 |           |           | セグロアシナガバチ本土亜種           | ○    | ○ |   |
| 397 |           |           | キオビチビドロバチ               |      | ○ |   |
| 398 |           |           | コガタスズメバチ                |      | ○ | ○ |
| 399 |           |           | モンズズメバチ                 |      |   | ○ |
| 400 |           |           | ヒメスズメバチ                 | ○    |   |   |
| 401 |           |           | オオスズメバチ                 |      |   | ○ |
| 402 |           | クモバチ科     | <i>Anoplius</i> 属の一種    |      | ○ |   |
| 403 |           |           | ベッコウクモバチ                |      | ○ |   |
| 404 |           |           | アオスジクモバチ                |      |   | ○ |



表 3.7-7 (15) 陸上昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名      | 科名       | 種名                       | 調査時期  |       |       |
|-----|---------|----------|--------------------------|-------|-------|-------|
|     |         |          |                          | 春     | 夏     | 秋     |
| 405 | ハチ（膜翅）目 | コツチバチ科   | アカハコツチバチ本土沖縄亜種           |       |       | ○     |
| 406 |         | ギングチバチ科  | ヒメハヤバチ                   |       |       | ○     |
|     |         |          | <i>Tachytes</i> 属の一種     |       | ○     |       |
| 407 |         | アナバチ科    | コクロアナバチ                  |       | ○     |       |
| 408 |         |          | クロアナバチ本土亜種               |       | ○     |       |
| 409 |         | ヒメハナバチ科  | <i>Andrena</i> 属の一種      | ○     |       |       |
| 410 |         | ミツバチ科    | ニホンミツバチ                  |       | ○     |       |
| 411 |         |          | セイヨウミツバチ                 | ○     |       |       |
| 412 |         |          | イワタチビツヤハナバチ              |       |       | ○     |
| 413 |         |          | キムネクマバチ                  | ○     |       |       |
| 414 |         |          | 台湾タケクマバチ                 |       | ○     | ○     |
| 415 |         | ムカシハナバチ科 | アシプトムカシハナバチ              |       |       | ○     |
| 416 |         | コハナバチ科   | アカガネコハナバチ                |       | ○     | ○     |
| 417 |         |          | <i>Lasioglossum</i> 属の一種 |       | ○     |       |
| 418 |         |          | アオスジハナバチ                 |       | ○     |       |
| 419 |         | ハキリバチ科   | トモンハナバチ                  |       | ○     |       |
| 420 |         |          | ヒロバトガリハナバチ               |       | ○     |       |
| 421 |         |          | ネジロハキリバチ                 |       | ○     |       |
| 422 |         |          | バラハキリバチ本土亜種              |       | ○     | ○     |
| 423 |         |          | オオハキリバチ                  |       | ○     |       |
| 424 |         |          | ツルガハキリバチ                 |       | ○     | ○     |
| 425 |         |          | ヤスマツハキリバチ                |       | ○     |       |
| 合計  | 14 目    | 139 科    | 425 種                    | 219 種 | 175 種 | 186 種 |

※1 種名および分類は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、国土交通省）に準じた。

※2 同定ができなかった種（「～科」または「～属」と表記されているもの）について、同科または同属の種が確認されている場合は、種数として計上せず、同科または同属の種が確認されなかった場合は、種数として計上している。

e) 底生動物

現地調査により、表 3.7-8(1)～(4)に示す 21 目 44 科 79 種の底生動物類を確認している。

表 3.7-8 (1) 底生動物確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名    | 目名       | 科名         | 種名          | 調査時期 |    |   |
|-----|-------|----------|------------|-------------|------|----|---|
|     |       |          |            |             | 早春   | 初夏 | 冬 |
| 1   | 有棒状体綱 | 三岐腸目     | -          | 三岐腸目の一種     | ○    | ○  |   |
| 2   | 有針綱   | ハリヒモムシ目  | マミズヒモムシ科   | ミミズヒモムシ属の一種 | ○    | ○  |   |
| 3   | 腹足綱   | 新生腹足目    | リンゴガイ科     | スクミリンゴガイ    | ○    | ○  | ○ |
| 4   |       |          | タニシ科       | ヒメタニシ       |      | ○  | ○ |
| 5   |       |          | カワニナ科      | カワニナ        | ○    | ○  |   |
| 6   |       |          |            | チリメンカワニナ    | ○    |    |   |
| 7   |       |          | カワザンショウガイ科 | ウスイロオカチグサガイ | ○    | ○  | ○ |
| 8   |       |          | エゾマメタニシ科   | ヒメマルマメタニシ   |      | ○  | ○ |
| 9   |       | 汎有肺目     | モノアラガイ科    | ヒメモノアラガイ    | ○    | ○  | ○ |
| 10  |       |          | サカマキガイ科    | サカマキガイ      | ○    | ○  | ○ |
| 11  |       |          | ヒラマキガイ科    | ヒロマキミズマイマイ  | ○    | ○  |   |
| -   |       |          |            | ヒラマキガイ科の一種  |      | ○  |   |
| 12  |       |          | カワコザラガイ科   | カワコザラガイ科の一種 | ○    | ○  |   |
| 13  | 二枚貝綱  | マルスダレガイ目 | シジミ科       | シジミ属の一種     | ○    | ○  | ○ |
| 14  |       |          | ドブシジミ科     | ドブシジミ       |      | ○  |   |
| 15  | ミミズ綱  | ナガミミズ目   | ナガミミズ科     | ナガミミズ       |      |    | ○ |
| 16  |       | オヨギミミズ目  | オヨギミミズ科    | オヨギミミズ科の一種  | ○    |    | ○ |

表 3.7-8 (2) 底生動物確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名   | 目名             | 科名        | 種名           | 調査時期 |    |   |
|-----|------|----------------|-----------|--------------|------|----|---|
|     |      |                |           |              | 早春   | 初夏 | 冬 |
| 17  | ミミズ綱 | イトミミズ目         | ミズミミズ科    | エラミミズ        |      | ○  | ○ |
| 18  |      |                |           | ウチワミミズ属の一種   |      | ○  |   |
| 19  |      |                |           | モトムラユリミミズ    |      |    | ○ |
| 20  |      |                |           | ユリミミズ        | ○    | ○  | ○ |
| 21  |      |                |           | ミツゲミズミミズ     | ○    | ○  |   |
| 22  |      |                |           | ナミミズミミズ      | ○    |    |   |
| 23  |      |                |           | ミズミミズ        | ○    | ○  |   |
| 24  |      |                |           | クロオビミズミミズ    | ○    | ○  |   |
| 25  |      |                |           | ハヤセミズミミズ     | ○    | ○  |   |
| 26  |      |                |           | トガリミズミミズ属の一種 |      | ○  |   |
| 27  |      |                |           | ヨゴレミズミミズ     | ○    | ○  |   |
| -   |      |                |           | ミズミミズ科       | ○    | ○  | ○ |
| 28  | ヒル綱  | 吻蛭目            | ヒラタビル科    | ヌマビル         |      | ○  |   |
| 29  |      | 吻無蛭目           | ヘモビル科     | ウマビル         |      | ○  |   |
| 30  |      |                | イシビル科     | イシビル科の一種     |      | ○  |   |
| 31  |      |                | ナガレビル科    | ナガレビル科の一種    | ○    | ○  | ○ |
| 32  | 鰓脚綱  | カイエビ目          | トゲカイエビ科   | トゲカイエビ       |      | ○  |   |
| 33  |      | ハウネンエビ目        | ハウネンエビ科   | ハウネンエビ       |      | ○  |   |
| 34  | 軟甲綱  | ヨコエビ目          | マミズヨコエビ科  | フロリダマミズヨコエビ  | ○    | ○  |   |
| 35  |      | ワラジムシ目         | ミズムシ科     | ミズムシ         | ○    | ○  | ○ |
| 36  |      | エビ目            | ヌマエビ科     | カワリヌマエビ属の一種  | ○    | ○  | ○ |
| 37  |      |                | アメリカザリガニ科 | アメリカザリガニ     |      | ○  | ○ |
| 38  | 昆虫綱  | カゲロウ目<br>(蜉蝣目) | コカゲロウ科    | サホコカゲロウ      | ○    | ○  |   |
| 39  |      |                |           | フタモンコカゲロウ    | ○    |    |   |

表 3.7-8 (3) 底生動物確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目 3 名          | 科名            | 種名                 | 調査時期 |    |   |
|-----|-----|----------------|---------------|--------------------|------|----|---|
|     |     |                |               |                    | 早春   | 初夏 | 冬 |
| 40  | 昆虫綱 | カゲロウ目<br>(蜉蝣目) | コカゲロウ<br>科    | シロハラコカゲロウ          | ○    |    |   |
| 41  |     |                |               | ウスイロフトヒゲコカゲロウ      | ○    | ○  |   |
| 42  |     |                |               | ウデマガリコカゲロウ         | ○    | ○  |   |
| 43  |     | トンボ目 (蜻<br>蛉目) | カワトンボ<br>科    | ハグロトンボ             |      | ○  |   |
| 44  |     | カメムシ目<br>(半翅目) | アメンボ科         | アメンボ               | ○    | ○  | ○ |
| 45  |     |                |               | ヒメアメンボ             |      | ○  |   |
| 46  |     |                |               | ヤスマツアメンボ           |      | ○  |   |
| 47  |     |                |               | シマアメンボ             |      | ○  | ○ |
| 48  |     |                | ミズカメム<br>シ科   | ミズカメムシ属の一種         |      |    | ○ |
| 49  |     |                | カタビロア<br>メンボ科 | ケシカタビロアメンボ属の一<br>種 |      | ○  |   |
| 50  |     |                | ミズムシ科         | ハイイロチビミズムシ         |      | ○  | ○ |
| 51  |     |                | メミズムシ<br>科    | メミズムシ              |      | ○  |   |
| 52  |     |                | マツモムシ<br>科    | マツモムシ              |      | ○  |   |
| 53  |     | トビケラ目<br>(毛翅目) | シマトビケ<br>ラ科   | コガタシマトビケラ          | ○    | ○  | ○ |
| 54  |     |                |               | ウルマーシマトビケラ         | ○    |    |   |
| 55  |     |                | ヒメトビケ<br>ラ科   | ヒメトビケラ属            | ○    | ○  |   |
| 56  |     | ハエ目 (双翅<br>目)  | ヒメガガン<br>ボ科   | ウスバガガンボ属の一種        | ○    |    |   |
| 57  |     |                | ガガンボ科         | ガガンボ属の一種           |      | ○  | ○ |
| 58  |     |                | ヌカカ科          | ヌカカ科の一種            | ○    |    |   |
| 59  |     |                | ユスリカ科         | ハダカユスリカ属の一種        | ○    |    |   |
| 60  |     |                |               | トラフユスリカ属の一種        | ○    | ○  |   |
| 61  |     |                |               | ツヤユスリカ属の一種         | ○    | ○  |   |
| 62  |     |                |               | カマガタユスリカ属の一種       | ○    | ○  |   |



表 3.7-8 (4) 底生動物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名          | 科名       | 種名               | 調査時期 |      |      |
|-----|-----|-------------|----------|------------------|------|------|------|
|     |     |             |          |                  | 早春   | 初夏   | 冬    |
| 63  | 昆虫綱 | ハエ目（双翅目）    | ユスリカ科    | スジカマガタユスリカ属の一種   | ○    |      |      |
| 64  |     |             |          | テンマクエリユスリカ属の一種   | ○    |      |      |
| 65  |     |             |          | エリユスリカ属の一種       | ○    | ○    |      |
| 66  |     |             |          | オオユキユスリカ属の一種     | ○    |      |      |
| 67  |     |             |          | ハモンユスリカ属の一種      |      | ○    |      |
| 68  |     |             |          | サワユスリカ属の一種       | ○    |      |      |
| 69  |     |             |          | アシマダラユスリカ属の一種    |      | ○    |      |
| 70  |     |             |          | ヒゲユスリカ属の一種       |      | ○    |      |
| 71  |     |             |          | ニセテンマクエリユスリカ属の一種 | ○    | ○    |      |
| 72  |     |             | ブユ科      | アシマダラブユ属の一種      | ○    | ○    |      |
| 73  |     | コウチュウ目（鞘翅目） | ゲンゴロウ科   | チビゲンゴロウ          |      | ○    |      |
| 74  |     |             | ガムシ科     | ヤマトゴマフガムシ        |      | ○    |      |
| 75  |     |             |          | トゲバゴマフガムシ        |      | ○    |      |
| 76  |     |             |          | キイロヒラタガムシ        |      | ○    |      |
| 77  |     |             |          | ルイスヒラタガムシ        |      | ○    | ○    |
| 78  |     |             |          | マメガムシ            |      | ○    |      |
| 79  |     |             | ヒラタドロムシ科 | チビヒゲナガハナノミ       | ○    |      |      |
| 合計  | 9 綱 | 21 目        | 44 科     | 79 種             | 47 種 | 64 種 | 24 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

f) 魚類

現地調査により、表 3.7-9 に示す 3 目 4 科 4 種の魚類を確認している。

表 3.7-9 魚類確認種一覧（現地調査）

| No. | 目名    | 科名    | 種名        | 調査時期 |     |
|-----|-------|-------|-----------|------|-----|
|     |       |       |           | 春    | 秋   |
| 1   | コイ目   | コイ科   | フナ属の一種    | ○    | ○   |
| 2   |       | ドジョウ科 | ドジョウ      | ○    | ○   |
| 3   | タウナギ目 | タウナギ科 | タウナギ（本土産） | ○    | ○   |
| 4   | ダツ目   | メダカ科  | ミナミメダカ    | ○    | ○   |
| 合計  | 3 目   | 4 科   | 4 種       | 4 種  | 4 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和 4 年度版」（令和 4 年、国土交通省）に準拠している。

g) 浮遊生物（植物プランクトン、動物プランクトン）

現地調査により、表 3.7-10(1)～(4)・表 3.7-11(1)～(3)に示すとおりであり、植物プランクトンで 9 目 21 科 88 種、動物プランクトンで 15 目 32 科 46 種を確認している。

表 3.7-10 (1) 浮遊生物（植物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名    | 目名       | 科名        | 学名                             | 調査時期 |   |   |   |
|-----|-------|----------|-----------|--------------------------------|------|---|---|---|
|     |       |          |           |                                | 冬    | 春 | 夏 | 秋 |
| 1   | 藍藻綱   | ネンジュモ目   | ユレモ科      | <i>Phormidium</i> sp.*         |      |   | ○ |   |
| 2   |       |          |           | <i>Pseudanabaenaimnetica</i> * | ○    |   | ○ | ○ |
| 3   |       |          |           | <i>Spirulina</i> sp.*          | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 4   | 渦鞭毛藻綱 | ペリディニウム目 | グレノディニウム科 | <i>Glenodinium</i> sp.         |      |   | ○ |   |
| 5   |       |          | ケラティウム科   | <i>Ceratium hirundinella</i>   |      | ○ |   |   |
| 6   | 珪藻綱   | 中心目      | タラシオシラ科   | <i>Cyclotella</i> sp.          | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 7   |       |          | メロシラ科     | <i>Aulacoseira pusilla</i>     |      | ○ | ○ | ○ |
| 8   |       |          |           | <i>Melosira varians</i>        | ○    | ○ |   |   |
| 9   |       |          | アナウルス科    | <i>Hydrosera triquetra</i>     |      |   | ○ |   |
| 10  |       | 羽状目      | ディアトマ科    | <i>Asterionella formosa</i>    |      | ○ |   |   |
| 11  |       |          |           | <i>Fragilaria capitellata</i>  | ○    |   |   | ○ |

表 3.7-10 (2) 浮遊性物（植物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名  | 科名      | 学名                               | 調査時期 |   |   |   |
|-----|-----|-----|---------|----------------------------------|------|---|---|---|
|     |     |     |         |                                  | 冬    | 春 | 夏 | 秋 |
| 12  | 珪藻綱 | 羽状目 | ディアトマ科  | <i>Fragilaria rumpens</i>        | ○    |   |   |   |
| -   |     |     |         | <i>Fragilaria</i> sp.            | ○    |   |   |   |
| 13  |     |     |         | <i>Ulnaria ulna</i>              | ○    | ○ | ○ | ○ |
| -   |     |     |         | <i>Ulnaria</i> sp.               |      |   |   | ○ |
| 14  |     |     |         | <i>Amphora</i> sp.               |      | ○ |   | ○ |
| 15  |     |     |         | <i>Cymbella naviculiformis</i>   | ○    |   |   |   |
| -   |     |     |         | <i>Cymbella</i> sp.              |      |   |   | ○ |
| 16  |     |     |         | <i>Encyonema minutum</i>         | ○    |   |   |   |
| 17  |     |     |         | <i>Encyonema silesiacum</i>      |      | ○ |   |   |
| 18  |     |     |         | <i>Gomphoneis okunoi</i>         | ○    |   |   | ○ |
| 19  |     |     |         | <i>Gomphonema acuminatum</i>     |      |   | ○ |   |
| 20  |     |     |         | <i>Gomphonema gracile</i>        | ○    |   |   | ○ |
| 21  |     |     |         | <i>Gomphonema lagenula</i>       | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 22  |     |     |         | <i>Gomphonema parvulum</i>       | ○    | ○ | ○ | ○ |
| -   |     |     |         | <i>Gomphonema</i> sp.            | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 23  |     |     |         | <i>Gyrosigma</i> sp.             |      |   |   | ○ |
| 24  |     |     |         | <i>Navicula capitata</i>         |      |   |   | ○ |
| 25  |     |     |         | <i>Navicula confervacea</i>      |      |   | ○ | ○ |
| 26  |     |     |         | <i>Navicula cuspidata</i>        |      | ○ | ○ | ○ |
| -   |     |     |         | <i>Navicula</i> sp.              | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 27  |     |     |         | <i>Pinnularia</i> sp.            | ○    | ○ | ○ |   |
| 28  |     |     |         | <i>Rhoicosphenia abbreviata</i>  | ○    | ○ | ○ |   |
| 29  |     |     |         | <i>Sellaphora pupula</i>         |      | ○ | ○ | ○ |
| 30  |     |     |         | <i>Stauroneis phoenicenteron</i> |      | ○ |   |   |
| 31  |     |     | アクナンテス科 | <i>Achnanthidium</i> sp.         | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 32  |     |     |         | <i>Cocconeis pediculus</i>       |      |   | ○ |   |
| 33  |     |     |         | <i>Cocconeis placentula</i>      |      | ○ | ○ | ○ |
| 34  |     |     |         | <i>Planothidium lanceolatum</i>  | ○    | ○ |   | ○ |

表 3.7-10 (3) 浮遊性物（植物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名      | 目名       | 科名       | 学名                              | 調査時期 |   |   |   |
|-----|---------|----------|----------|---------------------------------|------|---|---|---|
|     |         |          |          |                                 | 冬    | 春 | 夏 | 秋 |
| 35  | 珪藻綱     | 羽状目      | ニッチア科    | <i>Nitzschia acicularis</i>     | ○    |   | ○ |   |
| 36  |         |          |          | <i>Nitzschia linearis</i>       | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 37  |         |          |          | <i>Nitzschia palea</i>          | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 38  |         |          |          | <i>Nitzschia paleacea</i>       | ○    |   |   |   |
| -   |         |          |          | <i>Nitzschia</i> sp.            | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 39  |         |          | スリレラ科    | <i>Cymatopleura solea</i>       | ○    | ○ |   |   |
| 40  |         |          |          | <i>Surirella angusta</i>        | ○    |   |   | ○ |
| 41  |         |          |          | <i>Surirella brebissonii</i>    | ○    |   |   |   |
| -   |         |          |          | <i>Surirella</i> sp.            | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 42  | ミドリムシ藻綱 | ミドリムシ目   | ミドリムシ科   | <i>Astasia</i> sp.              |      |   |   | ○ |
| 43  |         |          |          | <i>Euglena acus</i>             |      |   | ○ |   |
| -   |         |          |          | <i>Euglena</i> sp.              | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 44  |         |          |          | <i>Lepocinclis</i> sp.          |      |   | ○ |   |
| 45  |         |          |          | <i>Phacus</i> sp.               |      |   | ○ | ○ |
| 46  |         |          |          | <i>Trachelomonas hispida</i>    |      |   | ○ |   |
| 47  |         |          |          | <i>Trachelomonas volvocina</i>  |      | ○ | ○ | ○ |
| 48  | 緑藻綱     | オオヒゲマワリ目 | クラミドモナス科 | <i>Chlamydomonadaceae</i>       | ○    |   | ○ | ○ |
| 49  |         | クロロコックム目 | クロロコックム科 | <i>Characium</i> sp.            |      |   | ○ | ○ |
| 50  |         |          |          | <i>Tetraedron minimum</i>       |      |   | ○ | ○ |
| 51  |         |          | パルメラ科    | <i>Sphaerocystis schroeteri</i> |      |   | ○ |   |
| 52  |         |          | オオキステイス科 | <i>Ankistrodesmus falcatus</i>  | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 53  |         |          |          | <i>Ankistrodesmus gracilis</i>  |      |   |   | ○ |
| 54  |         |          |          | <i>Kirchneriella contorta</i>   |      | ○ |   | ○ |
| 55  |         |          |          | <i>Monoraphidium contortum</i>  |      | ○ | ○ | ○ |
| -   |         |          |          | <i>Monoraphidium</i> sp.        |      |   | ○ | ○ |
| 56  |         |          |          | <i>Oocystis</i> sp.             |      | ○ | ○ | ○ |



表 3.7-10 (4) 浮遊性物（植物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名         | 科名             | 学名                             | 調査時期 |      |      |      |
|-----|-----|------------|----------------|--------------------------------|------|------|------|------|
|     |     |            |                |                                | 冬    | 春    | 夏    | 秋    |
| 57  | 緑藻綱 | クロロコックム目   | ミクラクテ<br>イニウム科 | <i>Micractinium pusillum</i>   |      | ○    |      |      |
| 58  |     |            | セネデスム<br>ス科    | <i>Actinastrum hantzschii</i>  |      |      | ○    |      |
| 59  |     |            |                | <i>Coelastrum cambricum</i>    |      | ○    | ○    |      |
| 60  |     |            |                | <i>Coelastrum sphaericum</i>   |      |      | ○    |      |
| 61  |     |            |                | <i>Crucigenia crucifera</i>    |      |      |      | ○    |
| 62  |     |            |                | <i>Crucigenia tetrapedia</i>   |      |      |      | ○    |
| 63  |     |            |                | <i>Dicloster acuatus</i>       |      | ○    |      |      |
| 64  |     |            |                | <i>Scenedesmus acuminatus</i>  | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 65  |     |            |                | <i>Scenedesmus arcuatus</i>    |      |      | ○    | ○    |
| 66  |     |            |                | <i>Scenedesmus ecornis</i>     |      |      | ○    | ○    |
| 67  |     |            |                | <i>Scenedesmus grahneisii</i>  |      |      | ○    |      |
| 68  |     |            |                | <i>Scenedesmus opoliensis</i>  |      |      | ○    | ○    |
| 69  |     |            |                | <i>Scenedesmus quadricauda</i> | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 70  |     |            |                | <i>Scenedesmus spinosus</i>    |      | ○    |      | ○    |
| -   |     |            |                | <i>Scenedesmus</i> sp.         |      | ○    | ○    | ○    |
| 71  |     |            | アミミドロ<br>科     | <i>Pediastrum biwae</i>        |      |      | ○    |      |
| 72  |     |            |                | <i>Pediastrum duplex</i>       |      | ○    | ○    | ○    |
| 73  |     |            |                | <i>Pediastrum simplex</i>      |      |      |      | ○    |
| 74  |     | ヒビミドロ<br>目 | ヒビミドロ<br>科     | <i>Klebsormidium</i> sp.       | ○    |      |      |      |
| 75  |     | ホシミドロ<br>目 | ツヅミモ科          | <i>Closterium</i> sp.          |      |      | ○    |      |
| 76  |     |            |                | <i>Euastrum</i> sp.            |      |      | ○    |      |
| 77  |     |            |                | <i>Pleurotaenium</i> sp.       |      |      |      | ○    |
| 78  |     |            |                | <i>Staurastrum</i> sp.         |      | ○    | ○    |      |
| 合計  | 5 綱 | 9 目        | 21 科           | 78 種                           | 35 種 | 41 種 | 55 種 | 53 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

※2 計数は基本的には細胞について行っているが、細胞区分の不明瞭な糸状藍藻類については糸状体数を計数している（\*印の種）。

表 3.7-11 (1) 浮遊生物（動物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名     | 目名         | 科名        | 学名                               | 調査時期 |   |   |   |
|-----|--------|------------|-----------|----------------------------------|------|---|---|---|
|     |        |            |           |                                  | 冬    | 春 | 夏 | 秋 |
| 1   | 葉状根足虫綱 | 殻性真正葉状根足虫目 | アルケラ科     | <i>Arcella discoides</i>         |      |   |   | ○ |
| 2   |        |            | ディフルギア科   | <i>Diffugia corona</i>           |      |   | ○ |   |
| -   |        |            |           | <i>Diffugia</i> sp.              |      | ○ |   |   |
| 3   |        |            | ケントロピキシス科 | <i>Centropyxis aculeata</i>      | ○    | ○ | ○ | ○ |
| -   |        |            |           | <i>Centropyxis</i> sp.           |      | ○ | ○ | ○ |
| 4   | 糸状根足虫綱 | グロミア目      | キフォデリア科   | <i>Cyphoderia ampulla</i>        |      | ○ |   |   |
| 5   | 真正太陽虫綱 | 中心粒太陽虫目    | -         | <i>Acanthocystis</i> sp.         |      |   |   | ○ |
| 6   | 少膜綱    | 膜口目        | -         | Hymenostomatida                  | ○    | ○ | ○ |   |
| 7   |        | 縁毛目        | エピステイリス科  | Epistylidae                      | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 8   |        |            | ボルティケラ科   | Vorticellidae                    | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 9   |        |            | バギニコラ科    | <i>Cothurnia</i> sp.             | ○    |   |   |   |
| 10  | 単生殖巣綱  | プソイドトロカ目   | ツボワムシ科    | <i>Brachionus calyciflorus</i>   |      | ○ |   |   |
| 11  |        |            |           | <i>Brachionus quadridentatus</i> |      |   | ○ |   |
| 12  |        |            |           | <i>Keratella cochlearis</i>      |      |   | ○ |   |
| 13  |        |            |           | <i>Notholca labis</i>            | ○    |   |   |   |
| 14  |        |            |           | <i>Platytas patulus</i>          |      |   | ○ |   |
| 15  |        |            |           | <i>Platytas quadricornis</i>     |      | ○ |   | ○ |

表 3.7-11 (2) 浮遊生物（動物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名     | 目名       | 科名          | 学名                           | 調査時期 |   |   |   |
|-----|--------|----------|-------------|------------------------------|------|---|---|---|
|     |        |          |             |                              | 冬    | 春 | 夏 | 秋 |
| 16  | 単生殖巣綱  | プソイドトロカ目 | ハオリワムシ科     | <i>Euchlanis dilatata</i>    | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 17  |        |          |             | <i>Lepadella</i> sp.         |      | ○ |   |   |
| 18  |        |          | ツキガタワムシ科    | <i>Lecane leontina</i>       |      |   | ○ |   |
| 19  |        |          | セナカワムシ科     | <i>Cephalodella</i> sp.      | ○    |   |   | ○ |
| 20  |        |          |             | <i>Notommata</i> sp.         |      |   |   | ○ |
| 21  |        |          | ネズミワムシ科     | <i>Trichocerca</i> sp.       |      | ○ |   |   |
| 22  |        |          | ハラアシワムシ科    | <i>Ascomorpha</i> sp.        | ○    | ○ |   |   |
| 23  |        |          | ヒゲワムシ科      | <i>Polyarthra</i> sp.        |      | ○ |   |   |
| 24  |        |          |             | <i>Synchaeta</i> sp.         |      | ○ | ○ |   |
| 25  |        | グネシオトロカ目 | ミジンコワムシ科    | <i>Hexarthra mira</i>        |      |   | ○ |   |
| 26  |        |          | ヒラタワムシ科     | <i>Testudinella patina</i>   |      |   | ○ | ○ |
| 27  |        |          | マルサヤワムシ科    | Flosculariidae               |      |   | ○ |   |
| 28  | 双生殖巣綱  | ヒルガタワムシ目 | －           | Bdelloidea                   | ○    | ○ | ○ | ○ |
| 29  | 真クマムシ綱 | クマムシ目    | －           | Parachela                    | ○    |   |   |   |
| 30  | 顎脚綱    | カイミジンコ目  | －           | Podocopida                   |      |   |   | ○ |
| 31  |        | カラヌス目    | ヒゲナガケンミジンコ科 | <i>Eodiaptomus japonicus</i> |      | ○ | ○ |   |
| 32  |        | ソコミジンコ目  | －           | Harpacticoida                |      | ○ | ○ | ○ |
| 33  |        | キクロプス目   | キクロプス科      | <i>Eucyclops serrulatus</i>  |      | ○ |   |   |
| －   |        |          | －           | Cyclopoida(copepodid)        | ○    | ○ | ○ | ○ |

表 3.7-11 (3) 浮遊生物（動物プランクトン）確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名     | 科名       | 学名                              | 季節   |      |      |      |
|-----|-----|--------|----------|---------------------------------|------|------|------|------|
|     |     |        |          |                                 | 冬    | 春    | 夏    | 秋    |
| －   | 顎脚綱 | キクロプス目 | －        | Copepoda(nauplius)              | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 34  | 鰓脚綱 | ミジンコ目  | シダ科      | <i>Diaphanosoma</i> sp.         |      | ○    |      |      |
| 35  |     |        | ミジンコ科    | <i>Ceriodaphnia quadrangula</i> | ○    |      |      |      |
| 36  |     |        |          | <i>Moina</i> sp.                |      | ○    | ○    |      |
| 37  |     |        |          | <i>Scapholeberis kingi</i>      |      | ○    |      |      |
| 38  |     |        | ゾウミジンコ科  | <i>Bosmina longirostris</i>     |      | ○    | ○    |      |
| 39  |     |        | ケブカミジンコ科 | <i>Macrothrix spinosa</i>       |      |      | ○    |      |
| 40  |     |        | マルミジンコ科  | <i>Alona guttata</i>            | ○    | ○    |      | ○    |
| 41  |     |        |          | <i>Camptocercus</i> sp.         |      |      |      | ○    |
| 42  |     |        |          | <i>Chydorus sphaericus</i>      |      | ○    |      | ○    |
| 合計  | 9 綱 | 15 目   | 32 科     | 42 種                            | 15 種 | 27 種 | 23 種 | 19 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。



# h) 水生昆虫類

現地調査により、表 3.7-12(1)～(2)に示す6目17科40種の水生昆虫類を確認している。

表 3.7-12 (1) 水生昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名         | 科名        | 種名              | 夏 |
|-----|-----|------------|-----------|-----------------|---|
| 1   | 昆虫綱 | カゲロウ目（蜉蝣目） | コカゲロウ科    | サホコカゲロウ         | ○ |
| 2   |     |            |           | フタバカゲロウ属の一種     | ○ |
| 3   |     |            |           | ウスイロフトヒゲコカゲロウ   | ○ |
| 4   |     |            |           | ウデマガリコカゲロウ      | ○ |
| 5   |     | トンボ目（蜻蛉目）  | イトトンボ科    | アオモンイトトンボ属の一種   | ○ |
| 6   |     |            |           | クロイトトンボ属の一種     | ○ |
| 7   |     |            | カワトンボ科    | ハグロトンボ          | ○ |
| 8   |     |            | トンボ科      | シオカラトンボ         | ○ |
| 9   |     |            |           | ウスバキトンボ         | ○ |
| 10  |     | カメムシ目（半翅目） | アメンボ科     | アメンボ            | ○ |
| 11  |     |            |           | ヒメアメンボ          | ○ |
| 12  |     |            |           | ヤスマツアメンボ        | ○ |
| 13  |     |            |           | シマアメンボ          | ○ |
| 14  |     |            | ミズカメムシ科   | マダラミズカメムシ       | ○ |
| -   |     |            |           | ミズカメムシ属の一種      | ○ |
| 15  |     |            | カタビロアメンボ科 | ホルバートケシカタビロアメンボ | ○ |
| -   |     |            |           | ケシカタビロアメンボ属の一種  | ○ |
| 16  |     |            | ミズムシ科（昆）  | ハイイロチビミズムシ      | ○ |
| 17  |     |            |           | コミズムシ属の一種       | ○ |
| 18  |     |            | メミズムシ科    | メミズムシ           | ○ |
| 19  |     |            | マツモムシ科    | コマツモムシ          | ○ |
| 20  |     |            |           | マツモムシ           | ○ |
| 21  |     | トビケラ目（毛翅目） | シマトビケラ科   | コガタシマトビケラ       | ○ |
| 22  |     |            | ヒメトビケラ科   | ヒメトビケラ属の一種      | ○ |
| 23  |     | ハエ目（双翅目）   | ガガンボ科     | ガガンボ属の一種        | ○ |
| 24  |     |            | ユスリカ科     | トラフユスリカ属の一種     | ○ |

表 3.7-12 (2) 水生昆虫類確認種一覧（現地調査）

| No. | 綱名  | 目名          | 科名     | 種名               | 夏    |
|-----|-----|-------------|--------|------------------|------|
| 25  |     | ハエ目（双翅目）    | ユスリカ科  | ツヤユスリカ属の一種       | ○    |
| 26  |     |             |        | カマガタユスリカ属の一種     | ○    |
| 27  |     |             |        | エリユスリカ属の一種       | ○    |
| 28  |     |             |        | ハモンユスリカ属の一種      | ○    |
| 29  |     |             |        | アシマダラユスリカ属の一種    | ○    |
| 30  |     |             |        | ヒゲユスリカ属の一種       | ○    |
| 31  |     |             |        | ニセテンマクエリユスリカ属の一種 | ○    |
| 32  |     |             | ブユ科    | アシマダラブユ属の一種      | ○    |
| 33  |     | コウチュウ目（鞘翅目） | ゲンゴロウ科 | ハイイロゲンゴロウ        | ○    |
| 34  |     |             |        | チビゲンゴロウ          | ○    |
| 35  |     |             | ガムシ科   | ヤマトゴマフガムシ        | ○    |
| 36  |     |             |        | トゲバゴマフガムシ        | ○    |
| 37  |     |             |        | キイロヒラタガムシ        | ○    |
| 38  |     |             |        | ルイスヒラタガムシ        | ○    |
| 39  |     |             |        | マメガムシ            | ○    |
| 40  |     |             |        | ヒメガムシ            | ○    |
| 合計  | 1 綱 | 6 目         | 17 科   | 40 種             | 42 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

i) 重要な種の確認状況

重要な種の選定基準は表 3.7-13 に示すとおりである。

現地調査による重要な種の確認状況は表 3.7-14～表 3.7-19 に示すとおりである。両生類、爬虫類では確認されなかった。

現地調査による重要な種の確認位置は図 3.7-10～図 3.7-15 に示すとおりである。

表 3.7-13 重要な種の選定基準

| 文献および法律名 |                                                             | 選定基準となる区分                                                                                               |
|----------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I        | 「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号 改正：令和 2 年法律第 41 号）                | 特天：特別天然記念物<br>天：天然記念物（国、県、市町村）                                                                          |
| II       | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号 改正：令和元年法律第 37 号） | 国内：国内希少野生動植物種<br>国際：国際希少野生動植物種                                                                          |
| III      | 「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省）                                | EX：絶滅<br>EW：野生絶滅<br>CR：絶滅危惧ⅠA 類<br>EN：絶滅危惧ⅠB 類<br>VU：絶滅危惧Ⅱ類<br>NT：準絶滅危惧<br>DD：情報不足<br>LP：絶滅のおそれのある地域個体群 |
| IV       | 「近畿地区鳥類レッドデータブック—絶滅危惧種判別システムの開発—」（平成 14 年、京都大学）             | 1：絶滅<br>2：絶滅危惧<br>3：準絶滅危惧<br>4：特に危険なし                                                                   |
| V        | 「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年、大阪府）                               | EX：絶滅<br>EW：野生絶滅<br>CR：絶滅危惧ⅠA 類<br>EN：絶滅危惧ⅠB 類<br>VU：絶滅危惧Ⅱ類<br>NT：準絶滅危惧<br>DD：情報不足                      |

表 3.7-14 重要な種の確認状況（哺乳類）

| No. | 目名  | 科名  | 種名       | 重要な種選定基準 |     |     |     |
|-----|-----|-----|----------|----------|-----|-----|-----|
|     |     |     |          | I        | II  | III | V   |
| 1   | ネズミ | ネズミ | カヤネズミ    |          |     |     | NT  |
| 2   | ネコ  | イタチ | イタチ属の一種※ |          |     |     | VU  |
| 合計  | 2 目 | 2 科 | 2 種      | 0 種      | 0 種 | 0 種 | 2 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度版」（令和3年、国土交通省）に準拠している。

※2 イタチ属は、イタチまたはチョウセンイタチの可能性があり、イタチ（大阪府ではニホンイタチに該当）は大阪府のVU、チョウセンイタチは重点対策外来種に該当する。

【重要な種選定基準】

I：「文化財保護法」（昭和25年法律第214号 改正：令和2年法律第41号）

特天：特別天然記念物 天：天然記念物（国、県、市町村）

II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号 改正：令和元年法律第37号）

国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種

III：「環境省レッドリスト2020」（令和2年、環境省）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群

V：「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 AN：要注目種



表 3.7-15 重要な種の確認状況（鳥類）

| No. | 目名      | 科名    | 種名      | 重要な種選定基準 |     |     |       |     |
|-----|---------|-------|---------|----------|-----|-----|-------|-----|
|     |         |       |         | I        | II  | III | IV    | V   |
| 1   | ペリカン目   | サギ科   | ササゴイ    |          |     |     | 3（繁殖） |     |
| 2   |         |       | アマサギ    |          |     |     |       | VU  |
| 3   | ツル目     | クイナ科  | ヒクイナ    |          |     | NT  | 2（繁殖） | VU  |
| 4   | チドリ目    | チドリ科  | ケリ      |          |     | DD  |       | NT  |
| 5   |         |       | オオタカ    |          |     | NT  | 3（繁殖） | NT  |
| 6   | ブッポウソウ目 | カワセミ科 | カワセミ    |          |     |     | 3（繁殖） |     |
| 7   | ハヤブサ目   | ハヤブサ科 | チョウゲンボウ |          |     |     | 3（越冬） |     |
| 8   |         | ヨシキリ科 | オオヨシキリ  |          |     |     | 3（繁殖） | NT  |
| 9   |         |       | コムクドリ   |          |     |     | 3（通過） |     |
| 10  |         |       | イソヒヨドリ  |          |     |     | 4（繁殖） |     |
| 11  |         |       | ハクセキレイ  |          |     |     | 4（繁殖） |     |
| 12  |         |       | シメ      |          |     |     | 4（越冬） |     |
| 13  |         |       | アオジ     |          |     |     | 3（繁殖） |     |
| 合計  | 5 目     | 6 科   | 13 種    | 0 種      | 0 種 | 3 種 | 11 種  | 5 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

【重要な種選定基準】

- I：「文化財保護法」（昭和25年法律第214号 改正：令和2年法律第41号）  
 II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号 改正：令和元年法律第37号）  
 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種  
 III：「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月、環境省）  
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足  
 IV：「近畿地区鳥類レッドデータブック―絶滅危惧種判別システムの開発―」（平成14年、京都大学）、繁殖：夏鳥・留鳥、越冬：冬鳥、通過：旅鳥  
 V：「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）  
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

表 3.7-16 重要な種の確認状況（陸上昆虫類）

| No. | 目名          | 科名       | 種名          | 重要な種選定基準 |     |     |     |
|-----|-------------|----------|-------------|----------|-----|-----|-----|
|     |             |          |             | I        | II  | III | V   |
| 1   | コウチュウ目（鞘翅目） | ガムシ科     | コガムシ        |          |     | DD  | NT  |
| 2   |             | テントウムシ科  | ハラグロオオテントウ  |          |     |     | NT  |
| 3   |             |          | ジュウサンホシテントウ |          |     |     | NT  |
| 4   |             | ゴミムシダマシ科 | ヤマトオサムシダマン  |          |     | NT  | VU  |
| 5   | ハチ目（膜翅目）    | スズメバチ科   | モンスズメバチ     |          |     | DD  |     |
| 6   |             | クモバチ科    | アオスジクモバチ    |          |     | DD  |     |
| 合計  | 2 目         | 5 科      | 6 種         | 0 種      | 0 種 | 4 種 | 4 目 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

【重要な種選定基準】

- I：「文化財保護法」（昭和25年法律第214号 改正：令和2年法律第41号）  
 特天：特別天然記念物 天：天然記念物（国、県、市町村）
- II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号 改正：令和元年法律第37号）  
 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- III：「環境省レッドリスト2020」（令和2年、環境省）  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- V：「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 AN：要注目種

表 3.7-17 重要な種の確認状況（底生動物類）

| No. | 綱名   | 目名         | 科名         | 種名        | 重要な種選定基準 |    |     |     |
|-----|------|------------|------------|-----------|----------|----|-----|-----|
|     |      |            |            |           | I        | II | III | V   |
| 1   | 腹足綱  | 新生腹足目      | ヒメマルマメタニシ科 | ヒメマルマメタニシ |          |    | VU  |     |
| 2   | 二枚貝綱 | マルスダレガイ目   | ドブシジミ科     | ドブシジミ     |          |    |     | NT  |
| 3   | 昆虫綱  | カメムシ目（半翅目） | ヤスマツアメンボ科  | ヤスマツアメンボ  |          |    |     | NT  |
| 合計  | 3 綱  | 3 目        | 3 科        | 3 種       | －        | －  | 1 種 | 2 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

【重要な種選定基準】

- I：「文化財保護法」（昭和25年法律第214号 改正：令和2年法律第41号）  
 特天：特別天然記念物 天：天然記念物（国、県、市町村）
- II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号 改正：令和元年法律第37号）  
 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- III：「環境省レッドリスト2020」（令和2年、環境省）  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- V：「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 AN：要注目種

表 3.7-18 重要な種の確認状況（魚類）

| No. | 目名  | 科名    | 種名     | 重要な種選定基準 |    |     |     |
|-----|-----|-------|--------|----------|----|-----|-----|
|     |     |       |        | I        | II | III | V   |
| 1   | コイ目 | ドジョウ科 | ドジョウ   |          |    | NT  | VU  |
| 2   | ダツ目 | メダカ科  | ミナミメダカ |          |    | VU  | VU  |
| 合計  | 2 目 | 2 科   | 2 種    | －        | －  | 2 種 | 2 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度版」（令和3年、国土交通省）に準拠している。

【重要な種選定基準】

- I：「文化財保護法」（昭和25年法律第214号 改正：令和2年法律第41号）  
特天：特別天然記念物 天：天然記念物（国、県、市町村）
- II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号 改正：令和元年法律第37号）  
国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- III：「環境省レッドリスト2020」（令和2年、環境省）  
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- V：「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）  
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 AN：要注目種

表 3.7-19 重要な種の確認状況（水生昆虫類）

| No. | 綱名  | 目名         | 科名    | 種名       | 重要な種選定基準 |    |     |     |
|-----|-----|------------|-------|----------|----------|----|-----|-----|
|     |     |            |       |          | I        | II | III | V   |
| 1   | 昆虫綱 | カメムシ目（半翅目） | アメンボ科 | ヤスマツアメンボ |          |    |     | NT  |
| 合計  | 1 綱 | 1 目        | 1 科   | 1 種      | －        | －  | －   | 1 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度版」（令和3年、国土交通省）に準拠している。

【重要な種選定基準】

- I：「文化財保護法」（昭和25年法律第214号 改正：令和2年法律第41号）  
特天：特別天然記念物 天：天然記念物（国、県、市町村）
- II：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号 改正：令和元年法律第37号）  
国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
- III：「環境省レッドリスト2020」（令和2年、環境省）  
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- V：「大阪府レッドリスト2014」（平成26年、大阪府）  
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 AN：要注目種



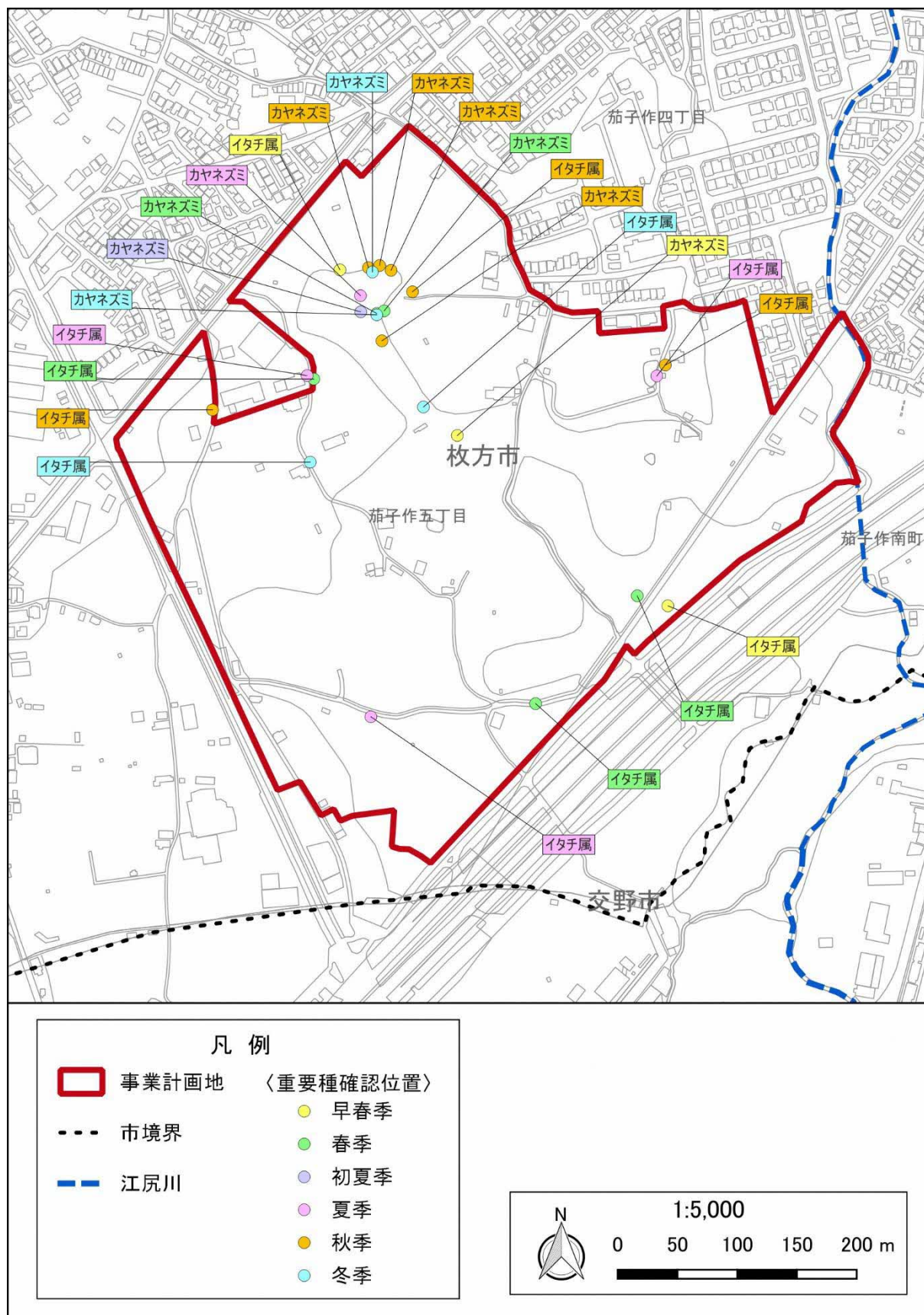


図 3.7-10 哺乳類 重要な種確認位置

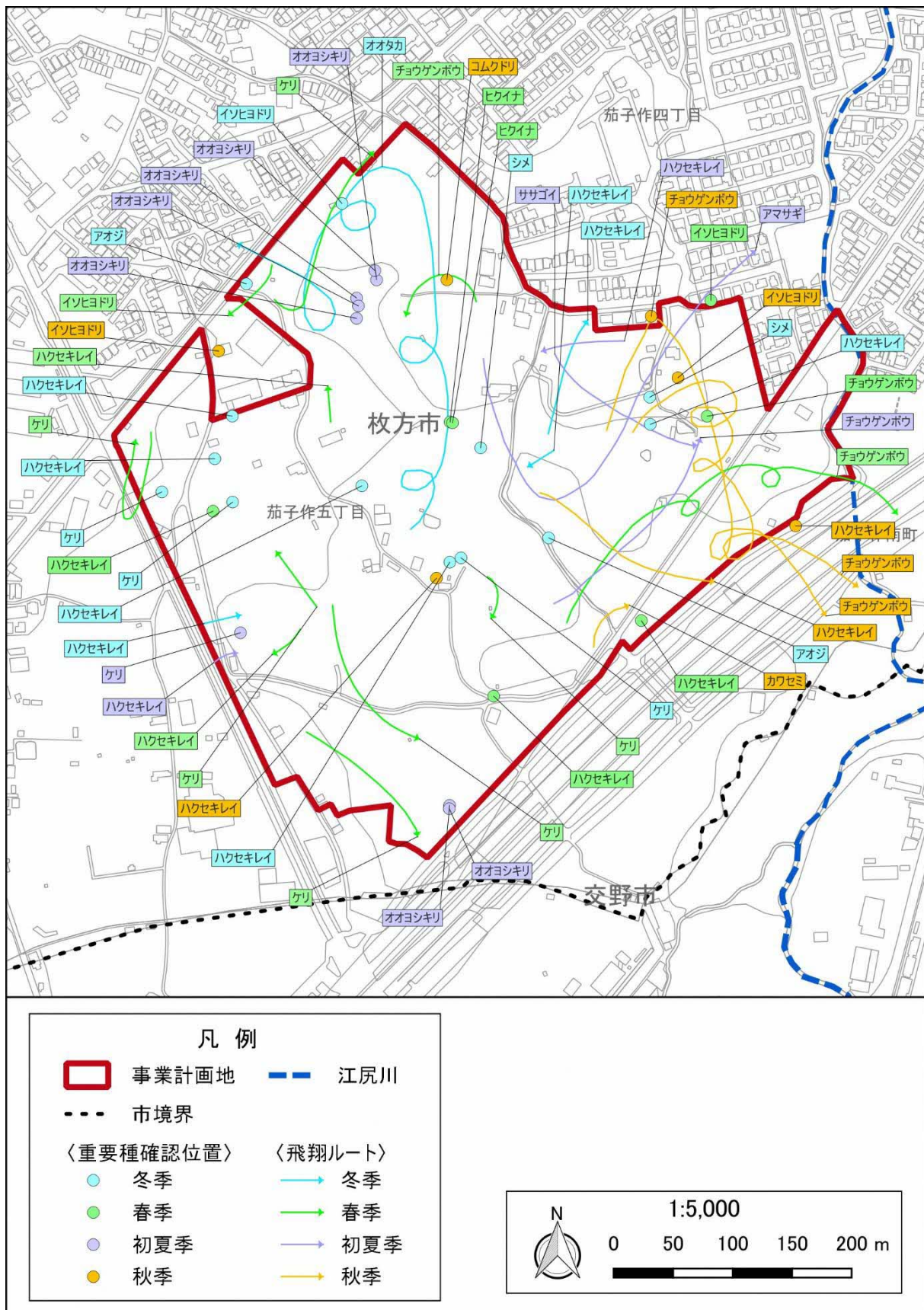


図 3.7-11 鳥類 重要な種確認位置



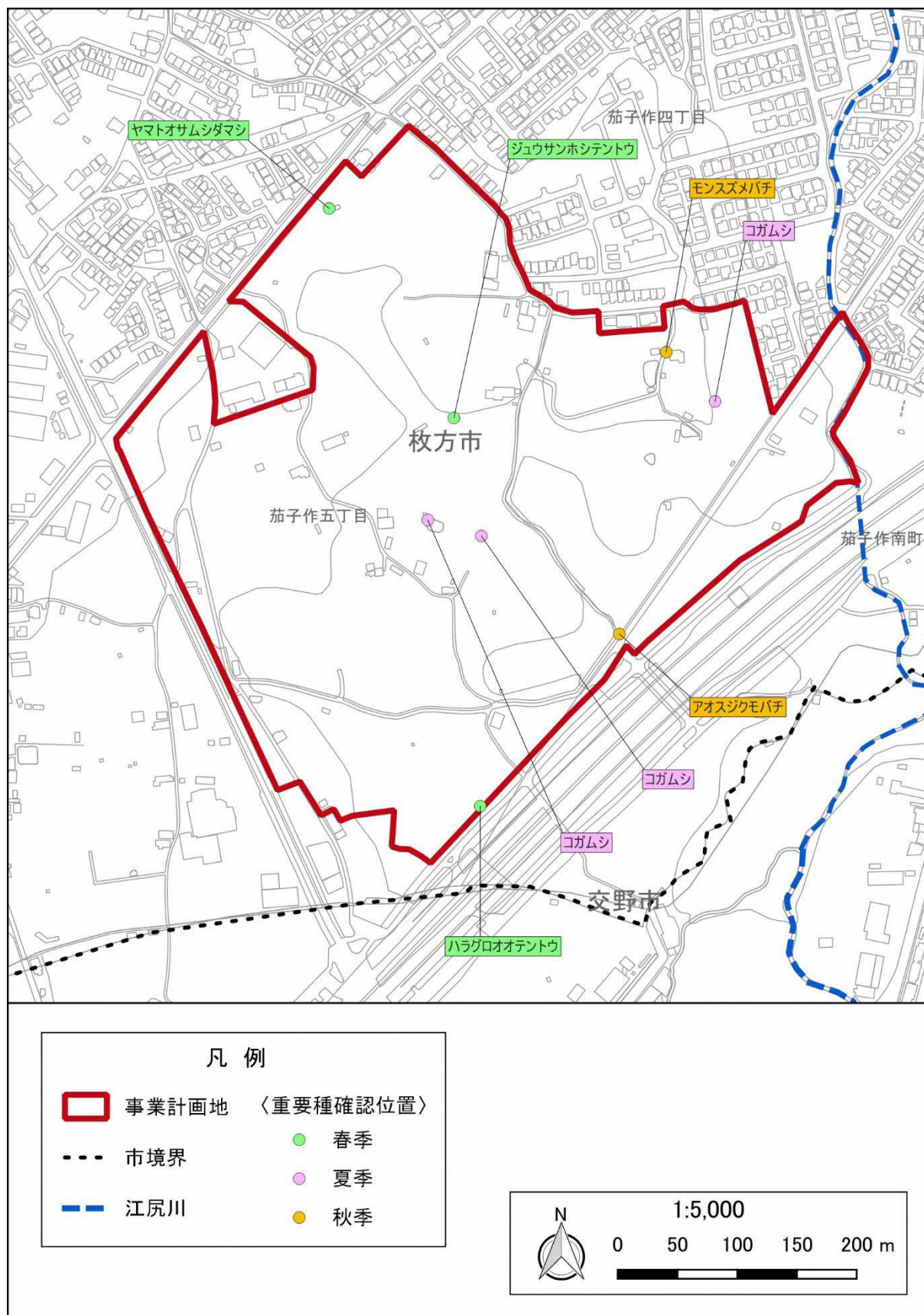


図 3.7-12 陸上昆虫類 重要な種確認位置

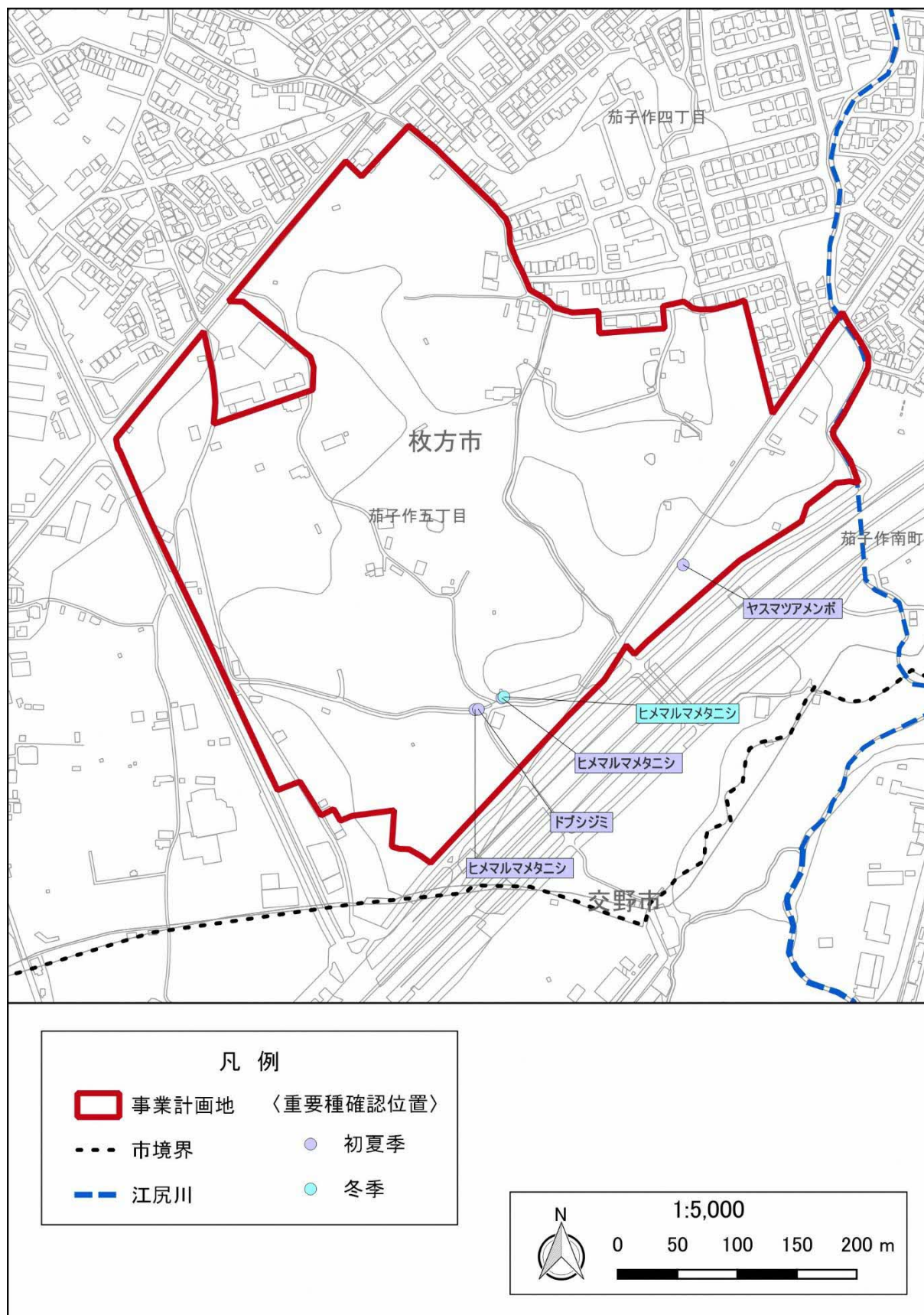


図 3.7-13 底生動物 重要な種確認位置





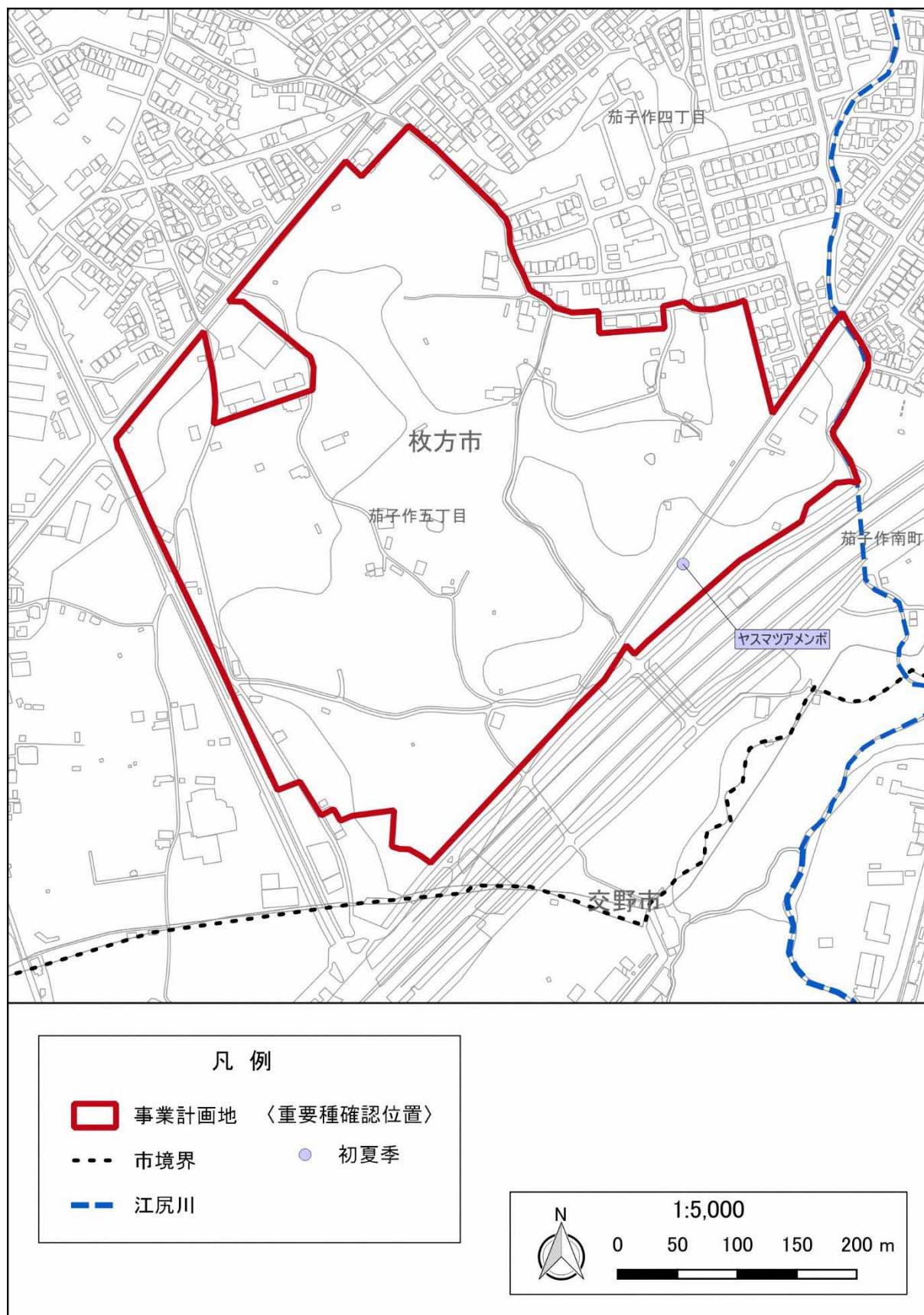


図 3.7-15 水生昆虫類 重要な種確認位置

j) 注目すべき生息地の確認状況

調査地域には、注目すべき生息地は確認されなかった。

### 3.7.2 予測及び評価

#### (1) 田畑、草地、林等の裸地化や造成等による自然環境の変化や工事濁水が動物に及ぼす影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、田畑、草地、林等の裸地化や造成等による自然環境の変化や工事濁水が動物に及ぼす影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地及び周辺地域と江尻川としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事の実施は、造成工事が最大となった時期とし、土地又は工作物の存在については、事業の実施が終了し、整備後の環境が安定することが想定される時期としている。

##### 4) 予測方法

土地利用計画を踏まえ、重要な種の生息環境の改変の程度を推測し、予測地域にみられる重要な種及び生息環境について、事例の引用又は解析により予測している。

##### 5) 予測条件

事業計画段階において、表 3.7-20 に示す環境保全措置の検討を行っており、予測条件として環境保全措置を実施することを前提に予測を行った。予測手順は図 3.7-16 に示す手順で行った。

表 3.7-20 予測の前提条件とした環境保全措置

| 想定される環境影響要因                | 環境保全措置                                                                                                                                                       |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現況の田畑、草地を裸地にすることや工事濁水等による動物の生息に及ぼす影響を可能な限り低減する。</li><li>・ 重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を検討し、生息環境の確保に努める。</li></ul> |
| 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 住宅・農業ゾーンの整備により、生息環境の創出に努める。</li><li>・ 公園、緑地等において中低木や食餌木の植栽等を検討し、動物が生息できる環境を創出するよう努める。</li></ul>                      |



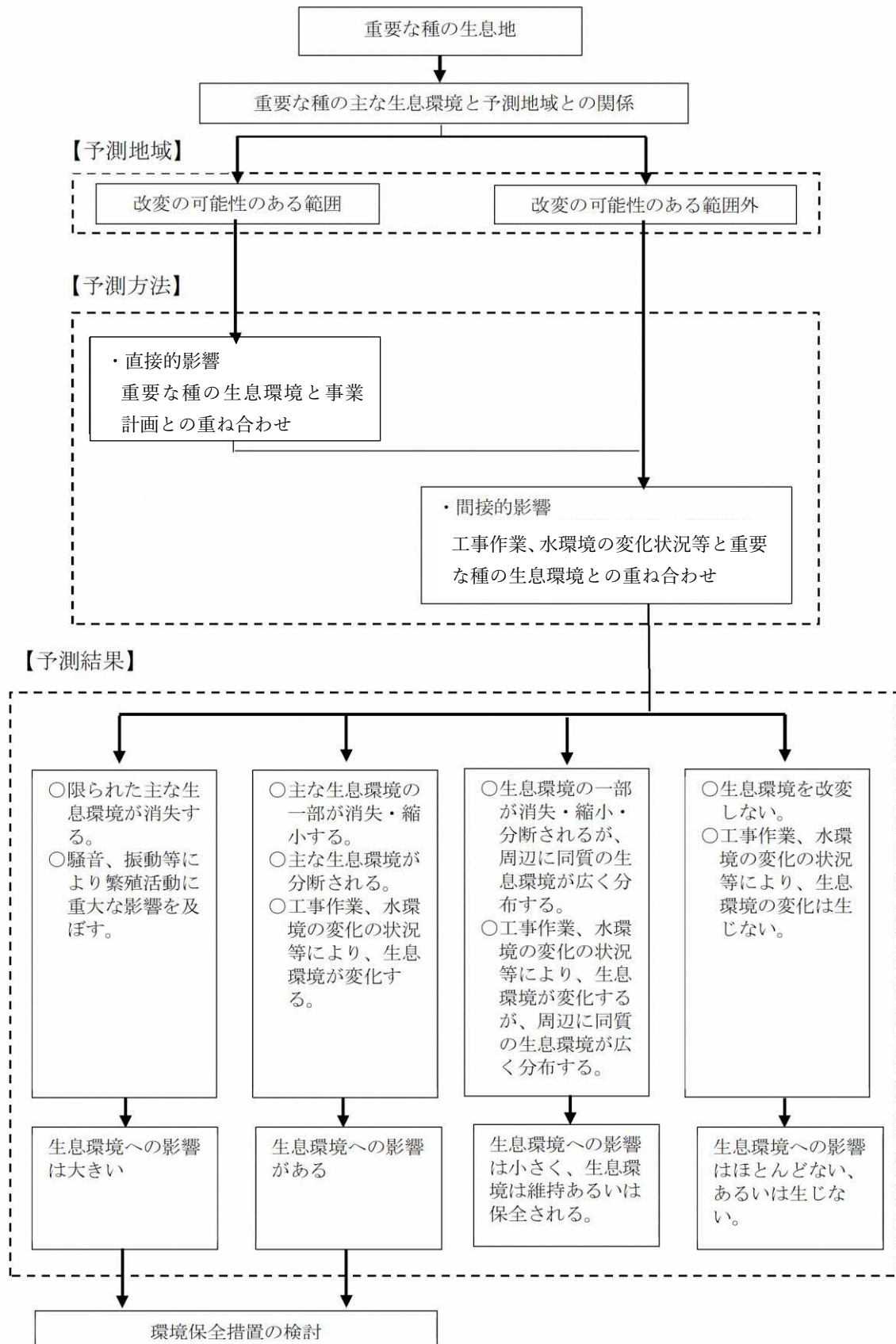


図 3.7-16 予測の手順（動物）

1) 予測結果

a) 哺乳類

哺乳類の重要な種に対する予測は、表 3.7-21～表 3.7-22 に示すとおりである。

表 3.7-21 哺乳類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | カヤネズミ                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州に分布し、低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地等のイネ科、カヤツリグサ科植物が密生し水気のあるところに球形の巣を作る。</li> <li>・ 植物の種子、昆虫類を捕食する。</li> <li>・ 調査範囲の田畑・草地でまとまって確認された。</li> </ul>                                                                         |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の田畑・草地でまとまって確認されており、これらの環境を主な生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境は、対象事業計画地に位置しており、造成工事により消失するため、本種の生息への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑等に一時的に避難するものと考えられ、環境の回復後に戻ってくると考えられることから、本種の生息は維持される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                                           |

表 3.7-22 哺乳類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | イタチ属の一種                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州，四国，九州に分布し、平野部の草地や、川沿いなどの水辺に生息するが、低地の田畑や人家の周辺、山岳地帯にも生息する。</li> <li>・ ネズミ類を捕食するが、小鳥の卵や雛、昆虫類、カエルなども捕食する。</li> <li>・ 調査範囲の田畑・草地や道路等で広く確認された。</li> </ul>                                         |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境は、対象事業計画地に位置しており、造成工事により消失するため、本種の生息への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑等に一時的に避難するものと考えられ、環境の回復後に戻ってくると考えられることから、本種の生息は維持される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                      |

b) 鳥類

鳥類の重要な種に対する予測は、表 3.7-23～表 3.7-35 に示すとおりである。

表 3.7-23 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | ササゴイ                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>夏鳥として本州、四国、九州で繁殖する。河川、湖、池沼、湿原、水田などに生息し、魚類、両生類、甲殻類などを食べる。</li> <li>夏季に飛翔する個体を確認した。</li> </ul>                                                                                                                        |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域で飛翔する個体を確認したのみであるが、河川、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                          |

表 3.7-24 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | アマサギ                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>本州、四国、九州に分布し、平野部の草地や、川沿いなどの水辺や低地の田畑や人家の周辺に生息する。</li> <li>小鳥の卵や雛、昆虫類、カエルなどを捕食する。</li> <li>初夏に飛翔する個体を確認した。</li> </ul>                                                                                              |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域で飛翔する個体を確認したのみであるが、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                       |



表 3.7-25 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ヒクイナ                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏鳥として本州、四国、九州で繁殖し、平地や低山の水田や河川、湿地に生息する。</li> <li>・ 水生昆虫、軟体動物、植物の種子などを食べる</li> <li>・ 春季に田畑・草地で確認した。</li> </ul>                                                                                                          |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で2個体を確認したのみであるが、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                            |

表 3.7-26 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ケリ                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州に分布し、平野部の草地や、川沿いなどの水辺に生息するが、水田、池沼畔、湿地などに生息し、水田の畦や荒れ地に巣をつくる。</li> <li>・ 昆虫類、ミミズなどを捕食する。</li> <li>・ 調査範囲の田畑・草地や道路等で確認された。</li> </ul>                                                                     |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域のほぼ全域で確認されており、田畑・草地を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                     |

表 3.7-27 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | オオタカ                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道、本州、四国、九州に分布し、亜高山から平地の林に生息し、しばしば獲物を求めて農耕地や水辺など開けた場所へも出てくる。</li> <li>・ 冬季に飛翔する個体を確認した。</li> </ul>                                                                                                                  |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で飛翔する個体を確認したのみであるが、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                           |

表 3.7-28 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | カワセミ                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州で繁殖する。河川、湖、池沼、湿原、水田などに生息し、魚類などを食べる。</li> <li>・ 秋季に飛翔する個体を確認した。</li> </ul>                                                                                                                                       |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で飛翔する個体を確認したのみであるが、河川、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                              |

表 3.7-29 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | チョウゲンボウ                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道から九州に分布し、農耕地、原野、川原、干拓地、丘陵地帯、山林など低地、低山帯から高山帯までの広い範囲に生息する。</li> <li>・ 秋季に飛翔する個体を確認した。</li> </ul>                                                                                                                    |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で飛翔する個体を確認したのみであるが、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                           |

表 3.7-30 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | オオヨシキリ                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏鳥として渡来・繁殖し、ヨシ原で営巣する。</li> <li>・ ヨシ原で茎から茎へと移動しながら昆虫を捕らえる。空中へ飛び出し、昆虫をフライングキャッチすることもある。</li> <li>・ 初夏に調査範囲のヨシ原でまとまって確認された。</li> </ul>                                                                                 |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域のヨシ原でまとまって確認されており、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                          |

表 3.7-31 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | コムクドリ                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州中部からサハリン（樺太）南部にかけて繁殖し、冬はフィリピンやボルネオなどに渡る。国内では夏鳥として本州中部以北へ渡来する。</li> <li>・ 繁殖地では平地や低山地の林や村落など人家近くに生息する。昆虫や果実を採食する。</li> <li>・ 秋季に水田・畑地で確認した。</li> </ul>                                           |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の田畑・草地を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                        |

表 3.7-32 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | イソヒヨドリ                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道から沖縄に分布し、海岸や島の岩礁や市街地にも生息する。主に昆虫を食べる。</li> <li>・ 調査範囲で広く確認されている。</li> </ul>                                                                                                                                       |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域のほぼ全域で確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                          |



表 3.7-33 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ハクセキレイ                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道から九州に分布し、主に水辺に棲むが、川だけでなく用水路、水辺が近くにある場所ならば畑や市街地などでもよく観察される。</li> <li>調査範囲で広く確認されている。</li> </ul>                                                                                                               |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域のほぼ全域で確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                      |

表 3.7-34 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | シメ                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>冬鳥として渡来し、平地から山地の落葉広葉樹林や雑木林に生息する。</li> <li>調査範囲では草地や樹林地で確認されている。</li> </ul>                                                                                                                                    |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域の草地や樹林地で確認されており、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                    |

表 3.7-35 鳥類の重要な種への影響予測

| 種名                    |                                | アオジ                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び<br>主な生息環境 |                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬鳥として渡来し、平地から山地の落葉広葉樹林や雑木林に生息する。</li> <li>・ 調査範囲では草地や樹林地で確認されている。</li> </ul>                                                                                                                                          |
| 影響<br>予測              | 工事の実施<br>(造成工事)                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の草地や樹林地で確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生息への影響は大きいと予想される。</li> <li>・ ただし、確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                       | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、<br>住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地は土地の改変により消失するものの、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響は回避できると予測する。</li> </ul>                                                                            |

c) 陸上昆虫類

陸上昆虫類の重要な種に対する予測は、表 3.7-36～表 3.7-41 に示すとおりである。

表 3.7-36 陸上昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | コガムシ                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道、本州、四国、九州に分布し、止水性のため池、水田、湿地などに生息し、不安定な水域に突発的に出現する。</li> <li>・ 調査範囲では水田で確認されている。</li> </ul>                                                                                                                                 |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域に存在する水田で確認されており、水田及び周辺を生息環境として利用している。</li> <li>・ 本種の生息環境である水田は、対象事業計画地に含まれており、造成工事により消失する場合には本種の生息への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、水田が改変されない場合や、改変する場合でも段階的に改変が行われる場合には、周辺の生息環境に避難することにより本種の生息は維持されることが考えられる。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                                                     |

表 3.7-37 陸上昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | ハラグロオオテントウ                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州に分布し、クワキジラミを捕食するため、おもにクワ畑で見られる。</li> <li>・ 調査範囲では1箇所確認されている。</li> </ul>                                                                                                                                                  |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の1箇所で確認されており、田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である田畑は、対象事業計画地に含まれており、造成工事により消失する場合には本種の生息への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、田畑が改変されない場合や、改変する場合でも段階的に改変が行われる場合には、周辺の生息環境に避難することにより本種の生息は維持されることが考えられる。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                                                        |

表 3.7-38 陸上昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ジュウサンホシテントウ                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道、本州、四国、九州に分布し、湿地に生息する。</li> <li>・ 調査範囲では1箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                                                                              |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の畑地で確認されており、田畑・草地を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である田畑は、対象事業計画地に含まれており、造成工事により消失する場合には本種の生息への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、田畑が改変されない場合や、改変する場合でも段階的に改変が行われる場合には、周辺の生息環境に避難することにより本種の生息は維持されると考えられる。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                                                    |

表 3.7-39 陸上昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ヤマトオサムシダマシ                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州に分布し、古い農家の床下や納屋などに多く、飛翔力はないので食糧とともに移動し、米糠や野菜を食べる。</li> <li>・ 調査範囲で1箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                     |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の1箇所で確認されており、田畑に隣接する建物内を利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である納屋等の環境は、対象事業計画地の中にあり、造成工事により消失するため本種の生息への影響は大きい。</li> <li>・ ただし、廃屋等の生息可能環境が周辺に存在することから、一時的に避難し、生息を継続することが可能であると考えられる。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、営農に伴う納屋等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                       |



表 3.7-40 陸上昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | モンズズメバチ                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道、本州、四国・九州の平野部から低山地に生息している。</li> <li>・ 調査範囲で1箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                                                                                      |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の1箇所で確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に含まれ、造成工事により消失する。</li> <li>・ ただし、本種の確認地点は一時的に確認されたにすぎないこと、本種は飛翔することで周辺に残存する好適な環境に容易に移動可能なことから、生息はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul>                           |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境は対象事業計画地に含まれ、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、本種の確認地点は一時的に確認されたにすぎないこと、本種は飛翔することで周辺に残存する好適な環境に容易に移動可能なこと、</li> <li>・ また、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul> |

表 3.7-41 陸上昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | アオスジクモバチ                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州に分布し、砂地に生息する。</li> <li>・ 調査範囲で1箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の1箇所で確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である田畑は、対象事業計画地に含まれており、造成工事により消失する場合には本種の生息への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、田畑が改変されない場合や、改変する場合でも段階的に改変が行われる場合には、周辺の生息環境に避難することにより本種の生息は維持されると考えられる。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測する。</li> </ul>                                                          |

d) 底生動物

底生動物の重要な種に対する予測は、表 3.7-42～表 3.7-44 に示すとおりである。

表 3.7-42 底生生物の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ヒメマルマメタニシ                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県以西の本州、四国、九州の中・北部に分布し、に水田が主な生息地となる。</li> <li>調査範囲の江尻川につながる水路で確認された。</li> </ul>                                                                                                                              |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域の江尻川につながる水路で確認されており、江尻川・天野川等の水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による濁水発生等による生息環境への影響が予測される。</li> <li>ただし、濁水対策を行うこと、江尻川・天野川等の水域が連続していることから、生息環境は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地の江尻川は著しく改変することがないため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                                     |

表 3.7-43 底生生物の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ドブシジミ                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>東北から四国、九州に分布し、流れの緩やかな水路や池沼、湿地などの泥底に生息する。</li> <li>調査範囲の江尻川につながる水路で確認された。</li> </ul>                                                                                                                           |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域の江尻川につながる水路で確認されており、江尻川・天野川等の水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による濁水発生等による生息環境への影響が予測される。</li> <li>ただし、濁水対策を行うこと、江尻川・天野川等の水域が連続していることから、生息環境は維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地の江尻川は著しく改変することがないため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                                     |

表 3.7-44 底生生物の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ヤスマツアメンボ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北から四国、九州に分布し、流れの緩やかな水路や池沼、湿地などに生息する。</li> <li>・ 調査範囲の江尻川につながる水路で確認された。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                 |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の江尻川につながる水路で確認されており、江尻川・天野川等の水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による生息環境への影響が予測される。</li> <li>・ ただし、天野川等に一時的に回避するものと考えられ、生息環境はある程度維持されるものと予測される。</li> <li>・ また、本種の確認地点は一時的に確認されたにすぎないこと、本種は飛翔することで周辺に残存する好適な環境に容易に移動可能なことから、生息はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地の江尻川は著しく改変することがないため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                          |

e) 魚類

魚類の重要な種に対する予測は、表 3.7-45～表 3.7-46 に示すとおりである。

表 3.7-45 魚類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ドジョウ                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の平野部の水田や湿地、農業用水路、泥底の流れの緩やかな小川などに全国的に生息している。</li> <li>調査範囲の江尻川で確認された。</li> </ul>                                                                                                                       |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域の江尻川で確認されており、江尻川・天野川等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の確認環境のうち、対象事業区域内にある個所は造成工事により消失するため、一時的に生息への影響があると予測される。</li> <li>ただし、天野川等に工事による環境変化に伴い避難すると考えられ、事業後に環境が整うことによって生息が維持されると予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地の江尻川は著しく改変することがないため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                               |

表 3.7-46 魚類の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | ミナミメダカ                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>青森県東部から紀伊半島にかけての太平洋側、中国・四国地方、九州地方、沖縄本島に分布し、河川敷内の流れの緩やかなたまりや池、水田、灌漑用水路に多い。</li> <li>調査範囲の江尻川で確認された。</li> </ul>                                                                                           |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種は予測地域の江尻川で確認されており、江尻川・天野川等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>本種の確認環境のうち、対象事業区域内にある個所は造成工事により消失するため、一時的に生息への影響があると予測される。</li> <li>ただし、天野川等に工事による環境変化に伴い避難すると考えられ、事業後に環境が整うことによって生息が維持されると予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>本種の生息環境の一部である対象事業計画地の江尻川は著しく改変することがないため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                               |



f) 水生昆虫類

水生昆虫の重要な種に対する予測は、表 3.7-47 に示すとおりである。

表 3.7-47 水生昆虫類の重要な種への影響予測

| 種名                    |                                | ヤスマツアメンボ                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び<br>主な生息環境 |                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北から四国、九州に分布し、流れの緩やかな水路や池沼、湿地などに生息する。</li> <li>・ 調査範囲の江尻川で確認された。</li> </ul>                                                                                                             |
| 影<br>響<br>予<br>測      | 工事の実施<br>(造成工事)                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の江尻川で確認されており、江尻川・天野川等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による生息環境への影響が予測される。</li> <li>・ ただし、天野川等に一時的に回避するものと考えられ、生息環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                       | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、<br>住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地の江尻川は著しく改変することがないため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                               |

## 2) 評価の指針

動物の評価指標は、表 3.7-47 に示すとおりである。

表 3.7-48 評価の指針

| 環境影響要因       | 評価の指針                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施及び施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"><li>・環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</li><li>・環境基本計画、自然環境の保全と回復に関する基本方針（昭和 49 年 9 月 18 日大阪府決定）等、国、大阪府及び枚方市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li><li>・自然公園法、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、森林法、水産資源保護法及び絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に定める地域指定及び基準等に適合するものであること。</li></ul> |

環境保全目標は、予測結果が表 3.7-49 に示す内容との整合が図られているか否かを検討することにより行った。

表 3.7-49 環境保全目標

| 項目            | 環境保全目標                                                                                                             |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重要な種・注目すべき生息地 | <ul style="list-style-type: none"><li>・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律等に定める重要な種及び注目すべき生息地の生息環境の環境保全が配慮されていること。</li></ul> |

## 3) 環境保全措置

事業の実施に当たっては、工事の実施、施設等の存在において、影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

### a) 工事の実施における環境保全措置

- ・ 現況の田畑、草地を裸地にすることや工事濁水等による動植物の生息に及ぼす影響を可能な限り低減するよう努める。
- ・ 重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を枚方市環境部局と協議・検討し、生息環境の確保に努める。

### b) 施設等の存在における環境保全措置

- ・ 農地ゾーンの整備により、生息環境の創出に努める。
- ・ 公園、緑地等において中低木や食餌木の植栽等を枚方市環境部局と協議・検討し、動物が生息できる環境を創出するよう努める。

#### 4) 評価結果

重要な種の生息環境の改変程度については、工事中の生息環境への可能な限り影響低減や確保を図るほか、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地、調整池整備等で生息環境の創出するように努めることから、事業者の実行可能な範囲内でできる限り、環境影響の低減が図られることから、重要な種及び注目すべき生息地は環境保全目標との整合が図られていると評価する。

## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

(1) 準備書 P6.15-62 表 6.15-26 鳥類の重要な種への影響予測について、「確認環境は主要な生息環境ではないこと、工事中も一時的に周辺の田畑等に避難することから、本種の生息は維持される。」と記載されていますが、ケリは田畑等が消失するような状況で戻ってくることはないと思います。同様の表現は随所に確認されますので、修正する必要があると思います。また、「公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を回避することが可能であると予測する。」と記載されていますが、同様に生息環境として大きな面積を必要とする生物は戻ってこないと考えられるため、「影響を回避する」という表現を「影響を軽減する」に修正する必要があると思います。以上の点について事業者に見解を求めた。

## 【事業者の回答】

ケリ等の行動範囲の大きい生物については意見のとおり修正します。

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である

## 【指摘事項】

・特になし



### 3.8 植物

#### 3.8.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

- ・植物相及び植生の状況（シダ植物以上の高等植物）
- ・注目すべき種、植物群落の分布及び特性

###### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地及び周辺地域としている。

###### 3) 調査時期

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（「第6回自然環境調査（枚方ふるさといきもの調査）」（平成31年3月 枚方市））、環境省生物多様性センターの情報を収集整理している。

###### 5) 調査結果

調査結果は、準備書「第2章 地域の概況 2.3 自然環境 2.3.4 生物 (2)植物」に示すとおりである。

## (2) 現地調査

### 1) 調査項目

- ・植物相及び植生の状況（シダ植物以上の高等植物）
- ・重要な種及び注目すべき種、植物群落の分布及び特性
- ・緑被率

### 2) 調査地域・地点

調査地点は、事業計画地約 19.7ha の範囲と江尻川 2 地点としている。また、緑被率は事業計画地約 19.7ha の範囲としている。

### 3) 調査時期・頻度

調査時期・頻度は、表 3.8-1 に示す期間としている。

表 3.8-1 植物調査の現況調査時期・頻度

| 現況調査項目 | 調査時期・頻度               | 調査期間                                                                                        |
|--------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 植物相    | 4 回<br>(春季、初夏季、夏季、秋季) | 春季 : 令和 5 年 4 月 7 日<br>初夏季 : 令和 5 年 6 月 9 日<br>夏季 : 令和 5 年 7 月 27 日<br>秋季 : 令和 5 年 9 月 29 日 |
| 植生     | 1 回 (夏季)              | 夏季 : 令和 5 年 7 月 27 日                                                                        |
| 緑被率    | 1 回 (夏季)              | 夏季 : 令和 5 年 7 月 27 日                                                                        |

### 4) 調査方法

調査方法は、表 3.8-2 に示す方法で実施している。

表 3.8-2 植物の現況調査方法

| 現況調査項目 | 調査方法                       |
|--------|----------------------------|
| 植物相    | 現地調査<br>・任意観察法             |
| 植生     | 現地調査<br>・任意観察法<br>・コドラー調査法 |
| 緑被率    | 現地踏査等により把握（植物調査時）          |



図 3.8-1 植物の現地調査位置

## 5) 調査結果

### a) 植物相

現地調査により、表 3.8-3 (1) ～ (11) に示す 92 科 345 種の植物を確認している。

表 3.8-3 (1) 植物類確認種一覧 (現地調査)

| No. | 科名        | 種名         | 調査時期 |    |   |   |
|-----|-----------|------------|------|----|---|---|
|     |           |            | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 1   | トクサ科      | スギナ        | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 2   | カニクサ科     | カニクサ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 3   | ホングウシダ科   | ホラシノブ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 4   | コバノイシカグマ科 | イヌシダ       | ○    |    |   |   |
| 5   |           | ワラビ        | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 6   | イノモトソウ科   | ハウライシダ     | ○    |    |   |   |
| 7   |           | ヒメミズワラビ    |      |    |   | ○ |
| 8   |           | イノモトソウ     | ○    |    | ○ |   |
| 9   | チャセンシダ科   | トラノオシダ     | ○    | ○  |   |   |
| 10  | ヒメシダ科     | ヒメワラビ      |      |    | ○ |   |
| 11  |           | ホシダ        |      | ○  | ○ | ○ |
| 12  |           | ヒメシダ       | ○    | ○  | ○ |   |
| 13  | メシダ科      | シケシダ       |      |    | ○ | ○ |
| 14  | オンシダ科     | ヤブソテツ      | ○    |    |   | ○ |
| 15  |           | ベニシダ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 16  |           | オオベニシダ     | ○    |    |   |   |
| 17  |           | クマワラビ      | ○    |    | ○ | ○ |
| 18  |           | トウゴクシダ     | ○    | ○  |   |   |
| 19  | ウラボシ科     | ノキシノブ (広義) | ○    |    |   |   |
| 20  | マツ科       | クロマツ       | ○    |    | ○ | ○ |
| 21  | マツブサ科     | サネカズラ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 22  | ドクダミ科     | ドクダミ       |      | ○  | ○ |   |
| 23  | クスノキ科     | クスノキ       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 24  |           | タブノキ       |      |    | ○ |   |
| 25  | ショウブ科     | セキショウ      |      |    |   | ○ |
| 26  | サトイモ科     | アオウキクサ     |      |    | ○ | ○ |
| 27  |           | ウキクサ       |      | ○  | ○ |   |
| 28  | オモダカ科     | オモダカ       |      |    | ○ | ○ |
| 29  | ヤマノイモ科    | ヤマノイモ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 30  |           | ナガイモ       |      |    | ○ |   |



表 3.8-3 (2) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名       | 種名         | 調査時期 |    |   |   |
|-----|----------|------------|------|----|---|---|
|     |          |            | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 31  | ヤマノイモ科   | オニドコロ      |      |    | ○ |   |
| 32  | アヤメ科     | ニワゼキショウ    |      | ○  |   |   |
| 33  | ヒガンバナ科   | ノビル        | ○    |    |   |   |
| 34  |          | ハナニラ       | ○    |    |   |   |
| 35  |          | ヒガンバナ      |      |    |   | ○ |
| 36  |          | スイセン       | ○    |    |   |   |
| 37  |          | タマスダレ      |      |    |   | ○ |
| 38  | クサスギカズラ科 | ツルボ        |      |    |   | ○ |
| 39  |          | コヤブラン      | ○    |    |   |   |
| 40  |          | ジャノヒゲ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 41  | ヤシ科      | シュロ        |      | ○  | ○ | ○ |
| 42  |          | トウジュロ      | ○    | ○  | ○ |   |
| 43  | ツユクサ科    | マルバツユクサ    |      |    | ○ | ○ |
| 44  |          | ツユクサ       |      |    | ○ | ○ |
| 45  |          | イボクサ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 46  |          | ミドリハカタカラクサ | ○    |    |   |   |
| 47  | ミズアオイ科   | コナギ        |      |    | ○ | ○ |
| 48  | ガマ科      | ガマ         | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 49  | イグサ科     | イグサ        | ○    |    | ○ | ○ |
| 50  |          | コゴメイ       |      | ○  |   |   |
| 51  |          | コウガイゼキショウ  |      | ○  |   |   |
| 52  |          | クサイ        |      | ○  | ○ |   |
| 53  |          | スズメノヤリ     | ○    |    |   |   |
| 54  | カヤツリグサ科  | ナキリスゲ      |      |    |   | ○ |
| 55  |          | アオスゲ       |      | ○  |   |   |
| 56  |          | アゼスゲ       | ○    |    |   |   |
| 57  |          | シュロガヤツリ    |      |    |   | ○ |
| 58  |          | アイダクグ      |      |    |   | ○ |
| 59  |          | ヒメクグ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 60  |          | タマガヤツリ     |      |    | ○ | ○ |
| 61  | カヤツリグサ科  | ホソミキンガヤツリ  |      |    |   | ○ |
| 62  |          | メリケンガヤツリ   |      |    | ○ |   |
| 63  | カヤツリグサ科  | ヒナガヤツリ     |      |    |   | ○ |

表 3.8-3 (3) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名      | 種名       | 調査時期 |    |   |   |
|-----|---------|----------|------|----|---|---|
|     |         |          | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 64  | カヤツリグサ科 | コゴメガヤツリ  |      |    | ○ | ○ |
| 65  |         | カヤツリグサ   |      |    | ○ |   |
| 66  |         | ハマスゲ     |      |    | ○ | ○ |
| 67  |         | テンツキ     |      |    | ○ | ○ |
| 68  |         | ヒデリコ     |      |    | ○ | ○ |
| 69  | イネ科     | ヌカボ      |      | ○  |   |   |
| 70  |         | スズメノテッポウ | ○    | ○  |   |   |
| 71  |         | セトガヤ     | ○    |    |   |   |
| 72  |         | メリケンカルカヤ | ○    |    |   |   |
| 73  |         | コブナグサ    |      | ○  | ○ | ○ |
| 74  |         | トダシバ     |      |    |   | ○ |
| 75  |         | カズノコグサ   | ○    | ○  | ○ |   |
| 76  |         | ヒメコバンソウ  |      | ○  |   |   |
| 77  |         | イヌムギ     |      | ○  | ○ |   |
| 78  |         | スズメノチャヒキ |      | ○  |   |   |
| 79  |         | ジュズダマ    | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 80  |         | ギョウギシバ   |      | ○  | ○ | ○ |
| 81  |         | メヒシバ     |      | ○  | ○ | ○ |
| 82  |         | イヌビエ     |      |    | ○ | ○ |
| 83  |         | オヒシバ     |      |    | ○ | ○ |
| 84  |         | カモジグサ    |      | ○  | ○ |   |
| 85  |         | カゼクサ     |      |    |   | ○ |
| 86  |         | コスズメガヤ   |      | ○  | ○ |   |
| 87  |         | チガヤ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 88  |         | チゴザサ     |      |    | ○ |   |
| 89  |         | アゼガヤ     |      |    |   | ○ |
| 90  |         | ネズミムギ    |      | ○  |   |   |
| 91  |         | ホソムギ     |      | ○  | ○ |   |
| 92  |         | オギ       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 93  |         | ススキ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 94  |         | ケチヂミザサ   |      | ○  | ○ | ○ |
| 95  |         | オオクサキビ   |      |    |   | ○ |
| 96  |         | シマスズメノヒエ |      | ○  | ○ |   |

表 3.8-3 (4) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名      | 種名         | 調査時期 |    |   |   |
|-----|---------|------------|------|----|---|---|
|     |         |            | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 97  | イネ科     | キシュウスズメノヒエ |      |    | ○ | ○ |
| 98  |         | スズメノヒエ     |      |    |   | ○ |
| 99  |         | タチスズメノヒエ   |      |    | ○ | ○ |
| 100 |         | チカラシバ      |      |    |   | ○ |
| 101 |         | クサヨシ       |      | ○  |   |   |
| 102 |         | ヨシ         |      | ○  | ○ | ○ |
| 103 |         | モウソウチク     |      |    | ○ |   |
| 104 |         | ネザサ        | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 105 |         | ミゾイチゴツナギ   |      | ○  |   |   |
| 106 |         | スズメノカタビラ   | ○    | ○  | ○ |   |
| 107 |         | ナガハグサ      |      | ○  |   |   |
| 108 |         | イタチガヤ      |      |    | ○ |   |
| 109 |         | ヒエガエリ      |      | ○  |   |   |
| 110 |         | ハイヌメリグサ    |      |    |   | ○ |
| 111 |         | アキノエノコログサ  | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 112 |         | セイバンモロコシ   |      |    | ○ |   |
| 113 |         | シバ         | ○    |    |   |   |
| 114 | ケシ科     | ナガミヒナゲシ    |      | ○  |   |   |
| 115 | アケビ科    | アケビ        | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 116 |         | ミツバアケビ     | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 117 | ツツラフジ科  | アオツツラフジ    |      | ○  | ○ | ○ |
| 118 | メギ科     | ナンテン       |      | ○  | ○ |   |
| 119 | キンポウゲ科  | センニンソウ     | ○    | ○  | ○ |   |
| 120 |         | キクザキリュウキンカ | ○    |    |   |   |
| 121 |         | ケキツネノボタン   | ○    |    |   |   |
| 122 |         | タガラシ       | ○    |    |   |   |
| 123 |         | キツネノボタン    |      | ○  | ○ | ○ |
| 124 |         | ヒメウズ       | ○    |    |   |   |
| 125 | ベンケイソウ科 | コモチマンネングサ  | ○    | ○  |   |   |
| 126 | ブドウ科    | ノブドウ       |      | ○  | ○ |   |
| 127 |         | ヤブカラシ      |      |    | ○ | ○ |
| 128 |         | エビヅル       |      |    | ○ |   |
| 129 | マメ科     | クサネム       |      |    | ○ | ○ |

表 3.8-3 (5) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名    | 種名        | 調査時期 |    |   |   |
|-----|-------|-----------|------|----|---|---|
|     |       |           | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 130 | マメ科   | ヤブマメ      |      |    | ○ | ○ |
| 131 |       | ゲンゲ       | ○    |    |   |   |
| 132 |       | ジャケツイバラ   |      |    | ○ |   |
| 133 |       | アレチヌスビトハギ |      |    | ○ | ○ |
| 134 |       | ノアズキ      |      |    | ○ |   |
| 135 |       | ツルマメ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 136 |       | コマツナギ     |      |    | ○ |   |
| 137 |       | ヤハズソウ     |      |    | ○ |   |
| 138 |       | ヤマハギ      |      |    |   | ○ |
| 139 |       | ネコハギ      |      | ○  | ○ |   |
| 140 |       | クズ        |      | ○  | ○ |   |
| 141 |       | コメツブツメクサ  | ○    | ○  |   |   |
| 142 |       | シロツメクサ    | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 143 |       | スズメノエンドウ  | ○    |    |   |   |
| 144 |       | ヤハズエンドウ   | ○    | ○  |   |   |
| 145 |       | カスマグサ     | ○    | ○  |   |   |
| 146 |       | フジ        |      |    | ○ | ○ |
| 147 | グミ科   | ナツグミ      | ○    |    | ○ |   |
| 148 |       | ナワシログミ    | ○    |    | ○ | ○ |
| 149 |       | アキグミ      |      | ○  |   | ○ |
| 150 | ニレ科   | アキニレ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 151 |       | ケヤキ       |      |    | ○ | ○ |
| 152 | アサ科   | ムクノキ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 153 |       | エノキ       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 154 | クワ科   | クワクサ      |      |    |   | ○ |
| 155 |       | イヌビワ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 156 |       | マグワ       |      |    | ○ |   |
| 157 |       | ヤマグワ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 158 | イラクサ科 | カラムシ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 159 |       | ナンバンカラムシ  | ○    |    |   |   |
| 160 | バラ科   | ヤマザクラ     | ○    |    | ○ |   |
| 161 |       | ビワ        | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 162 |       | カナメモチ     | ○    |    | ○ |   |



表 3.8-3 (6) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名      | 種名        | 調査時期 |    |   |   |
|-----|---------|-----------|------|----|---|---|
|     |         |           | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 163 | バラ科     | オヘビイチゴ    | ○    |    |   |   |
| 164 |         | ヘビイチゴ     | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 165 |         | ヤブヘビイチゴ   |      | ○  | ○ |   |
| 166 |         | シャリンバイ    | ○    | ○  |   | ○ |
| 167 |         | ノイバラ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 168 |         | ナワシロイチゴ   | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 169 | ブナ科     | クヌギ       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 170 |         | アラカシ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 171 |         | シラカシ      |      |    | ○ | ○ |
| 172 | ウリ科     | カラスウリ     |      |    | ○ | ○ |
| 173 |         | スズメウリ     |      |    | ○ | ○ |
| 174 | ニシキギ科   | ツルウメモドキ   |      | ○  | ○ | ○ |
| 175 |         | コマユミ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 176 |         | マユミ       | ○    |    |   |   |
| 177 | カタバミ科   | カタバミ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 178 |         | ムラサキカタバミ  | ○    | ○  | ○ |   |
| 179 |         | オッタチカタバミ  | ○    |    | ○ | ○ |
| 180 | ホルトノキ科  | ホルトノキ     | ○    |    |   |   |
| 181 | トウダイグサ科 | エノキグサ     |      | ○  | ○ | ○ |
| 182 |         | コニシキソウ    |      | ○  | ○ | ○ |
| 183 |         | オオニシキソウ   |      |    | ○ |   |
| 184 |         | アカメガシワ    | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 185 |         | ナンキンハゼ    |      | ○  | ○ | ○ |
| 186 | コミカンソウ科 | ナガエコミカンソウ |      |    |   | ○ |
| 187 | ヤナギ科    | マルバヤナギ    |      |    | ○ | ○ |
| 188 |         | オオタチヤナギ   |      | ○  |   |   |
| 189 | スミレ科    | アリアケスミレ   | ○    |    |   |   |
| 190 |         | ヒメスミレ     | ○    |    |   |   |
| 191 |         | ノジスミレ     |      | ○  |   |   |
| 192 | フウロソウ科  | アメリカフウロ   | ○    | ○  |   |   |
| 193 |         | ゲンノショウコ   |      | ○  |   |   |
| 194 | ミソハギ科   | ホソバヒメミソハギ |      |    |   | ○ |
| 195 |         | ミソハギ      |      |    |   | ○ |

表 3.8-3 (7) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名    | 種名        | 調査時期 |    |   |   |
|-----|-------|-----------|------|----|---|---|
|     |       |           | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 196 | アカバナ科 | ヒレタゴボウ    |      |    |   | ○ |
| 197 |       | チョウジタデ    |      |    | ○ | ○ |
| 198 |       | メマツヨイグサ   |      |    | ○ | ○ |
| 199 |       | コマツヨイグサ   |      | ○  | ○ |   |
| 200 |       | ユウゲショウ    |      | ○  | ○ | ○ |
| 201 | ウルシ科  | ヌルデ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 202 |       | ハゼノキ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 203 |       | ヤマハゼ      |      |    | ○ |   |
| 204 |       | ヤマウルシ     |      |    |   | ○ |
| 205 | ムクロジ科 | イロハモミジ    | ○    | ○  |   |   |
| 206 | ミカン科  | ユズ        | ○    |    |   |   |
| 207 |       | サンショウ     |      | ○  |   |   |
| 208 | ニガキ科  | ニワウルシ     |      | ○  | ○ | ○ |
| 209 | センダン科 | センダン      |      | ○  | ○ | ○ |
| 210 | アオイ科  | アオギリ      |      |    | ○ |   |
| 211 | アブラナ科 | セイヨウアブラナ  | ○    |    |   |   |
| 212 |       | ナズナ       | ○    | ○  |   |   |
| 213 |       | タネツケバナ    | ○    |    |   | ○ |
| 214 |       | マメグンバイナズナ |      | ○  | ○ |   |
| 215 |       | オランダガラシ   | ○    |    |   |   |
| 216 |       | イヌガラシ     | ○    | ○  |   |   |
| 217 |       | スカシタゴボウ   | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 218 | タデ科   | イタドリ      |      |    | ○ | ○ |
| 219 |       | ヒメツルソバ    | ○    | ○  |   |   |
| 220 |       | ヤナギタデ     |      |    | ○ |   |
| 221 |       | イヌタデ      |      |    | ○ | ○ |
| 222 |       | ヤノネグサ     |      |    | ○ |   |
| 223 |       | イシミカワ     |      | ○  |   | ○ |
| 224 |       | ボントクタデ    |      |    | ○ | ○ |
| 225 |       | ミゾソバ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 226 |       | ミチャナギ     |      | ○  | ○ |   |
| 227 |       | スイバ       | ○    |    | ○ |   |
| 228 |       | ヒメスイバ     |      | ○  |   |   |

表 3.8-3 (8) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名       | 種名         | 調査時期 |    |   |   |
|-----|----------|------------|------|----|---|---|
|     |          |            | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 229 | タデ科      | ナガバギシギシ    | ○    |    |   |   |
| 230 |          | ギシギシ       |      | ○  |   | ○ |
| 231 |          | エゾノギシギシ    | ○    |    |   |   |
| 232 | ナデシコ科    | オランダミミナグサ  | ○    | ○  |   |   |
| 233 |          | ツメクサ       | ○    | ○  |   | ○ |
| 234 |          | ウシハコベ      | ○    | ○  | ○ |   |
| 235 |          | コハコベ       | ○    | ○  |   |   |
| 236 |          | ノミノフスマ     | ○    |    |   |   |
| 237 | ヒユ科      | イノコヅチ      |      | ○  |   | ○ |
| 238 |          | ヒナタイノコヅチ   |      |    | ○ |   |
| 239 |          | ナガエツルノゲイトウ |      |    | ○ | ○ |
| 240 |          | ホソアオゲイトウ   |      | ○  | ○ | ○ |
| 241 |          | シロザ        |      | ○  |   | ○ |
| 242 | ヤマゴボウ科   | ヨウシュヤマゴボウ  |      | ○  |   |   |
| 243 | オシロイバナ科  | オシロイバナ     |      |    |   | ○ |
| 244 | スベリヒユ科   | マツバボタン     | ○    |    |   |   |
| 245 |          | スベリヒユ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 246 | サカキ科     | ヒサカキ       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 247 | カキノキ科    | カキノキ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 248 | サクラソウ科   | マンリョウ      |      |    | ○ | ○ |
| 249 |          | コナスビ       |      |    | ○ |   |
| 250 | ツバキ科     | ヤブツバキ      |      |    | ○ |   |
| 251 |          | チャノキ       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 252 | ツツジ科     | ヤマツツジ      |      |    |   | ○ |
| 253 |          | モチツツジ      |      |    | ○ |   |
| 254 |          | シャシャンボ     |      |    | ○ | ○ |
| 255 | アオキ科     | アオキ        | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 256 | アカネ科     | ヤエムグラ      | ○    |    |   |   |
| 257 |          | ホソバノヨツバムグラ |      | ○  | ○ |   |
| 258 |          | ヘクソカズラ     |      | ○  | ○ | ○ |
| 259 |          | アカネ        |      |    |   | ○ |
| 260 | キョウチクトウ科 | ガガイモ       |      |    | ○ |   |
| 261 |          | キョウチクトウ    |      |    | ○ |   |

表 3.8-3 (9) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名       | 種名         | 調査時期 |    |   |   |
|-----|----------|------------|------|----|---|---|
|     |          |            | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 262 | キョウチクトウ科 | テイカカズラ     | ○    |    |   |   |
| 263 |          | ツルニチニチソウ   |      | ○  |   |   |
| 264 | ヒルガオ科    | マルバルコウ     |      |    | ○ | ○ |
| 265 | ナス科      | クコ         |      | ○  |   |   |
| 266 |          | イヌホオズキ     |      | ○  |   | ○ |
| 267 |          | アメリカイヌホオズキ |      |    | ○ | ○ |
| 268 | ムラサキ科    | キュウリグサ     | ○    | ○  |   |   |
| 269 | モクセイ科    | シマトネリコ     |      |    |   | ○ |
| 270 |          | ネズミモチ      |      |    | ○ |   |
| 271 |          | トウネズミモチ    | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 272 |          | ヒイラギ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 273 | オオバコ科    | マツバウンラン    |      | ○  |   |   |
| 274 |          | オオバコ       | ○    |    | ○ | ○ |
| 275 |          | ツボミオオバコ    | ○    |    |   |   |
| 276 |          | タチイヌノフグリ   | ○    | ○  |   |   |
| 277 |          | フラサバソウ     |      |    | ○ |   |
| 278 |          | ムシクサ       | ○    | ○  |   |   |
| 279 |          | オオイヌノフグリ   | ○    | ○  |   |   |
| 280 |          | カワヂシャ      | ○    |    |   |   |
| 281 | アゼナ科     | アメリカアゼナ    |      |    | ○ | ○ |
| 282 |          | アゼナ        |      |    | ○ | ○ |
| 283 | シソ科      | キランソウ      | ○    |    |   |   |
| 284 |          | トウバナ       | ○    | ○  | ○ |   |
| 285 |          | カキドオシ      |      | ○  | ○ | ○ |
| 286 |          | ホトケノザ      | ○    | ○  |   |   |
| 287 |          | ヒメオドリコソウ   | ○    |    |   |   |
| 288 |          | マルバハッカ     |      | ○  | ○ | ○ |
| 289 |          | ヒメジソ       |      |    | ○ | ○ |
| 290 | サギゴケ科    | ムラサキサギゴケ   | ○    |    | ○ | ○ |
| 291 |          | トキワハゼ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 292 | キリ科      | キリ         |      | ○  | ○ | ○ |
| 293 | キツネノマゴ科  | キツネノマゴ     |      |    |   | ○ |
| 294 | クマツヅラ科   | ヒメビジョザクラ   |      |    | ○ |   |



表 3.8-3 (10) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名     | 種名           | 調査時期 |    |   |   |
|-----|--------|--------------|------|----|---|---|
|     |        |              | 春    | 初夏 | 夏 | 秋 |
| 295 | クマツヅラ科 | ヤナギハナガサ      |      |    |   | ○ |
| 296 |        | アレチハナガサ      |      |    | ○ |   |
| 297 | モチノキ科  | ナナミノキ        |      | ○  | ○ | ○ |
| 298 |        | クロガネモチ       | ○    | ○  |   | ○ |
| 299 | キキョウ科  | ツリガネニンジン     | ○    |    |   |   |
| 300 |        | ミゾカクシ        |      | ○  | ○ | ○ |
| 301 | キク科    | ヨモギ          | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 302 |        | ヨメナ          |      |    |   | ○ |
| 303 |        | アメリカセンダングサ   |      | ○  | ○ | ○ |
| 304 |        | コセンダングサ      | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 305 |        | トキンソウ        |      |    |   | ○ |
| 306 |        | ノアザミ         | ○    |    | ○ |   |
| 307 |        | オオキンケイギク     |      | ○  |   |   |
| 308 |        | アメリカタカサブロウ   |      | ○  | ○ | ○ |
| 309 |        | ヒメジョオン       | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 310 |        | ヒメムカシヨモギ     |      | ○  | ○ | ○ |
| 311 |        | ハルジオン        | ○    |    |   |   |
| 312 |        | オオアレチノギク     |      | ○  | ○ |   |
| 313 |        | ホソバノチチコグサモドキ | ○    |    |   |   |
| 314 |        | ウラジロチチコグサ    |      | ○  |   |   |
| 315 |        | チチコグサモドキ     | ○    | ○  | ○ |   |
| 316 |        | チチコグサ        |      | ○  |   |   |
| 317 |        | ククイモ         |      |    |   | ○ |
| 318 |        | ニガナ          |      | ○  |   |   |
| 319 |        | オオジシバリ       | ○    |    | ○ | ○ |
| 320 |        | イワニガナ        |      | ○  |   | ○ |
| 321 |        | アキノノゲシ       |      | ○  | ○ | ○ |
| 322 |        | コオニタビラコ      | ○    |    |   |   |
| 323 |        | ハハコグサ        | ○    | ○  | ○ |   |
| 324 |        | ナルトサワギク      | ○    |    |   |   |
| 325 |        | ノボロギク        |      | ○  |   |   |
| 326 |        | セイタカアワダチソウ   | ○    | ○  | ○ | ○ |
| 327 |        | メリケントキンソウ    | ○    | ○  |   |   |

表 3.8-3 (11) 植物類確認種一覧（現地調査）

| No. | 科名     | 種名        | 調査時期  |       |       |       |
|-----|--------|-----------|-------|-------|-------|-------|
|     |        |           | 春     | 初夏    | 夏     | 秋     |
| 328 | キク科    | ノゲシ       | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 329 |        | ヒロハハウキギク  |       |       | ○     |       |
| 330 |        | カンサイタンポポ  | ○     |       |       |       |
| 331 |        | セイヨウタンポポ  | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 332 |        | トウカイタンポポ  | ○     |       |       |       |
| 333 |        | アカオニタビラコ  | ○     | ○     |       |       |
| 334 |        | アオオニタビラコ  | ○     |       | ○     | ○     |
| 335 | ウコギ科   | タラノキ      |       | ○     | ○     | ○     |
| 336 |        | ヤツデ       | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 337 |        | キヅタ       | ○     | ○     | ○     |       |
| 338 |        | ノチドメ      | ○     | ○     |       |       |
| 339 |        | オオチドメ     |       |       | ○     | ○     |
| 340 |        | ヒメチドメ     |       | ○     | ○     |       |
| 341 | セリ科    | ツボクサ      | ○     |       |       |       |
| 342 |        | セリ        | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 343 |        | ヤブジラミ     |       | ○     |       |       |
| -   |        | ヤブジラミ属の一種 | ○     |       |       |       |
| 344 | スイカズラ科 | スイカズラ     | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 345 |        | ノヂシャ      |       |       |       | ○     |
| 計   | 92 科   | 345 種     | 139 種 | 176 種 | 202 種 | 180 種 |

※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度版」（令和4年、国土交通省）に準拠している。

b) 重要な種の確認状況

重要な種の選定基準は表 3.8-4 に示すとおりである。

現地調査による重要な種及び注目すべき種の確認状況は、表 3.8-5 のとおりである。

現地調査による重要な種の確認位置は、図 3.8-2 に示すとおりである。

表 3.8-4 重要な種の選定基準

| 文献及び法律名 |                                                             | 選定基準となる区分                                                                                               |
|---------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I       | 「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号 改正：令和 2 年法律第 41 号）                | 特天：特別天然記念物<br>天：天然記念物（国、県、市町村）                                                                          |
| II      | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号 改正：令和元年法律第 37 号） | 国内：国内希少野生動植物種<br>国際：国際希少野生動植物種                                                                          |
| III     | 「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省）                                | EX：絶滅<br>EW：野生絶滅<br>CR：絶滅危惧ⅠA 類<br>EN：絶滅危惧ⅠB 類<br>VU：絶滅危惧Ⅱ類<br>NT：準絶滅危惧<br>DD：情報不足<br>LP：絶滅のおそれのある地域個体群 |
| IV      | 改訂 近畿地方の保護上重要な植物 -レッドデータブック近畿 2001-                         | A：絶滅危惧種 A<br>B：絶滅危惧種 B<br>C：絶滅危惧種 C<br>準：準絶滅危惧種                                                         |
| V       | 「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年、大阪府）                               | EX：絶滅<br>EW：野生絶滅<br>CR：絶滅危惧ⅠA 類<br>EN：絶滅危惧ⅠB 類<br>VU：絶滅危惧Ⅱ類<br>NT：準絶滅危惧<br>DD：情報不足<br>AN：要注目種           |

表 3.8-5 重要な種の確認状況（植物）

| No. | 科名      | 種名       | 重要な種選定基準 |     |     |                 |     |     |
|-----|---------|----------|----------|-----|-----|-----------------|-----|-----|
|     |         |          | I        | II  | III | IV              | V   | VI  |
| 1   | イノモトソウ科 | ヒメミズワラビ  |          |     |     | 準 <sup>*1</sup> | NT  |     |
| 2   | オオバコ科   | カワヂシャ    |          |     | NT  | 準               | NT  |     |
| 3   | キク科     | カンサイタンポポ |          |     |     |                 |     | ○   |
| 4   |         | トウカイタンポポ |          |     |     |                 |     | ○   |
| 計   | 3 科     | 4 種      | 0 種      | 0 種 | 1 種 | 2 種             | 2 種 | 2 種 |

※1 近畿 RDB ではミズワラビが準絶滅種として指定されているが、近畿 RDB の発刊は 2001 である。  
 その後の研究(Masuyama and Watano, 2010)で本州のミズワラビは、分類再検討によりヒメミズワラビとして整理されている。このことから近畿 RDB 記載のミズワラビはヒメミズワラビであると判断し、近畿 RDB 対象種と判断している。

【重要な種選定基準】

I：文化財保護法：文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）

II：種の保存法：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）

III：環境省 RL：環境省レッドリスト 2020（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室、令和 2 年）  
 NT:準絶滅危惧

IV：近畿 RDB：改訂 近畿地方の保護上重要な植物 -レッドデータブック近畿 2001-  
 準：準絶滅危惧種

V：大阪府 RDB：大阪府レッドリスト 2014  
 NT:準絶滅危惧

VI：注目種：アドバイザーの意見を参考にし、在来種のタンポポ属を注目種としている

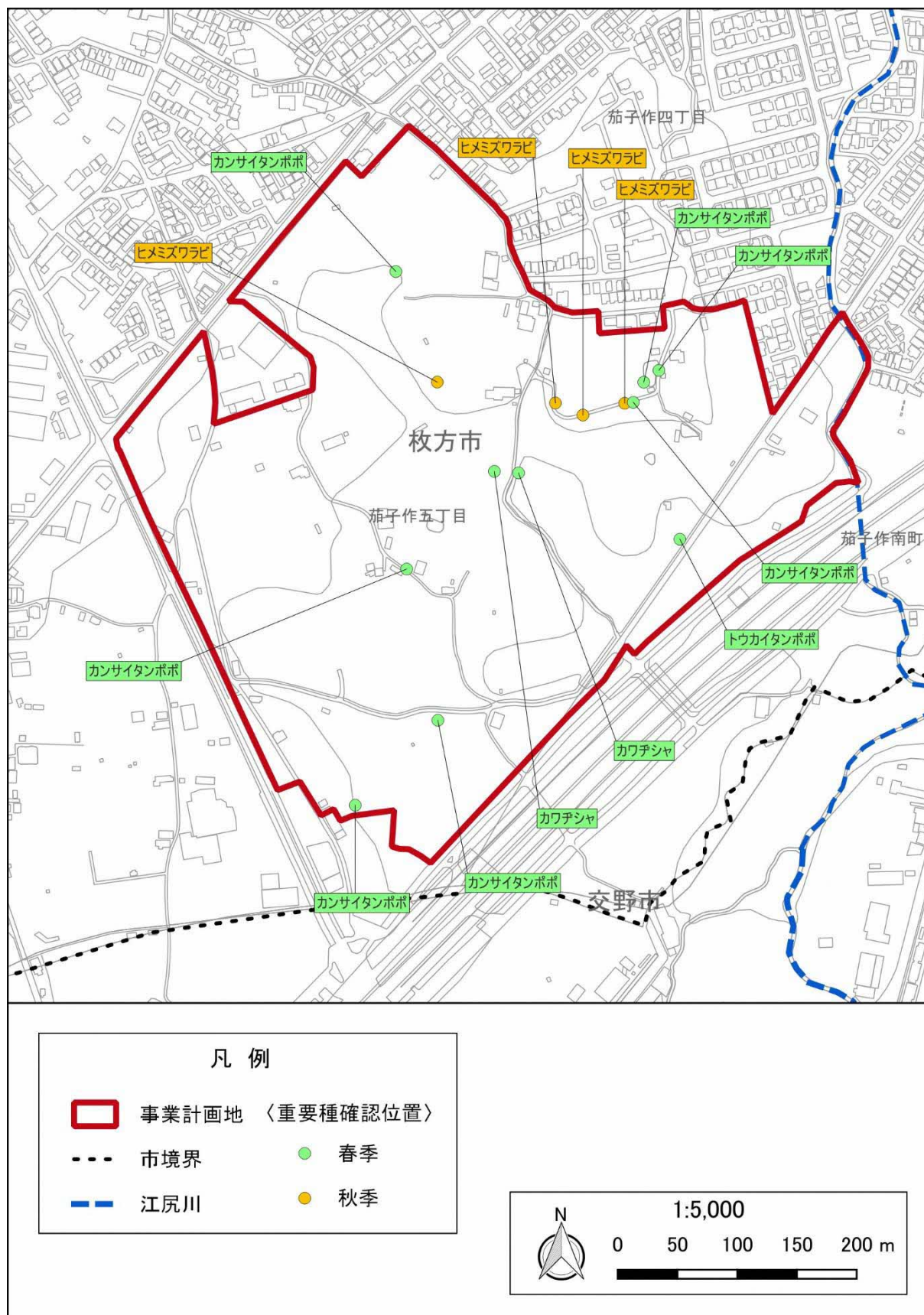


図 3.8-2 植物 重要な種と注目種の確認位置



c) 植生

植生調査の結果を図 3.8-3 に示す。なお、重要な群落は確認されなかった。

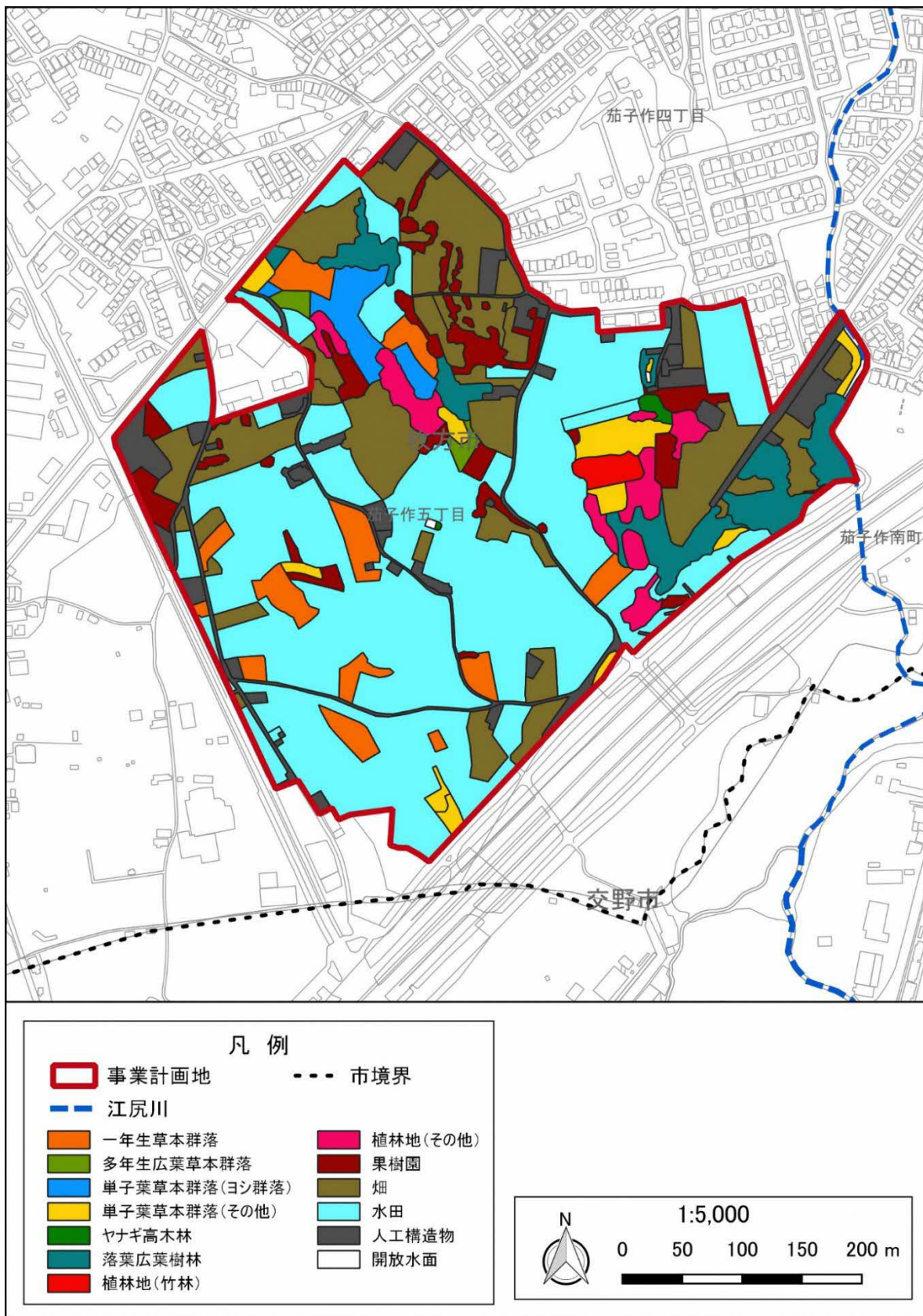


図 3.8-3 植生図

d) 緑被率

緑被率の算出結果を表 3.8-6 に、調査範囲内における緑被範囲を図 3.8-4 に示す。

表 3.8-6 緑被率

| 事業計画地の総面積 | 緑被面積     | 緑被率     |
|-----------|----------|---------|
| 約 19.7ha  | 約 17.8ha | 約 90.4% |

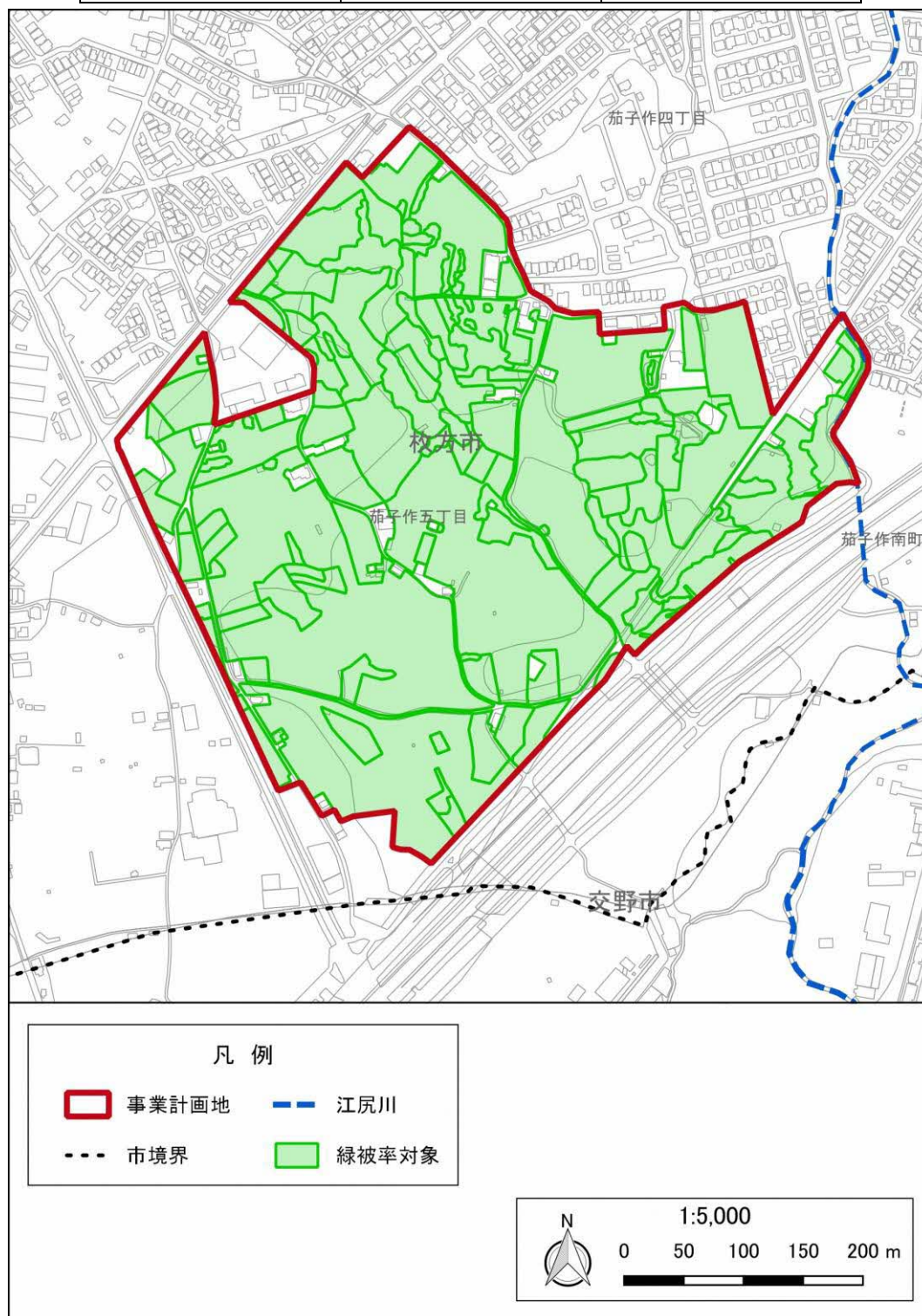


図 3.8-4 緑被率算出範囲

### 3.8.2 予測及び評価

#### (1) 田畑、草地、林等の裸地化や造成等による自然環境の変化や工事濁水が植物に及ぼす影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、田畑、草地、林等の裸地化や造成等による自然環境の変化や工事濁水が植物に及ぼす影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地及び周辺地域と江尻川としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事の実施は、造成工事が最大となった時期とし、土地又は工作物の存在については、事業の実施が終了し、整備後の環境が安定することが想定される時期としている。

##### 4) 予測方法

土地利用計画を踏まえ、重要な種の生育環境及び緑被率の改変の程度を推測し、予測地域にみられる重要な種及び生育環境について、事例の引用又は解析により予測している。

##### 5) 予測条件

事業計画段階において、表 3.8-7 に示す環境保全措置の検討を行っており、予測条件として環境保全措置を実施することを前提に予測を行った。予測手順は図 3.8-5 に示す手順で行った。

表 3.8-7 予測の前提条件とした環境保全措置

| 想定される環境影響要因                | 環境保全措置                                                                                                                                                       |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現況の田畑、草地を裸地にすることや工事濁水等による植物の生育に及ぼす影響を可能な限り低減する。</li><li>・ 重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を検討し、生育環境の確保に努める。</li></ul> |
| 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 住宅・農業ゾーンの整備により、生育環境の創出に努める。</li><li>・ 公園、緑地等において中低木の植栽等を検討し、植物が生育できる環境を創出するよう努める。</li></ul>                          |



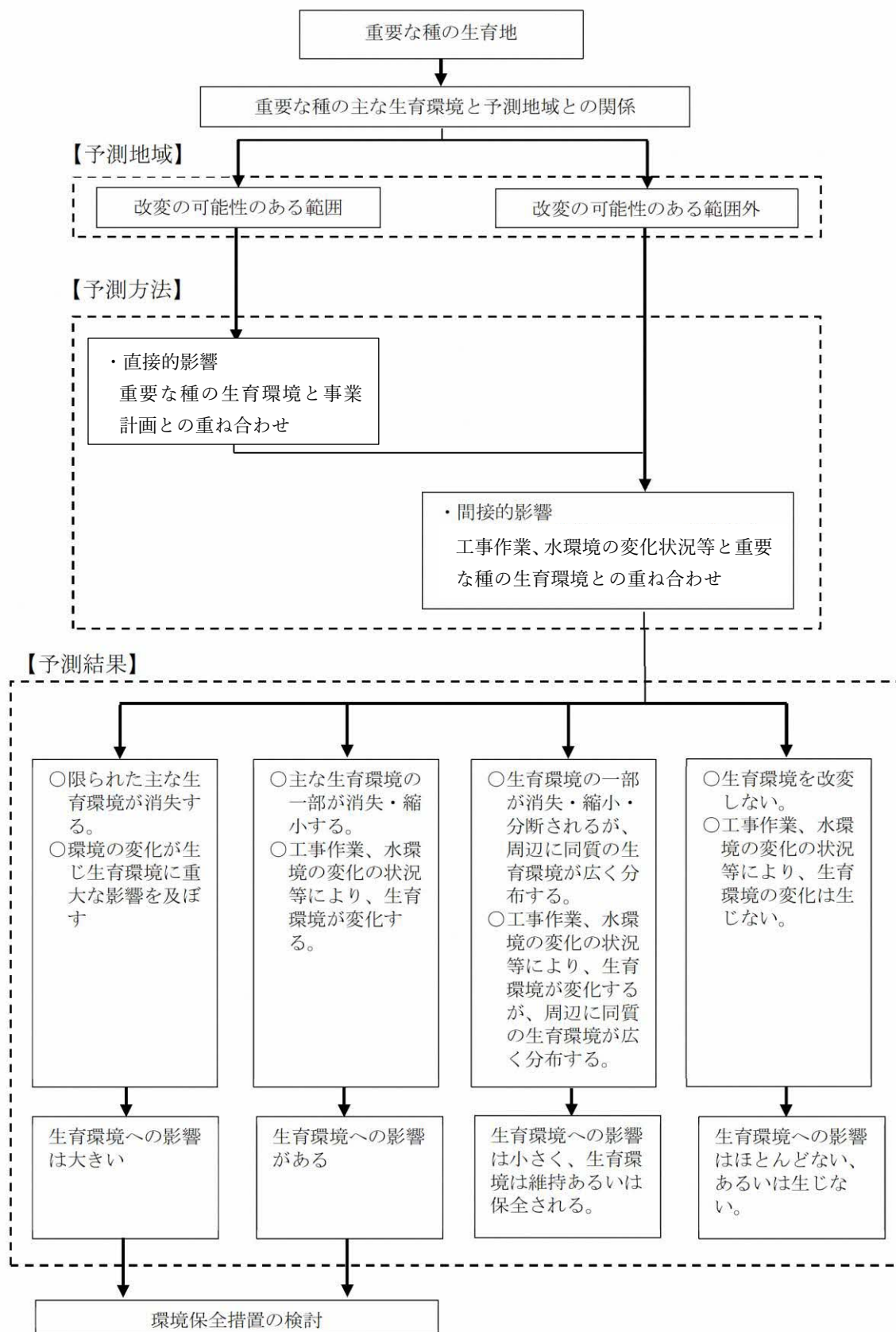


図 3.8-5 予測の手順（植物）

1) 予測結果

a) 重要な種

植物の重要な種に対する予測は、表 3.8-8～表 3.8-11 に示すとおりである

表 3.8-8 植物の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | ヒメミズワラビ                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生育環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島県以南、四国・九州に分布し、水田、休耕田、水路、溜池などに生える1年生のシダ植物である。</li> <li>・ 調査範囲の水田・草地や道路沿いで4箇所確認された。</li> </ul>                                                                                          |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で4箇所確認されており、水田等の浅い水域を生育環境としているものと考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生育への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑にも同様の環境があるため、生育環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生育環境の一部を含む対象事業計画地では、土地の改変により本種の生育環境の一部が消失するものの、緑地等の生育環境となる空間を創出するため、土地の改変による生育環境への影響を低減できると予測する。</li> </ul>                                                                          |

表 3.8-9 植物の重要な種への影響予測

| 種名                |                        | カワデシヤ                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生育環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州、四国、九州、沖縄の溝の縁や田に生える越年草である。</li> <li>・ 調査範囲の水田・草地や道路沿いで2箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                            |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で4箇所確認されており、水田等の浅い水域を生育環境としているものと考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生育への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑にも同様の環境があるため、生育環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生育環境の一部を含む対象事業計画地では、土地の改変により本種の生育環境の一部が消失するものの、緑地等の生育環境となる空間を創出するため、土地の改変による生育環境への影響を低減できると予測する。</li> </ul>                                                                          |



表 3.8-10 植物の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | カンサイタンポポ                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生育環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野県以西の本州、四国、九州、沖縄の草地や路傍などに生える多年草である。</li> <li>・ 調査範囲の草地や道路沿いで7箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                         |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で7箇所確認されており、水田周辺の畝やあぜ道を生育環境としているものと考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生育への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑にも同様の環境があるため、生育環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生育環境の一部を含む対象事業計画地では、土地の改変により本種の生育環境の一部が消失するものの、緑地等の生育環境となる空間を創出するため、土地の改変による生育環境への影響を低減できると予測する。</li> </ul>                                                                            |

表 3.8-11 植物の重要な種への影響予測

| 種名                |                            | トウカイタンポポ                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生育環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州（千葉県から和歌山県、鳥取）の草地や路傍などに生える多年草である。</li> <li>・ 調査範囲の草地や道路沿いで1箇所確認された。</li> </ul>                                                                                                          |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域で1箇所確認されており、水田周辺の畝やあぜ道を生育環境としているものと考えられる。</li> <li>・ 本種の確認環境は、対象事業計画地に位置し、造成工事により消失することから、本種の生育への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑にも同様の環境があるため、生育環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生育環境の一部を含む対象事業計画地では、土地の改変により本種の生育環境の一部が消失するものの、緑地等の生育環境となる空間を創出するため、土地の改変による生育環境への影響を低減できると予測する。</li> </ul>                                                                            |

## b) 緑被率

緑被率に対する予測は、表 3.8-12、図 3.8-6 に示すとおりである。

表 3.8-12 に示す整備後の緑被面積は「みどりの大阪推進計画」に基づいた緑化率（20％）であり、図 3.8-6 には主な緑地の公園及び住宅・農業ゾーンを示している。

整備後の緑被率は約 24.5％であることから、「みどりの大阪推進計画」に基づいた緑化率を満足している。

表 3.8-12 現状及び整備後の緑被面積の予測

| 事業計画地の総面積 | 緑被面積 |          | 緑被率     |
|-----------|------|----------|---------|
|           | 現状   | 約 17.8ha | 約 90.4% |
| 約 19.7ha  | 整備後  | 約 4.82ha | 約 24.5% |

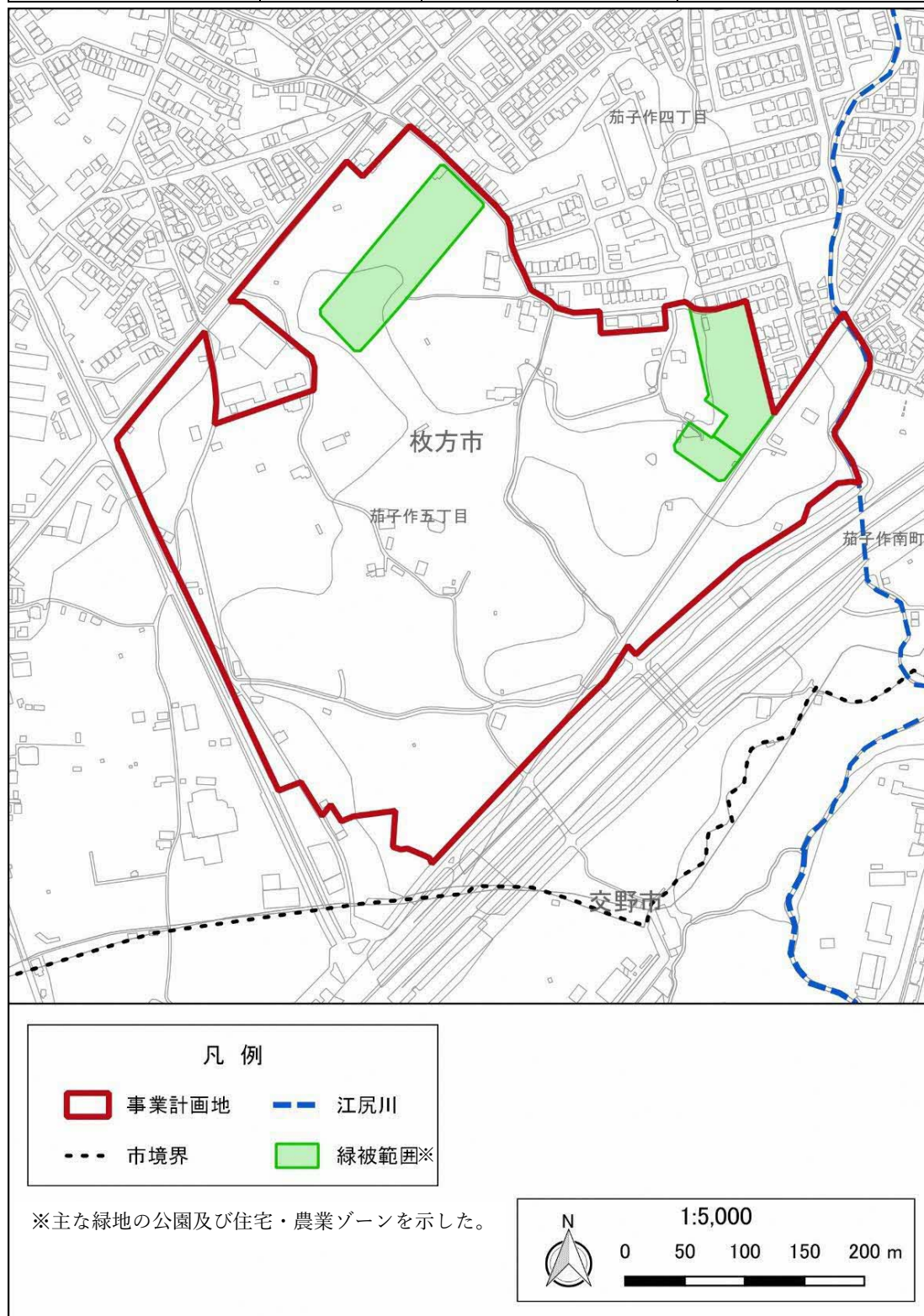


図 3.8-6 整備後の緑被の分布状況

## 2) 評価の指針

植物の評価指標は、表 3.8-13 に示すとおりである。

表 3.8-13 評価の指針

| 環境影響要因       | 評価の指針                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施及び施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"><li>・環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</li><li>・環境基本計画、自然環境の保全と回復に関する基本方針（昭和 49 年 9 月 18 日大阪府決定）等、国、大阪府及び枚方市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li><li>・自然公園法、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、森林法、水産資源保護法及び絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に定める地域指定及び基準等に適合するものであること。</li></ul> |

環境保全目標は、予測結果が表 3.8-14 に示す内容との整合が図られているか否かを検討することにより行った。

表 3.8-14 環境保全目標

| 項目             | 環境保全目標                                                                                                                                                      |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重要な種・植物群落及び緑被率 | <ul style="list-style-type: none"><li>・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律等に定める重要な種及び重要な群落の生育環境の環境保全が配慮されていること。</li><li>・「みどりの大阪推進計画」に基づいた緑化率 20%を満足していること。</li></ul> |

## 3) 環境保全措置

事業の実施に当たっては、工事の実施、施設等の存在において、影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

### a) 工事の実施における環境保全措置

- ・現況の田畑、草地を裸地にすることや工事濁水等による動植物の生育に及ぼす影響を可能な限り低減するよう努める。
- ・重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を枚方市環境部局と協議・検討し、生育環境の確保に努める。

### b) 施設等の存在における環境保全措置

- ・農地ゾーンの整備により、生育環境の創出に努める。
- ・公園、緑地等において植栽等を枚方市環境部局と協議・検討し、植物が生育できる環境を創出した上で、緑被率を確保するよう努める。

#### 4) 評価結果

重要な種の生育環境の改変程度については、工事中の生育環境への可能な限り影響低減や確保を図るほか、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地、調整池整備等で生育環境を創出するように努めることから、事業者の実行可能な範囲内でできる限り、環境影響の低減が図られることから、重要な種及重要な群落並びに緑被率は環境保全目標との整合が図られていると評価する。

## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

(1) 緑被率については、みどりの大阪推進計画の目標である 20%の達成に加えてどのような方針で更なる緑化の確保に努めていくのか事業者の説明を求めた。

## 【事業者の回答】

都市緑地法上、壁面や屋上も含めて工業地域は敷地の 26%、準工業地域は 24%以上の緑化を行う必要があります。フェンスや駐車場の合間等、これでも不足している場合は壁面や屋上も含めて緑化を進めていく予定です。

## 【指摘事項】

- ・自然環境保全上の見地から、緑の確保を図るため緑地等の面積比率を可能な限り向上させること。また、現在の自然環境を生かした土地利用が行えるよう再検討すること。



### 3.9 生態系

#### 3.9.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

生態系の状況として、以下の項目を対象としている。

- ・動物相の状況
- ・注目すべき種、その生息地の分布及び特徴・植物相及び植生の状況（シダ植物以上の高等植物）
- ・注目すべき種、植物群落の分布及び特性

###### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地及び周辺地域としている。

###### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、動物、植物の項で扱った既存資料を収集・整理している。

###### 5) 調査結果

調査結果は、準備書「第2章 地域の概況 2.3 自然環境 2.3.4 生物 (1)動物」及び「第2章 地域の概況 2.3 自然環境 2.3.4 生物 (2)植物」に示すとおりである。

## (2) 現地調査

### 1) 調査項目

調査項目は、生態系の状況を把握するため、動物・植物調査結果をもとに以下の項目としている。

- ・環境類型区分、
- ・動植物の生態的特性
- ・食物連鎖の状況
- ・生態系を特徴付ける動植物の注目種等

### 2) 調査地域・地点

調査地域は、動物、植物と同様とし、事業計画地約 19.7ha の範囲、江尻川としている（図 3.9-1 参照）。

### 3) 調査時期・頻度

調査時期・頻度は、動物調査、植物調査の「第 3 章 調査、予測及び評価の結果 3.7 動物」及び「第 3 章 調査、予測及び評価の結果 3.8 植物」に示すとおりである。

### 4) 調査方法

調査方法は、動物、植物の既存資料調査結果及び現地調査結果に基づき、上位性、典型性、特殊性の視点から複数の注目種を抽出し、その生息・生育環境等の情報を収集している。

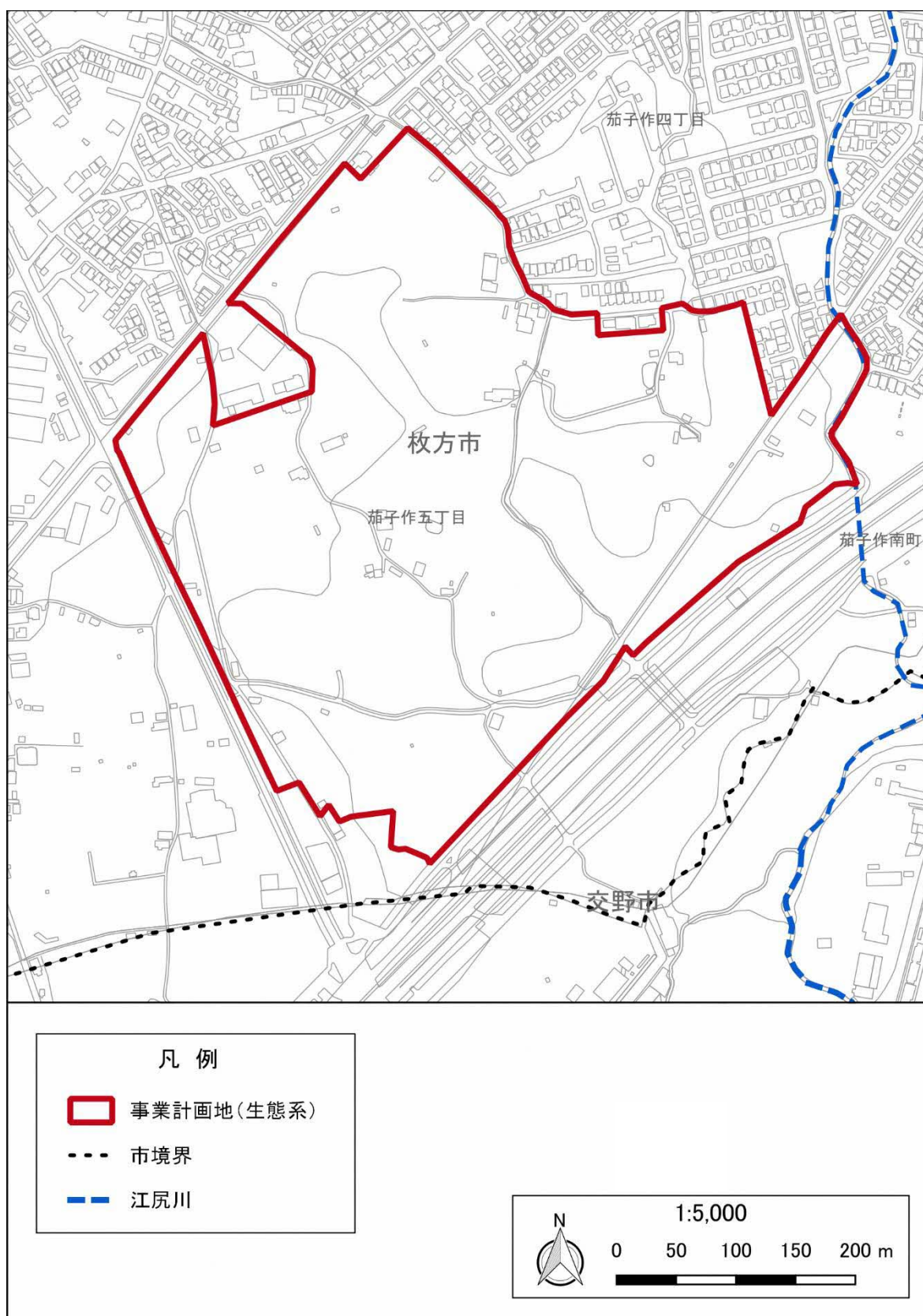


図 3.9-1 現地調査位置

## 5) 調査結果

### a) 環境類型区分

#### ア 動植物その他の自然環境に係る概況

##### ① 動物相の状況

現地調査で確認された陸生動物種は、表 3.9-1 に示すとおりである。

表 3.9-1 現地調査で確認された陸生動物種

| 分 類         | 主な確認種                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------|
| 哺乳類 (8 種)   | ヒナコウモリ科の一種、アライグマ、タヌキ、イタチ属の一種                                           |
| 鳥類 (39 種)   | カルガモ、キジバト、アオサギ、ケリ、オオタカ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、セグロセキレイなど                   |
| 両生類 (3 種)   | ニホンアマガエル、ウシガエル、ヌマガエル                                                   |
| 爬虫類 (6 種)   | ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビなど                                          |
| 昆虫類 (425 種) | アジイトトンボ、ニシキリギリス、オンブバッタ、クマゼミ、キイロサシガメ、ベニシジミ、モンシロチョウ、ウリハムシ、ヒメアリ、モンズズメバチなど |

##### ② 植物相・植生の状況

現地調査で確認された陸生植物種及び植生は、表 3.9-2 に示すとおりである。

表 3.9-2 現地調査で確認された陸生植物種及び植生

| 分 類        | 主な確認種                                                                                       |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 植物 (345 種) | スギナ、ヒメミズワラビ、ノビル、ドクダミ、カモジグサ、キツネノボタ、スズメノエンドウ、カタバミ、ヒメスミレ、ヒメジョオンなど                              |
| 植生 (13 区分) | 一年生草本群落、多年生草本群落、単子葉草本群落（ヨシ群落）、単子葉草本群落（その他）ヤナギ高木林、落葉広葉樹林、植林地（竹林）植林地（その他）、果樹園、畑、水田、人工構造物、開放水面 |

##### ③ 淡水生物の状況

現地調査で確認された淡水生物種は、表 3.9-3 に示すとおりである。

表 3.9-3 現地調査で確認された陸生動物種

| 分 類              | 主な確認種                                                                                                                                                                                         |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 底生動物 (79 種)      | ミミズヒモムシ属の一種、エラミミズ、サカマキガイ、ドブシジミ、ホウネンエビ、ハグロトンボ、アメンボ、ガガンボ属の一種、チビゲンゴロウ、チビヒゲナガハナノミなど                                                                                                               |
| 魚類 (4 種)         | フナ属、ドジョウ、タウナギ、ミナミメダカ                                                                                                                                                                          |
| 植物プランクトン (120 種) | <i>Pseudanabaena limnetica</i> , <i>Ctenophora pulchella</i> , <i>Amphora pediculus</i> , <i>Encyonema silesiacum</i> , <i>Gomphonema parvulum</i> , <i>Achnantheidum</i> sp. など              |
| 動物プランクトン (42 種)  | <i>Centropixis aculeata</i> , <i>Hymenostomatida</i> , <i>Epistylidae</i> , <i>Brachionus calyciflorus</i> , <i>Euchlanis dilatata</i> , <i>Notommata</i> sp., <i>Bosmina longirostris</i> など |
| 水生昆虫類 (40 種)     | フタバカゲロウ属の一種、アオモンイトトンボ属の一種、コミズムシ、チビゲンゴコウ、マメガムシ、ヒメガムシなど                                                                                                                                         |

#### ④ 気象、地形・地質、水象、土地利用の状況

生態系に係る環境要素である気象、地形、表層地質、水象、土地利用の概況は、表 3.9-4 に示すとおりである。

表 3.9-4 気象、地形・地質、水象、土地利用の概況

| 項 目   | 概 況                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 気象    | 事業計画地は、日本の気候区分によると瀬戸内式気候に属しており、一般的に温暖な気候である。年間平均気温は 16.6℃、年間降水量は 1,327.5mm となっており、気温はほぼ横ばい、降水量はやや増加の傾向である。北または東北東の風が卓越しており、年間平均風速は、1.9m/s～2.0m/s となっている。 |
| 地形・地質 | 事業計画地は、標高 20m～50m の枚方市中央の沖積層丘陵(地形区分Ⅲ)に位置しており、砂（沖積層）となっている。                                                                                               |
| 水象    | 事業計画地周辺の河川には、天野川及び江尻川がある。天野川は交野市から流れ込み、枚方市で淀川に合流する一級河川である。                                                                                               |
| 土地利用  | 事業計画地は、市街化調整区域となっており、水田、人工構造物、畑等となっている。                                                                                                                  |

#### イ 環境類型区分の状況

動植物その他の自然環境に係る概況から、地域を特徴づける生態系について、環境類型区分を行った。地域を特徴づける生態系の区分と概況を表 3.9-5 に、環境類型区分の面積を表 3.9-6 に、環境類型区分図を図 3.9-2 に示す。

表 3.9-5 地域を特徴づける生態系の環境類型区分の概況

| 環境類型区分     | 植生・土地利用                                                     | 分布状況                                                              |
|------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 田畑・草地等の生態系 | 一年生草本群落、多年生草本群落、ヤナギ林、植林地、果樹園、水田、畑、人工構造物が分布し、人に利用されている場所が多い。 | 水田、畑地は事業計画地に広く分布している。一年生草本群落、多年生草本群落、ヤナギ林、植林地、果樹園は、事業計画地の北側に分布する。 |
| 河川・水路の生態系  | 河川・水路が分布し、人に利用されている場所が多い。                                   | 事業計画地の南側から北側に流れる江尻川、天野川に分布する。                                     |



表 3.9-6 環境類型区分の面積

| 環境類型区分     | 植生名            | 面積 (m <sup>2</sup> ) | 割合 (%) |
|------------|----------------|----------------------|--------|
| 田畑・草地等の生態系 | 一年生草本群落        | 9,510                | 4.8%   |
|            | 多年生広葉草本群落      | 984                  | 0.5%   |
|            | 単子葉草本群落 (ヨシ群落) | 3,827                | 1.9%   |
|            | 単子葉草本群落 (その他)  | 5,445                | 2.8%   |
|            | ヤナギ高木林         | 414                  | 0.2%   |
|            | 落葉広葉樹林         | 11,232               | 5.7%   |
|            | 植林地 (竹林)       | 1,274                | 0.6%   |
|            | 植林地 (その他)      | 6,123                | 3.1%   |
|            | 果樹園            | 10,449               | 5.3%   |
|            | 畑              | 37,179               | 18.9%  |
|            | 水田             | 91,630               | 46.5%  |
|            | 人工構造物          | 18,625               | 9.5%   |
|            | 開放水面           | 306                  | 0.2%   |
|            | 合 計            | 197,000              | 100.0% |
| 河川・水路の生態系  | 江尻川            | 2,016                | 100.0% |

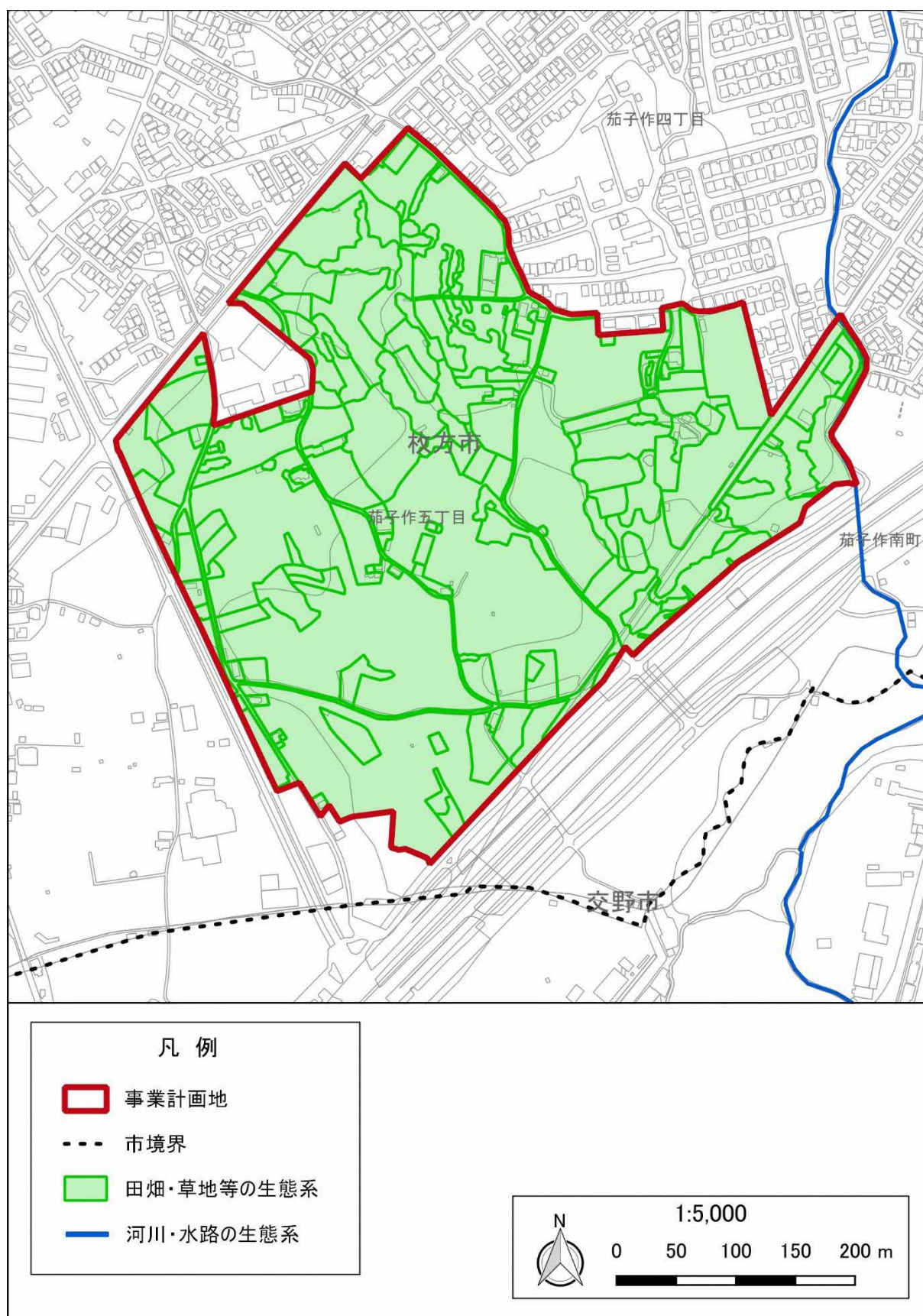


図 3.9-2 環境類型区分図

b) 動植物の生態的特性及び食物連鎖の状況

ア 田畑・草地等の生態系

事業計画地は、田畑・草地等が大部分を占めており、耕作等の利用と共に立っている。  
田畑・草地等の生態系における断面模式図を図 3.9-3 に、食物連鎖の模式図を図 3.9-4 示す。

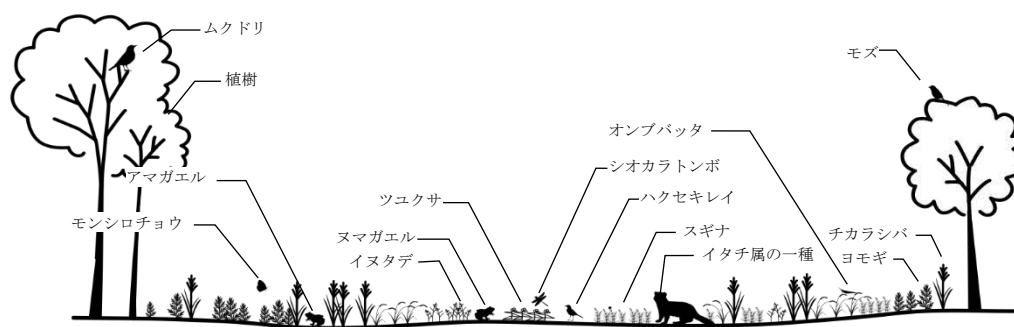


図 3.9-3 田畑・草地等の生態系における断面模式図

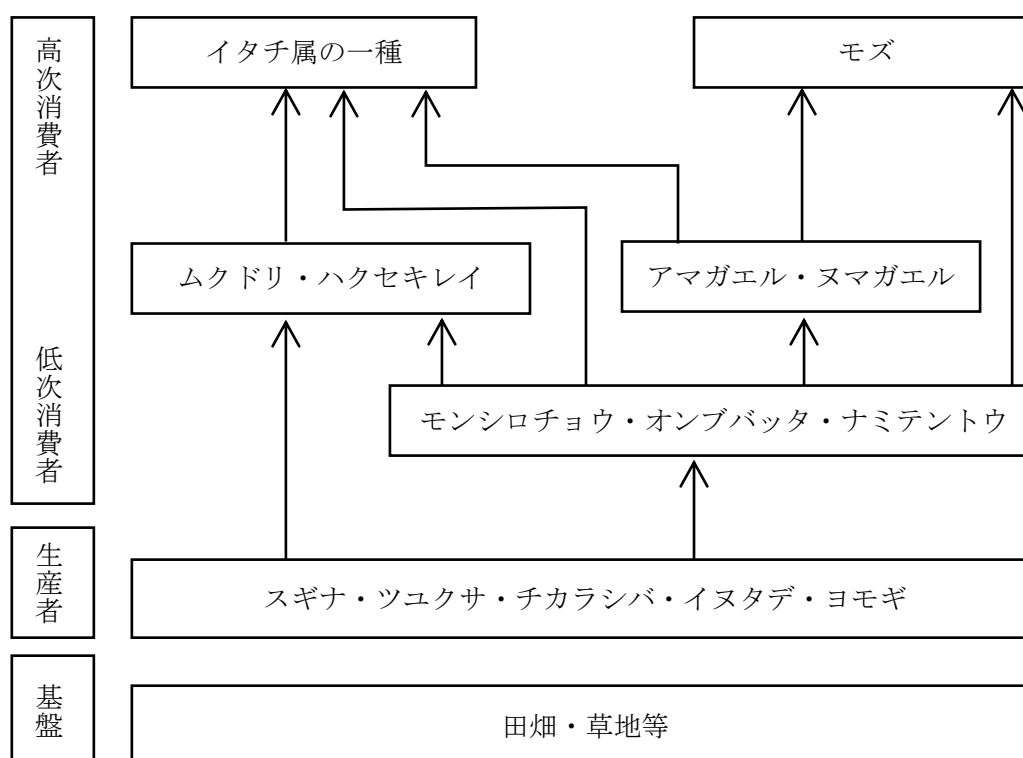


図 3.9-4 田畑・草地等の生態系における食物連鎖の模式図

## イ 河川・水路の生態系

事業計画地においては、江尻川で水域の生息・生育環境がみられる程度となっている。  
河川・水路の生態系における断面模式図を図 3.9-5 に、食物連鎖の模式図を図 3.9-6 示す。

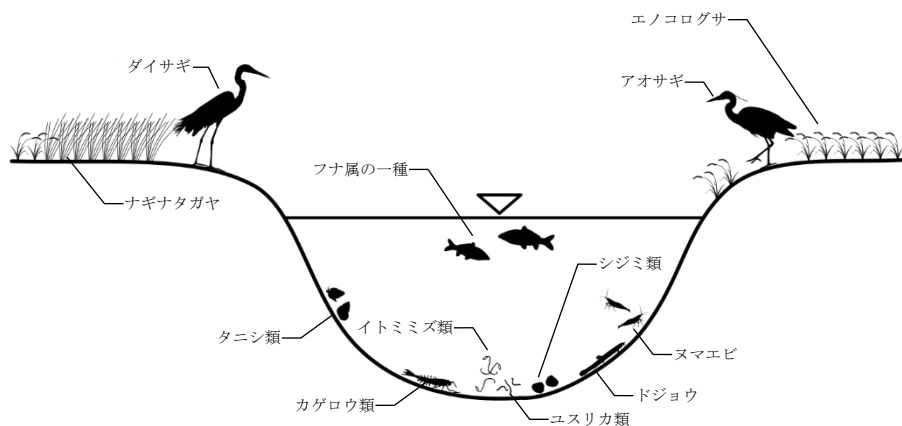


図 3.9-5 河川・水路の生態系における断面模式図

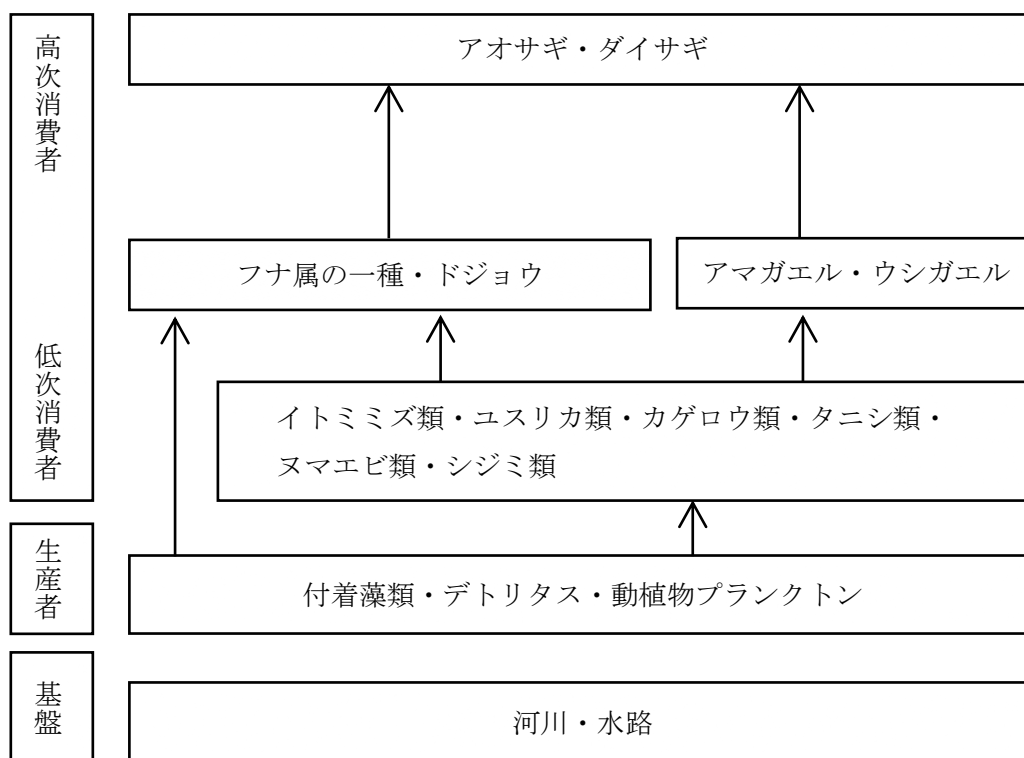


図 3.9-6 河川・水路の生態系における食物連鎖の模式図

### c) 生態系を特徴付ける動植物種

地域を特徴づける生態系の注目種について、表 3.9-7 に示す上位性、典型性及び特殊性の観点から、動植物・その他の自然環境に関する現地調査結果を踏まえて、複数の動植物種及び生物群集等の生態系注目種を選定している。生態系注目種の検討結果及びその理由を表 3.9-8 に示す。

なお、特殊性については、対象事業計画地並びに土地区画整理事業予定区域周辺には、特殊な環境は存在しないことから選定しなかった。

表 3.9-7 上位性・典型性及び特殊性の考え方

| 区 分 | 考え方                                                                                                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 上位性 | 生態系を形成する生物群集において栄養段階の上位に位置する種を対象とする。該当する種は相対的に栄養段階の上位の種で、生態系の攪乱や環境変動等の影響を受けやすい種が対象となる。                                                                  |
| 典型性 | 対象地域の生態系の中で生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うような種・群集（例えば、植物では現存量や占有面積の大きい種、動物では個体数が多い種や個体重が大きい種、代表的なギルド <sup>注)</sup> に属する種等）、生物群集の多様性を特徴付ける種や生態遷移を特徴づける種等が対象となる。 |
| 特殊性 | 小規模な湿地、洞窟、噴気口の周辺、石灰岩地域等の特殊な環境において、占有面積が比較的小規模で周囲には見られない環境に着目し、そこに生息する種・群集を選定する。該当する種・群集としては、特殊な環境要素や特異な場の存在に生息が強く規定される種・群集があげられる。                       |

出典) 「自然環境のアセスメント技術 (I) ガイド生態系」(平成14年 財団法人自然環境研究センター)

注) 同一の栄養段階に属し、ある共通の資源に依存して生活している複数の種または個体群のこと。

表 3.9-8 地域を特徴づける生態系注目種等の選定理由

| 地域を特徴づける生態系 | 区 分 | 注目種等     | 選定理由                              |
|-------------|-----|----------|-----------------------------------|
| 田畑・草地等の生態系  | 上位性 | イタチ属の一種  | 田畑・草地等の食物連鎖の上位種であり、生息情報を確認している。   |
|             |     | モズ       | 田畑・草地等の食物連鎖の上位種であり、生息情報を確認している。   |
|             | 典型性 | ハクセキレイ   | 田畑・草地等に一般的に生息する種であり、調査範囲にも生息している。 |
|             |     | ニホンアマガエル | 田畑・草地等に一般的に生息する種であり、調査範囲にも生息している。 |
| 河川・水路の生態系   | 上位性 | アオサギ     | 河川・水路の食物連鎖の上位種であり、生息情報を確認している。    |
|             |     | ダイサギ     | 河川・水路の食物連鎖の上位種であり、生息情報を確認している。    |
|             | 典型性 | フナ属の一種   | 河川・水路に一般的に生息する種であり、調査範囲にも生息している。  |
|             |     | ドジョウ     | 河川・水路に一般的に生息する種であり、調査範囲にも生息している。  |



### 3.9.2 予測及び評価

#### (1) 田畑、草地、林等の裸地化や造成等による自然環境の変化や工事濁水が生態系に及ぼす影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、田畑、草地、林等の裸地化や造成等による自然環境の変化や工事濁水が生態系に及ぼす影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、動物、植物、淡水生物と同様に、事業計画地及び周辺地域並びに江尻川としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事の実施は、造成工事が最大となった時期とし、土地又は工作物の存在については、事業の実施が終了し、整備後の環境が安定することが想定される時期としている。

##### 4) 予測方法

土地利用計画を踏まえ、地域を特徴づける注目種等の生息・生育環境の改変の程度を推測し、予測地域にみられる注目種等及び地域を特徴づける生態系について、事例の引用又は解析により予測している。

##### 5) 予測条件

事業計画段階において、表 3.9-9 に示す環境保全措置の検討を行っており、予測条件として環境保全措置を実施することを前提に予測を行った。予測の手順は図 3.9-7 に示す手順で行った。

表 3.9-9 予測の前提条件とした環境保全措置

| 想定される環境影響要因                | 環境保全措置                                                                                                                                                              |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 現況の田畑、草地を裸地にすることや工事濁水等による動植物の生育・生息に及ぼす影響を可能な限り低減する。</li><li>・ 重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を検討し、生息・生育環境の確保に努める。</li></ul> |
| 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 住宅・農業ゾーンの整備により、生息・生育環境の創出に努める。</li><li>・ 公園、緑地等において中低木や食餌木の植栽等を検討し、動物等が生息できる環境を創出するよう努める。</li></ul>                         |

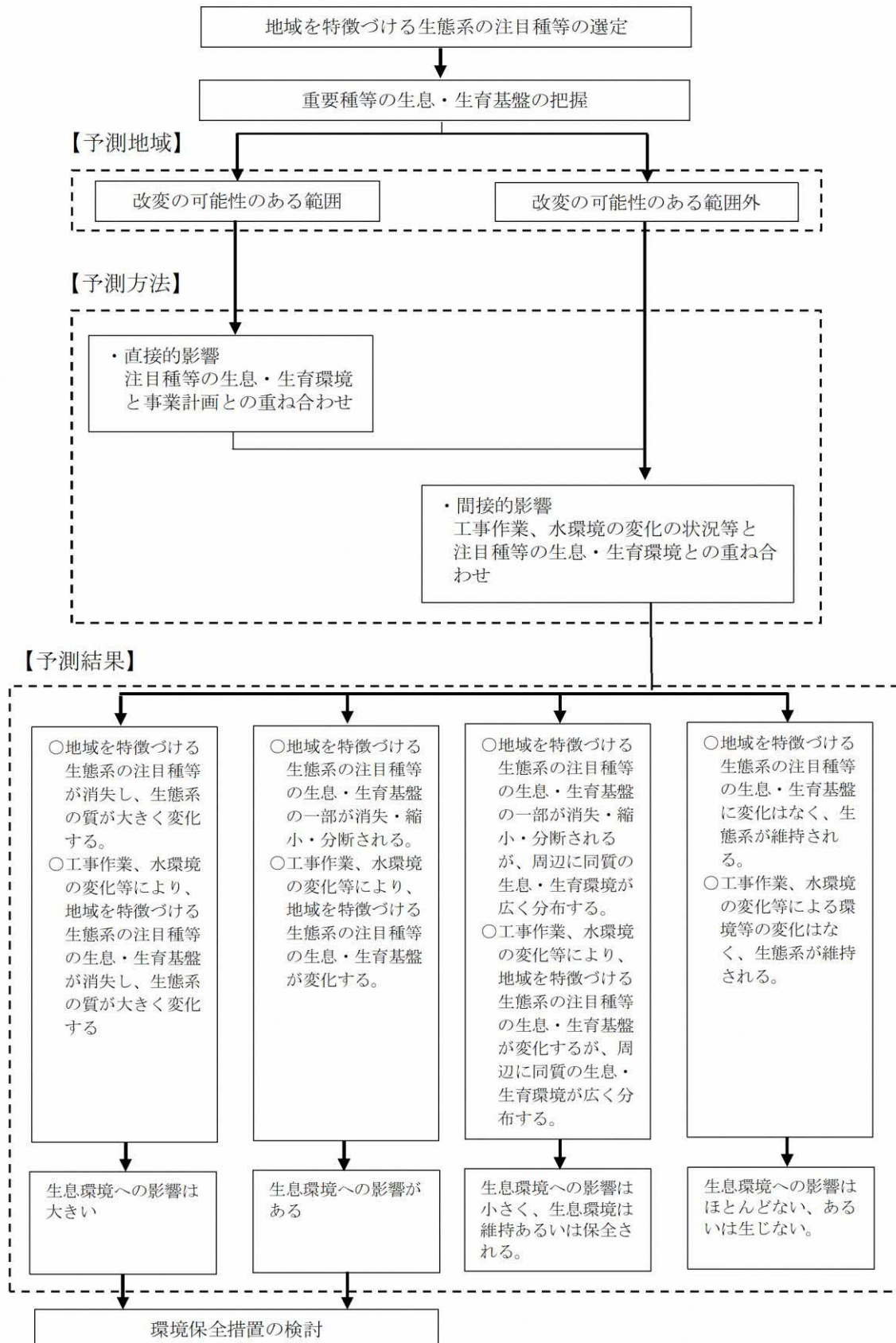


図 3.9-7 予測の手順（生態系）

1) 予測結果

a) 環境類型区分への影響

地域を特徴づける生態系の環境類型区分の改変状況を表 3.9-10 に示す。事業実施による改変率は、田畑・草地等の生態系で 100%、河川・水路の生態系で 0%となっている。

表 3.9-10 地域を特徴づける生態系の環境類型区分の改変状況

| 環境類型区分     | 植生名           | 環境類型<br>区分面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 改変面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 改変率<br>(%) |
|------------|---------------|-----------------------------------|---------------------------|------------|
| 田畑・草地等の生態系 | 一年生草本群落       | 9,510                             | 9,510                     | 100.0%     |
|            | 多年生広葉草本群落     | 984                               | 984                       | 100.0%     |
|            | 単子葉草本群落（ヨシ群落） | 3,827                             | 3,827                     | 100.0%     |
|            | 単子葉草本群落（その他）  | 5,445                             | 5,445                     | 100.0%     |
|            | ヤナギ高木林        | 414                               | 414                       | 100.0%     |
|            | 落葉広葉樹林        | 11,232                            | 11,232                    | 100.0%     |
|            | 植林地（竹林）       | 1,274                             | 1,274                     | 100.0%     |
|            | 植林地（その他）      | 6,123                             | 6,123                     | 100.0%     |
|            | 果樹園           | 10,449                            | 10,449                    | 100.0%     |
|            | 畑             | 37,179                            | 37,179                    | 100.0%     |
|            | 水田            | 91,630                            | 91,630                    | 100.0%     |
|            | 人工構造物         | 18,625                            | 18,625                    | 100.0%     |
|            | 開放水面          | 306                               | 306                       | 100.0%     |
|            | 合 計           | 197,000                           | 197,000                   | 100.0%     |
| 河川・水路の生態系  | 江尻川           | 2,016                             | 0                         | 0.0%       |

b) 生態系の注目種等

ア 田畑・草地等の生態系

田畑・草地等の生態系における注目種等に対する予測は、表 3.9-11 に示すとおりである。

表 3.9-11(1) 田畑・草地等の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                            | 上位性：イタチ属の一種                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州，四国，九州に分布し、平野部の草地や、川沿いなどの水辺に生息するが、低地の田畑や人家の周辺、山岳地帯にも生息する。</li> <li>・ ネズミ類を捕食するが、小鳥の卵や雛、昆虫類、カエルなども捕食する。</li> <li>・ 調査範囲の田畑・草地や道路等で広く確認された。</li> </ul>                                                              |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の田畑・草地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境は、対象事業計画地に位置しており、造成工事により消失するため、本種の生息環境の影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑等に生息環境があることから、一時的に避難するものと考えられ、環境の回復後に戻ってくると考えられることから、本種の生息環境は維持されると予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測される。</li> </ul>                                          |

表 3.9-11(2) 田畑・草地等の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                            | 上位性：モズ                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国の平地から低山地の農耕地や林縁、川畔林などに生息して、繁殖する。冬には北日本のものや山地のものは南下する。</li> <li>・ 小鳥類、カエル、トカゲ類等を捕食する。</li> <li>・ 調査範囲で各時期に確認されており、田畑・草地で確認された。</li> </ul>                                                                                              |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域のほぼ全域確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑、住宅地や天野川等に生息環境があることから、一時的に避難するものと考えられ、環境の回復後に戻ってくると考えられることから、本種の生息環境は維持されると予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測される。</li> </ul>                                                              |



表 3.9-11(3) 田畑・草地等の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                            | 典型性：ハクセキレイ                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道から九州に分布し、主に水辺に棲むが、川だけでなく用水路、水辺が近くにある場所ならば畑や市街地などでもよく観察される。</li> <li>・ 調査範囲で各時期に確認されており、田畑・草地で確認された。</li> </ul>                                                                                                                       |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域のほぼ全域確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑、住宅地や天野川等に生息環境があることから、一時的に避難するものと考えられ、環境の回復後に戻ってくると考えられることから、本種の生息環境は維持されると予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測される。</li> </ul>                                                              |

表 3.9-11(4) 田畑・草地等の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                            | 典型性：ニホンアマガエル                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道、本州、四国、九州、佐渡島、対馬に分布し、森林の周辺部、草地、人家やその周辺等に生息する。</li> <li>・ ユスリカの成虫等の小型昆虫類を捕食する。</li> <li>・ 調査範囲で各時期に確認されており、田畑・草地で確認された。</li> </ul>                                                                                                    |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域のほぼ全域確認されており、田畑・草地、住宅地等を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である対象事業計画地は造成工事により消失し、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑、住宅地や天野川等に生息環境があることから、一時的に避難するものと考えられ、環境の回復後に戻ってくると考えられることから、本種の生息環境は維持されると予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の一部である対象事業計画地では、土地の改変により、本種の生息環境が消失する。</li> <li>・ ただし、対象事業計画地において、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地等の生息環境となる空間を創出するため、土地の改変による生息環境への影響を低減することが可能であると予測される。</li> </ul>                                                              |

## イ 河川・水路の生態系

河川・水路の生態系における注目種等に対する予測は、表 3.9-12 に示すとおりである。

表 3.9-12(1) 河川・水路の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                            | 上位性：アオサギ                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道、本州、四国、九州に生息している。</li> <li>・ 江尻川等の水域で生息し、魚類等を捕食する。</li> <li>・ 調査範囲で各時期に江尻川等の水域で確認された。</li> </ul>                                                                                            |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の江尻川等の水域で確認されており、水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である江尻川等の水域は造成工事の濁水により、生息環境への影響が生じるものと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑、住宅地や江尻川等に一時的に回避するものと考えられ、生息環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の江尻川等の水域においては、土地の改変が生じないことから、生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                                  |

表 3.9-12(2) 河川・水路の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                            | 上位性：ダイサギ                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本州の関東地方から九州までの各地で繁殖し、冬には大部分の個体が南方へ移動する。</li> <li>・ 水田、江尻川等で生息し、カエル類、昆虫類、魚類等を捕食する。</li> <li>・ 調査範囲で各時期に江尻川等の水域で確認された。</li> </ul>                                                                |
| 影響予測              | 工事の実施<br>(造成工事)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の江尻川等の水域で確認されており、水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である江尻川等の水域は造成工事の濁水により、生息環境への影響が生じるものと予測される。</li> <li>・ ただし、周辺の田畑、住宅地や江尻川等に一時的に回避するものと考えられ、生息環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在<br>(産業・商業施設、住宅等の存在) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の江尻川等の水域においては、土地の改変が生じないことから、生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                                  |

表 3.9-12(3) 河川・水路の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                        | 典型性：フナ属の一種（ギンブナ）                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道から九州に分布する。河川の下流、田んぼ近辺の用水路、湖沼などに生息する。</li> <li>・ 雑食性で藻類や水草、水生昆虫や水面に落ちた小昆虫、小型甲殻類、ミミズ、赤虫、などを食べる。</li> <li>・ 調査範囲で各時期に江尻川等の水域で確認された。</li> </ul>                                          |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の江尻川等の水域で確認されており、水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である江尻川等の水域は造成工事の濁水により、生息環境への影響が生じるものと予測される。</li> <li>・ ただし、江尻川の上流等に一時的に回避するものと考えられ、生息環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の江尻川等の水域においては、土地の改変が生じないことから、生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                           |

表 3.9-12(4) 河川・水路の生態系における注目種等への影響予測

| 区分                |                        | 典型性：ドジョウ                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般生態、確認状況及び主な生息環境 |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の平野部の水田や湿地、農業用水路、泥底の流れの緩やかな小川などに全国的に生息している。</li> <li>・ 調査範囲の江尻川で確認された。</li> </ul>                                                                                                     |
| 影響予測              | 工事の実施（造成工事）            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種は予測地域の江尻川等の水域で確認されており、水域を生息環境として利用していると考えられる。</li> <li>・ 本種の生息環境である江尻川等の水域は造成工事の濁水により、生息環境への影響が生じるものと予測される。</li> <li>・ ただし、江尻川の上流等に一時的に回避するものと考えられ、生息環境はある程度維持されるものと予測される。</li> </ul> |
|                   | 施設等の存在（産業・商業施設、住宅等の存在） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本種の生息環境の江尻川等の水域においては、土地の改変が生じないことから、生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測する。</li> </ul>                                                                                                           |

## 2) 評価の指針

生態系の評価の指針は、表 3.9-13 に示すとおりである。

表 3.9-13 評価の指針

| 環境影響要因       | 評価の指針                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事の実施及び施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</li><li>・ 環境基本計画、自然環境の保全と回復に関する基本方針（昭和 49 年 9 月 18 日大阪府決定）等、国、大阪府及び枚方市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li><li>・ 自然公園法、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、森林法、水産資源保護法及び絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に定める地域指定及び基準等に適合するものであること。</li></ul> |

環境保全目標は、予測結果が表 3.9-14 に示す内容との整合が図られているか否かを検討することにより行った。

表 3.9-14 環境保全目標

| 項目       | 環境保全目標                                                                                                                                           |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生態系の注目種等 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 田畑・草地等の生態系における注目種等の生息・生育環境の環境保全が配慮されていること。</li><li>・ 河川・水路の生態系における注目種等の生息・生育環境の環境保全が配慮されていること。</li></ul> |

## 3) 環境保全措置

事業の実施に当たっては、工事の実施、施設等の存在において、影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

### a) 工事の実施における環境保全措置

- ・ 現況の田畑、草地を裸地にすることや工事濁水等による動植物の生育・生息に及ぼす影響を可能な限り低減するよう努める。
- ・ 重要な種が確認された場合、適地への移動、移植、造成地での保全等を枚方市環境部局と協議・検討し、生息・生育環境の確保に努める。

### b) 施設等の存在における環境保全措置

- ・ 農地ゾーンの整備により、生息・生育環境の創出に努める。
- ・ 公園、緑地等において中低木や食餌木の植栽等を枚方市環境部局と協議・検討し、動植物の生息・生育できる環境を創出するよう努める。



#### 4) 評価結果

生態系の改変の程度については、工事中の生息・生育環境への可能な限り影響低減や確保を図るほか、住宅・農業ゾーンの整備並びに営農の継続を行うとともに、公園緑地、調整池整備等で生息・生育環境の創出するように努めることから、事業者の実行可能な範囲内でできる限り環境影響の低減が図られることから、生態系の注目種等は環境保全目標との整合が図られていると評価する。

## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

概ね妥当である

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である

## 【指摘事項】

- ・特になし

### 3.10 人と自然とのふれあい活動の場

#### 3.10.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

調査項目は、人と自然とのふれあい活動の場の状況としている。

###### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地周辺の人と自然とのふれあい活動の場（公園、緑地）の分布状況としている。

###### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（「ひらかた観光マップ（きてみてひらかたマップ）」（枚方市）、「都市公園情報」（枚方市）、「都市公園の紹介」（寝屋川市）、「公園紹介」（大阪府）、「交野市地域ポータルサイト」（交野市等））を収集・整理している。

調査地域は、事業計画地周辺として、工事中の工事関係車両の想定走行路線及び供用時の産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の想定走行路線の付近の公園・緑地としている。

（工事中及び供用後の車両想定走行路線）

- ① 一般国道 1 号
- ② 市道山之上高田線
- ③ 府道枚方交野寝屋川線
- ④ 一般国道 168 号線

###### 5) 調査結果

調査結果は、準備書「第 2 章 地域の概況 2.1 社会的状況 2.1.5 公共施設」の「(2) 公園・緑地」に示すとおりである。事業計画地周辺には、茄子作南公園、春日公園が存在する。

## (2) 現地調査

### 1) 調査項目

調査項目は、人と自然とのふれあい活動の場の利用環境について、施設利用者に利用目的、利用頻度、移動手段、移動経路等のアンケート調査を実施している（図 3.10-1 参照）。

### 2) 調査地域・地点

調査項目は、工事中及び供用後の車両走行に伴い、人と自然とのふれあい活動の場の利用環境について、影響が想定される代表的な施設として、茄子作南公園、春日公園を選定している（図 3.10-1、図 3.10-2 及び図 3.10-3 参照）。

### 3) 調査時期・頻度

調査時期・頻度を表 3.10-1 に示す期間としている。

表 3.10-1 人と自然とのふれあい活動の場の現況調査時期・頻度

| 現況調査項目                         | 調査時期・頻度 | 調査期間                           |
|--------------------------------|---------|--------------------------------|
| 人と自然とのふれあい活動の場の分布、利用状況、利用環境の状況 | 春季・2回   | 令和4年5月17日（平日）<br>令和4年5月21日（休日） |

### 4) 調査方法

調査方法は、昼間（8時～16時）の時間帯で、各公園の利用者数・利用目的、公園までの移動手段・移動経路について、対面アンケート調査を実施している。

アンケート調査では、調査対象の一部を調べることで調査対象全体を推測する「標本調査」方法を用いた。

必要な調査対象者数は、公園利用者から無作為（ランダム）に調査対象者を決める方式とし、標準誤差は10%、信頼水準95%として算出し、100人（≒96人）を目安としている。

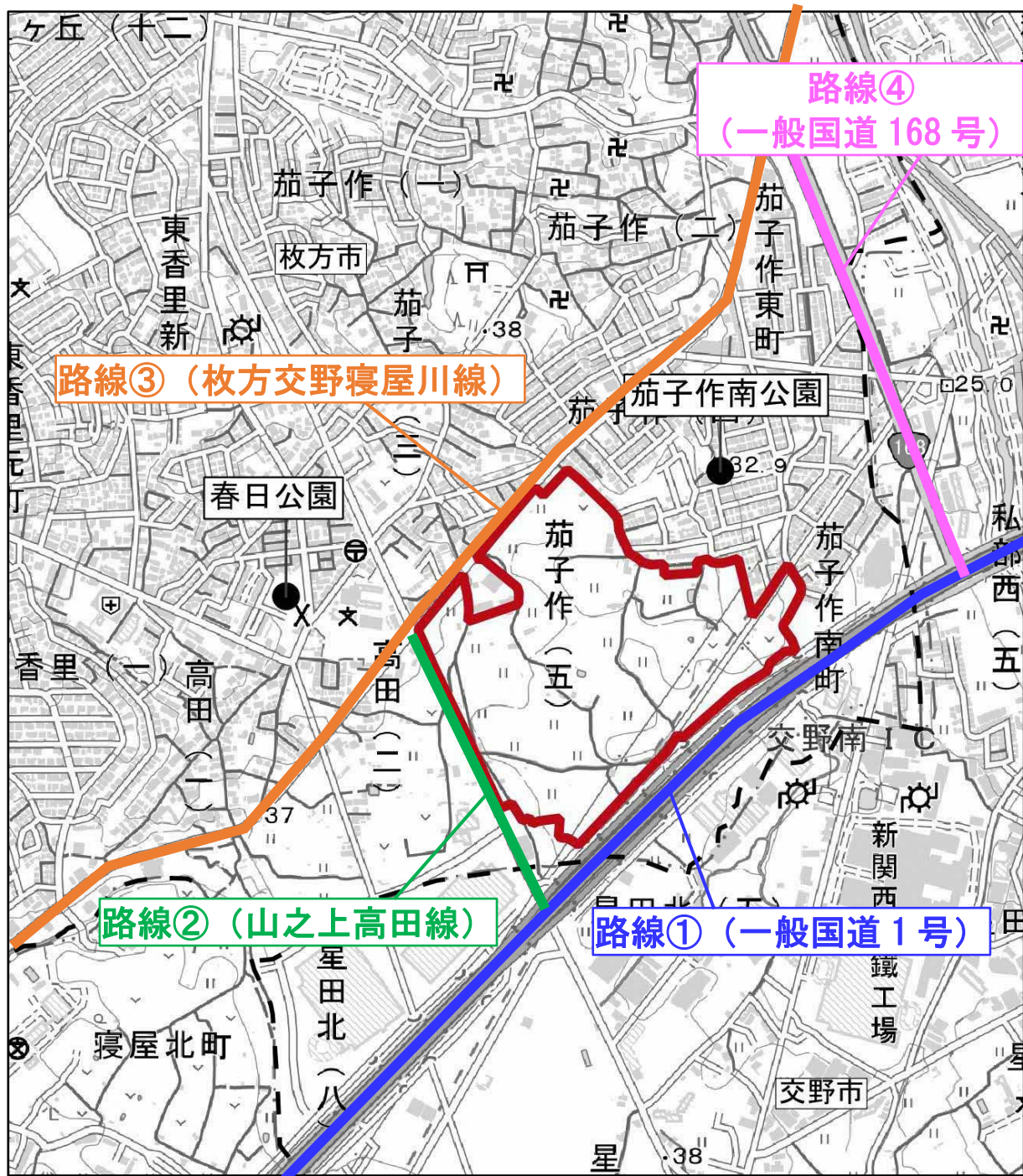


図 3.10-1 人と自然とのふれあい活動の場の現地調査位置





図 3.10-2 茄子作南公園



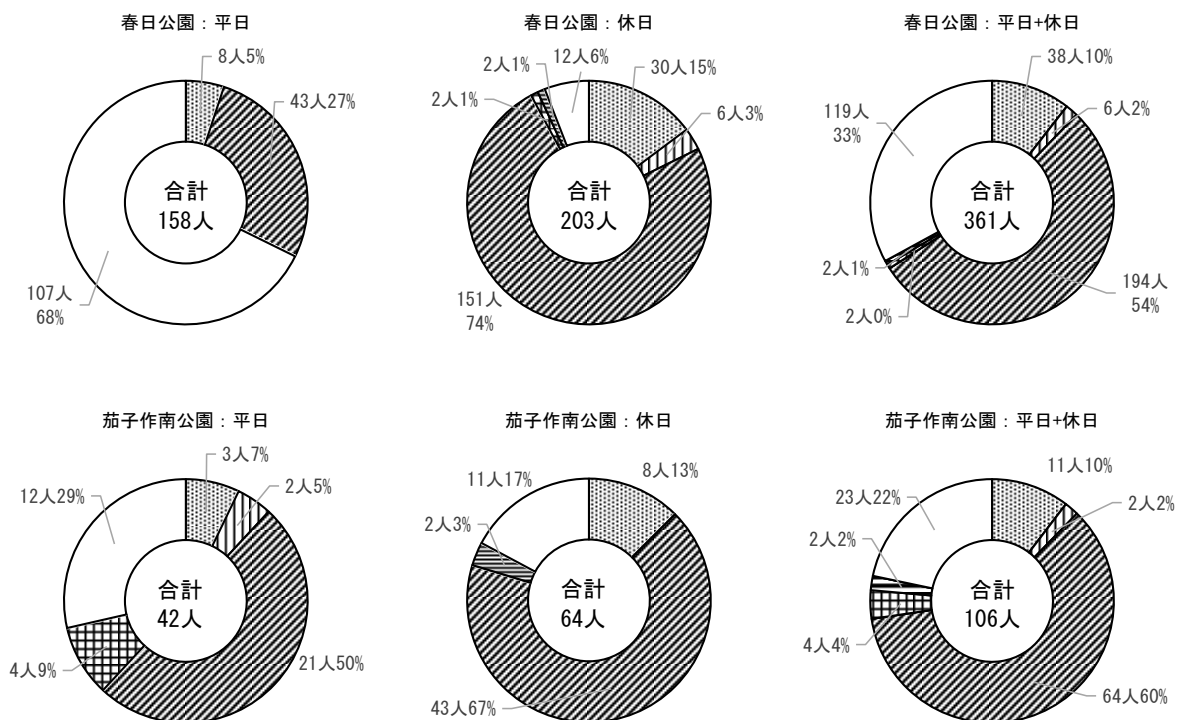
図 3.10-3 春日公園

## 5) 調査結果

公園の利用者へのアンケート調査結果を表 3.10-2、図 3.10-4～図 3.10-6 に示す。

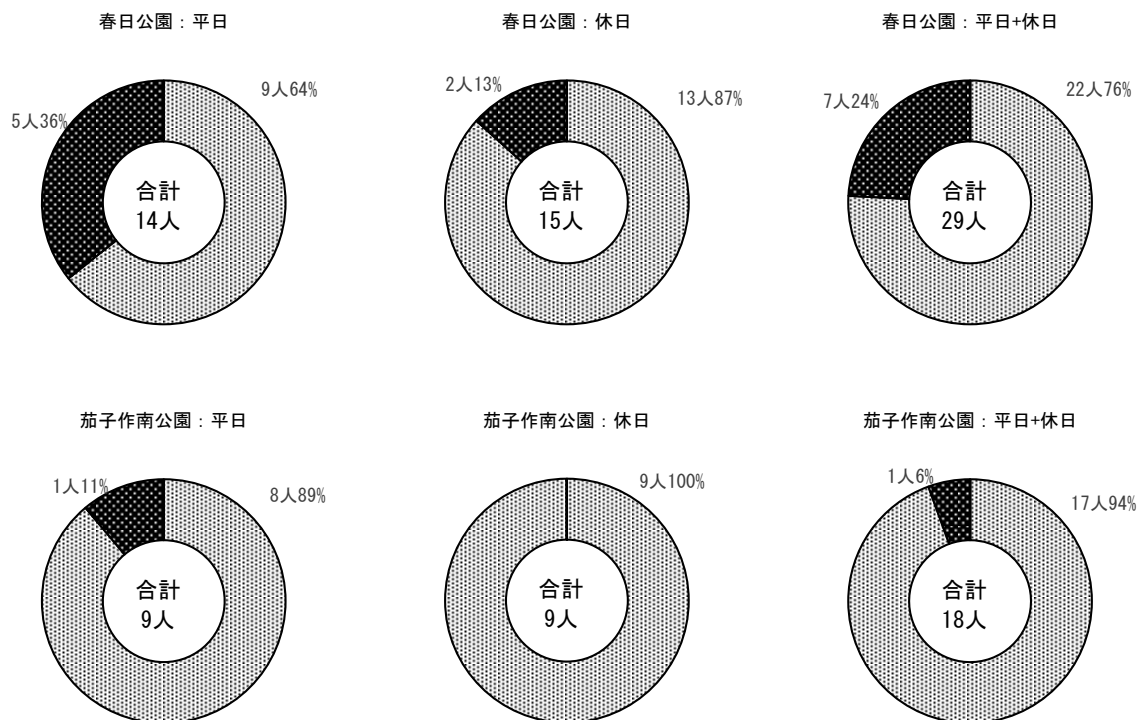
表 3.10-2 アンケート調査結果の総括

| 分類             | 結果の考察                                                                                                                                                                | 対応図      |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| ①利用目的          | 春日公園の利用者数は、平日で 158 人、休日で 203 人であった。平日は<br>その他利用（バス待ちやベンチでの休憩等）が約 7 割で、休日は公園遊<br>びが約 7 割であった。<br>茄子作南公園の利用者数は、平日で 42 人、休日で 64 人であった。平日、<br>休日ともに公園遊びが約 5 割から 7 割であった。 | 図 3.10-4 |
| ②公園までの移動<br>手段 | 春日公園、茄子作南公園ともに徒歩が約 6 割から 10 割、次いで自転車での<br>移動が多く、近隣からの利用者が多い結果となった。                                                                                                   | 図 3.10-5 |
| ③公園までの移動<br>経路 | 春日公園は、⑤その他道路の利用が平日で約 4 割、休日で約 8 割を占め<br>ている。①一般国道 1 号、②市道山之上高田線、③府道枚方交野寝屋川<br>線の利用は約 1 割から 2 割となっている。<br>茄子作南公園は、⑤その他道路の利用が平日、休日とも約 8 割を占めて<br>いる。                   | 図 3.10-6 |



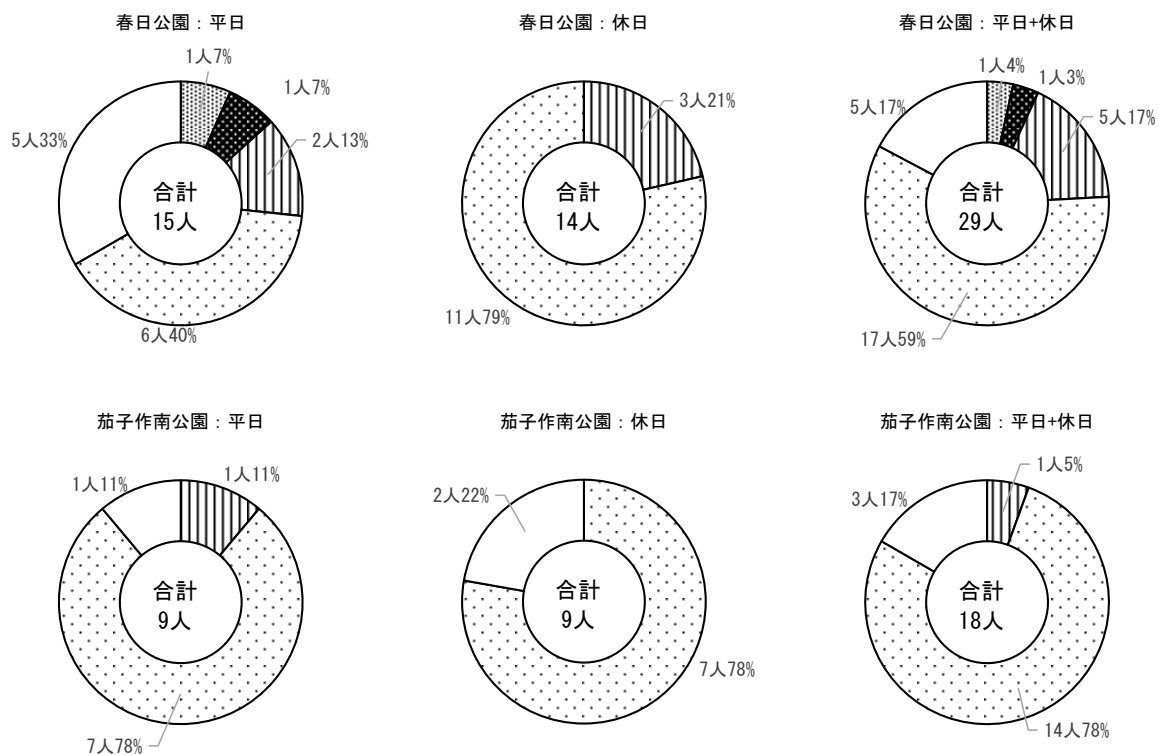
| 利用目的 |        |  | 利用人数（人） |     |     |        |    |     |
|------|--------|--|---------|-----|-----|--------|----|-----|
|      |        |  | 春日公園    |     |     | 茄子作南公園 |    |     |
|      |        |  | 平日      | 休日  | 合計  | 平日     | 休日 | 合計  |
| ①    | 散歩     |  | 8       | 30  | 38  | 3      | 8  | 11  |
| ②    | サイクリング |  | 0       | 0   | 0   | 0      | 0  | 0   |
| ③    | スポーツ   |  | 0       | 6   | 6   | 2      | 0  | 2   |
| ④    | 公園遊び   |  | 43      | 151 | 194 | 21     | 43 | 64  |
| ⑤    | 写真撮影   |  | 0       | 0   | 0   | 0      | 0  | 0   |
| ⑥    | 草花の鑑賞  |  | 0       | 2   | 2   | 4      | 0  | 4   |
| ⑦    | 生き物の観察 |  | 0       | 2   | 2   | 0      | 2  | 2   |
| ⑧    | ピクニック  |  | 0       | 0   | 0   | 0      | 0  | 0   |
| ⑨    | その他    |  | 107     | 12  | 119 | 12     | 11 | 23  |
| 合計   |        |  | 158     | 203 | 361 | 42     | 64 | 106 |

図 3.10-4 公園の利用目的



| 交通手段 |      |  | 人数（人） |    |    |        |    |    |
|------|------|--|-------|----|----|--------|----|----|
|      |      |  | 春日公園  |    |    | 茄子作南公園 |    |    |
|      |      |  | 平日    | 休日 | 合計 | 平日     | 休日 | 合計 |
| ①    | 徒歩   |  | 9     | 13 | 22 | 8      | 9  | 17 |
| ②    | 自転車  |  | 5     | 2  | 7  | 1      | 0  | 1  |
| ③    | バイク  |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ④    | 電車   |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ⑤    | 路線バス |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ⑥    | 自家用車 |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ⑦    | タクシー |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ⑧    | その他  |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ⑨    | 不明   |  | 0     | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| 合計   |      |  | 14    | 15 | 29 | 9      | 9  | 18 |

図 3.10-5 利用者の移動手段の内訳



| 経路 |            |  | 人数＜春季＞（人） |    |    |        |    |    |
|----|------------|--|-----------|----|----|--------|----|----|
|    |            |  | 春日公園      |    |    | 茄子作南公園 |    |    |
|    |            |  | 平日        | 休日 | 合計 | 平日     | 休日 | 合計 |
| ①  | 一般国道1号     |  | 1         | 0  | 1  | 0      | 0  | 0  |
| ②  | 市道山之上高田線   |  | 1         | 0  | 1  | 0      | 0  | 0  |
| ③  | 府道枚方交野寝屋川線 |  | 2         | 3  | 5  | 1      | 0  | 1  |
| ④  | 一般国道168号線  |  | 0         | 0  | 0  | 0      | 0  | 0  |
| ⑤  | その他道路      |  | 6         | 11 | 17 | 7      | 7  | 14 |
| ⑥  | 不明         |  | 5         | 0  | 5  | 1      | 2  | 3  |
| 合計 |            |  | 15        | 14 | 29 | 9      | 9  | 18 |

図 3.10-6 利用者の移動経路



### 3.10.2 予測及び評価

#### (1) 工事関係車両の通行が人と自然とのふれあい活動の場の利用に及ぼす影響

##### 1) 予測項目

予測項目は、人と自然とのふれあい活動の場の利用に及ぼす影響としている。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地周辺で選定した公園としている。

##### 3) 予測時期

予測時期は、工事の実施による環境影響が最大になる時期としている。

##### 4) 予測方法

平日の現地調査結果及び工事中の工事関係車両の想定走行路線を勘案し、定性的に予測している。

##### 5) 予測結果

人と自然とのふれあい活動の場の利用環境への変化予測は、移動手段、移動経路から予測している。

交通手段に対する予測結果を表 3.10-3 に、移動経路に対する予測結果を表 3.10-4 に示す。

工事関係車両の走行に伴って想定走行路線の交通量が著しく増加する場合、移動手段が自動車による人と自然とのふれあい活動の場へのアクセス性に影響が生じ、利用環境が変化する可能性があるが、公園までの移動は、春日公園、茄子作南公園とも、自動車による移動がなく、工事関係車両の走行による影響ないと予測される。

また、公園までの主要な移動経路である一般国道1号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線の工事車両の走行が最大となる時期においても、工事用車両数が現況交通量の1割にも満たない台数であることから（表 3.10-5）、工事の実施に伴う人と自然とのふれあい活動の場への影響は軽微であると予測される。

表 3.10-3 アンケート調査（平日の公園までの移動手段）

| 公園     | 移動手段が車の割合<br>(利用者数/アンケート回答数) |
|--------|------------------------------|
| 春日公園   | 0 割 (0 人/14 人)               |
| 茄子作南公園 | 0 割 (0 人/9 人)                |

表 3.10-4 アンケート調査（平日の公園までの移動経路）

| 公園     | 主な移動経路                                         |
|--------|------------------------------------------------|
| 春日公園   | 約 3 割が一般国道1号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線を利用 (4 人/15 人) |
| 茄子作南公園 | 約 1 割が府道枚方交野寝屋川線を利用 (1 人/9 人)                  |

表 3.10-5 現況交通量に対する想定工事車両台数（最大）の割合

| 番号 | 路線         | (A) 現況交通量<br>(台/日) | (B) 想定工事車両<br>台数（最大）<br>(台/日) | (B/A)<br>工事車両割合<br>(%) |
|----|------------|--------------------|-------------------------------|------------------------|
| 1  | 一般国道 1 号   | 18,738             | 820                           | 4.4                    |
| 2  | 市道山之上高田線   | 11,293             | 820                           | 7.3                    |
| 3  | 府道枚方交野寝屋川線 | 15,432             | 820                           | 5.3                    |

注) 1. 現況交通量は、平日昼間 12 時間（7 時～19 時）の交通量を示す。一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線は現地調査結果（平日：令和 4 年 10 月 25 日）の値を示す。

2. 工事車両台数（最大）は、工事計画から想定した値を採用している（820 台/日）。

出典：「令和 3 年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」（国土交通省）

：「茄子作土地区画整理事業基本設計報告書」（令和 5 年 5 月、枚方市茄子作土地区画整理準備組合）

### 1) 評価の指針

工事の実施に伴う工事関係車両の通行による人と自然とのふれあい活動の場への影響の利用環境の変化の評価の指針は、表 3.10-6 に示すとおりである。

表 3.10-6 評価の指針

| 環境影響要因        |               | 評価の指針                                                                                                                                                                                |
|---------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 工事<br>の実<br>施 | 工事関係<br>車両の通行 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と自然とのふれあい活動の場の保全と整備について十分な配慮がなされていること。</li> <li>・環境基本計画等及び自然環境の保全と回復に関する基本方針等、国、大阪府又は枚方市が定める環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li> </ul> |

## 2) 環境保全措置

工事の実施に伴う工事関係車両の通行による人と自然とのふれあい活動の場への影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 工事関係車両が公道を走行する際は、規制速度を遵守するとともに、過積載の防止、積載の安定化、制限速度の遵守等の安全運転を指導徹底する。
- ・ 建設工事が一時期に集中しないよう、工事工程や搬出入の時間帯を調整するよう努める。
- ・ 工事関係車両については、搬出入量に応じた適正な車種・規格を選定し、効率的な運行を行うことにより、車両数を削減するよう努める。また、工事量及び資機材運搬量の平準化により、車両数を平準化し、ピーク時の車両数を削減するよう努める。
- ・ 工事関係車両の出入口等においては、工事作業時間帯には必ず誘導員等を配置して、通行車両や歩行者の安全に注意を払う。
- ・ 工事関係の従業者の通勤については、公共交通機関の利用を推進し、通勤のための自動車の走行台数の抑制に努める。
- ・ 工事関係車両の走行路線は、可能な限り幹線道路を使用し、生活道路の通行を最小限とする。
- ・ 工事区域周辺の細街路における工事関係車両の走行ルートの選定や走行時間帯の設定にあたっては、公園の利用者の移動経路等に十分配慮して行う。
- ・ 立入禁止区域、迂回路等に関して地域住民の理解を深めるため、案内看板や標識類の設置を充実させる。

## 3) 評価結果

事業計画地周辺道路では、工事関係車両の通行により交通量の増加が見込まれるものの、増加の程度は小さく、2施設（春日公園、茄子作南公園）における人と自然とのふれあい活動の場への移動手段、移動経路に与える影響は軽微であると予測される。

工事車両の通行時においては、前述した環境保全措置を実施することにより、人と自然とのふれあい活動の場への移動手段、移動経路への影響をできる限り軽減する計画である。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。

(2) 産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行が人と自然とのふれあい活動の場の利用に及ぼす影響

1) 予測項目

予測項目は、産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行が人と自然とのふれあい活動の場の利用に及ぼす影響としている。

2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地周辺で選定した公園としている。

3) 予測時期

予測時期は、供用時の時期としている。

4) 予測方法

平日及び休日の現地調査結果及び供用時の産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の想定走行路線を勘案し、定性的に予測している。

5) 予測結果

人と自然とのふれあい活動の場の利用環境への変化予測は、移動手段、移動経路から予測している。

交通手段に対する予測結果を表 3.10-7 に、移動経路に対する予測結果を表 3.10-8 に示す。

供用時の産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行に伴って想定走行路線の交通量が著しく増加する場合、移動手段が自動車による人と自然とのふれあい活動の場へのアクセシビリティに影響が生じ、利用環境が変化する可能性があるが、公園までの移動は、春日公園、茄子作南公園とも、自動車による移動がなく、供用時の産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行による影響ないと予測される。

また、公園までの主要な移動経路である一般国道1号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線への関係車両の想定台数が現況交通量の1割にも満たない台数であることから（表 3.10-9、表 3.10-10）、供用時の関係車両の通行に伴う人と自然とのふれあい活動の場 への影響はないと予測される。

表 3.10-7 アンケート調査（公園までの移動手段）

| 公園     | 移動手段が車の割合<br>(平日の利用者数/アンケート回答数) | 移動手段が車の割合<br>(休日の利用者数/アンケート回答数) |
|--------|---------------------------------|---------------------------------|
| 春日公園   | 0 割 (0 人/14 人)                  | 0 割 (0 人/15 人)                  |
| 茄子作南公園 | 0 割 (0 人/9 人)                   | 0 割 (0 人/9 人)                   |

表 3.10-8 アンケート調査（公園までの移動経路）

| 公園     | 平日の主な移動経路                                       | 休日の主な移動経路                     |
|--------|-------------------------------------------------|-------------------------------|
| 春日公園   | 約 3 割が一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線を利用（4 人／15 人） | 約 2 割が府道枚方交野寝屋川線を利用（3 人／14 人） |
| 茄子作南公園 | 約 1 割が府道枚方交野寝屋川線を利用（1 人／9 人）                    | 全て、その他道路を利用                   |

表 3.10-9 現況交通量に対する供用後の車両台数の割合（平日）

| 番号 | 路線         | (A) 現況交通量<br>(台/日) | (B) 分担率<br>(%) | (C) 想定車両台数<br>(台/日) | (C/A)<br>車両割合<br>(%) |
|----|------------|--------------------|----------------|---------------------|----------------------|
| 1  | 一般国道 1 号   | 18,738             | 41.2           | 972                 | 5.2                  |
| 2  | 市道山之上高田線   | 11,293             | 24.8           | 586                 | 5.2                  |
| 3  | 府道枚方交野寝屋川線 | 15,432             | 33.9           | 801                 | 5.2                  |

注) 1. 現況交通量は、昼間 12 時間（7 時～19 時）の交通量を示す。一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線は現地調査結果（平日：令和 4 年 10 月 25 日）の値を示す。

2. 分担率は、現況交通量の合計値に対し、各路線（図 3.10-7）の現況交通量を除して算定している。

3. 供用後想定車両台数は、商業施設・物流施設、住居利用者関連の発生集中交通量の推計値（平日：2,359 台/日）に路線の分担率を乗じて算定している。

出典：「令和 3 年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」(国土交通省)

：「枚方市茄子作地区交通量推計報告書」（令和 5 年 3 月、枚方市茄子作土地区画整理準備組合）

表 3.10-10 現況交通量に対する供用後の車両台数の割合（休日）

| 番号 | 路線         | (A') 現況交通量<br>(台/日) | (B') 分担率<br>(%) | (C') 想定車両台数<br>(台/日) | (C'/A')<br>車両割合<br>(%) |
|----|------------|---------------------|-----------------|----------------------|------------------------|
| 1  | 一般国道 1 号   | 20,040              | 44.3            | 1,886                | 9.4                    |
| 2  | 市道山之上高田線   | 11,066              | 24.4            | 1,041                | 9.4                    |
| 3  | 府道枚方交野寝屋川線 | 14,156              | 31.3            | 1,332                | 9.4                    |

注) 1. 現況交通量は、昼間 12 時間（7 時～19 時）の交通量を示す。一般国道 1 号、市道山之上高田線、府道枚方交野寝屋川線は現地調査結果（休日：令和 4 年 10 月 16 日）の値を示す。

2. 分担率は、現況交通量の合計値に対し、各路線（図 3.10-7）の現況交通量を除して算定している。

3. 供用後想定車両台数は、商業施設・物流施設、住居利用者関連の発生集中交通量の推計値（休日：4,259 台/日）に路線の分担率を乗じて算定している。

出典：「令和 3 年度 全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査」(国土交通省)

：「枚方市茄子作地区交通量推計報告書」（令和 5 年 3 月、枚方市茄子作土地区画整理準備組合）



出典：「枚方市茄子作地区交通量推計報告書」（令和 5 年 3 月）

図 3.10-7 供用後の商業施設・物流施設、住居利用者の想定する出入口位置



## 6) 評価の指針

施設等の供用に伴う産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行による人と自然とのふれあい活動の場の利用環境の変化の評価の指針は、表 3.10-11 に示すとおりである。

表 3.10-11 評価の指針

| 環境影響要因 |                         | 評価の指針                                                                                                                                                                             |
|--------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設等の供用 | 産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行 | <ul style="list-style-type: none"><li>・人と自然とのふれあい活動の場の保全と整備について十分な配慮がなされていること。</li><li>・環境基本計画等及び自然環境の保全と回復に関する基本方針等、国、大阪府又は枚方市が定める環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</li></ul> |

## 7) 環境保全措置

施設等の供用に伴う産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行による人と自然とのふれあい活動の場への影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・ 産業・商業施設の事業者に対し、公共交通機関の利用等により、車両台数の抑制を図るよう周知に努める。
- ・ 産業・商業施設の事業者、事業計画地内の利用者、地権者に対する道路交通に起因する障害防止対策を枚方市交通対策部局と協議・検討し、通過車両の速度抑制や交通の円滑化を図る。
- ・ 施設利用車両が、適宜、アイドリング・ストップを励行、制限速度の遵守、安全運転の励行、急発進・急加速・急ブレーキの自粛等のエコドライブの推進に努めるよう産業・商業施設の事業者、事業計画地内の利用者への周知に努める。
- ・ 歩行者の安全確保のため、カーブミラーや車止め等の交通安全対策を図るよう枚方市交通対策部局と協議のうえ実施を検討する。

## 8) 評価結果

事業計画地周辺道路では、産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行により交通量の増加が見込まれるものの、増加の程度は小さく、2施設（春日公園、茄子作南公園）における人と自然とのふれあい活動の場への移動手段、移動経路に与える影響は軽微であると予測される。

産業・商業施設、住宅等利用者及び関係車両の通行時においては、前述した環境保全措置を実施することにより、人と自然とのふれあい活動の場への移動手段、移動経路への影響をできる限り軽減する計画である。

したがって、事業の実施による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価する。

**【検討結果】**

**1. 現況調査**

概ね妥当である

**2. 環境保全目標**

概ね妥当である

**3. 予測**

概ね妥当である

**4. 評価及び環境保全のための措置**

概ね妥当である

**【指摘事項】**

・特になし

### 3.11 水象

#### 3.11.1 調査結果

##### (1) 既存資料調査

###### 1) 調査項目

調査項目は、既存資料から、現況の土地利用及び河川水象（流量、流況、河川の形態）としている。

###### 2) 調査地域・地点

調査地域・地点は、事業計画地及びその周辺地域としている。

###### 3) 調査時期・頻度

調査時期は、調査対象となる既存資料の最新年度としている。

###### 4) 調査方法

調査方法は、既存資料（「令和 4 年度大阪府統計年鑑（令和 5 年 3 月、大阪府）」、「令和 5 年度防災ガイド（ハザードマップ）（令和 5 年 4 月、枚方市）」、「淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画（変更）（平成 27 年 3 月、大阪府）」、「枚方市下水道整備基本計画（令和 3 年 3 月、枚方市下水道局）」）を収集・整理している。

###### 5) 調査結果

降水量の状況は、準備書「第 2 章 地域の概況 2.3 自然環境 2.3.1 気象」に示すとおりである。

事業計画地周辺の河川及び池沼の状況は、準備書「第 2 章 地域の概況 2.3 自然環境 2.3.3 水象」に示すとおりである。

事業計画地及びその周辺地域の土地利用の状況は、準備書「第 2 章 地域の概況 2.1 社会的状況 2.1.4 土地利用」に示すとおりである。

枚方市では、平成 20 年度、平成 24 年度と度重なる豪雨により多くの浸水被害が発生したことを受け、浸水対策事業を進めている。雨水整備については、「下水道浸水被害軽減総合事業」やポンプ場の整備、10 年確率（時間雨量 54.4mm/h）に対応した幹線・水路の整備が進められている。事業計画地は、小川排水区に位置し、同排水区の幹線管渠の整備延長は平成 31 年度末時点で 43%にとどまっており、幹線管渠の流下能力が不足している。

江尻川の雨水排水先となる天野川は、100 年確率（時間雨量 76.0mm/h、24 時間雨量 243.8mm）に対応した河川整備が完了している。事業計画地周辺では、天野川の禁野橋で水位観測を実施している。平成 30 年から令和 4 年までの水位調査結果を表 3.11-1、図 3.11-1 に示す。平均水位は O.P. 9.44m～O.P. 9.46m、最大水位は令和 3 年 5 月に O.P. 12.58m、最低水位は令和 4 年 7 月に O.P. 9.29m となっている。

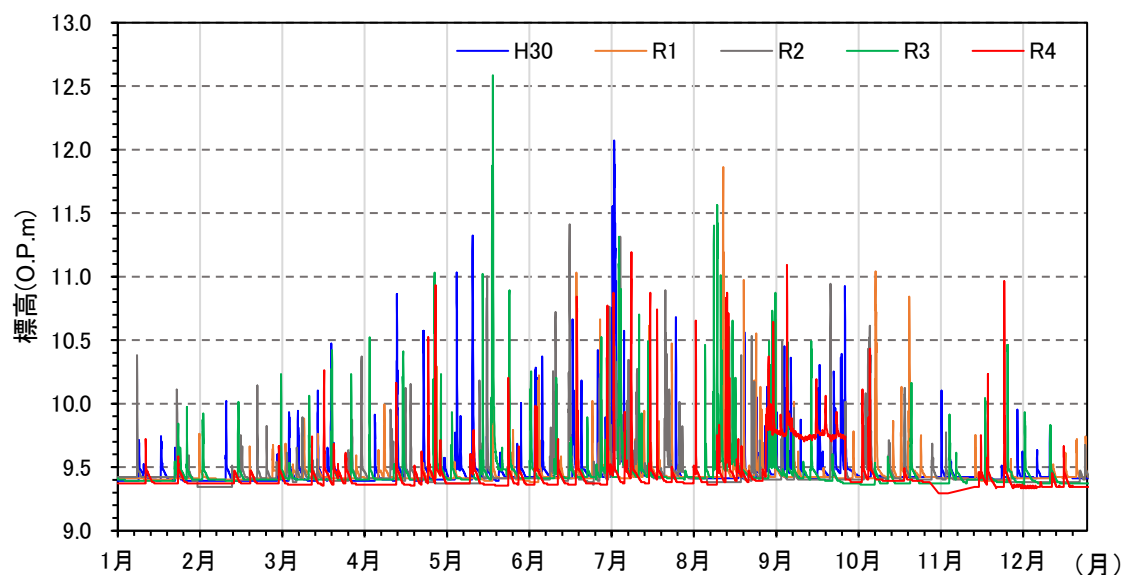
事業計画地及びその周辺地域の想定最大規模の降雨（1,000 年に 1 回程度）の洪水ハザードマップを図 3.11-2 に示す。また、平成 24 年 8 月 14 日豪雨（時間雨量 108mm/h）を対象とした内水ハザードマップを図 3.11-3 に示す。内水ハザードマップでは、事業計画地からの排水先とな

る江尻川の第二京阪道路北側及び下流域の府道枚方交野寝屋川線付近での浸水が想定されている。

表 3.11-1 河川水位の調査結果（天野川・禁野橋地点）

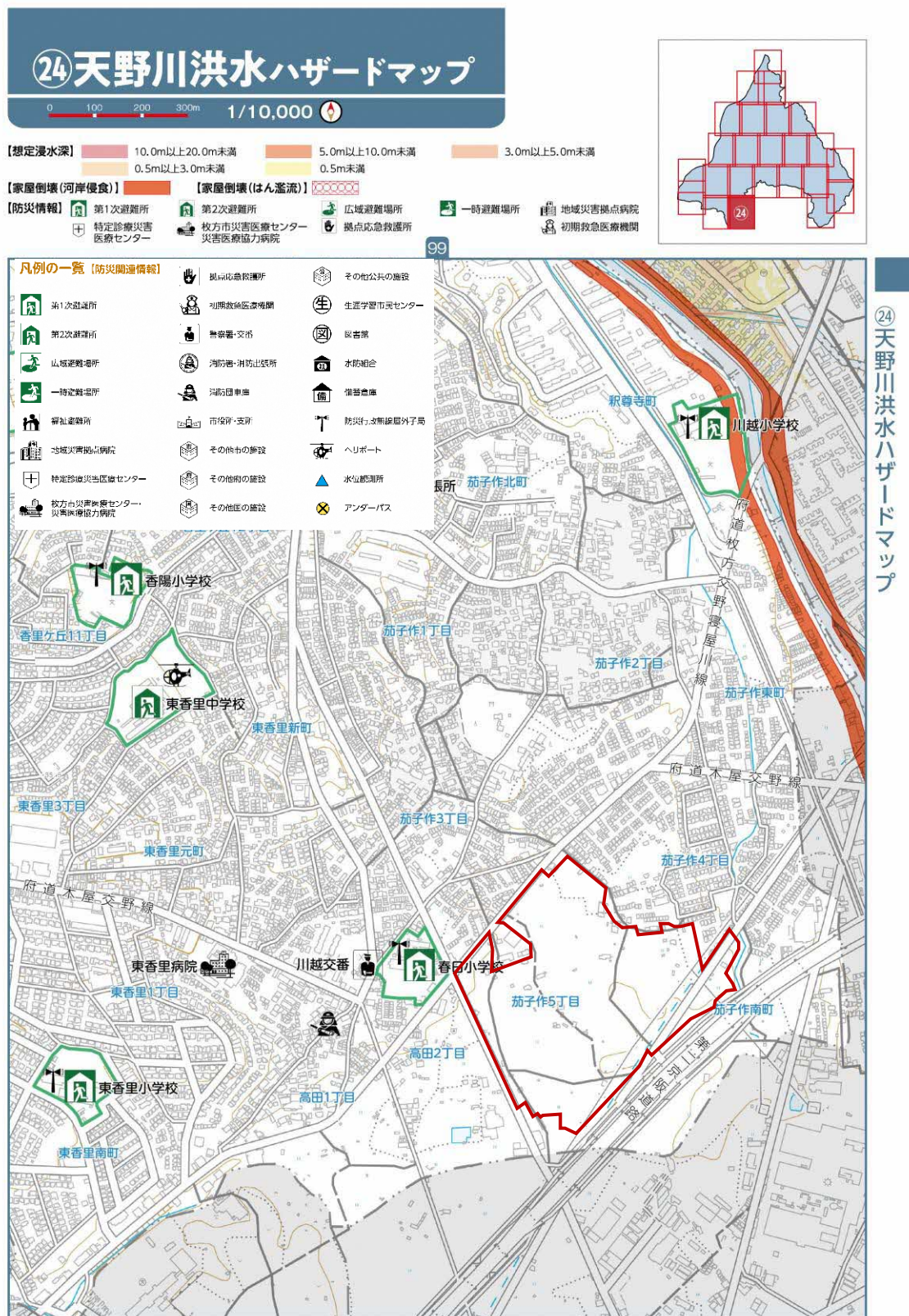
| 年       | 最大水位         |                  | 最小水位         |                  | 平均水位<br>(O. P. m) |
|---------|--------------|------------------|--------------|------------------|-------------------|
|         | 水位 (O. P. m) | 生起日時             | 水位 (O. P. m) | 生起日時             |                   |
| 平成 30 年 | 12.07        | 7 月 6 日<br>0 時   | 9.39         | 1 月 1 日<br>0 時   | 9.46              |
| 令和元年    | 11.86        | 8 月 16 日<br>0 時  | 9.38         | 6 月 4 日<br>4 時   | 9.44              |
| 令和 2 年  | 11.41        | 6 月 19 日<br>4 時  | 9.34         | 1 月 31 日<br>1 時  | 9.44              |
| 令和 3 年  | 12.58        | 5 月 21 日<br>7 時  | 9.34         | 12 月 6 日<br>19 時 | 9.45              |
| 令和 4 年  | 11.19        | 7 月 12 日<br>10 時 | 9.29         | 11 月 5 日<br>3 時  | 9.44              |

注) 1. 大阪府都市整備部河川室河川整備課のホームページから抽出した毎正時の水位から編集した値を示す。



注) 1. 大阪府都市整備部河川室河川整備課のホームページから抽出した毎正時の水位から編集した値を示す。

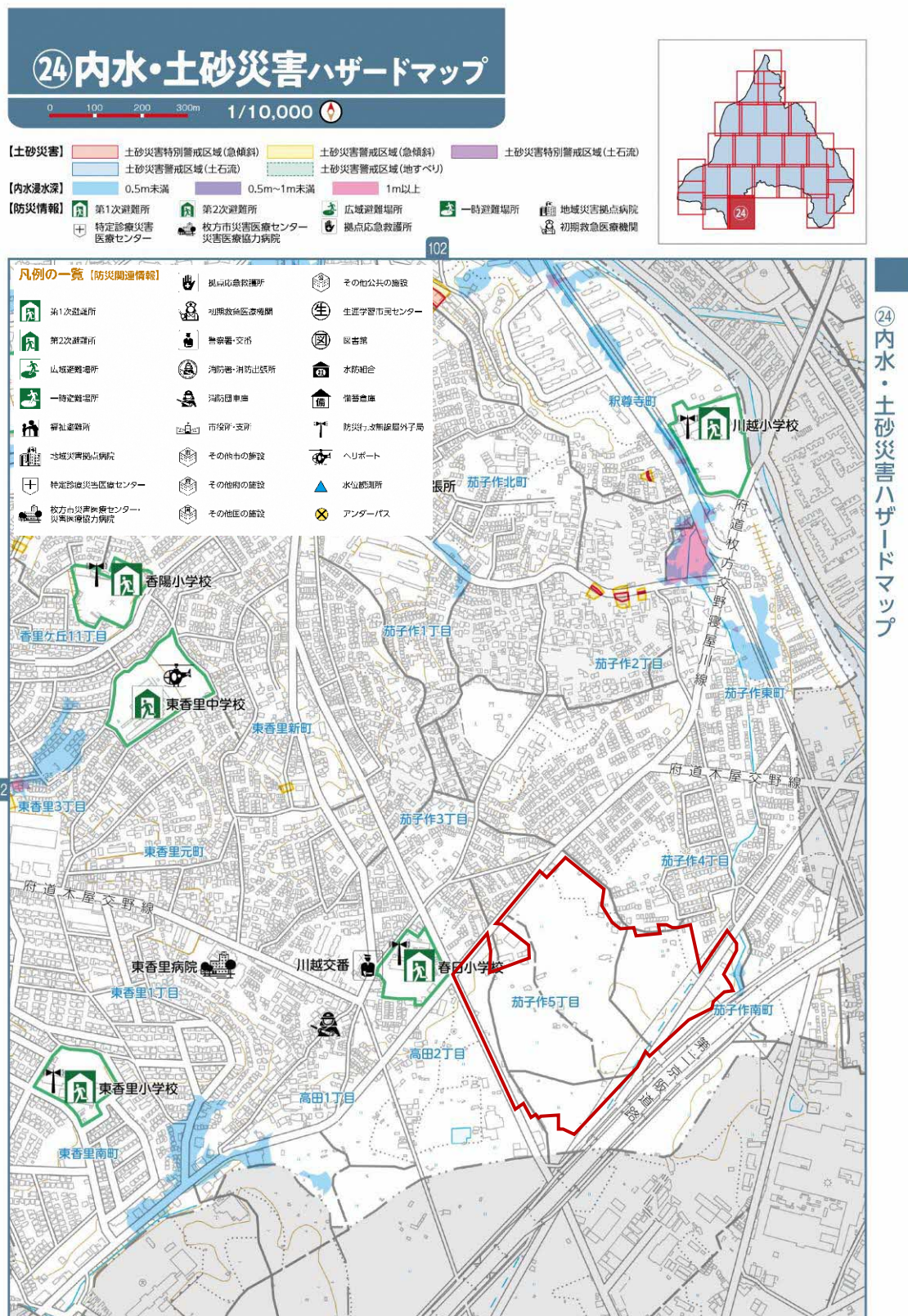
図 3.11-1 河川水位の調査結果（天野川・禁野橋地点）



出典：「令和5年度 防災ガイド（ハザードマップ）」枚方市 危機管理部 危機管理対策推進課

図 3.11-2 洪水ハザードマップ（天野川）





出典：「令和5年度 防災ガイド（ハザードマップ）」枚方市 危機管理部 危機管理対策推進課

図 3.11-3 内水ハザードマップ

### 3.11.2 予測及び評価

#### (1) 改変後の地形及び産業・商業施設、住宅等の存在による河川流量の変化の程度

##### 1) 予測項目

予測項目は、改変後の地形及び産業・商業施設、住宅等の存在による河川流量の変化の程度と  
している。

##### 2) 予測地域・地点

予測地域・地点は、事業計画地の雨水排水計画を踏まえ、事業計画地の流末地点（調整池流域  
面積）としている。調整池流域図を図 3.11-4 に、調整池流域面積を表 3.11-2 に示すとおりで  
ある。

表 3.11-2 調整池流域面積

| 区分                | 面積 (ha) | 備 考      |
|-------------------|---------|----------|
| ①事業計画地全体          | 19.68   |          |
| ②区画整備後の農地         | 1.34    |          |
| ③区画整備前に宅地化されている土地 | 0.77    |          |
| ④調整池流域面積          | 17.57   | ①- (②+③) |
| ⑤開発後に公園として移管される区域 | 0.14    |          |
| ⑥緑化協定等で存置される区域    | 1.04    |          |

出典：茄子作土地区画整理事業 基本設計報告書（令和5年5月時点）



出典：茄子作土地区画整理事業 基本設計報告書（令和5年5月時点）

図 3.11-4 水象の予測範囲

### 3) 予測時期

予測時期は、供用後の時期としている。

### 4) 予測方法

予測方法は、「調整池等流出抑制施設基準（案）、大阪府」に準拠している。現況及び供用後の流出係数を設定し、雨水流出量の変化の程度を予測している。

### 5) 予測条件

用途地域別の流出係数は、表 3.11-3 に示すとおりである。

表 3.11-3 用途地域別の流出係数

| 区分                | 面積 (ha)       | 開発前 | 開発後                         |
|-------------------|---------------|-----|-----------------------------|
| ①市街化区域            | 1ha 以上        | 0.7 | 0.9<br>(0.8 <sup>※1</sup> ) |
| ②市街化調整区域          | 1ha 以上・5ha 未満 |     |                             |
| ③区画整備前に宅地化されている土地 | 5ha 以上        | 0.6 |                             |

注) 1. 1ha 以上、5ha 未満当の面積の取扱については、調整池容量の算定対象となる区域で判断する。

※1. 提供公園等市町村に公園、緑地として移管される区域、緑化協定等で存置されることが確実な区域については、開発後の流出係数を 0.8 とすることができる。

出典：調整池等流出抑制施設基準（案）、大阪府

### 1) 予測結果

#### a) 平均流出係数

調整池流域面積に対し、事業完成後の流出係数は次式により算出している。現況の流出係数は 0.7（市街化区域）、供用後の平均流出係数は 0.89 となり、現況から 0.19 増加すると予測している。

平均流出係数 =  $\Sigma$ （各土地利用別面積 × 流出係数） / 調整池流域面積（① + ② + ③）

表 3.11-4 供用後の土地利用面積と流出係数

| 区分                | 面積 (ha) | 流出係数 |
|-------------------|---------|------|
| ①調整池流域面積（②、③を除く）  | 16.39   | 0.9  |
| ②開発後に公園として移管される区域 | 0.14    | 0.8  |
| ③緑化協定等で存置される区域    | 1.04    | 0.8  |
| 平均流出係数            |         | 0.89 |

出典：調整池等流出抑制施設基準（案）、大阪府

## b) 調整池容量

「調整池等流出抑制施設基準（案）、大阪府」により、市街化調整区域が市街化区域となることにより必要となる調整池容量は、次式により算出している。現況の雨水流出量に対し、事業完成後の雨水流出量を同程度に流出抑制するには、10,822m<sup>3</sup>の調整池容量が必要となる。

$$V = 10 \times R \times A \times (f2-f1) \times 1.2$$

ここに、V：貯留容量（m<sup>3</sup>）

R：計画雨量 100年確率降雨（時間雨量90mm、総雨量175mm）

A：流域面積（ha）

f1：開発前の流出係数 0.6（表 3.11-3）

f2：開発後の流出係数 0.9（表 3.11-3）

f2：開発後に公園及び緑化協定等で存置される区域の流出係数 0.8（表 3.11-3）

表 3.11-5 必要調整池容量

| 区分                | 面積(ha) | 流出係数    |        | 必要貯留容量<br>V(m <sup>3</sup> ) |
|-------------------|--------|---------|--------|------------------------------|
|                   |        | 開発前 f1  | 開発後 f2 |                              |
| ①市街化区域            | 16.39  | 0.7     | 0.9    | 10,326                       |
| ②開発後に公園として移管される区域 | 0.14   | 0.7     | 0.8    | 59                           |
| ③緑化協定等で存置される区域    | 1.04   | 0.7     | 0.8    | 437                          |
| 調節地流域面積合計         | 17.57  | 調整池必要容量 |        | 10,822                       |

## c) 事業計画地流末側（調整池）での水位上昇量

事業計画地流末側（調整池）での水位上昇量は、次式により算出している。事業完成後の事業計画地流末の調整池での水位上昇量は約2.1mと推定される。なお、調整池面積は、茄子作土地区画整理事業 基本設計報告書（令和5年5月時点）の調整池の池底面積と計画高水位の平均値を採用している。

$$\begin{aligned} \text{事業計画地流末側（調整池）での水位上昇量(m)} &= \text{調整池必要容量(m}^3\text{)} / \text{調整池面積(m}^2\text{)} \\ &= 10,822\text{m}^3 / 5,070\text{m}^2 \div 2.1\text{m} \end{aligned}$$

## d) 放流先の河川流量への影響

現地調査結果より、計画地付近の江尻川は矢板護岸やコンクリート三面張りの人工河川であり、平常時で約0.01m<sup>3</sup>/s～0.04m<sup>3</sup>/sと殆ど水流の無い状況である。しかし、降雨時には、第2京阪道路沿いの道路排水や住宅地からの路面排水等が流入し約2m<sup>3</sup>/s弱に増加することから、事業計画地を含む流域内の雨水排水等が主たる水源となっている。

事業実施後は、100年確率降雨に対し、事業計画地内の流出係数が現況の0.7から供用後は0.89となり、事業計画地内の浸透能力が減少するが、調整池の整備により、事業計画地流末から江尻川に対し、現況流出量を上回らない計画となっている。また、江尻川が合流する天野川への影響について、江尻川の放流先となる天野川の流域面積51.3km<sup>2</sup>に対し、事業計画地内の改変区域の割合は0.3%（0.1757km<sup>2</sup>）であり、天野川の河川水量に対する寄与も僅かである。



## 2) 評価の指針

産業・商業施設、住宅等の存在に伴う水象（河川流量）の評価の指針は、表 3.11-6 に示すとおりである。

表 3.11-6 評価の指針

| 環境影響要因         | 評価の指針                                                                                                                   |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 産業・商業施設、住宅等の存在 | <ul style="list-style-type: none"><li>・環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること。</li><li>・災害の防止及び水源の確保等に支障を及ぼさないこと。</li></ul> |

環境保全目標は、表 3.11-7 に示すとおり「江尻川及び天野川の水象（河川流量）に著しい影響を及ぼさないこと」としている。

表 3.11-7 環境保全目標

| 環境保全目標                           |
|----------------------------------|
| 江尻川及び天野川の水象（河川流量）に著しい影響を及ぼさないこと。 |

## 3) 環境保全措置

事業の実施にあたっては、施設等の存在に伴う水象（河川流量）の影響を軽減するために、以下の環境保全措置を行う計画とする。

- ・水田、原野（雑種地）等が市街化されることにより雨水流出量が増加することから、雨水流出抑制対策として、調整池を事業計画地流末に整備する。
- ・調整池からの放流先の江尻川は、枚方市公共下水道計画において、断面（幅 3.8m×高さ 2.1m）で改修する計画となっている。調整池から江尻川への放流量は、「公共・公益施設における雨水流出抑制施設設置参考資料、枚方市」での公共下水道計画での許容放流量（0.073m<sup>3</sup>/s/ha、小川排水区）以下とする。
- ・区画道路では透水性舗装や浸透溝等の雨水浸透施設の整備に努める。

## 4) 評価結果

産業・商業施設、住宅等の存在に伴う水象（河川流量）の影響について、事業計画地内の流出係数が現況の 0.7 から供用後は 0.89 となり、事業計画地内の浸透能力が減少するが、調整池の整備により、100 年確率降雨に基づき増加する雨水流出量の低減が図られていることから、放流先の江尻川への影響をできる限り回避又は低減させた計画としている。また、江尻川の放流先となる天野川の流域面積 51.3km<sup>2</sup> に対し、事業計画地内の流出係数が増加する区域の割合は 0.3%（0.1757km<sup>2</sup>）と僅かであり、天野川本川も 100 年確率（時間雨量 76.0mm/h、24 時間雨量 243.8mm）に対応した河川整備が完了している。

したがって、本事業における施設等の存在に伴う水象への影響は、実行可能な範囲で、できる限り回避又は低減されていると評価する。



## 【検討結果】

### 1. 現況調査

概ね妥当である

### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

### 3. 予測

(1) 調整池容量の設計根拠について事業者に説明を求めた。

#### 【事業者の回答】

「調整池等流出抑制施設基準（案）（大阪府）」に基づき設計を行っています。

(2) 開発前の流出係数を 0.6 と設定して計算していますが、耕作地の数値としては高い数値である印象を持っています。流出係数の妥当性について事業者に見解を求めた。

#### 【事業者の回答】

流出係数は研究値も含めると様々な数値が存在しますが、今回は「調整池等流出抑制施設基準（案）（大阪府）」に記載されている数値を採用しています。なお、今回採用した流出係数は環境影響評価の実績がある「面整備事業環境影響評価技術マニュアル（平成 11 年 建設省）」に記載される数値との整合が図られていることを確認しています。

(3) 降雨強度をどのように設定したのか事業者に説明を求めた。

#### 【事業者の回答】

「調整池等流出抑制施設基準（案）（大阪府）」に基づき、100 年確率降雨（時間雨量 90mm、総雨量 175mm）を設定しています。

(4) 調整池の下流の河川にあたる天野川は既に 100 年確率降雨に対する整備が完了していると認識していますが、調整池から直接流出することになる江尻川の現在の整備状況について事業者の説明を求めた。

#### 【事業者の回答】

現時点で江尻川は 100 年確率降雨に対する整備が完了していません。

### 4. 評価及び環境保全のための措置

概ね妥当である

**【指摘事項】**

- ・江尻川の安全性について枚方市下水道部局と綿密に協議を行い、協議結果に応じた必要な環境保全措置を講じること。
- ・事後調査の項目に水象を追加すること。

### 3.12 その他

#### 【検討結果】

##### 1. 現況調査

概ね妥当である

##### 2. 環境保全目標

概ね妥当である

##### 3. 予測

概ね妥当である

##### 4. 評価及び環境保全のための措置

(1) 事後調査の実施主体について事業者の説明を求めた。

#### 【事業者の回答】

工事中は土地区画整理準備組合、供用時は工事完了前の事後調査計画書の提出時に決定して枚方市に報告します。

(2) 事後調査の調査時期について、工事中は平日 1 回 24 時間、供用後は平日・休日各 1 回 24 時間となっています。その選定方法と考え方について事業者の説明を求めた。

#### 【事業者の回答】

予測結果のピークとなる月の 1 日を選定します。具体的には施工業者から事前に工程を受け取り、事後調査地点で重機等が最も近づくことになる日を待ち構えて調査を行う方針です。

#### 【指摘事項】

- ・予測結果の根拠となる計算式、係数、計算過程等について検算が可能な水準まで記載すること。
- ・環境基準を超過する地点については、可能な限りの影響の低減が図れるようその要因に対応した効果的な環境保全措置を講じること。
- ・工事の詳細など準備書の提出段階では確定していない内容があったため、工事の詳細などの確定状況に応じて必要な調査を適宜実施するとともに、環境保全措置の見直しを行うこと。調査結果は公表すること。
- ・事後調査は事業による影響が最大となる日に実施すること。

## 第4章 指摘事項

本審査会自然・社会・文化環境部会は、枚方市長より諮問を受け、（仮称）茄子作土地区画整理事業に係る環境影響評価準備書について、環境保全の見地から慎重に調査、審議を行った。

その結果、事業者が考慮すべき事項を指摘事項として、次のとおり取りまとめた。

事業者においては、各分野での検討結果を踏まえるとともに、次の指摘事項に十分留意し、環境影響評価書を作成するとともに、本事業が環境に配慮したものとなるよう真摯に取り組まれることを要望する。

### 1. コミュニティ

- ・特になし

### 2. 景観

- ・工事中のフォトモンタージュでは仮囲いに白いパネルが使用されています。周辺地域の景観との調和が取れるようパネルのデザイン等について検討すること。

### 3. 文化財

- ・特になし

### 4. 動物

- ・特になし

### 5. 植物

- ・自然環境保全上の見地から、緑の確保を図るため緑地等の面積比率を可能な限り向上させること。また、現在の自然環境を生かした土地利用が行えるよう再検討すること。

### 6. 生態系

- ・特になし

### 7. 人と自然とのふれあい活動の場

- ・特になし

## 8. 水象

- ・江尻川の安全性について枚方市下水道部局と綿密に協議を行い、協議結果に応じた必要な環境保全措置を講じること。
- ・事後調査の項目に水象を追加すること。

## 17. その他

- ・予測結果の根拠となる計算式、係数、計算過程等について検算が可能な水準まで記載すること。
- ・環境基準を超過する地点については、可能な限りの影響の低減が図れるようその要因に対応した効果的な環境保全措置を講じること。
- ・工事の詳細など準備書の提出段階では確定していない内容があったため、工事の詳細などの確定状況に応じて必要な調査を適宜実施するとともに、環境保全措置の見直しを行うこと。調査結果は公表すること。
- ・事後調査は事業による影響が最大となる日に実施すること。



審査会開催状況

| 全体会 | 部 会          |
|-----|--------------|
|     | 自然・社会・文化環境部会 |
| 2   | 1            |

令和6年

5月

29日

全体会：諮問、準備書の説明及び審議

6月

3日

自然・社会・文化環境部会（日照障害、電波障害、コミュニティ、景観、文化財、動物、植物、生態系、人と自然とのふれあい活動の場）

12月

9日

全体会：検討結果取りまとめ

枚方市環境影響評価審査会自然・社会・文化環境部会委員名簿

令和6年7月1日現在  
(50音順、敬称略)

| 委員名    | 専攻    | 職名                            |
|--------|-------|-------------------------------|
| 石井 京子  | 社会心理学 | 元大阪人間科学大学 人間科学部 健康心理学科 教授     |
| 鵜島 三壽  | 考古学   | 関西外国語大学 外国語学部 国際日本学科 教授       |
| 鍵本 明里  | 景観    | 奈良女子大学 研究院 生活環境科学系 生活健康学領域 助教 |
| 高田 みちよ | 生態系   | 高槻市立自然博物館 主任学芸員               |
| 谷口 徹郎  | 風工学   | 大阪公立大学大学院 工学研究科 教授            |
| 中谷 祐介  | 水象    | 大阪大学 工学研究科 地球総合工学専攻 准教授       |
| 宮地 茉莉  | 建築計画学 | 関西大学 環境都市工学部 建築学科 助教          |
| 村田 章   | 生物学   | 比叡山高等学校 講師                    |